

<b>科目名</b>	保育原理	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年2単位 必修
<b>担当教員</b>	山上 裕子		
<b>開講期</b>	I		
<b>授業概要</b>	本科目は、保育を学ぶための入門にあたる。生涯にわたる人格形成の基礎を培う保育は、どのような基本を踏まえて活動を行うのか。保育の思想や歴史を踏まえ、保育の必要性、国施策にみる保育の基本、保育の目標や方法などについて取りあげる。授業では、随時、グループ・ワークによる学びを取り入れる。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。☒ <input checked="" type="checkbox"/> 位置づけ・水準 CE2101 <input checked="" type="checkbox"/>		
<b>達成目標</b>	本科目は、ディプロマ・ポリシーの「保育の本質理解」「豊かな人間性と規範意識」に対応している。☒ ①保育の意義を、7割以上理解できたか。☒ ②「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の法的位置づけや保育の基本を、7割以上理解できたか。☒ ③保育の思想と歴史について、7割以上理解できたか。☒		
<b>受講資格</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 原則として、幼稚園教諭二種免許状、保育士資格取得希望者☒ <input checked="" type="checkbox"/>	<b>成績評価方法</b>	授業参加度（30点）、レポート（30点） 授業内試験（40点）
<b>教科書</b>	・西村望編『教育原理』みらい社、2018年。		
<b>参考書</b>	・「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示 文部科学省） <input checked="" type="checkbox"/> ・「保育所保育指針」（平成29年3月告示 厚生労働省）☒ ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成29年3月告示 内閣府）☒		
<b>学生への要望</b>	授業用のノートを用意し、疑問に思ったこと、感じたことなどメモをすること。☒ 欠席、遅刻はしないようにすること。☒ <input checked="" type="checkbox"/>		
<b>オフィスタイトム</b>	木曜日：14：30～16：00☒ 金曜日：14：30～16：00 <input checked="" type="checkbox"/> 833研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	講義内容について説明を受け、到達目標や評価方法を確認する。保育のイメージをする。 <input checked="" type="checkbox"/>	シラバスを確認し、自身の乳幼児期のことを、家族から聴いたり思い出したりする。	30
2	保育の必要性	未熟な状態で生まれるヒトであることをふまえ、文化的環境の中で、人間として成長していくことを、野生児の事例から学ぶ。 <input checked="" type="checkbox"/>	ヒト以外の動物の生誕について調べる。	60
3	保育の意義	ヒトから人間への成長において、未熟ではあるが、子どもには独自の世界があるという子ども観を知り、保育の意義を考える。	前回の授業内容を振り返る。本時の授業から保育の意義を整理する。	60
4	保育とは何か	「保」「育」の言葉を手がかりにして、日本語の語源や西洋で保育にあたる言葉を知り、「育む」ことの意味を考える。これまでの授業で感じたこと、考えたことをまとめる。	「保」「育」の言葉について、その意味を調べる。	30
5	養護と教育	養護と教育の関係を中心にして、環境をとおした保育、発達の視点などについて、「保育所保育指針」をとおして学ぶ。また、子ども・子育て支援制度を知り、保育施設と家庭との関係を学ぶ。	「保育所保育指針」を手に取り、記載内容を概観する。	60
6	「保育所保育指針」における保育の基本	社会からの要請を受けて改訂された「保育所保育指針」の法的位置づけや、ねらい及び内容について学ぶ。	「保育所保育指針」を通読する。	60
7	「幼稚園教育要領」における保育の基本	「幼稚園教育要領」の法的位置づけや、ねらい及び内容を、「保育所保育指針」と比較しながら学ぶ。	「幼稚園教育要領」の記載内容を概観する。	60
8	保育の目標	小学校就学までに何を育んだらよいのか。10のねらいを知り、保育活動の留意点や計画を立てていくための基本を学ぶ	「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」における10のねらいの位置づけを確認する。	60
9	西洋と日本の子ども観	中世から近代にかけての西洋の子ども観の変遷をたどるとともに、日本では子どもを善とみる見方があったことを知る。	世界史の年表で時代を確認する。また、授業で取りあげられた事項の時代の様相を確認する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	日本の保育思想と歴史	江戸時代から明治期にかけて各地に設立された、保育所や子守学校について学ぶ。	日本史の年表で時代を確認する。また、授業で取りあげられた事項の時代の様相を確認する。	60
11	日本で初めての幼稚園	東京師範学校附属幼稚園のはじまりについて学ぶ。	明治時代の社会変動について確認する。	60
12	倉橋惣三の保育論	東京師範学校附属幼稚園の改革をし、今日の日本の保育を切り開いた倉橋について、彼の保育への情熱や誘導保育論などを学ぶ。	倉橋惣三について調べる。	60
13	倉橋惣三の保育思想	『育ての心』や『幼稚園雑草』を読み、感想を出し合い、保育のあるべき姿を考えまとめる。	配布資料を通読する。これまで学んだことの整理をする。	90
14	外国の保育の現状と課題	アメリカでの就学前の政策について知り、ヘッドスタート政策以降、過剰な教育への見直しが進められていることを学ぶ。	アメリカ社会について、イメージがもてるように情報を獲得する。これまで学んだことの整理をする。	90
15	まとめ	これまで学んできたことの理解度を、授業内試験をおして確認し、解説を受ける。	試験に備えて準備を進め、理解が不足しているものは解説を受けて補う。	60

科目名	保育原理Ⅱ	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択	
担当教員	山上 裕子			
開講期	Ⅳ			
授業概要	<p>本科目は、保育活動についてより専門性を深めるための科目です。内容は、子どもと保育者のかかわりを可視化する方法を取り上げます。子どもの発言の記録と保育者の発言の記録、網の目に図示化するエマーゼントカリキュラムなどを扱います。可視化したものをもとに、保育活動の在り方を議論し、保育活動について考えていきます。この時、コメント等によるフィードバックを行います。☒</p> <p style="text-align: right;">☒</p> <p>位置づけ・水準 CE2202</p>			
達成目標	本科目の教職ディプロマ・ポリシーとの対応項目は、次のとおりである。「保育の本質の理解」「豊かな人間性と規範意識」。子どもと保育者の関わりをとらえ、可視化することの意味を、7割以上理解できる。			
受講資格	保育について関心のある者	成績評価 方法	平常点30%・レポート70%	
教科書	特に指定はしない			
参考書	適宜、紹介する			
学生への要望	可視化する作業をいとわないこと。			
オフィスタイム	<p>木曜日：14：30～16：00 833研究室☒</p> <p>金曜日：12：50～14：20 833研究室</p>			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
2	子どもと保育者の関係①	子どもと保育者の関係について、様々な事例があることを知る。	配布資料を読み、ポイントを整理する。	60
3	子どもと保育者の関係②	子どもと保育者の関係について、事例を検討する。事例1	実習日誌を振り返っておく。	60
4	子どもと保育者の関係③	子どもと保育者の関係について、事例を検討する。事例2	実習日誌を振り返り、事例に近い経験をメモする。	60
5	子どもと保育者の発言①	子どもの発言と保育者の発言を整理する方法を知る。	授業で行った内容を、整理する。	60
6	子どもと保育者の発言②	実習記録から、事例を選び、発言を整理する。	授業で作成した記録簿を仕上げる。	60
7	子どもと保育者の発言③	整理した発言について、受講生同士でコメントすることとおして、保育の何をみるのか、観察の視点を深める。	レポートを作成する。	60
8	子どもと保育者の発言④	実際に観察して記録をとる方法のスキルをあげる。	レポートを作成する。	60
9	エマーゼントカリキュラム①	一人の子どもの動きを、網目状に記録し、カリキュラム可視化する方法について知る。	資料を読む。	60
10	エマーゼントカリキュラム②	デュイの実験学校での事例を、エマーゼントカリキュラムにしてみる。	エマーゼントカリキュラムを作成する。	60
11	エマーゼントカリキュラム③	実習記録を振り返り、子どもの活動の味方を検討し合う。	活動観察の準備をする。	60
12	エマーゼントカリキュラム④	実際に子どもの活動を記録する。	エマーゼントカリキュラムを作成する。	60
13	エマーゼントカリキュラム⑤	エマーゼントカリキュラムを作成する。	課題を仕上げる。	60
14	エマーゼントカリキュラム⑥	受講生同士で作成したカリキュラムを発表してコメントを述べる。	学んだことを整理する。	90
15	まとめ	これまでの学びをレポートにして、確かめ、指導を受ける。	学んだことを整理する。	30

科目名	教育原理	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年2単位 選択
担当教員	山上 裕子		
開講期	Ⅱ		
授業概要	教育とはどのような行為をいうのか。人が成長していくために、教育は何ができるのか。本科目は、教え、学ぶ行為を考えていくための基礎を学ぶ科目である。授業では、近代学校教育制度の始まりとその時代背景、さまざまな教育実践、思想を時代の経過をたどりつつ講義する。また、安全な場である教育現場において、事故が発生している実態やその対策についてリスクの考え方を取りあげる。講義は、実物投影機や教材を使用した活動を適宜取り入れる。また、読書レポートを課し、教育を深く考える機会を設ける。☒ 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。☒ 位置づけ・水準 CE2103☒		
達成目標	本科目は、ディプロマ・ポリシーの「保育の本質理解」「豊かな人間性と規範意識」に対応している。☒ ①近代学校教育制度の成立について、その社会的背景を捉えて、7割以上理解できたか。☒ ②代表的な教育思想と実践について、7割以上理解できたか。☒ ③保育事故を踏まえ、安全教育の重要性について7割以上理解できたか。☒		
受講資格	原則として、幼稚園教諭二種免許、保育士資格取得希望者。	成績評価方法	授業内試験（40%）、レポート（30%）、授業参加度（30%）
教科書	・西村望編『教育原理』みらい社、2018年。		
参考書	・「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示 文部科学省）☒ ・「保育所保育指針」（平成29年3月告示 厚生労働省）☒ ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成29年3月告示 内閣府）		
学生への要望	講義用ノートを用意し、疑問点をメモすること。☒ 欠席、遅刻をしないよう注意すること。☒		
オフィスタイム	木曜日：14:30～16:00☒ 金曜日：12:50～14:20 833研究室		☒

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	講義内容について説明を受け、到達目標や評価方法を確認する。真の知識とは何か。生涯学習社会において求められる乳幼児期の学びを考える。	シラバスを読み、保育原理の授業で学んだことを振り返る。	30
2	教育の目的と意義	人類の歴史とともにある教育的行為の諸要素を知り、「日本国憲法」や「教育基本法」などをとおして教育の目的について考える。また、人間観や子ども観、教える内容、社会的状況との関連にあることを学ぶ。	教科書の26～37頁を通読する。保育に関すると思う書籍を探す。	60
3	近代学校教育制度の始まり	今日の学校教育制度は、近代と呼ばれる時代に誕生した。イギリス産業革命期において、児童労働が問題となり、子どもを保護するために政府によって制定された「工場法」により初等教育の法制化が始まったことを学ぶ。また、工場経営者オウエンによる性格形成学院の実践から環境をとおした教育という考え方を学ぶ。	西洋史の年表を手に取り、学ぶ事項の時代を確認する。保育に関すると思う書籍を探す。	60
4	一斉授業と個別指導	大量の児童を教えるために効率のよい一斉授業が考案された。モニトリアル・システムについて、その長所と短所を考え、グループで意見をまとめる。一方で、自ら思考することをとおして知識を獲得する教育の考えがあったことを学ぶ。	西洋史の年表を手に取り、学ぶ事項の時代を確認する。保育に関すると思う書籍を探す。	60
5	教科書の登場	英語圏で使用された教科書「ホーン・ブック」やコメニウスの『世界図絵』を知り、教科書の役割を考える。また、コメニウスはなぜ『世界図絵』を作成したのか、その理由を探り、母国語で学ぶことの意味、家庭教育の意義を学ぶ。	西洋史の年表を手に取り、学ぶ事項の時代を確認する。保育に関すると思う書籍を探す。	60
6	子どもの発見者	子どもから始まる新教育の源流である、ルソーの思想について学ぶ。生まれた時は善であるが、社会によって子どもがゆがめられていくという考えを知り、実際に『エミール』の一節を読んでみる。	教科書の該当箇所を読む。配布資料を読む。	60
7	子どもからの教育	現在の理性を働かせて現在の自己を乗り越えていく啓蒙思想を学び、ルソーの消極的教育の思想を理解する。読書をとおした深い学びの方法を知る。	教科書の該当箇所を読む。読書レポートを進める。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	貧民の救済と直観教育	貧民の子どもを救済するために、すべてを教育に捧げたベスタロッチの思想を学ぶ。家庭の居間の雰囲気や道徳教育や直観教育などの実践を、実際に体験することとおして理解する。	教科書の該当箇所を読む。読書レポートを進める。	60
9	教育機関としての幼稚園	単に子どもを預かるだけでなく、発達を促す場として幼稚園を創設したフレーベルについて、恩物の体験をおとして学ぶ。	教科書の該当箇所を読む。読書レポートを進める。	120
10	経験主義教育	アメリカプラグマティストのデューイの教育思想を学ぶ。経験をおとした学び、生の素材を使用した実践など、幼児期を含むラボラトリー・スクールの実践をおとして、総合的な学びの内容を考える。	これまで経験してきた問題解決学習について思い出す。	30
11	問題解決学習	問題解決学習として現在盛んに取り組まれている論理を学ぶ。これまで自身が経験してきた総合的学習の時間を振り返り、問題解決学習について理解を深める。	これまで経験してきた問題解決学習からデューイの理論を確認する。	60
12	教材の開発	知的障害者の教育のために考案された教具を使用した、モンテッソーリ・メソッドについて学ぶ。教具の目的、教具を使用することによる自己活動の効果を学ぶとともに、実際に教具を経験して理解を深める。現在も、行われている実践であることを学ぶ。	教科書の該当箇所を読む。これまで学んできたことを整理する。	60
13	保育事故の現状	一向に減少しない保育事故の実態を、内閣府で公開しているデータベースを読むこととおして知る。教育機関の安全管理の重要性について学ぶ。	実習時に、ヒヤリとしたことを思い出し、何に気をつければよいのかを確認する。	60
14	安全教育	リスクという言葉の意味を知り、チャレンジ精神を損なうことのない安全教育について学ぶ。子ども自身でリスク・マネジメントができ、そのために問題解決学習が取り入れられていることを知る。現在、行われている実践を知る。	学んできたことを整理し、説明できるように準備する。	90
15	まとめ	これまで学んできたことの理解度を、ノートに整理したことをもとに、授業内試験を受ける。解説を聞き理解を確かめる。	ノートを整理する。	60

科目名	子ども家庭福祉	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年2単位 必修
担当教員	吉田 一也		
開講期	Ⅱ		
授業概要	子どもの育ちを現代社会の特徴を踏まえながら、社会的に支える仕組みや制度について基礎的な知識を習得する。		
達成目標	子どもの育ちを現代社会の特徴を踏まえながら、社会的に支える仕組みや制度について基礎的な知識を習得する。		
受講資格	特になし	成績評価 方法	出席を含む授業態度（40%）、授業内レポート（30%）、試験（30%）により評価する。
教科書	授業の中で、随時紹介する。		
参考書	授業の中で、随時紹介する。		
学生への要望	身近な事から取り上げ、イメージしやすい授業を心がけるので、積極的な授業参加を望む。		
オフィスタイム	授業開始前、授業終了後		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	・授業内容、評価方法についての説明を行う。☑		0
2	現代社会の特徴と子ども家庭福祉	・現代社会の諸問題を社会福祉の観点から捉える。☑ ・子ども家庭福祉の意義について理解を深める。		0
3	子ども家庭福祉の基本的枠組み	・子ども家庭福祉の援助観・理念を学ぶ。☑ ・子どもの人権について理解を深める。		0
4	子ども家庭福祉の歴史	・社会福祉の成り立ちを学ぶ。☑ ・欧米での児童家庭福祉および日本の子ども家庭福祉の歴史		0
5	子ども家庭福祉の援助	・社会福祉の援助の基本的視点を学ぶ。☑ ・子ども家庭福祉分野の特性、援助目標について学ぶ。		0
6	子ども家庭福祉の法律と制度	・子ども家庭福祉の基礎的法体系を理解する。☑ ・子ども家庭福祉実施の財源について学ぶ。		0
7	子ども家庭福祉の実施体制	・子ども家庭福祉を推進していくための機構について学ぶ。☑		0
8	就学前の保育・教育との関連①	・就学前保育・教育の中心となる保育園、幼稚園等について子ども家庭福祉と関連付けて学ぶ。☑		0
9	就学前の保育・教育との関連②	・保育園、幼稚園、認定こども園、地域型保育について具体的な事例とともに特徴を理解する。		0
10	児童虐待と子ども家庭福祉	・児童虐待の防止に関する法律や施策について理解する。☑ ・児童虐待対応の流れと予防策について学ぶ。☑		0
11	社会的養護と子ども家庭福祉	・社会的養護の基本的な理念を学ぶ。☑ ・子どもの権利条約や国際的な児童に対する施策について		0
12	さまざまな児童に対する家庭福祉①	・ひとり親家庭の現状を理解し、その支援策について学ぶ。☑		0
13	さまざまな児童に対する家庭福祉②	・障がい児とその家庭が抱える問題について考察し、その支援策について学ぶ。☑		0
14	子ども家庭福祉の課題と今後①	・授業を通して学習してきたことから現在の課題を考察する。		0
15	子ども家庭福祉の課題と今後②	・前回の授業で考察した課題に対して有効な解決方法を考察する。		0

科目名	社会福祉		対象 単位数 必修	短期大学部 幼児教育学科 1年2単位 必修
担当教員	近内 直美			
開講期	I			
授業概要	社会福祉学とは何かを考え、人権について知り、権利を守るための法律や制度、行政の仕組みを知り、活用できる知識を持つ☑ レポートや発表を通して、考える力をつける。☑ 地域包括支援センターでの勤務経験を活かし、事例などを交えながら実践に結び付く授業を行う。☑ ☑ 実務経験：地域包括支援センター所長（兼務・社会福祉士・主任介護支援専門員）として勤務☑ 最終授業で課題やレポートなど全体に対するフィードバックを行います。☑ ☑ 位置づけ・水準 CE2105			
達成目標	①社会福祉の歴史や現状から考え方を学ぶ☑ ②社会福祉の対象者を知る☑ ③社会福祉の法律や制度、行政機関の仕組みを学ぶ☑ 単位認定の最低基準は、「内容の8割を理解していること」☑ ディプロマ・ポリシーとの関係：保育の本質理解・豊かな人間性と規範意識			
受講資格	幼児教育学科	成績評価 方法	試験70%、課題30%	
教科書	新基本保育シリーズ4「社会福祉」 中央法規			
参考書	適宜紹介する。			
学生への要望	・社会福祉の授業を通して、人と関わることの意味、意義を考えてほしい。☑ ・社会福祉の制度を活用できるよう意識して学んでほしい。			
オフィスタイト	月曜日IV時限・金曜日III時限 創学館4F 研究室No.6			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 社会福祉の理念と歴史の変遷	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会福祉の概念</li> <li>社会福祉の歴史の変遷</li> <li>社会福祉の現代的課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会福祉とは何かを復習する</li> </ul>	30
2	子ども家庭支援と社会福祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会福祉の専門職としての保育士と保育所、子ども家庭支援について</li> <li>地域子育て支援と課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テキストで予習を行う</li> <li>授業内容のポイントをまとめる</li> </ul>	30
3	社会福祉の制度と法体系	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会福祉における法体制と制度の種類や内容</li> <li>社会福祉の法制度の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テキストで予習を行う</li> <li>授業内容のポイントをまとめる</li> </ul>	30
4	社会福祉行財政と実施機関、社会福祉施設等	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会福祉の行財政</li> <li>社会福祉施設とは</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テキストで予習を行う</li> <li>授業内容のポイントをまとめる</li> </ul>	30
5	社会福祉の専門職	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会福祉の専門職の資格、職種</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テキストで予習を行う</li> <li>授業内容のポイントをまとめる</li> </ul>	30
6	社会保障および関連制度の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会保障制度とは</li> <li>子どもを育てる世帯の現状</li> <li>新しい社会的リスク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テキストで予習を行う</li> <li>課題を行う（社会福祉の制度について）</li> </ul>	90
7	相談援助の理論	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談援助の理論</li> <li>保育所、児童福祉士等における相談</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テキストで予習を行う</li> <li>授業内容のポイントをまとめる</li> </ul>	30
8	相談援助の意義と機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談援助の特徴</li> <li>相談援助の原則、意義と機能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テキストで予習を行う</li> <li>授業内容のポイントをまとめる</li> </ul>	30
9	相談援助の対象と過程	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育における相談援助</li> <li>相談援助に求められる対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テキストで予習を行う</li> <li>授業内容のポイントをまとめる</li> </ul>	30
10	相談援助の方法と技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育現場における相談援助の方法と技術</li> <li>相談援助活動のこれから</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テキストで予習を行う☑</li> <li>授業内容のポイントをまとめる</li> </ul>	30
11	社会福祉における利用者の保護にかかわるしくみ	<ul style="list-style-type: none"> <li>権利擁護と苦情解決</li> <li>権利擁護の仕組みや制度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テキストで予習を行う</li> <li>授業内容のポイントをまとめる</li> </ul>	30
12	少子高齢化社会における子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>少子化の現状と対策</li> <li>少子化対策における保育所の役割や期待</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テキストで予習を行う</li> <li>授業内容のポイントをまとめる</li> </ul>	30
13	共生社会の実現と障害者施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>障害者について知り、施策を考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テキストで予習を行う</li> <li>課題を行う（保育士の倫理について）</li> </ul>	90
14	在宅福祉・地域福祉の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域福祉の概念</li> <li>地域における子育て支援と保育所との関係</li> <li>保育士に求められる役割</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テキストで予習を行う</li> <li>授業内容のポイントをまとめる</li> </ul>	30
15	諸外国の社会福祉の動向まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会福祉と福祉国家（海外の福祉）</li> <li>課題やレポートなどを全体にフィードバックする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テキストで予習を行う</li> <li>授業内容のポイントをまとめる</li> </ul>	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
---	----	------	------	------



科目名	子ども家庭支援論	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修	
担当教員	知野 愛			
開講期	IV			
授業概要	授業概要は、乳幼児期の子どもの育てる家族の置かれている社会的状況や家族の変化を理解し、子育て支援制度、地域における子育ての重要性を理解すること。☑ レポートを12回授業で提出、15回目の授業で返却しフィードバックを行います。☑ 位置付け・水準:CE2206☑			
達成目標	最終レポートを指定通りに提出すること。単位認定の最低基準:内容の8割を理解していること。重点項目は①家族の変化、②子育て家庭を取り巻く社会的状況の変化、③子育て支援制度の内容の3項目について理解すること。☑ ディプロマ・ポリシーとの関係: 保育の本質理解、豊かな人間性と規範意識☑ ☑			
受講資格	幼児教育学科2年生	成績評価 方法	レポート(100点)	
教科書	特になし。レジュメを配布する。			
参考書	『家庭支援論』公益財団法人児童育成協会監修、新保幸男・小林理編、中央法規、2016年☑ 『子育て支援』名須川知子・大方美香監修、伊藤篤編著、ミネルヴァ書房、2018年☑			
学生への要望	興味をもった事柄や言葉を自分から積極的・意欲的に学ぶ。☑			
オフィスタイム	木曜Ⅱ限、金曜Ⅲ限、場所は芸術館1館地域創成学科研究室N0.1			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス	授業の進め方や授業到達目標、授業概要等の説明を行う。	復習: 授業配布資料を見直し関連書籍を読む。予習: 次回の内容を見て興味をもった事柄や言葉を調べ、関連書籍を読む。	120
2	家族の変化	単独世帯の増加、家族の小規模化、少子化・晩婚化・非婚化の進行等を各統計資料から理解する。	復習: 授業配布資料を見直し関連書籍を読む。予習: 次回の内容を見て興味をもった事柄や言葉を調べ、関連書籍を読む。	120
3	家族の変化	共働き世帯の増加、男女雇用機会均等法の施行、労働環境の整備、生活時間の変化、社会経済状態が家庭生活に与える影響、子どもの貧困等について理解する。	復習: 授業配布資料を見直し関連書籍を読む。予習: 次回の内容を見て興味をもった事柄や言葉を調べ、関連書籍を読む。	120
4	地域社会の変容	地域社会の変容、近隣関係の希薄化等について調査結果に基づき考察し、地域との連携や協働の重要性について理解する。	復習: 授業配布資料を見直し関連書籍を読む。予習: 次回の内容を見て興味をもった事柄や言葉を調べ、関連書籍を読む。	120
5	現代の家庭における人間関係	現代の家族・家庭の変容、家族の個人化、家族の多様化について理解する。	復習: 授業配布資料を見直し関連書籍を読む。予習: 次回の内容を見て興味をもった事柄や言葉を調べ、関連書籍を読む。	120
6	保育所が行う子育て支援	子どもの保育と共に保護者や家庭への支援が保育所には求められている。家庭や地域の様々な社会資源との連携、保護者への支援、地域の保護者への支援について理解する。	復習: 授業配布資料を見直し関連書籍を読む。予習: 次回の内容を見て興味をもった事柄や言葉を調べ、関連書籍を読む。	120
7	幼稚園が行う子育て支援	幼稚園においても、入園時の保護者や地域の家庭に対する支援が求められている。幼稚園における子育て支援、預かり保育の課題や目的、留意点等を理解する。	復習: 授業配布資料を見直し関連書籍を読む。予習: 次回の内容を見て興味をもった事柄や言葉を調べ、関連書籍を読む。	120
8	認定こども園が行う子育て支援	認定こども園のはじまり、認定こども園の機能と類型、幼保連携型認定こども園教育について理解する。	復習: 授業配布資料を見直し関連書籍を読む。予習: 次回の内容を見て興味をもった事柄や言葉を調べ、関連書籍を読む。	120
9	地域子育て支援拠点事業	子育て親子の交流の場の提供、子育て等に関する相談援助の実施、地域の子育て関連情報の提供等を理解する。	復習: 授業配布資料を見直し関連書籍を読む。予習: 次回の内容を見て興味をもった事柄や言葉を調べ、関連書籍を読む。	120
10	海外の事例(フィンランド1)	包括的子育て支援として、フィンランドのネウボラについて学ぶ。	復習: 授業配布資料を見直し関連書籍を読む。予習: 次回の内容を見て興味をもった事柄や言葉を調べ、関連書籍を読む。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	海外の事例(フィンランド2)	フィンランドのネウボラについて、日本で実施されているネウボラについて学ぶ。	復習: 授業配布資料を見直し関連書籍を読む。予習: 次回の内容を見て興味をもった事柄や言葉を調べ、関連書籍を読む。	120
12	まとめ・レポート作成	これまでの授業内容を振り返る。指定の通りにレポートを作成し提出する。	復習: 授業配布資料を見直し関連書籍を読む。予習: 次回の内容を見て興味をもった事柄や言葉を調べ、関連書籍を読む。	120
13	海外の事例(スウェーデン)	就学前学校の制度と現状、就学前学校の実際、親支援、親向け研修プログラムの実施などを理解する。	復習: 指定の通りに提出できたか確認。予習: 興味をもった事柄に関する書籍を読む。	120
14	海外の事例(カナダ)	教育施策を州政府が行うカナダを取り上げる。共働き世帯の増加、ファミリーリソースセンター(地域密着型民間組織)における学童保育や親教育の実施等について理解する。	復習: 授業配布物を見直す。予習: 次回はレポート作成のためパソコン持参。レポートを書くための資料、関連書籍、ノート等を準備し内容を考えておく。	120
15	まとめ	レポートを返却しフィードバックを行う。授業のまとめをする。	復習: これまでの配布資料を読み授業をふりかえる。	60

科目名	社会的養護Ⅰ	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択	
担当教員	細川 梢			
開講期	Ⅲ			
授業概要	保育士に必要な社会的養護の基本理念と基礎知識の習得と現状を理解する。			
達成目標	保育士に必要な社会的養護の基本理念と基礎知識の習得と現状を理解する。			
受講資格	幼児教育学科2年	成績評価 方法	出席を含む授業態度（40％）、授業内レポート（30％）、試験（30％）により評価する。	
教科書	井村圭壯・相澤譲治編著『保育実践と社会的養護』勁草書房、2016			
参考書	授業の中で、随時紹介する。			
学生への要望	身近な事から取り上げ、イメージしやすい授業を心がけるので、積極的な授業参加を望む。☑ 事前学習：当日の内容を教科書で確認する（1時間）。☑ 事後学習：授業を踏まえて各授業の要点をノートにまとめる（1時間）。			
オフィスタイム	授業開始前：創学館2階教務部非常勤講師室☑ 授業終了後			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	・授業内容の説明を行う。☑ ・社会的養護について学習していくにあたり、保育と社会的養護のかかわりについて述べ、保育士としての社会的養護を学ぶ意義について確認する。		0
2	社会的養護の基本的な考え方	・社会的養護の基礎概念を理解する。☑		0
3	社会的養護の歴史	・諸外国及び我が国の社会的養護の歴史を現代につながる視点を持ちながら学ぶ。		0
4	子どもの養護の体系	・家庭養護と社会的養護の相違点を理解するとともに、社		0
5	施設養護の概要	・社会的養護に関連する施設の概要を理解する。		0
6	家庭的養護の概要	・家庭的養護のさまざまな制度を里親制度を中心に学ぶ。		0
7	社会的養護の法体系	社会的養護に関連する法律の概要を学ぶ。		0
8	児童憲章・子どもの権利条約①	・児童憲章、子どもの権利条約の内容を具体例を交えながら理解する。		0
9	児童憲章・子どもの権利条約②	・児童憲章、子どもの権利条約の内容を具体例を交えながら理解する。		0
10	施設養護の基本原則	・人権尊重、個別化、親子関係調整、自立支援の原則について学ぶ。		0
11	施設養護の特質と機能	・児童の衣食住の保障を施設内の実情から学ぶとともに、施設の持つさまざまな機能について学ぶ。		0
12	施設養護の展開	・児童の施設入所から退所に至る経緯を時系列で学ぶ。		0
13	施設実習に向けて	・施設実習対象施設の特徴を理解するとともに、必要な心構えを具体的に身につける。		0
14	児童養護施設の実際①	・児童養護施設における実際の児童の生活を知るとともに、施設に携わる職員等に求められているものを学ぶ。		0
15	児童養護施設の実際②	・児童養護施設における実際の児童の生活を知るとともに、施設に携わる職員等に求められているものを学ぶ。		0

<b>科目名</b>	保育者論	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年2単位 必修
<b>担当教員</b>	安部 高太郎		
<b>開講期</b>	I		
<b>授業概要</b>	本科目では、幼稚園教諭や保育士等の「保育者」として求められる役割や倫理について理解し、「保育者」の制度的な位置づけやその専門性及びキャリア形成等について学びます。現行の幼稚園教育要領や保育所保育指針等を参照しつつ、幼稚園教諭・保育士等の「保育者」が制度的にどう位置づけられ、いかなる専門性を持っているのかを整理します。授業においては、子ども子育て支援新制度以降の保育・幼児教育に関わる現在の状況を踏まえながら、新聞等のメディアで報道される保育・幼児教育等に関わる問題と保育者がどう関わるのかについても言及する予定です。☑ ☑ ○本科目の位置づけ・水準 CE2251		
<b>達成目標</b>	本科目においては、次の五つの達成目標を定めます。☑ 1. 保育者の役割と倫理について理解できたか。☑ 2. 保育者の制度的な位置づけを理解できたか。☑ 3. 保育者の専門性について考察し、理解できたか。☑ 4. 保育者の連携・協働について理解できたか。☑ 5. 保育者の資質向上とキャリア形成について理解できたか。☑ ☑ ○単位認定の最低基準：内容の7割を理解していること。☑ ○ディプロマ・ポリシーとの関係：保育の本質の理解、豊かな人間性と規範意識。		
<b>受講資格</b>	原則として、幼稚園教諭二種、保育士資格取得希望者。	<b>成績評価 方法</b>	授業参加度（30点）、レポート（30点）、授業内試験（40点）
<b>教科書</b>	特に指定しませんが、授業内で適宜資料を配布します。		
<b>参考書</b>	・厚生労働省 編(2018)『保育所保育指針解説(平成30年3月)』フレーベル館。☑ ・津守真(1997)『保育者の地平』ミネルヴァ書房。☑ ・内閣府・文部科学省・厚生労働省(2018)『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年3月)』フレーベル館。☑ ・文部科学省(2018)『幼稚園教育要領解説(平成30年3月)』フレーベル館。		
<b>学生への要望</b>	本科目を受講する学生には以下のことを求めます。☑ ・欠席、遅刻はしないこと。☑ ・わからないことや疑問に思ったことは積極的に質問すること。☑ ・新聞やTV番組等を通じて、保育に関わる情報や話題を自ら収集すること。		
<b>オフィスタイム</b>	・火曜日V限（16：10～17：40）☑ ・水曜日V限（16：10～17：40）☑ いずれも、83年館2階の安部研究室（821研究室）とします。そのほかの時間帯を希望する場合は、予め、安部（k-abe@koriyama-kgc.ac.jp）までメールで連絡を入れてください。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	講義内容について説明を受け、到達目標や評価方法を確認する。自身の経験等から、保育者の仕事をイメージする。	自らが憧れとする保育者（幼稚園教諭・保育士等）はどのような人かを言語化し、そのような保育者となるにはどういう力や技能が必要であるかを考える。	30
2	保育者の役割・職務内容	児童福祉法や学校教育法等に即しながら、保育士・幼稚園教諭等の保育者として求められる役割、職務内容について整理する。	『保育所保育指針解説』・『幼稚園教育要領解説』等の保育者の役割・職務内容に関連する箇所を読んでおく。	60
3	保育者の倫理	全国保育士会倫理綱領や児童福祉法・教育職員免許法等に則しながら、保育者の倫理について学ぶ。	インターネット上で全国保育士会倫理綱領を探し、内容をひとつひとつ読上げ、重要だと思うところに線を引いてくる。	60
4	保育者の制度的位置づけ	保育士の資格取得・欠格事項及び幼稚園教諭の免許状の種類・欠格事項等について、児童福祉法・教育職員免許法等を参照しながら整理する。さらに認定こども園における保育者の位置づけについても学ぶ。	内閣府のHPから子ども・子育て支援新制度に関するリーフレットをダウンロードし、読んでおく。	60
5	保育者の資質・能力	中央教育審議会の「教員の資質能力向上特別部会」による報告書「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」等を参照しながら、保育者としての資質・能力について考える。	保育者として身につけるべきだと思う能力・技能等について自分なりに考えてくる。	60
6	養護及び教育の一体的展開	保育所保育指針・幼稚園教育要領等に即しながら、養護と教育が一体的に展開されることの意味を整理する。	保育所保育指針・幼稚園教育要領等の該当箇所を読んでくる。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	家庭との連携・保護者支援	保育所等における子育て支援の意義を、時代状況を踏まえながら整理し、保護者・家庭と連携しながら保育を展開することの重要性について理解する。	男性保育士によるおむつ替えに対して起きた騒動など、昨今の保育をめぐる情報を新聞等から得ておく。	90
8	保育の計画と評価：あるいは、保育におけるリフレクション	保育における計画・評価の意味を確認し、保育においてなされるリフレクションとはどのようなものとなるのかを学ぶ。	指導計画を立てる意味を自分なりに考えてくる。	60
9	保育の質をめぐる議論	保育の「質」として語られるものとしてどういう視点があるのかを学ぶ。	自分にとって理想の保育とはどういう性質のものであるのかをノートに記してくる。	60
10	保育の質を向上させるために：方法論・カリキュラム論の視点から	保育の質を向上させるために、どのような方法がありうるのか、カリキュラムとしてはどのように構想できるのかを考える。	子どもにとっての遊びが学びであることの意味を考えてくる。	60
11	保育における職員間の連携・協働	保育所等における職員間の連携・協働について、学ぶ。	チーム保育や特に乳児の担当制保育のあり方について、参考書等を元にししながら、自分なりに調べておく。	60
12	他の専門機関等との連携・協働	医療機関や小学校との連携・協働について、10の姿などに即しながら学ぶ。	10の姿について保育所保育指針・幼稚園教育要領等で見ておく。	60
13	地域社会の中の保育所・幼稚園等の施設	地域社会との連携や協働について、保育所・幼稚園等の実例をもとに知る。	附属幼稚園等、学生にとって身近な保育の現場における地域連携の実態を調べておく。	60
14	保育者のキャリア形成	キャリアアップ研修等の保育者のキャリアに関わる研修について整理する。	保育者として働く上で大切にしたいことは何か自分なりの考えをノートに記してくる。	60
15	まとめ	ノートや配布資料等を持参したうえで授業内試験を受ける。これまでの理解を確認し、解説を受ける。	ノートを整理し試験に備え、理解できなかったことを復習する。	60

科目名	保育の心理学Ⅰ	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年2単位 必修
担当教員	折笠 国康		
開講期	Ⅱ		
授業概要	保育実践にかかわる心理学の基礎知識を学習し、子どもへの理解を深め好ましい対応を見極める力を養うことを目標とする。特に、人間の発達過程を見据えながらその特徴について学習する。☒ 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。☒ 位置づけ・水準 CE2109☒		
達成目標	☒ ①子どもの発達にかかわる心理学の基礎を習得し、子どもへの理解を深めることができたか。☒ ②保育実践にかかわる心理学的な基礎理論を理解することができたか。☒ ③子どもの発達を援助する方法を心理学的な観点で理解することができたか。☒ 単位認定の最低基準は、「内容の7割を理解していること」☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：子どもの発達の理解と支援の力		
受講資格	短期大学部 幼児教育学科1年	成績評価 方法	内容の「70%」の理解で合格とするが、「80%程度」の理解が望まれる。理解度の評価は小レポート30%、試験70%で行う。
教科書	特にしてはしない。授業の時に資料を配布することがある。		
参考書	必要に応じて紹介する。		
学生への要望	講義への協力的な参加を要望する。☒ 専用のノートを準備すること。		
オフィスタイム	火曜 2限 835 研究室☒ 水曜 4限 835 研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 保育の基本 勇気づけ理論	この科目の目標と授業方針を理解する。保育とは何かを心理学的な視点から理解する。☒ ほめる・叱るにかかわるアプローチである「勇気づけ」についての基礎理論を理解する。☒	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
2	保育のための心理学 交流分析	自己についてエゴグラムを用いた交流分析によって理解する。☒ ☒	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
3	保育のための心理学 -発達心理学-	子どもの発達や成長に関して、心理的な知見や関わり方を理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
4	保育のための心理学 -保育の目標 ①-	保育の目標や保育者の対応について心理学的な視点から理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
5	保育のための心理学 -保育の目標 ②-	保育の目標や保育者の対応について心理学的な視点から理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
6	保育のための心理学 -保育者の役割 1-	保育者との信頼関係や、保育者による子ども承認認知の重要性を理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
7	保育のための心理学 -運動や遊びの本質-	保育や心理学的な視点から、子どもの運動や遊びの本質について理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
8	保育のための心理学 -運動や遊びの本質 2-	保育や心理学的な視点から、子どもの運動や遊びの本質について理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
9	保育のための心理学 -保育者の役割 2-	保育者との信頼関係や、保育者による子ども承認認知の重要性を理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
10	保育のための心理学 -動機づけの理論-	人間のやる気や意欲にかかわる動機づけの理論の基礎を理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
11	保育のための心理学 -保育者の役割 3-	動機づけ理論の基礎を基に、ほめる・叱るといった賞罰についての心理学的知見を理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
12	保育のための心理学 -アドラー心理学 1-	子どもの適応を育むための、アドラー心理学の理論を理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
13	保育のための心理学 -アドラー心理学 2-	子どもとの良好な関係性を築くため、アドラー心理学の理論を理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
14	保育のための心理学 教師のリーダーシップ	教師の果たす役割やあり方、実際の指導行動の状態、時代が求める望まれるリーダーシップについての理解を深める。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
15	本講義のまとめ	テストを実施し、本講義を振り返り保育に関する心理学的視点を復習する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60

科目名	教育心理学	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択
担当教員	折笠 国康		
開講期	I		
授業概要	教育心理学は、教育活動をより効果的に行うための心理学的な知見や技術を提供する学問である。本科目を通して、より効果的な教育実践が可能となる教育に関する心理学的な知識や方法を理解することを目標とする。☒ 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。☒ 位置づけ・水準 CE2110		
達成目標	☒ ①認知や感情などの「心の発達」に関する基本概念をどの程度理解できたか。☒ ②「自己」に関する基本概念をどの程度理解できたか。☒ ③近年の教育現場で問題となっている事柄をどの程度理解できたか。☒ 単位認定の最低基準は、：「内容の7割を理解していること」☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：子ども発達の理解と支援の力☒		
受講資格	短期大学部 幼児教育学科 1年	成績評価 方法	授業内容の「70%程度」の理解が必要。理解度の評価は、授業の参加の様子やリアクションシート30%、試験70%で行う。
教科書	特に指定はない。		
参考書	講義の中で、適宜紹介する。		
学生への要望	講義への協力的な参加を要望する。		
オフィスタイト	金曜 2限 835 研究室☒ 3限 835 研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	この授業の目的と授業方針を理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
2	人間の発達 -発達心理学-	人間の発達や成長に関して、心理学的な知見や理論を学び理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
3	自己とは(1) 認知について	認知心理学の基礎を学び、自己に対する認識について理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
4	自己とは(2) 認知について	ピアジェの認知の発達に関する理論を学び理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
5	自己とは(3) 自我同一性	自我同一性を中心に心理学的な枠組みで自己とは何かを理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
6	自己とは(4) 自己概念	心理学的な構成概念としての自己概念の理論的枠組みを理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
7	自己とは(5) 自尊感情と自己評価	自尊感情や自己評価に関する心理学的知見を概観し理解する。☒ 「本当の自分」に関して、心理学的視野から理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
8	自己とは(6) 自己受容、防衛機制	C. ロジャースの理論を用いて、自己受容について理解する。☒ A. フロイトによる防衛機制の概念を学び、自己についての理解を深める。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
9	自己とは(7) 交流分析	自己についてエゴグラムを用いて理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
10	動機づけの理論	内発的動機、外発的動機づけに関する理論を理解する。☒ E. デシの自己決定理論の基礎を理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
11	学級のアセスメント1	標準化された心理尺度による客観的な指標を基にした学級のアセスメントについて理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
12	学級のアセスメント2	標準化された心理尺度による客観的な指標を基にした学級のアセスメントについて理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
13	教師のリーダーシップ1	教師の果たす役割やあり方、実際の指導行動の状態、時代が求める望まれるリーダーシップについての理解を深める。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
14	教師のリーダーシップ2	教師の果たす役割やあり方、実際の指導行動の状態、時代が求める望まれるリーダーシップについての理解を深める。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
15	本講義のまとめ	試験を実施し、本講義の振り返りを通して教育の実践に必要な心理学的な知見を復習する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60

<b>科目名</b>	子ども家庭支援の心理学		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	富士盛 公年			
<b>開講期</b>	IV			
<b>授業概要</b>	相談援助とは子どもたちがよりよい人生を歩むための保育者が援助するための理念と方法を学ぶ授業である。実際に保育や幼稚園教育の現場に出て、この理念を持って、保育者としての活動するために次の3つのことを学んでいく。☑ ①愛着、虐待、発達障害、嗜癖、心身症などについてその家庭的な背景も含めて理論的に学ぶ。☑ ②それらについての、保育者としてなすべきことをソーシャルワークを中心に学ぶ。☑ ③特に困難事例である被虐待児、発達障害の事例について☑ 最終授業で全体に対するフィードバックを行います。☑ 位置づけ・水準 CE2211			
<b>達成目標</b>	本学の学生は、建学の理念である「尊敬・責任・自由」の精神を持って遂行することが求められる。本授業では実際に保育や幼稚園教育の現場に出て、この理念を持って、児童に対しては責任を持ち、児童の保護者に対しては尊敬の念を持って、保育者としての力を形成することを目指す。☑ ①愛着、虐待、発達障害、嗜癖、心身症などについてその家庭的な背景も含めて理論的に理解する。☑ ②それらについての、保育者としてなすべきことを理解する。☑ ③特に困難事例である被虐待児、発達障害への対応を具体的に考えられるようにする。☑ これらについて8割以上、理解できたか。☑ ディプロマポリシーとの関係 「子どもの発達の理解と支援の力」			
<b>受講資格</b>	幼児教育学科2年	<b>成績評価 方法</b>	レポート1回を50点分。課題、ポートフォリオ提出50点分を随時、課す。それらを合計して評価する。	
<b>教科書</b>	プリントを配布する。			
<b>参考書</b>	授業中に紹介する。			
<b>学生への要望</b>	現場に出たら、いろいろな経験に遭遇する。それに対応できるだけの知識や理論を習得するのは大変困難なことである。それを自覚して、十分に熱意を持って取り組んでほしい。事前にはあらかじめ配布済みのプリントを読み、関連の事例などについてまとめておくこと。事後にはコメントを提出してよく復習すること。			
<b>オフィスタイトム</b>	火曜日午後4時から5時 水曜日午後4時から5時 富士盛研究室（833）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	授業のオリエンテーション☑ 成績評価についての説明☑ 学習目標の設定	課題 キーワードについて調べてくる。わかったことをまとめて次回に発表できるようにする。	40
2	相談とは	どのような理論から、どのようなプロセスで相談が成立するかについて、考える。☑	課題 キーワードについて調べてくる。わかったことをまとめて次回に発表できるようにする。	40
3	なぜ相談援助を勉強するか	危機場面で役立つ理論と技法☑ 相談援助を学ぶことで、現場で対応できるように理論と知識を習得するための目標設定を考えさせる。☑	課題 キーワードについて調べてくる。わかったことをまとめて次回に発表できるようにする。	40
4	虐待の事例 愛着障害Ⅰ	愛着の成立☑ 母子関係の発達☑ 愛着障害の事例☑	課題 キーワードについて調べてくる。わかったことをまとめて次回に発表できるようにする。	40
5	虐待の事例 愛着障害Ⅱ	愛着障害の理解☑ 愛着障害への対応☑ 園における配慮事項	課題 キーワードについて調べてくる。わかったことをまとめて次回に発表できるようにする。	40
6	ソーシャルワークとして 心身症Ⅰ	心身症の仕組み☑ 心身症をどのように理解すればいいか☑ 子どもの症状をどう見ればいいのか	課題 キーワードについて調べてくる。わかったことをまとめて次回に発表できるようにする。	40
7	ソーシャルワークとして 心身症Ⅱ	子どもの心をどうとらえて対応すべきか☑ 心身症の事例☑ 子どもの心身症への対応☑	課題 キーワードについて調べてくる。わかったことをまとめて次回に発表できるようにする。	40
8	子どもへの援助 習癖	排泄に関わる問題☑ 小児オナニーをどう理解するか☑ 強迫症状について考える☑ 強迫症状の強い子への働きかけ☑ ☑	課題 キーワードについて調べてくる。わかったことをまとめて次回に発表できるようにする。	40
9	社会性的問題 乱暴・盗み	攻撃をどうとらえるか☑ 攻撃の発達☑ 幼児の攻撃行動とそれへの対応☑ 攻撃の事例☑ 盗みの事令	課題 キーワードについて調べてくる。わかったことをまとめて次回に発表できるようにする。	40



-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	社会性的問題 緘黙・ひきこもり	緘黙をどう理解するか☑ 緘黙の事例☑ 引きこもり傾向について☑ 登園拒否の事例☑ 園における指導上の留意点	課題 キーワードについて調べてくる。わかったことをまとめて次回に発表できるようにする。	40
11	困難事例その1 被虐待児症候群	虐待がなぜおきるか☑ 虐待の現状と問題点☑ 虐待への対応☑ 虐待事例☑	課題 キーワードについて調べてくる。わかったことをまとめて次回に発表できるようにする。	40
12	困難事例その2 発達障害Ⅰ	発達について☑ 母子関係の問題点と現状☑ 精神発達遅滞の理解について☑ 精神発達遅滞の子どもへの対応	課題 キーワードについて調べてくる。わかったことをまとめて次回に発表できるようにする。	40
13	困難事例その3 発達障害Ⅱ	精神発達遅滞の子どもへの働きかけ☑ 自閉症とは何か☑ 自閉症を理解するために☑ 自閉症の内的世界	課題 キーワードについて調べてくる。わかったことをまとめて次回に発表できるようにする。	40
14	困難事例その4 発達障害Ⅲ	自閉症の事例☑ 園での指導上の留意点☑ 学習障害とADHDへの理解と対応	課題 キーワードについて調べてくる。わかったことをまとめて次回に発表できるようにする。	40
15	まとめ	☑テストと解説 講義のまとめ	授業についてまとめてポートフォリオを提出する。	90

<b>科目名</b>	子どもの理解と支援	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
<b>担当教員</b>	富士盛 公年		
<b>開講期</b>	III		
<b>授業概要</b>	保育の現場に必要な発達心理学を基本として、幼児の成長を理解し、発達段階に応じた対応ができるように次の点を学修する。☑ ①保育の心理学Ⅰの理解を前提にして、それをさらに発展させる。☑ ②幼児の発達を理解して、さらに心と身体の正常な発達と発達障がいなどの異常な状態を学修する。☑ ③上の知識をさらに発展させて、現場での対応を理論的に学ぶ。☑ 最終授業で全体に対するフィードバックを行います。☑ 位置づけ・水準 CE2212☑		
<b>達成目標</b>	学生は、建学の理念である「尊敬・責任・自由」の精神を持って遂行することが求められる。本授業では実際に保育や幼稚園教育の現場に出て、この理念を持って、子どもに対しては責任を持ち、保護者に対しては尊敬の念を持って、活動することを目指す。☑ ①保育の心理学Ⅰの知識と理論を実際に現場で利用できること。☑ ②幼児の発達を理解して、さらに心と身体の正常な発達と発達障がいなどを理解する。☑ ③発達心理学、臨床心理学の応用的な理論と知識の実際を理解する。☑ 単位認定の基準はこれらが8割理解できていること。☑ ディプロマポリシーは子どもの発達の理解と支援の力と関連。☑ ☑ ☑		
<b>受講資格</b>	幼児教育学科2年	<b>成績評価 方法</b>	課題提出30点、小テスト50点を課す。調べて発表もしてもらう。これが20点それらを合計して評価する。☑
<b>教科書</b>	プリント配布		
<b>参考書</b>	参考書は授業ごとに指示する。		
<b>学生への要望</b>	現場に出たら、いろいろな経験に遭遇する。それに対応できるだけの知識や理論を習得するのは大変困難なことである。それを自覚して、十分に熱意を持って取り組んでほしい。☑ 事前にはあらかじめ配布済みのプリントを読み、関連の事例などについてまとめておくこと。事後にはコメントを提出してよく復習すること。		
<b>オフィスタイトム</b>	火曜日 午後4時から5時 水曜日 午後4時から5時 富士盛研究室(833)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	第1回☑ オリエンテーション☑ 講義の概論と授業の成績評価の説明☑	課題 キーワードについて調べてくる。それについてまとめ、次回に発表できるようにしておく。	40
2	保育心理学概説	第2回 ☑ なぜ、保育の心理学を学ばなければならないか☑ あらためて、その意味について考えて、モチベーションを確認する。☑ ☑	課題 キーワードについて調べてくる。それについてまとめ、次回に発表できるようにしておく。	40
3	心の発達1	第3回☑ 心とは何か。心のなりたちについて、発達の観点から概説する。☑	課題 キーワードについて調べてくる。それについてまとめ、次回に発表できるようにしておく。	40
4	心の発達2	第4回☑ 情動の役割 「怒り」や「悲しみ」について、人間の感情がどのように生起し、発達するかを理解する。	課題 キーワードについて調べてくる。それについてまとめ、次回に発表できるようにしておく。	40
5	親子関係の発達1	第5回☑ 母子相互作用 子と親との関係の中で形成されていくものを考察する。	課題 キーワードについて調べてくる。それについてまとめ、次回に発表できるようにしておく。	40
6	親子関係の発達2	第6回☑ 愛着の形成と発達 親の養育行動と子どもの発達について考察する。	課題 キーワードについて調べてくる。それについてまとめ、次回に発表できるようにしておく。	40
7	パーソナリティの発達1	第7回☑ 気質、パーソナリティとは何か。主なパーソナリティの理論とその発展について考察する。	課題 キーワードについて調べてくる。それについてまとめ、次回に発表できるようにしておく。	40
8	パーソナリティの発達2とまとめ	第8回☑ 環境因の影響 自己理解の発達について考察する。☑ ☑ 発表と討議 ここまでのそれぞれの理解について分担を決めて、発表し、それについて討議する。	授業についてまとめる	90

<b>科目名</b>	子どもの保健	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	永瀬 悦子		
<b>開講期</b>	Ⅱ		
<b>授業概要</b>	子どもの健康の保持・増進と精神安定を図るために必要な子どもの保健について学ぶ。子どもの心身の発育発達には個性があることを踏まえ、子どもに多い疾患と体調不良時の症状に対する対処法について学修する。助産師・看護師として医療機関勤務および乳幼児健診等をしてきた経験を活かして講義を行う。現代社会における子どもを取り巻く健康問題と課題について学ぶ。更に、家庭と地域の連携を通じた保健活動及びその関係機関との連携についても学ぶ。 <b>【課題に対するフィードバック方法】</b> ①最終授業で全体に対するフィードバックを行う。②課題・レポート提出後、フィードバックの時間を設定し連絡する。③レポートを添削・返却し、コメント等によるフィードバックを行う ☑ <b>【授業の目的】</b> ☑ 健康の保持・増進と精神の安定を図る保育において、子どもの保健の基礎的な知識・技術内容・子どもにかかわる姿勢（心）を理解する。 <b>【位置づけ・水準】</b> CE2113		
<b>達成目標</b>	1)子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解し、保育保健を総合的に計画・実践について説明できる 2)子どもの発育発達には個性があることを踏まえその支援内容について説明できる 3)子どもの心身の健康状態とその把握の方法を述べることができる 4)体調不良の子どもを観察とその対応について説明できる。ディプロマポリシーとの関係から「保育の内容理解と総合計画力」「子どもの発達の理解と支援の力」「保育の方法と技術力」「問題解決力」を身に付けることを達成目標とする。これらのことを7割達成すれば単位認定とする。		
<b>受講資格</b>	保育士資格取得を希望する学生	<b>成績評価 方法</b>	筆記試験80点・レポート20点
<b>教科書</b>	飯島一誠監修『保育者のためのわかりやすい子どもの保健』日本小児医事出版社 2019年☑ ※資料を毎回配付		
<b>参考書</b>	『保育所保育指針』フレーベル館 2017年		
<b>学生への要望</b>	子どもの成長・発達の基礎的な知識をもとに、その健康を逸脱した過程における対応、健康課題に関する知識を学ぶ。講義は積極的に臨むことを期待する。		
<b>オフィスタイム</b>	火曜日 V時限（16：10～17：40） 832研究室☑ 木曜日 I時限（8：50～10：20） 832研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	子どもの心身の健康と保健の意義 1	1)生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的 2)目的健康の概念と健康指標 3)現代社会における保健活動と子どもの健康に関する現状と課題 ※保育所における保健活動が、生命の保持と情緒の安定にどのようにつながっているのかを考え養護と教育を一体的に行う意味や「健康」「人間関係」「環境」「表現」における目標や保育の重要性を学ぶ。	新聞記事や書籍、ニュース等を通して、現代の子どもの健康問題について調べる	120
2	子どもの心身の健康と保健の意義 2	1)地域における保健活動と子どもの虐待防止 2)虐待に関する法律と保健活動学ぶ ※虐待に関わる諸統計からみる現状を理解する。更に、これらに対する母子保健の施策や体系、支援を開発する。そして保育者について求められる知識や取組みを考える。	新聞記事や書籍等で「虐待」について調べる	120
3	子どもの身体的発育・発達と保健 1	1)子どもの身体発育の評価と成長に影響を及ぼす因子 2)発達の順序と原始反射 ※発育・発達の目安となる指標を理解し、その発育状態の評価方法をその意義を学ぶ。	子どもの原始反射の種類及び発達について教科書を読む。	120
4	子どもの身体的発育・発達と保健 2	1)子どもの生理機能の発達と保健 ※各器官の生理的機能とその成長過程について理解を深める。	教科書をよく読み学びを深める	120
5	子どもの身体的発育・発達と保健 3	1)新生児の特徴 2)母と子の心と身体をつながり ※新生児の特徴を理解し母子相互作用等についても学ぶ。	自分および身近な子どもの誕生について聞いてまとめる。	120
6	子どもの心身の健康状態とその把握 1	1)子どもの健康状態の観察 2)心身の不調時の早期発見 3)発育・発達の把握と健康診断 4)保護者との情報共有 ※子どもの健康状態を観察し、表情や行動、しぐさ等も大切な観察点であることを学ぶ。体調不良時に早急に対応をして受診か否かの判断を求められることを理解する。また、保護者との情報共有する大切さを学ぶ。	「2018年改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」(平成30年3月厚生労働省)における「子どもの症状をみるポイント」31～33頁をよく読む。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	感染経路と保健活動	1)感染症と要因 2)感染経路と対策 3)学校保健安全法施行規則19条について 4)感染症の疑いのある時と発生時の対応 ※感染症の要因と感染経路・対策の基礎的知識を理解し、感染症の疑いのある子どもに対する対応を学ぶ。学校保健安全法にある感染症の種類と登園停止期間を学ぶ。	「2018年改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」(平成30年3月厚生労働省)1～30頁をよく読む。	120
8	子どもの疾病の予防及び適切な対応 1	1)子どもの代表的な感染症①	課題レポートをまとめる	120
9	子どもの疾病の予防及び適切な対応 2	1)子どもの主な病気の特徴(呼吸器系、循環器系、消化器系、血液系)	教科書をよく読み学びを深める	120
10	子どもの疾病の予防及び適切な対応 3	1)子どもの主な病気の特徴(泌尿器系、生殖器系、内分泌系)	教科書をよく読み学びを深める	120
11	子どもの疾病の予防及び適切な対応 4	1)子どもの主な病気の特徴(皮膚、神経系、骨・関節・筋肉系、感覚器系)	教科書をよく読み学びを深める	120
12	子どもの疾病の予防及び適切な対応 5	1)子どもの主な病気の特徴(アレルギー・免疫系)	教科書をよく読み学びを深める	120
13	子どもの疾病の予防及び適切な対応 6	1)発熱、脱水、咳嗽、喘鳴の症状観察と適切な対応 ※子どもの健康状態の観察の方法及び主な症状(発熱・脱水咳嗽・喘鳴)の見方と対処法について学ぶ。	「2018年改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」(平成30年3月厚生労働省)72頁、75頁をよく読む。	120
14	子どもの疾病の予防及び適切な対応 7	1)腹痛、下痢、嘔吐、便秘の症状観察と適切な対応 ※子どもの健康状態の観察の方法及び主な症状(腹痛、下痢、嘔吐、便秘)の見方と対処法について学ぶ。	「2018年改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」(平成30年3月厚生労働省)73～74頁をよく読む。	120
15	子どもの疾病の予防及び適切な対応 8	1)けいれん、熱中症、鼻出血、耳の異物、虫刺され、発疹の症状観察と適切な対応 ※子どもの健康状態の観察の方法及び主な症状(けいれん、熱中症、鼻出血、耳の異物、虫刺され、発疹)の見方と対処法について学ぶ。	「2018年改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」(平成30年3月厚生労働省)76頁、関係法規84～93頁をよく読む。	120

<b>科目名</b>	子どもの食と栄養	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	水野 時子,善方 美千子		
<b>開講期</b>	III		
<b>授業概要</b>	〔授業の目的・ねらい〕☑ 子どもにとって食べることは、健やかな心身の成長・発達的基础となるものであることから、保育者として子供の発育・発達、健康増進のために必要な望ましい食生活のあり方、食事方法を理解する。さらに保育所における食育の実践について理解する。☑ ☑ 〔授業全体の内容の概要〕☑ 子どもにとっての食生活の意義、食生活をめぐる現状と課題、食生活と栄養に関する基本的知識、発育・発達と食生活、食育の基本と内容、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について学ぶ。また食育を行うための計画を立て研究発表会を行う。☑ ☑ 課題に対するフィードバック（評価の伝達）方法：課題・レポート提出後、フィードバックの時間を設定し連絡する。☑ 担当：A・Bクラス 水野担当 C・D・Eクラス 善方担当☑ 位置づけ・水準CE2214		
<b>達成目標</b>	授業の達成目標は☑ ①子どもの健やかな発育・発達のために食事が重要や役割を果たすことを理解している。☑ ②栄養に関する基本的知識を理解している。☑ ③食育の重要性や内容を理解している。☑ ④特別な配慮を要する子どもへの対応について理解している。☑ ⑤乳児期・幼児期・学童期の食生活の特徴、望ましい食生活について理解している。☑ ☑ 単位認定の最低基準は、内容の8割を理解していること。☑ ディプロマ・ポリシーとの関係：「保育の内容理解と総合的計画力」、「子どもの発達の理解と支援の力」		
<b>受講資格</b>	特にありません	<b>成績評価 方法</b>	授業課題70点、感想レポート30点☑ 60%以上で合格とする。
<b>教科書</b>	子どもの食と栄養（岡井紀代香・吉井美奈子 編著、ミネルヴァ書房、京都市、2200円（税別））		
<b>参考書</b>	必要に応じて連絡する。		
<b>学生への要望</b>	子どもの食について興味と関心を持ち生活してください。		
<b>オフィスタイム</b>	水野：火曜日12：00～12：30、木曜日12：00～12：30 83年館2階「栄養学研究室」☑ 善方：月曜日12：10～12：50、水曜日12：10～12：50 家政学館2階「解剖学研究室」		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	子どもの健康と食生活の意義	子どもの健やかな発育・発達のための食事の重要性について、また食事は栄養面だけでなく社会性の発達や食習慣の形成にも深く関わりのあることを学び理解する。	授業の内容を振り返り、レポートをまとめる。	30
2	子どもの食生活をめぐる現状と課題	子どもの生活習慣の現状、朝食の摂食と就寝時間の関係、子どもの体型等について学び、子どもの食生活をめぐる現状と課題について理解する。	授業の内容を振り返り、レポートをまとめる。	30
3	子どもの食生活の理解	子どもの食に関する理解を深めるためにビデオ「3歳児食べるよろこび」を視聴し、食べることを通して親や保護者の係わり方、また子ども自身の成長を理解する☑ ☑ ≪参考ビデオ「3才児食べるよろこび」≫☑ レポート：ビデオを通して学んだことについて感想レポート提出	ビデオを通して学んだことのレポートを作成する。	30
4	栄養に関する基礎知識 1	食べ物に含まれている栄養素の種類とその働き、「日本人の食事摂取基準2020年版」における小児期栄養の留意点を学び理解する。	授業の内容を振り返り、レポートをまとめる。	30
5	栄養に関する基礎知識 2	栄養の特性を理解し、食事摂取基準をもとにした献立作成と食品構成について学び、どのような組み合わせで食べればよいかを理解する。	授業の内容を振り返り、レポートをまとめる。	30
6	食育の基本と内容（1）	食育とは何か、食育基本法、保育所で食育を行う意義について学び理解する。	授業の内容を振り返り、レポートをまとめる。	30
7	食育の基本と内容（2）	月・年齢に応じた食育について学び、給食を通してどのような食育ができるのか、地域と連携をとることでどのような食育ができるのか、グループワークを行う。	授業の内容を振り返り、レポートをまとめる。	45

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	食育研究発表会について	9回・10回の授業で行う「食育研究の発表会」の進め方を説明する。グループ発表に向けグループワークを行う。	授業の内容を振り返り、レポートをまとめる。	30
9	食育研究の発表会（1）	「食育の研究発表会」を行う。各グループの発表に対する感想をまとめてレポートにして提出する。☑  レポート：発表の感想レポート提出	「食育研究の発表会」の感想をレポートにまとめる。	30
10	食育研究の発表会（2）	「食育の研究発表会」を行う。各グループの発表に対する感想をまとめてレポートにして提出する。☑  レポート：発表の感想レポート提出	「食育研究の発表会」の感想をレポートにまとめる。	30
11	子どもの発育発達と食生活 1 乳児期	乳児の食べる機能の変化と栄養補給法（乳汁栄養・離乳）について学び、乳児栄養について理解する。また、調乳方法について学び理解する。	授業の内容を振り返り、レポートをまとめる。	30
12	子どもの発育発達と食生活 2 ☑ ☑ 幼児期	幼児期の食機能の特徴と間食が必要な理由と与え方について学び、幼児期栄養について理解する。また、保育所給食の実際について学び理解する。	授業の内容を振り返り、レポートをまとめる。	30
13	子どもの発育発達と食生活 3 学童期	「食習慣の完成期」である学童期の食行動の実態や動向、また学童期の食生活の特徴と学校給食について学び、学童期栄養について理解する。	授業の内容を振り返り、レポートをまとめる。	30
14	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	疾病及び体調不良の子ども、食物アレルギーのある子ども、障がいのある子ども、それぞれの配慮を要する子どもへの理解と、食事の対応や栄養について学び理解する。	授業の内容を振り返り、レポートをまとめる。	30
15	授業のまとめ	「子どもの食と栄養」についてのまとめを行う。	「子どもの食と栄養」で学んだ内容の復習を行う。	45

<b>科目名</b>	教育・保育課程論	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年2単位 選択
<b>担当教員</b>	山上 裕子		
<b>開講期</b>	Ⅱ		
<b>授業概要</b>	<p>生涯にわたる人格形成の基礎を培う幼児教育において、幼児期にふさわしい教育・保育課程はどのようなものか。「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を基準にした計画を立てられるために必要な基礎を講義する。具体的には、教育・保育課程の役割や意義、編成の方法、指導案の作成、カリキュラム・マネジメントなどを取りあげる。また附属幼稚園での勤務をもとに、実際の保育現場での子どもの姿等や保育者の関わりの様子をスライドやビデオなどで示しつつ、具体的な子どもの姿や保育についての現代的な課題についての話題を提供し、指導計画作成のイメージがつくように活動グループ・ワークを行いつつ、現場に直結する力を身につけていく。なお、最終授業で全体に対するフィードバックを行う。☑</p> <p>実務経験（賀門博康）：幼稚園教諭(現在は園長)として郡山女子大学附属幼稚園に勤務 位置づけ・水準 CE2115</p>		
<b>達成目標</b>	<p>本科目は、ディプロマ・ポリシーの「保育の内容理解と総合的計画力」と「保育の方法と技術力」に対応している。☑</p> <p>①教育・保育課程の役割と意義を、7割以上理解できたか。☑</p> <p>②教育・保育課程の編成と指導計画の作成方法について、7割以上理解できたか。☑</p> <p>③教育・保育課程のマネジメントの必要性を、7割以上理解できたか。☑</p> <p>☑</p> <p>☑</p>		
<b>受講資格</b>	原則として、幼稚園教諭二種、保育士資格取得希望者	<b>成績評価 方法</b>	授業参加度30% レポート70%
<b>教科書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省） ☑</li> <li>・保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省） ☑</li> <li>・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府） ☑</li> <li>・岩崎順子・及川留美・粕谷亘正『教育・保育課程論～書いて学べる指導計画～』萌文書林、2015年。☑</li> </ul>		
<b>参考書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その他、授業中に適宜プリントを配布する。</li> </ul>		
<b>学生への要望</b>	<p>授業用のノートを用意すること。☑</p> <p>欠席、遅刻はしないようにすること。☑</p> <p>指導計画の作成にはイメージの豊かさが大事である。授業内容に沿った気づきや発想を、積極的に発言すること。</p>		
<b>オフィスタイム</b>	<p>山上 木曜日：14：30～16：00 833研究室☑</p> <p>金曜日：12：50～14：20 833研究室 ☑</p> <p>賀門 月～金曜日 10：00～11：30 附属幼稚園応接室☑</p> <p>15：00～17：00 附属幼稚園応接室☑</p>		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション (担当：山上 裕子)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義内容について説明を受け、到達目標や評価方法を確認する。保育活動がどのように行われているのか、気づいたことを共有する。☑</li> <li>☑</li> </ul>	事前にシラバスを確認し、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の記載を概観する。	60
2	教育・保育課程とは何か (担当：山上 裕子)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムの発生を知ることとおして、経験カリキュラムについて学ぶ。また、我が国日本で告示された教育要領等の学校教育における位置づけや性格を学び、教育課程等を作成する必要性について考える。</li> </ul>	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の内容を確認する。	60
3	教育要領の変遷 (担当：山上 裕子)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦後「保育要領」として生まれ、「幼稚園教育要領」として今日まで改訂されてきた変遷を知る。その際、社会からの要請が関連していたことを理解する。また、同時に「保育所保育指針」の変遷についても学ぶ。これまで学んだことをまとめる。☑</li> <li>☑</li> </ul>	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の変遷をまとめる。	60
4	教育課程・指導計画の種類 (担当：賀門 康博)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育三法令(幼稚園教育要領・保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領)について、29年度の改訂版をもとに、それぞれの内容と関連性を話しつつ、“3つの視点(0歳)”“5領域(1～5歳)”“10の姿”などのキーワードを学び、保育の置けるその位置づけを理解する。☑</li> <li>☑</li> </ul>	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」で要となる“3つの視点(0歳)”“5領域(1～5歳)”“10の姿”について、語彙等を理解する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	子どもの多面的な理解（5領域・10の姿等から）（担当：賀門 康博）	・5領域や10の姿等の内容を照らし合わせながら、子どもの姿や日々の生活・体験が子ども達の成長にとってどういった意味を持つのかについて、ビデオなどの視聴をつつ、理解を深める。	「5領域」及び「10の姿」といった観点の存在について理解する。	60
6	指導計画の構成について①（担当：賀門 康博）	・指導計画はどういった構成になっており、それぞれがどういった関係であるのかについて、全体像を理解する。また、構成要素のうち、「子どもの姿」「ねらい」「内容」について掘り下げ、その意味を理解する。	指導計画における「子どもの姿」「ねらい」「内容」についてそれぞれの意味と違いを理解する。	60
7	指導計画の構成について②（担当：賀門 康博）	・前回に続き、指導計画の構成について学ぶ。全体の構成を考へつつ、構成要素のうち「環境の構成」「予想される子どもの姿」「保育者の援助・配慮」について掘り下げ、その意味を理解する。	指導計画における「環境の構成」「予想される子どもの姿」「保育者の援助・配慮」についてそれぞれの意味と違いを理解する。	60
8	指導計画作成の実際①（子どもの姿①）（担当：賀門 康博）	・前回までに学んだ指導計画の全体像の理解を踏まえ、以後4回にわたり各論的にワークを行い、実際の記述の仕方などを学ぶ。この回では指導計画の基礎となる「子どもの姿」について、“個の理解”と“全体の理解”の重要性について学ぶ。また、ビデオなどを用いながら行動観察などでのポイントやその意味を理解する。	子どもの定型的な発達の姿を理解しつつ、各年齢において重要とされる関わりについてポイントを理解する。	60
9	指導計画作成の実際①（子どもの姿②）（担当：賀門 康博）	・前回から引き続き、子どもの姿についてのワークを行う。実際に実習でクラス担当になり、部分実習などで全体への指導を行う際に、クラス全体の状態をどのように指導計画に反映させるかについて、幾つかの視点を提示しつつ、指導計画への記述について理解する。	個の発達の姿を理解しつつ、集団保育の中で重要とされる関わりについてポイントを理解する。	60
10	指導計画作成の実際②（ねらい・内容）（担当：賀門 康博）	・前回に引き続きワークを行う。この回では、子どもの姿を踏まえた上で、どのように「ねらい」や「内容」を立てていくかについてそのポイントを学び、指導計画への記述の手順などを理解する。	子どもの姿をもとにした「ねらい」の立て方について、5領域等の視点を持った考え方のポイントを理解する。	60
11	指導計画作成の実際③（環境設定・予想される子どもの姿）（担当：賀門 康博）	・前回に引き続きワークを行う。この回では、前回理解したねらいや内容に準じて、どういった形で「環境構成」をし、「子どもの姿を予想する」かについてそのポイントを学び、指導計画への記述の手順などを理解する。	「ねらい」を実現するために必要な「環境構成」と「子どもの予想される姿」について、記載の項目とポイントを理解する。	60
12	指導計画作成の実際④（保育者の援助・配慮）（担当：賀門 康博）	・前回に引き続きワークを行う。この回では、活動の内容や予想される子どもの姿に対して、ねらいを達成するための「保育者の援助や配慮」についてそのポイントを学び、指導計画への記述の手順などを理解する。	「予想される子どもの姿」に対して保育者としての関わり方(援助・配慮)の重要性について理解する。	60
13	カリキュラム・マネジメントについて①（担当：賀門 康博）	・これまでに学んだ指導計画(部分指導・一日指導)が、子どもたちの日々の成長の中でどういった見直しをもって作成されるべきであるかについて、より長期的な教育課程との関連や、小学校との連携(指導要録の作成)の意味と関連させながら学ぶ。	保育における現代的な課題について概観する。	60
14	カリキュラム・マネジメントについて②（担当：賀門 康博）	・カリキュラムの評価や発達や環境の違いに応じて、柔軟に対応(ネージメント)していくことの大切さを知る。	PDCAサイクルについて理解し、現代的な課題に対して指導計画を体操させていく重要性を理解する。	60
15	まとめ（担当：山上 裕子）	・これまで授業で学んできたことを、実習で経験したことをとおして振り返り、教育・保育課程の役割や意義等を再確認する。	ノートやプリントを整理し、幼稚園実習及び保育実習に向けて基礎となる視点を再確認する。	60



<b>科目名</b>	特別支援教育基礎論	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年2単位 必修
<b>担当教員</b>	小林 徹		
<b>開講期</b>	Ⅱ		
<b>授業概要</b>	中学校特別支援学級担任教諭としての指導経験や市町村教育支援委員としての幼稚園・保育所等との連携の経験に基づき、研究成果も踏まえて以下の内容を講義する。☒ 1. 特別支援教育を支える理念や歴史の変遷について理解する。☒ 2. 特別支援教育の場（機関）と制度の現状をとらえる。☒ 3. さまざまな障がいと障がい児、特別な配慮を要する子どもの理解の視点と方法について理解する。☒ 4. 障がい児等の個別支援計画の作成、評価について理解する。☒ 5. 特別支援教育の実際について理解を深める。☒ 課題、レポート、実技については、実施後に授業内でフィードバックを行う。☒ ☒ 位置づけ・水準 CE2117		
<b>達成目標</b>	1. 特別支援教育の理念や制度、その歴史や支援機関の現状をどの程度理解できたか。☒ 2. 障がい児や特別な配慮を要する子どもの個別指導（支援）計画の作成、評価についてどの程度理解できたか。☒ 3. さまざまな障がいと障がい児や特別な配慮を要する子どもを支援するための視点と方法について理解できたか。☒ 単位認定の最低基準は、内容の7割が理解できていること。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：保育の内容理解と総合的計画力、子どもの発達の理解と支援の力、保育の方法と技術力		
<b>受講資格</b>	幼児教育学科の学生を中心とする	<b>成績評価 方法</b>	平常点50点（小テスト、提出物、遅刻や授業態度による減点） 期末試験50点
<b>教科書</b>	小林徹・栗山宣夫編著『ライフステージを見通した障害児保育と特別支援教育』みらい,2020☒ 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館,2018 ☒ 厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル館,2018 ☒ 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館,2018		
<b>参考書</b>	七木田敦編著『保育そこが知りたい！気になる子Q&A』チャイルド本社,2008		
<b>学生への要望</b>	障がいや障がい児について関心を持ち、学習を深めてほしい。☒		
<b>オフィスタイム</b>	毎週火曜・木曜16：10～17：05、822研究室。それ以外は個別相談（cobalt@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	特別支援教育の考え方	障がい児、特別な配慮を要する子ども、特別支援教育の基礎概念について学習する。☒	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
2	特別支援教育の歴史	特別支援教育と障がい児保育の歴史の変遷について学習する。☒	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
3	特別支援教育の制度と仕組み	特別支援教育と障がい児福祉の制度とその仕組みについて学習する。☒	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
4	発達障がいの理解と支援①	さまざまな発達理論の基礎概念と障がいとの関連について映像を通して学習する。☒	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
5	発達障がいの理解と支援②	障がいの基礎概念とその発見、支援の流れについて映像を通して学習する。☒	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
6	発達障がいへのアプローチ	映像を通して発達障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。☒ 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
7	障がい児の子育て	障がいのある子どもの子育ての考え方と療育の実際を映像を通して学習する。☒	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	知的障がい	映像を通して知的障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。☒	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
9	自閉症	映像を通して自閉症に関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。☒	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
10	その他の障がい	映像を通してその他の障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。☒	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
11	障がい児支援の工夫	障がい児支援に関わるさまざまな工夫について紹介し、理解を深める。☒	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
12	他機関との連携	ゲストスピーカーを招いて、特別支援教育に関するさまざまな機関との連携について学習する。☒	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
13	子ども理解と保育方法①	子どもとその特別な教育的ニーズをどのように見出し、理解するかを個別の指導計画の作成を通して学習する。☒	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
14	子ども理解と保育方法②	子どもとその特別な教育的ニーズから、個別の指導計画を作成し、適切で具体的な保育方法を考える。☒	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
15	まとめ	学習内容を振り返り、保育者として特別支援教育にどう取り組むかを考察する。☒	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

科目名	保育相談支援	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択
担当教員	富士盛 公年		
開講期	IV		
授業概要	<p>本学の学生は、建学の理念である「尊敬・責任・自由」の精神を持って遂行することが求められる。本授業では実際に保育や幼稚園教育の現場に出て、この理念を持って、幼児に対しては責任を持ち、保護者に対しては尊敬の念を持って、相談活動に当たられるだけの力を形成することを目指す。☑                  そのために次の3点を学ぶ。☑                  ①解決思考ブリーフセラピーやグループアプローチなどの新しいカウンセリングの方法について理論的に学ぶ。☑                  ②虐待や暴力をふるう攻撃的な子どもに対しての支援の方法を学ぶ。☑                  ③現場で出会う困難な事例について考えて、対応する力をつける。☑                  ☑</p>		
達成目標	<p>☑                  ①学生が実際にカウンセリングの技法を使って、人の話を聞けるようになる。☑                  ②絵画などの子どもたちの表現するものから子どもたちの心を理解できるようになる。☑                  ③事例などを通じて、外部の専門機関との連携の方法を学び、理解できるようになる。☑                  ☑</p>		
受講資格	幼児教育学科2年	成績評価 方法	レポート1回を50点分。課題提出、小テスト50点分を随時、課す。それらを合計して評価する。☑
教科書	教科書は使わず、プリントを配布する。		
参考書	参考書は授業ごとに指示する。		
学生への要望	現場に出たら、いろいろな経験に遭遇する。それに対応できるだけの知識や理論を習得するのは大変困難なことである。それを自覚して、十分に熱意を持って取り組んでほしい。事前にはあらかじめ配布済みのプリントを読み、関連の事例などについてまとめておくこと。事後にはコメントを提出してよく復習すること。		
オフィスタイト	火曜日 午後4時から5時 水曜日 4時から5時 富士盛研究室(833)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	保育相談入門1	第1回☑ オリエンテーション☑ 保育相談の概論と授業の成績評価の説明☑	課題 キーワードについて調べてくる。わかったことをまとめて次回、発表できるようにする。	40
2	保育相談入門2	第2回 ☑ なぜ、保育相談を学ばなければならないか☑ 保育カウンセリングの現状と現場での問題点☑ 現場での危機について☑ 危機対応の事例を考察することで保育相談へのモチベーションを高める	課題 キーワードについて調べてくる。わかったことをまとめて次回、発表できるようにする。	40
3	事例1 ☑クリスマスにハトやネコを惨殺したA君にサンタは来るか	第3回☑ 連携とケースカンファレンスの事例「クリスマスにハトやネコを惨殺したA君にサンタは来るか」を通じて連携とカンファレンスの方法論を学び、あわせて虐待や障害の事例研究を行う。☑	課題 キーワードについて調べてくる。わかったことをまとめて次回、発表できるようにする。	40
4	講義1☑マイクロカウンセリングの実際の基礎技法	第4回☑ アイビーのマイクロカウンセリングの理論を説明し、実際にロールプレイでマイクロカウンセリングの傾聴をやってみて、カウンセリングの初歩的な基礎技法を身につける。	課題 キーワードについて調べてくる。わかったことをまとめて次回、発表できるようにする。	40
5	事例2 ☑黙にどう対応するか～障害の理論～	第5回☑ 小学校低学年男子の緘黙の事例研究を通じて、心因性の問題にどう対応するかを考える。☑ 障害についての理論を学び、障害について理解をしていく。	課題 キーワードについて調べてくる。わかったことをまとめて次回、発表できるようにする。	40
6	講義2 ☑解決思考ブリーフセラピーの技法と理論1 ソリューションモデル	第6回☑ 現在、もっとも現場で効果的といわれる解決思考ブリーフセラピーの技法と理論を学ぶ。特にソリューションモデルについて説明し、実際に少しロールプレイで対話ができるようにする。	課題 キーワードについて調べてくる。わかったことをまとめて次回、発表できるようにする。	40
7	演習1 ☑ループトレーニング1	第7回☑ 講義1, 2で学んだ技法を基礎としてロールプレイのエクササイズ「10回イエスをいわせよう」でグループコミュニケーションの実際の技法を体験し、身につける。	課題 キーワードについて調べてくる。わかったことをまとめて次回、発表できるようにする。	40

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	講義3 ㊦別支援の理論	第8回㊦ 自閉症スペクトラムのアスペルガー障害やADHDの事例を読みながら、発達障害の理論的な背景やその研究の歴史について説明し、特別支援についての基本的な理解をする。	課題 キーワードについて調べてくる。わかったことをまとめて次回、発表できるようにする。	40
9	事例2 ㊦別支援の具体的対応と使用する技法	第9回㊦ 自閉症スペクトラムのアスペルガー障害やADHDの事例を読みながら、発達障害についての対応やその失敗例や成功例についてグループで討議する。㊦ 認知行動療法について説明し、具体的な技法を習得する。㊦ ㊦	課題 キーワードについて調べてくる。わかったことをまとめて次回、発表できるようにする。	40
10	演習2 ㊦ループトレーニング2	第10回㊦ 「冬山で遭難」でグループで話し合いをさせ、話しあいの成果を点数化することにより、議論のグループプロセスを体験させて、コミュニケーションのスキルを習得する。	課題 キーワードについて調べてくる。わかったことをまとめて次回、発表できるようにする。	40
11	事例3 ㊦護者への積極的カウンセリングとモンスターペアレントへの対応を学ぶ	第11回㊦ 事例「シゲチカ先生の危機」を読み、保護者への対応を学ぶ。特に積極的な主張トレーニングなどの積極的技法で傾聴とは違うカウンセリングの技法を習得する。㊦ モンスターペアレントへの対応をグループで考えさせて、ブレインストーミングを体験させる。	課題 キーワードについて調べてくる。わかったことをまとめて次回、発表できるようにする。	40
12	演習3 ㊦ループトレーニング3	第12回㊦ サバイバルゲーム「花火でドカーン」を行い、人間関係作りのグループプロセスを体験させる。そして、さらに結果を点数化し、主張できなかった学生にアサーショントレーニングの動機づけを行う。	課題 キーワードについて調べてくる。わかったことをまとめて次回、発表できるようにする。	40
13	講義4 ㊦決思考ブリーフセラピーの技法と理論2	第13回㊦ 解決思考ブリーフセラピーに中でも最も有効とされる5段階モデルの理論を説明し、ロールプレイで体験させて、課題とする。レポートの方法を説明する。	課題 キーワードについて調べてくる。わかったことをまとめて次回、発表できるようにする。	40
14	演習4 ㊦ラージュ	第14回㊦ 心の深層世界を見るアセスメントとして、コラージュを自分で製作する。㊦ 実際の事例とコラージュを見ることでコラージュの見方を理解する。㊦ 自分のコラージュを自己分析し、レポートする。	課題 キーワードについて調べてくる。わかったことをまとめて次回、発表できるようにする。	40
15	演習5 ㊦景構成法・人物描画法	第15回㊦ 小学生や幼稚園児の心の深層世界を考えるために風景構成法・人物描画法による絵画を制作する。㊦ 実際の事例と作品を見ることで風景構成法・人物描画法の見方を理解する。㊦ 自分の作品を自己分析し、レポートする。㊦ まとめ 最後にこの15回の授業をまとめて反省する。㊦	授業についてまとめて、ポートフォリオを提出する。	90

科目名	児童文化	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修	
担当教員	真船 均			
開講期	I			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 宮澤賢治の児童文学を通して、子どもの世界と幼児教育を理解します。最新の研究成果を踏まえて進めます。課題・レポート提出後、フィードバックの時間を設定します。 〔履修カルテの評価項目〕 ①宮澤賢治の「子どもたちへのメッセージ」をどの程度理解出来ましたか。 ②宮澤賢治の「人間とはどうあるべきか」をどの程度理解出来ましたか。 ③宮澤賢治の「教育についての考え」をどの程度理解出来ましたか。			宮
達成目標	〔授業の目的・ねらい〕 宮澤賢治の児童文学を通して、教育・保育の本質と子どもの心理的・身体的発達を理解し、子どもを支援できる方法・技術を身に付けます。単位認定の最低基準は、内容の7割（8割）を理解していることです。			宮
受講資格	幼児教育学科1年	成績評価 方法	期末試験50% 課題50% ☑	
教科書	宮澤賢治『新編 銀河鉄道の夜』新潮文庫			
参考書	授業の中で紹介します。			
学生への要望	授業へは積極的に関わり、提出物の提出を怠らないようにして下さい。			
オフィスタイム	水曜日昼休み時間（教務部非常勤控室）			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法を説明する。	配布プリントで授業内容を確認し、ノートを整理する。	30
2	『どんぐりと山猫』理解	作品の内容を理解する。	配布プリントで授業内容を確認し、ノートを整理する。	30
3	『どんぐりと山猫』分析・解説	作品の主題と教育的背景を分析する。	配布プリントで授業内容を確認し、ノートを整理する。	30
4	『よだかの星』読解	「自己犠牲」と「他者救済」の思想を解説する。	配布プリントで授業内容を確認し、ノートを整理する。	30
5	『フランドン農学校の豚』読解	作品の内容を理解する。	配布プリントで授業内容を確認し、ノートを整理する。	30
6	『フランドン農学校の豚』解説	「食物連鎖」と「利他行」の思想を理解する。	配布プリントで授業内容を確認し、ノートを整理する。	30
7	『永訣の朝・無声慟哭』読解	兄妹愛情の詩を読解し、詩人としての資質を理解する。	配布プリントで授業内容を確認し、ノートを整理する。	30
8	『ぬくもりの向こうに』鑑賞	TVドキュメンタリーを鑑賞する。	ドキュメンタリーの感想をまとめる。	30
9	『セロ弾きのゴーシュ』読解	山猫合唱隊のライブを聴きながら読解する。	配布プリントで授業内容を確認し、ノートを整理する。	30
10	『セロ弾きのゴーシュ』理解	アニメを鑑賞し、作品理解を深める。	配布プリントで授業内容を確認し、ノートを整理する。	30
11	『セロ弾きのゴーシュ』分析	小動物たちとの交流から教育・保育の本質を分析する。	配布プリントで授業内容を確認し、ノートを整理する。	30
12	『銀河鉄道の夜』読解	『銀河鉄道の夜』を読解する。	配布プリントで授業内容を確認し、ノートを整理する。	30
13	『銀河鉄道の夜』理解	作品の意味を理解する。	配布プリントで授業内容を確認し、ノートを整理する。	30
14	『銀河鉄道の夜』分析・解説	ジョバンニとカンパネルラの関係を考える。	配布プリントで授業内容を確認し、ノートを整理する。	30
15	学習の振り返り	学習全体の不足を補い、まとめを行う。	授業内容のポイントをまとめる。	30

<b>科目名</b>	保育内容演習 健康		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年1単位 必修
<b>担当教員</b>	一柳 智子			
<b>開講期</b>	Ⅱ			
<b>授業概要</b>	乳幼児の健全な発育発達の姿を理解し、幼児が健康で安全な生活を送る為に必要な知識を獲得し、かつ実践的な指導法などを積極的に討論することを目的とする。☑ また、日々の生活に必要な「人と関わる力」や「関わり方」などの知識を獲得し、それをもとに考え、集団で討論しコミュニケーションの力を養うことも目的とする。☑ 最終授業で、全体に対するフィードバックを行う。☑ 位置づけ・水準CE2121☑			
<b>達成目標</b>	①乳幼児の健全な発育発達の姿を理解し、幼児が健康で安全な生活を送る為に必要な知識を獲得し、実践的な指導法などを積極的に討論することができたか。☑ ②日々の生活に必要な「人と関わる力」や「関わり方」などの知識を獲得し、考え、集団で討論することができたか。☑ 単位認定の最低基準は、達成目標に対して7割を理解し習得していること。☑ ディプロマ・ポリシーとの関係:総合的計画力、保育の方法と技術力			
<b>受講資格</b>	幼児教育学科1年A	<b>成績評価 方法</b>	試験・レポート提出物及び授業態度を総合的に評価する。☑ 試験30点 レポート・提出物30点、平常点40点	
<b>教科書</b>	建帛社：シードブック 保育内容健康☑ 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領			
<b>参考書</b>	プリントは随時配布する。			
<b>学生への要望</b>	現場で役立たせるために、子どもの視点から健康を考えることができるよう、積極的に講義を聞き、討論し、考える訓練をしてほしい。			
<b>オフィスタイトム</b>	木曜日 III限目 (12:50~14:20) ☑ IV限目 (14:30~16:00) ☑ 825研究室 (一柳)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	1 本授業の流れの説明と受講するうえでの注意点の説明。ノートの作成に関する説明。☑ 2 本授業の幼児教育課程における位置づけについて説明。☑ ☑	自己の生活を考える	20
2	健康の定義	1 「健康」の定義。 2 基本的人権としての健康。 教育・保育の中の健康。 3 討論：日々の生活の中で発生している様々な生命や健康に関わる問題について身近な話題を話し合う。	自分自身の健康について考える。	20
3	保育者として乳幼児の健康を考える	1 人権としての乳幼児の健康についての復習。 2 保障される健康から主体的に生み出す健康へと導く保育者としてのあり方を考える。 3 健康な幼児についてのあるべき姿に関して、自己の考えをまとめる。	保育者としての自分として健康について考える。	20
4	領域「健康」-1	幼稚園教育要領における領域「健康」： ねらいの3項目 そのねらいを達成する為の指導事項としての内容10項目	幼稚園での子どもたちの健康を考える。	20
5	領域「健康」-2	1 保育所保育指針における領域「健康」 2 幼稚園教育要領における保育内容の整合性。 保育所保育指針における保育のねらい及び内容は「養護にかかわるねらい及び内容」と「教育に関わるねらい及び内容」の両面から示され、教育に関わる5領域全てが教育要領と同じく表記されている。教育要領との違いは「養護に関わるねらいと内容」に「生命の保持」「情緒の安定」の2点である。	保育所での子どもたちの健康を考える。	20
6	身体の発達と園生活-1	1.身体の発達 (1) 身体の発達の捉え方 (2) 乳幼児期の身体発達の特徴 (3) 体重と慎重 (4) プロポーションの変化	自分の身体の発達を意識してみよう。	20

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	身体の発達と園生活-2	1.運動の発達 (1) 運動発達の順序性と方向性 (2) 運動能力の捉え方と基礎的運動 (3) 基礎的運動の発達	子どもたちの運動発達を考えてみよう。	20
8	心の発達と園生活	乳幼児期は、豊かな心の発達の基礎を作り上げる時期。保育現場では、子どもの心の発達には何が必要であるかを考える。 1.情緒 2.社会性 3.知的能力 4.パーソナリティ	子どもたちの心身の発達を考えよう。	20
9	基本的生活習慣の育成と保育者の援助	1 基本的生活習慣とは何か。 2 子どもにとって基本的生活習慣の意味 3 基本的生活習慣の内容。 4 生活習慣の指導・援助とその留意点についてグループ討論。	子どもたちの心身の発達を考えよう。	20
10	運動遊びと保育者の援助-1	1 運動遊びの意義。 2 いろいろな運動遊びの種類とその遊びの特質及び指導法。 (イ：固定遊具    ロ：鬼ごっこ    ハ：ボールを使った遊び    ニ：走る・とぶを中心とした遊び    ホ：室内での遊び等) 3 運動遊びの指導の一般的留意事項。 以上の事柄について、自己の体験や身近な幼児に関して、討論し、運動遊びの意義を考える。	何らかの運動を意識的に行う。	20
11	運動遊びと保育者の援助-2	ムーブメント教育療法による子どもの遊びを学ぶ 遊びの場づくりを支えるムーブメントの考え方 1.「からだ・あたま・こころ」の全人的アプローチ 2.集団の力 3.環境の力	何らかの運動を意識的に行う。	20
12	運動遊びと保育者の援助-3	実際にムーブメント遊具を使用して、遊びの可能性を探求しよう。 1. ロープ 2. スカーフ 3. 形板	何らかの運動を意識的に行う。	20
13	保健への配慮と指導および安全管理と指導	1 健康状態の把握とその方法（保健調査・日々の健康観察など） 2 定期健康診断の実施と事後指導及び実施上の留意点 3 安全管理の意義と目的 4 安全対策と安全能力の育成 5 災害に対する安全指導と援助のあり方 6 安全管理とその点検方法	何らかの運動を意識的に行う。	20
14	園外保育と健康	1 園外保育の意義 2 園外保育の効果 3 園外保育実施のあり方	園外環境を観察する。	20
15	まとめ	人間形成の最も基本的な段階である幼児教育と保育の現場において、子どもたちが自分の「健康」を自覚し留意できるようになるために、保育者はいかに援助できるかを、再び捉えなおす。	自己の生活を振り返る	20

科目名	保育内容演習 人間関係	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員	富士盛 公年,一柳 智子		
開講期	III		
授業概要	【授業の目的・ねらい】☑ ①幼稚園教諭及び保育士の資格取得に必要な知識の習得☑ ②幼稚園教諭及び保育士として必要な人間関係に関わる力の養成☑ ③幼稚園教諭及び保育士として「人間関係」に関わる現代的課題の検討☑ ☑ 1回～8回 富士盛☑ 1、9回～15回 一柳		
達成目標	☑ ① 領域「人間関係」のねらいと内容について理解できたか。☑ ② 人との関わり方について理解できたか。☑ ③ 「人間関係」に関する現代的課題を理解することができたか。☑		
受講資格	幼児教育学科2年A	成績評価 方法	試験・レポート提出物及び授業態度を総合的に評価する。☑ 試験40点 レポート30点、ポートフォリオ30点
教科書	プリントを配布☑ ☑ 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館☑ 厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館 ☑ 『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』フレーベル館		
参考書	授業時に紹介		
学生への要望	積極的な参加を望みます。事前にはあらかじめ配布済みのプリントを読み、関連の事例などについてまとめておくこと。事後にはコメントを提出してよく復習すること。		
オフィスタイム	月曜日12:50～14:20 825研究室 (一柳) ☑ 木曜日12:50～14:20 825研究室 (一柳) ☑ ☑ 火曜日16時から17時 水曜日16時から17時 富士盛研究室 (833)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	・本授業の流れと意義☑ ・なぜ「人間関係」を学ばなければならないのか、なぜ人とかわることが大切なのか☑ ・五領域横断的な内容☑	あらかじめ、キーワードについて調べておき、それについて授業後にまとめて次回に発表する用意をしておく	40
2	子どもの発達と環境-1	・体験という視点から見た「発達と環境」☑ ・社会性 基本的な生活習慣、個性、愛着	あらかじめ、キーワードについて調べておき、それについて授業後にまとめて次回に発表する用意をしておく	40
3	子どもの発達と環境-2	・関わりという視点から見た「発達と環境」☑ ・援助という視点から見た「発達と環境」	あらかじめ、キーワードについて調べておき、それについて授業後にまとめて次回に発表する用意をしておく	40
4	自己理解と自己概念-1	自己理解と自己概念☑ 自己概念の表現のための課題を行う。☑	あらかじめ、キーワードについて調べておき、それについて授業後にまとめて次回に発表する用意をしておく	40
5	自己理解と自己概念-2	自己理解と自己概念☑ 自己理解についての課題を行う。心理テストを実施して、自分について考える。	あらかじめ、キーワードについて調べておき、それについて授業後にまとめて次回に発表する用意をしておく	40
6	発達段階	・0,1,2歳児 保護者と園をつなぐ連絡ノート、アタッチメント(愛着)の形成、保育者が安全の基地、モデルとしての保育者、しつけのはじまり。☑ ・3歳児保育者が居場所・4歳児自己主張と自己抑制友達とぶつかる・5歳児園生活の充実感を支えるもの	あらかじめ、キーワードについて調べておき、それについて授業後にまとめて次回に発表する用意をしておく	40
7	現代的課題：母親と子どもの事情の報告	いくつかの報告から現代的課題を考える。NHKのビデオを見て現代の母親と子供の事情を考える。	あらかじめ、キーワードについて調べておき、それについて授業後にまとめて次回に発表する用意をしておく	40
8	前半のまとめ	まとめと課題提出。小テスト。	授業についてまとめる	90
9	後半のオリエンテーション	社会・文化に生きる子ども☑ ワーク「私は・・・」	ワークの感想をレポートする	30



-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	領域「人間関係」	幼稚園教育要領および保育所保育指針における五領域のうちの「人間関係」の確認☒ 1. 幼稚園教育要領の基本と領域☒ 2. 発達の諸側面と領域☒ 3. 領域「人間関係」について☒ 4. 領域「人間関係」の「ねらい」について☒ 5. 領域「人間関係」の「内容」について☒ 6. 領域「人間関係」の「内容の取扱い」☒ 7. 発達の過程	幼稚園教育要領および保育所保育指針の該当箇所の復習	20
11	子どもの集団生活	「群れ」から「集団」へ☒ 1. 「群れ」に始まる園生活☒ 2. 新しい「仲間とのふれあい」への手がかり☒ 3. 集団の「形成」について☒ 4. 集団の存続☒ 5. 集団の「構造」について	子どもたちの集団性について話し合った結果をレポートする	20
12	保護者との関わり	保育者の専門性を生かす☒ 保育者と保護者の良好な人間関係のために	教育実習時の保護者と自分との関わりについての気づきをレポートする	30
13	保育者同士の関わり	保育者の言動から子どもは学ぶ☒ 道徳的育ち☒	教育実習時の保育者同志の関わり方についての気づきをレポートする	30
14	かかわりの育ちを「みる」	子どもを「みる」とは☒ 見えるものと見えないものについてのグループワーク	グループワークのレポート	20
15	まとめ	全体のまとめ☒ 小テスト		90

<b>科目名</b>	保育内容演習 ことばと遊びⅠ	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年1単位 必修
<b>担当教員</b>	小林 徹		
<b>開講期</b>	Ⅱ		
<b>授業概要</b>	1. 乳幼児のことばの発達・保育に関する基本的な知識を得る。☑ 2. 言葉のもつ意味について考えを深め、ことばを育むための手立てを学ぶ。☑ 3. 保育者のことばの特性について理解し、子どもに適したことばの使い方を学ぶ。☑ 4. さまざまな児童文化財にふれ、子どもに合った実践方法を考える。☑ 5. ことばを促す「ねらい」を持った指導計画を作成する。☑ 6. ことばの発達に問題を持つ子どもへの適切な対応を知る。☑ 課題、レポート、実技については、実施後に授業内でフィードバックを行う。☑ ☑ 位置づけ・水準 CE2123☑		
<b>達成目標</b>	1. 乳幼児のことばの発達やそれを育むための手立てをどの程度理解できたか。☑ 2. 児童文化財の実践方法とその指導計画の作成についてどの程度理解できたか。☑ 3. 保育者としてふさわしいことばの使い方をどの程度理解し、実践できたか。☑ 単位認定の最低基準は、内容の7割が理解できていること。☑ ディプロマ・ポリシーとの関係：保育の内容理解と総合的計画力、子どもの発達の理解と支援の力、保育の方法と技術力、表現力とコミュニケーション能力☑		
<b>受講資格</b>	幼児教育学科の学生を中心とする	<b>成績評価 方法</b>	平常点50点（振り返りシート、小テスト、絵本読み聞かせ等）期末レポート50点
<b>教科書</b>	谷田貝公昭・廣澤満之編『新版実践保育内容シリーズ④言葉』一藝社,2018☑ 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館,2018 ☑ 厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル館,2018 ☑ 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館,2018☑		
<b>参考書</b>	授業内で指示		
<b>学生への要望</b>	乳幼児期のことばの発達とそれを育む多様な遊び、さらには保育者として必要な正しい日本語を学んでほしい。☑		
<b>オフィスタイム</b>	毎週火曜・木曜16:10~17:05、822研究室。それ以外は個別相談（cobalt@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	領域「言葉」のねらい	幼稚園教育要領、保育所保育指針における領域「言葉」の内容を確認し、人間にとって、ことばの果たしている役割を各人の体験をふまえて考える。☑ 社会人として必要な敬語を学習する。（毎回）☑ 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）☑	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
2	子どもにとっての「言葉」	言葉の3つの機能を確認し、子どもにとって「言葉」がどのような役割を果たすものかを考察する。☑ 社会人として必要な敬語を学習する。（毎回）☑ 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）☑	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
3	領域「言葉」と小学校「国語」との関連	幼稚園教育要領、保育所保育指針における領域「言葉」の内容と小学校学習指導要領の教科「国語」を比較検討し、その共通点と相違点を確認した上で、園と小学校の望ましい連携の在り方について考察する。☑ 社会+E17:118人として必要な敬語を学習する。（毎回）☑ 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）☑	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
4	前言語期のコミュニケーション	言葉を発するまでの発達的变化を概観し、その発達を支えるコミュニケーションの在り方や発達のメカニズムについて考察する。☑ 社会人として必要な敬語を学習する。（毎回）☑ 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）☑	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	話し言葉の発達	話し言葉の発達の流れを概観し、そこに保育者とのコミュニケーションがどのように関わるかを考察する。☒ 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回)☒ 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回)☒ ☒	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
6	書き言葉の発達児童文化財①	子どもが文字を獲得する流れを確認し、保育者がどのように援助すべきかを考察する。☒ 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回)☒ 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回)☒	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
7	言葉を豊かにする保育環境	保育実践の中で言葉を育むために保育者が果たす役割や保育室等の保育環境について考察する。☒ 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回)☒ 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回)☒ ☒	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
8	養育者との関わりから育つ言葉	言葉を育てるために保護者や養育者が果たす役割や言葉かけの実際について考察する。☒ 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回)☒ 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回)☒ ☒	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
9	子どもどうしの関わりから育つ言葉	日常生活の中で子どもどうしの関わりがどのように言葉を育むかを事例を通して学び、そこに保育者がどう関わるかを考察する。☒ 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回)☒ 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回)☒	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
10	子どもにとっての児童文化とは	児童文化と言葉の関係を概観し、言葉を育む児童文化財について考察する。☒ 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回)☒ 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回)☒	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
11	さまざまな児童文化財	紙芝居、ペープサート、パネルシアター、劇遊び等の理論と実践について学習する。☒ 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回)☒ 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回)☒	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
12	言葉を豊かにする言葉遊び	日本に伝わるさまざまな言葉遊びについて概観し、そのことと言語・文字の獲得との関連について考察する。☒ 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回)☒ 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回)☒	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
13	言葉に関連する障がい	言葉のつまずき(障がい)の種類を概観し、その早期発見や対応について考察する。☒ 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回)☒ 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回)☒	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
14	母語が日本語ではない子どもの言葉	我が国に多く存在する多文化子育ての子どもやバイリンガルの子ども等についての事例を学習し、その言語習得の援助と今後の課題について考える。☒ 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回)☒ 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回)☒	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
15	まとめ・現代における言葉の諸問題	<p>こどもと言語環境、マスメディアの影響、早期教育、外国語教育等について取り上げた上で、これまでの学習内容を振り返り、保育者としてこどものことばをどう育むかを考える。☑</p> <p>社会人として必要な敬語を学習する。(毎回) ☑</p> <p>絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回) ☑</p>	<p>【事前】当日の内容をテキストで確認する。</p> <p>【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。</p>	30

<b>科目名</b>	保育内容演習 ことばと遊びⅡ	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
<b>担当教員</b>	小林 徹		
<b>開講期</b>	Ⅲ		
<b>授業概要</b>	1. 乳幼児のことばの発達・保育に関する基本的な知識を得る。☑ 2. 言葉のもつ意味について考えを深め、ことばを育むための手立てを学ぶ。☑ 3. 保育者のことばの特性について理解し、子どもに適したことばの使い方を学ぶ。☑ 4. さまざまな児童文化財にふれ、子どもに合った実践方法を考える。☑ 5. ことばを促す「ねらい」を持った指導計画を作成する。☑ 6. ことばの発達に問題を持つ子どもへの適切な対応を知る。☑ 課題、レポート、実技については、実施後に授業内でフィードバックを行う。☑ ☑ 位置づけ・水準 CE2224		
<b>達成目標</b>	1. 乳幼児のことばの発達やそれを育むための手立てをどの程度理解できたか。☑ 2. 児童文化財の実践方法とその指導計画の作成についてどの程度理解できたか。☑ 3. 保育者としてふさわしいことばの使い方をどの程度理解し、実践できたか。☑ 単位認定の最低基準は、内容の7割が理解できていること。☑ ディプロマ・ポリシーとの関係：保育の内容理解と総合的計画力、子どもの発達の理解と支援の力、保育の方法と技術力、表現力とコミュニケーション能力		
<b>受講資格</b>	幼児教育学科の学生を中心とする	<b>成績評価 方法</b>	平常点50点（振り返りシート、小テスト、絵本読み聞かせ等）期末レポート50点
<b>教科書</b>	文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館,2018 ☑ 厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル館,2018 ☑ 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館,2018		
<b>参考書</b>	授業内で指示		
<b>学生への要望</b>	乳幼児期のことばの発達とそれを育む多様な遊び、さらには保育者として必要な正しい日本語を学んでほしい。☑		
<b>オフィスタイト</b>	毎週火曜16:10-17:05、822研究室。それ以外は個別相談（cobalt@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	この授業のねらい	この授業ではさまざまな言語表現教材を紹介し、実習を経験した学生とともに、子どもたちの言語活動を豊かにする教材や、それを活かす指導計画づくりについて考えていく。☑ 社会人として必要な言葉を学習する。(毎回) ☑ 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回)	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
2	自己紹介とは	学生の自己紹介の経験を持ち寄り、子どもたちに効果的で他の学習にもつながる自己紹介を考える。☑ 社会人として必要な言葉を学習する。(毎回) ☑ 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回)	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
3	絵本とは①	絵本とは何か。絵本の読み聞かせの目的。絵本の楽しみ方等について考える。☑ 社会人として必要な言葉を学習する。(毎回) ☑ 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回)	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
4	絵本とは②	絵本の種類。絵本の選び方について考察し、実際に子どもの発達段階を考えた絵本選びに挑戦する。☑ 社会人として必要な言葉を学習する。(毎回) ☑ 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回)	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
5	絵本とは③	絵本の読み聞かせに際した留意点や環境構成、導入の方法等について考える。☑ 社会人として必要な言葉を学習する。(毎回) ☑ 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回) ☑	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	素話（ストーリーテリング）とは①	素話とは何か、素話の種類、保育現場での展開等について考察する。☒ 社会人として必要な言葉を学習する。（毎回）☒ 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
7	素話（ストーリーテリング）とは②	素話を演じるポイント、素話の作り方等について考察する。素話を作る。☒ 社会人として必要な言葉を学習する。（毎回）☒ 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）☒	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
8	紙芝居とは①	紙芝居とは何か、絵本との違い、演じるためのポイント等について考察する。☒ 社会人として必要な言葉を学習する。（毎回）☒ 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）☒	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
9	紙芝居とは②	「折り込み絵芝居」について学び、実際に作って演じる。☒ 社会人として必要な言葉を学習する。（毎回）☒ 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
10	その他の児童文化財①	ペープサート、人形劇等について考察する。☒ 社会人として必要な言葉を学習する。（毎回）☒ 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
11	その他の児童文化財②	パネルシアター、エプロンシアター等の理論と実践について学習する。☒ 社会人として必要な言葉を学習する。（毎回）☒ 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
12	指導案の作成と発表①	言語表現教材を活用した指導案を作成し、それに基づいた発表を行う。☒ 社会人として必要な言葉を学習する。（毎回）☒ 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
13	指導案の作成と発表②	言語表現教材を活用した指導案を作成し、それに基づいた発表を行う。☒ 社会人として必要な言葉を学習する。（毎回）☒ 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
14	指導案の作成と発表③	言語表現教材を活用した指導案を作成し、それに基づいた発表を行う。☒ 社会人として必要な言葉を学習する。（毎回）☒ 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
15	まとめ・領域「言葉」と小学校「国語」との関連	これまでの学習内容を振り返り、幼稚園教育要領、保育所保育指針における領域「言葉」の内容と小学校学習指導要領の教科「国語」を比較検討し、その共通点と相違点を確認した上で、園と小学校の望ましい連携の在り方について考察する。☒ 社会人として必要な言葉を学習する。（毎回）☒ 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

<b>科目名</b>	保育内容演習 表現と創造Ⅰ	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年1単位 必修
<b>担当教員</b>	三瓶 令子		
<b>開講期</b>	Ⅱ		
<b>授業概要</b>	<p>○ 幼児の感性と表現にかかわって、これを促し育むかかわり方と内容を実践的に探求する。☑</p> <p>○ 学生自身の感受性と感覚をひらき、生き生きと動き表現することの基礎を、体験と実技を通して養う。☑</p> <p>○ 総合的な表現活動の体験を通して表現力を育成する。☑</p> <p>☑</p> <p>大別して、三つの内容を行なう。☑</p> <p>1.感性と想像力と身体の発現として、他者を感じ、動き、歌い、描き、作り、演じることを総合的に体験する。☑</p> <p>2.幼児の表現にかかわりながら、ともに歌い、伴奏し、作り、描くこと、また絵本やお話を総合的に表現して遊ぶことを体験的に学ぶ。☑</p> <p>3.学内での学びを総合・応用するフィールド応用体験ワークとして、地域の施設において、子どもたちの前で表現し、また遊びを組織・指導することを体験し、ふりかえる。☑</p> <p>☑</p>		
<b>達成目標</b>	<p>1. 「教育要領」「保育指針」中の「領域表現」の『ねらい』と『内容』に沿いながら、子どもの表現を見とり、かかわることについて基本的な理解を有している。☑</p> <p>2. 「領域表現」の保育内容について、素材、楽器、遊具、および自分の身体と言葉(語り・演劇的・児童文化的表現)等による表現方法について理解し体験している。☑</p> <p>3. 自分自身が、幼児や人々の前で表現することができ、他者とのかかわり・対応の中で動き表現することができる。☑</p> <p>☑</p>		
<b>受講資格</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年生	<b>成績評価 方法</b>	練習課程と表現力 20点☑ 成果発表 30点 ☑ ノート及び作品提出 50点
<b>教科書</b>	三瓶令子・庄司康生編 ☑ 「表現者を育てる20のレッスンー保育者・初等教員養成のためにー」☑ 2009年 大学図書出版 ☑		
<b>参考書</b>	大場牧夫著☑ 「表現原論ー幼児の『あわし』と領域『表現』」☑ 1996年 萌文書林☑ 榎沢良彦編著☑ 「保育内容・表現」☑ 2009年 同文書院 ☑ ☑		
<b>学生への要望</b>	○動きやすい服装。汚れても良い服装で参加すること。☑ ○事前・事後学習について☑		
<b>オフィスタイム</b>	三瓶、毎月休み・V限目、841研究室。☑ 早川、毎月休み・V限目、826研究室。☑ 庄司、月曜日の昼休み・V限目、841研究室。☑ ☑		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業オリエンテーション	全クラス 授業オリエンテーション☑ (担当教員ー三瓶・早川・庄司) ☑ ・Ⅱ期授業の進め方について☑ ・えばか(本宮市民元気いきいき応援プラザ)フィールドワーク参加グループ分け☑ ・活動内容計画についての話し合いと準備	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容の記録、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。	40
2	えばか準備① / テキストL2 / マーブリング①	Cクラス えばか(本宮市民元気いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備☑ (担当教員ー三瓶・早川・庄司) ☑ ☑ Aクラス 他者とともに動くレッスンを体験する。「1～10～1」「一人一歩～三人三歩」☑ (担当教員ー三瓶・庄司) ☑ DBクラス マーブリング① 材料と技法の知識を身に付け、それらを生かして造形表現する。(担当教員ー早川)	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容の記録、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。	40

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
3	えぼか準備② / テキスト L10 / マーブリング②	Cクラス えぼか(本宮市民元気いきいき応援プラザ) フィールドワーク準備☒ (担当教員一三瓶・早川・庄司) ☒ ☒ Aクラス 他者とともに動くレッスンを体験する。「1～10～1」「一人一歩～三人三歩」☒ (担当教員一三瓶・庄司) ☒ DBクラス マーブリング① 材料と技法の知識を身に付け、それらを生かして造形表現する。(担当教員一三瓶・早川)	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容の記録、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。	40
4	えぼか準備③ / テキスト L9	Cクラス えぼか(本宮市民元気いきいき応援プラザ) フィールドワーク準備☒ (担当教員一三瓶・早川・庄司) ☒ Aクラス 他者とともに動くレッスンを体験する。「1～10～1」「一人一歩～三人三歩」☒ (担当教員一三瓶・庄司) ☒ DBクラス デカルコマニー① 材料と技法の知識を身に付け、それらを生かして造形表現する。 (担当教員一三瓶・早川) ☒ ☒ ☒	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容の記録、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。	40
5	テキスト L2 / マーブリング①	Cクラス Dクラス Bクラス☒ 他者とともに動くレッスンを体験する。「1～10～1」「一人一歩～三人三歩」☒ (担当教員一三瓶・庄司) ☒ Aクラス マーブリング① 材料と技法の知識を身に付け、それらを生かして造形表現する。☒ (担当教員一三瓶・庄司)	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容の記録、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。☒ ☒	40
6	テキスト L10 / マーブリング②	Cクラス Dクラス Bクラス☒ 音楽劇へのステップ～何かになって遊んでみる体験をする。「バランスで動く」「アクションで歌う」☒ (担当教員一三瓶・早川・庄司) ☒ Aクラス マーブリング② 表現技法を深め、それらを生かした描画を試みる。☒ (担当教員一三瓶・早川)	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容の記録、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。	40
7	テキスト L9 / えぼか準備①	Cクラス Dクラス Bクラス☒ 絵本の音探し～絵本を歌ったり、絵本に効果音をつける体験をする。☒ 「ぐりとぐら」「ぐるんぱのようちえん」「ヘリコプターたち」☒ ☒ (担当教員一三瓶・庄司) ☒ Aクラス えぼか(本宮市民元気いきいき応援プラザ) フィールドワーク準備 ☒ (担当教員一三瓶・早川・庄司)	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容の記録、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。	40
8	テキスト L20 / えぼか準備②	Cクラス Dクラス Bクラス☒ 絵本で子どもとあそぶ体験をする。「ママ」「ぼぼぼぼ」☒ ☒ (担当教員一三瓶・早川・庄司) ☒ Aクラス えぼか(本宮市民元気いきいき応援プラザ) フィールドワーク準備 ☒ (担当教員一三瓶・早川・庄司)	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容の記録、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。	40



-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	デカルコマニー / えぼか準備③	Cクラス Dクラス Bクラス ☑ デカルコマニー 基本となる3つの表現方法を知り、技法を身に付ける。☑ (担当教員-早川) ☑ Aクラス えぼか(本宮市民元いきいき応援プラザ) フィールドワーク準備 (担当教員-三瓶・早川・庄司)	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容の記録、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。	40
10	テキスト L 1 2 / テキスト L 2 0 / えぼか準備①	Cクラス Bクラス ☑ 歌って、動いて、つくって遊んでみる体験をする。「べったんこ べったんこ」外☑ (担当教員-三瓶・庄司) ☑ Aクラス 絵本で子どもとあそぶ体験をする。「ママ」「ぼ ぼ ぼ ぼ」☑ (担当教員-三瓶・庄司) ☑ Dクラス えぼか(本宮市民元いきいき応援プラザ) フィールドワーク準備☑ (担当教員-三瓶・早川・庄司) ☑	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容の記録、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。	40
11	マッピング① / テキスト L 1 2 / えぼか準備 / テキスト 1 6	Cクラス マッピング① 材料と技法の知識を身に付け、それらを生かして造形表現する。☑ (担当教員-早川) ☑ ☑ Aクラス 歌って、動いて、つくって、遊んでみる体験をする。「べったんこ べったんこ」(担当教員-三瓶・庄司) ☑ ☑ Dクラス えぼか(本宮市民元いきいき応援プラザ) フィールドワーク準備 (担当教員-三瓶・早川・庄司) ☑ ☑ Bテキスト 子どもとともに歌うことについて、実践を通して体験する。(担当教員-三瓶・庄司)	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容の記録、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。	40
12	マッピング② / デカルコマニー / えぼか準備③①	Cクラス マッピング② 表現技法を深め、それらを生かした描画を試みる。☑ (担当教員-早川) ☑ ☑ Aクラス デカルコマニー 基本となる3つの表現方法を知り、技法を身に付ける。☑ (担当教員-早川) ☑ ☑ Dクラス えぼか(本宮市民元いきいき応援プラザ) フィールドワーク準備 (担当教員-三瓶・早川・庄司) ☑ ☑ Bクラス えぼか(本宮市民元いきいき応援プラザ) フィールドワーク準備 (担当教員-三瓶・早川・庄司)	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容の記録、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。	40
13	テキスト L 1 2 / えぼか準備②	Cクラス Aクラス 表現研究活動☑ (担当教員-三瓶・早川・庄司) ☑ ☑ Dクラス 歌って、動いて、つくって遊んでみる体験をする。「べったんこ べったんこ」 (担当教員-三瓶・庄司) ☑ ☑ Bクラス えぼか(本宮市民元いきいき応援プラザ) フィールドワーク準備 (担当教員-三瓶・早川・庄司)	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容の記録、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。	40

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	テキスト L16 / えぼか準備③	Cクラス Aクラス Dクラス 子どもとともに歌うことについて、実践を通して体験する。 ☑ (担当教員ー三瓶・庄司) ☑ Bクラス えぼか(本宮市民元いきいき応援プラザ) フィールドワーク準備 (担当教員ー三瓶・早川・庄司)	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容の記録、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。	40
15	フィールド応用ワーク ～ 地域ボランティアえぼか参加	えぼか(本宮市民元いきいき応援プラザ)フィールドワーク☑ (担当教員ー三瓶・早川) ☑ A・B・C・Dクラス☑	フィールドワークで実施した内容を振り返り、実施した内容の記録、及び体験後の自己変化や感想等について記録する	40

<b>科目名</b>	保育内容演習 表現と創造Ⅱ	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
<b>担当教員</b>	三瓶 令子,早川 仁		
<b>開講期</b>	Ⅲ		
<b>授業概要</b>	<p>○幼児の感性と表現にかかわって、これを促し育むかわり方と内容を実践的に探求する。☑</p> <p>○学生自身の感受性と感覚をひらき、生き生きと動き表現することの基礎を、体験と実技を通して養う。☑</p> <p>○総合的な表現活動の体験を通して表現力を育成する。☑</p> <p>☑</p> <p>内容・方法☑</p> <p>①パネルシアターの制作、及び発表。☑</p> <p>②他者とともに動くワーク。(身体感覚の覚醒)☑</p> <p>③粘土活動の体験。☑</p> <p>④紙芝居・絵本等の読み聞かせ体験。☑</p> <p>⑤あそび歌やリズムで動く体験。☑</p> <p>これらの活動は、子どもの表現を視野に入れながら、グルー ☑</p> <p>プで語り・動き・声・造形等の統合による総合表現体験をす る。☑</p> <p>☑</p>		
<b>達成目標</b>	<p>1.「教育要領」「保育指針」中の「領域表現」の『ねらい』と『内容』に沿いながら、子どもの表現を見とり、かかわることについて基本的な理解を有している。☑</p> <p>2.「領域表現」の保育内容について、素材、楽器、遊具、および自分の身体と言葉(語り・演劇的・児童文化的表現)等による表現内容について理解し体験している。☑</p> <p>3.自分自身が、幼児や人々の前で表現することができ、他者との関わり・対応の中で動き表現することができる。</p>		
<b>受講資格</b>	短期大学部 幼児教育学科 2年生	<b>成績評価 方法</b>	練習課程と表現力 20点☑ 成果発表 30点 ☑ ノート及び作品提出 50点
<b>教科書</b>	<p>三瓶令子・庄司康生 編☑</p> <p>『表現者を育てる20のレッスンー保育者・初等教員養成のためにー』☑</p> <p>大学図書出版 2009年</p>		
<b>参考書</b>	<p>大場牧夫著☑</p> <p>『表現原論ー幼児の「あらし」と領域「表現」』☑</p> <p>明文書林 1996年☑</p> <p>☑</p> <p>榎沢良彦編著『保育内容・表現』 ☑</p> <p>同文書院 2006年</p>		
<b>学生への要望</b>	<p>○動きやすい服装。汚れても良い服装で参加すること。☑</p> <p>○事前・事後学習について☑</p>		
<b>オフィスタイム</b>	<p>三瓶、火・水曜日のⅢ・Ⅳ時限 841研究室☑</p> <p>早川、火・水曜日のⅢ・Ⅳ時限 826研究室。庄司、月曜日の昼休み・16時～17時 841研究室</p>		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション A・B・C・Dクラス	授業の狙い・目標・日程・内容・評価基準などについて理解する☑ (J)授業担当教員ー三瓶・早川)☑ パネルシアターの導入 DVD鑑賞等による	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容の記録、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。	30
2	保育教材の体験・探求(パネルシアターの制作体験と発表 ①)	パネルシアター制作①(3人グループで同じ内容の作品を3点=一人1作つくる)☑(授業担当教員ー早川) ・材料配布～制作手順とポイントの説明を受ける(Pペーパー描画についてなど)。☑ 色材(マジックペン・ポスカ・絵の具・クレヨン)・仕掛けに応じた道具(針・糸・ボンド・はさみ・カッター等)は各自準備～ 制作開始☑	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容の記録、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。また制作物を持参し、次回の授業に支障のないように仕上げる。	30
3	保育教材の体験・探求(パネルシアターの制作体験と発表 ②)	パネルシアター制作②(3人グループで同じ内容の作品を3点=一人1作つくる)☑(授業担当教員ー早川) ・材料配布～制作手順とポイントの説明を受ける(Pペーパー描画についてなど)。☑ 色材(マジックペン・ポスカ・絵の具・クレヨン)・仕掛けに応じた道具(針・糸・ボンド・はさみ・カッター等)は各自準備～ 制作完成	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容の記録、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。また制作物を持参し、次回の授業に支障のないように仕上げる。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
4	保育教材の体験・探求(パネルシアターの制作体験と発表 ③)	パネルシアター制作③(3人グループで同じ内容の作品を3点=一人1作つくる)☑ ・材料配布～制作手順とポイントの説明を受ける(Pペーパー描画についてなど)。 ・色材(マジックペン・ポスカ・絵の具・クレヨン)・仕掛けに応じた道具(針・糸・ボンド・はさみ・カッター等)は各自準備～制作完成	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容の記録、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。また制作物を持参し、次回の授業に支障のないように仕上げる。	30
5	保育教材の体験・探求(パネルシアターの制作体験と発表 ④)	パネルシアター発表練習①(3人グループで同じ内容の作品を3点=一人1作つくる)☑ ・実習に向けて・歌・語り・動作・手遊びの練習 ☑	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容の記録、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。また発表に向けて、繰り返し練習をする。	40
6	保育教材の体験・探求(パネルシアターの制作体験と発表 ⑤)	パネルシアター発表練習②(3人グループで同じ内容の作品を3点=一人1作つくる)☑ ・実習に向けて・歌・語り・動作・手遊びの練習 ☑	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容の記録、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。また発表内容を振り返り、感想を記録する。	40
7	保育教材の体験・探求(造形表現)	・幼児～少年期にかけての描画を通じた成長過程を理解する。☑ (j授業担当教員-早川)☑ ・描画表現指導の在り方を考える。☑	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容の記録、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。	30
8	保育教材の体験・探求(音楽表現)	教育実習IVへ向けての音楽教材研究と指導案作成のアイデア☑ (j授業担当教員-三瓶)☑ ・ペープサートによる歌あそび体験等 ☑	実習に向けて、繰り返し教材研究をし、指導案作成のアイデアを考える。	30
9	保育の中の音楽的活動について ①A・Cクラス / 保育の中の造形的活動について①D・Bクラス①	A・Cクラス☑ 教育実習IVにおける音楽表現活動の振り返り。レポート提出とディスカッション☑ D・Bクラス☑ 粘土活動から保育を捉えてみる。立体造形の発達とそれに伴う環境構成・活動支援方法を試みる(j授業担当教員-早川)	レポートを作成する。	40
10	保育の中の造形的活動について ①A・Cクラス / 保育の中の音楽的活動について①D・Bクラス	A・Cクラス☑ 粘土活動から保育を捉えてみる。立体造形の発達とそれに伴う環境構成・活動支援方法を試みる☑ D・Bクラス ☑ 教育実習IVにおける音楽表現活動の振り返り。レポート提出とディスカッション☑	レポートを作成する。	40
11	保育の中の音楽的活動について ②A・Cクラス / 保育の中の造形的活動について②D・Bクラス	A・Cクラス☑ 園における日常生活の中での音楽表現と行事の中での音楽表現について⇒事例ビデオより☑ D・Bクラス ☑ 粘土活動から保育を捉えてみる。立体造形の発達とそれに伴う環境構成・活動支援方法を試みる(j授業担当教員-早川)		30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	保育の中の造形的活動について ②A・Cクラス / 保育の中の音楽的活動について②D・Bクラス	A・Cクラス ☑ 粘土活動から保育を捉えてみる。立体造形の発達とそれに伴う環境構成・活動支援方法を試みる(☑授業担当教員一早川) D・Bクラス☑ 園における日常生活の中での音楽表現と行事の中での音楽表現について⇒事例ビデオより(☑授業担当教員一三瓶) ☑ ☑		30
13	保育の中の音楽的活動について ③A・Cクラス / 保育の中の造形的活動について③D・Bクラス②	A・Cクラス ☑ 年齢に応じた音楽教材と遊び方について(☑授業担当教員一三瓶) D・Bクラス☑ 粘土活動から保育を捉えてみる。立体造形の発達とそれに伴う環境構成・活動支援方法を試みる(j授業担当教員一早川)	レポートを作成する。	30
14	保育の中の造形的活動について ③A・Cクラス / 保育の中の音楽的活動について③D・Bクラス	A・Cクラス ☑ 粘土活動から保育を捉えてみる。立体造形の発達とそれに伴う環境構成・活動支援方法を試みる(☑授業担当教員一早川) B・Dクラス☑ 年齢(発達)に応じた音楽教材の選び方と遊び方について(☑授業担当教員一三瓶)	レポートを作成する。	30
15	保育における表現を考える A・C・D・Bクラス	・レッジョ・エミアの事例等から(☑授業担当教員一三瓶) ・国内の幼稚園・保育所の事例から☑ ・保育事例のリフレクションから保育者の役割を考える。	レポートを作成する。	40

<b>科目名</b>	保育内容演習 生活と環境Ⅱ		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
<b>担当教員</b>	影山 志保			
<b>開講期</b>	Ⅲ			
<b>授業概要</b>	子どもは、環境を通して多くのことを学んでいます。保育という営みの中で、保育者が「環境」という視点を持つことが、子どもを守り、子どもの発達を援助することに繋がります。☑ この授業を通して、子どもが安全、安心に生活できる環境とは何か、子どもの主体的な学びを保障するための環境とは何かについて思考と実践を重ねていき、保育の豊かな理解と子どもの自ら育つ力を支える力を育みます。 [課題に対するフィードバック方法]レポート、課題発表に対しては、紙面あるいは口頭によるコメント等のフィードバックを行います。 [位置づけ・水準]CE2228☑ ☑ ☑			
<b>達成目標</b>	内容の8割程度を理解しておくこと。 ①保育内容「環境」の視点の重要性、その意味について理解する。☑ ②保育内容「環境」の捉え方に関して、幼稚園、保育所、幼保連携認定子ども園の特性レベルにおける実践レベルでの違いについて理解する。☑ ③身近な環境に関わることを通した学びの機会を家庭生活等の日常に派生させるために必要なことを理解する。 [ディプロマポリシーとの関係]☑ 保育の内容理解と総合的計画力、保育の方法と技術力、表現力とコミュニケーション能力☑			
<b>受講資格</b>	幼児教育学科2年	<b>成績評価 方法</b>	試験:50点☑ 提出物、発表50点☑	
<b>教科書</b>	印刷資料提供			
<b>参考書</b>	保育内容「環境」に関する書物 授業のなかで適時紹介します。☑ ☑			
<b>学生への要望</b>	保育内容「環境」について理解し、そして考え、日常に活かしてもらいたい。☑			
<b>オフィスタイト</b>	月、火曜日の5コマ目☑ 場所 家政学館3階 食品衛生学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション／保育内容「環境」について	授業内容全体の説明を行います。☑ 保育内容「環境」について講義します。	保育内容「環境」で学ぶ内容について調べてまとめる。	30
2	園内・園庭の環境と保育について1	子どもが主体的に園生活を送れるような園内・園庭の環境デザイン、自然環境と保育の重要性について講義します。	子どもにとってよりよい園内・園庭のデザインを考える。	30
3	園内・園庭の環境と保育について2	「素材を活用した遊び」の素材や遊び方についてグループで話し合い、各班5分ずつ発表する。	素材を活用した遊びについて調べ考える。	30
4	自然環境と保育について1	自然を取り入れた環境について具体的に調べ、お散歩マップを作成する。	学校周辺の自然環境を調べまとめる。	30
5	自然環境と保育について2	自然を取り入れた環境について具体的に調べ、お散歩マップを作成する。同様の場所で植物採取をし、画用紙に貼る。	学校周辺で採取した植物を調べまとめる。	30
6	自然環境と保育について3	お散歩マップを完成する。採取した植物をスキャナーで取り込み、葉書作り体験をします。	2つの成果物から感じたい自然と季節ごとの遊びについて考えてみる。	30
7	社会環境と保育について1	社会環境と保育について講義を行います。環境資源の問題について、考える機会となるような活動や環境設定について考えてみます。	自分が住んでいる地域にはどのような地域活動があるのか調べてみる。	30
8	社会環境と保育について2	ごみ問題について、実際のごみ拾いを通して考えます。	地域のごみ処理と分別について調べてみる。	30
9	文字・数・図形への興味・関心と保育内容「環境」1	文字・数・図形への興味・関心と保育内容「環境」について講義します。	保育に「文字・数・図形」がどのように取り込まれているか調べてみる。	30
10	文字・数・図形への興味・関心と保育内容「環境」2	自然の中の幾何学模様を探して、写真撮影し、パワーポイントを作り、次週発表します。	幾何学模様について調べる。	30
11	小学校教育との連携と保育内容	小学校教育とどのように連携させていくか、講義します。	小学校教育と保育の違いについて調べる。	30
12	子育て支援と保育内容「環境」	今、子育てにどのような支援が必要なのか講義します。	保護者が抱える子育てに関する不満について調べてみよう。	30
13	保育内容演習についての発表会準備	子どもたちの内面を理解して、それに対してどのような援助が行えるのか、班ごとにパワーポイントを作成します。	成果物をまとめる。	30
14	保育内容演習についての発表会	前週作ったパワーポイントを用いて各班10分程度の発表会を行います。	どのような支援が必要なのか考え、まとめてみよう。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
15	まとめ	これまでの学びを振り返ります。子どもの教育に関わることは大変責任がある。子ども育ちを伸張するもの、阻害するものについてまとめながら、子どもをどのように支援していくかについて講義します。	子どもをどのように支援していくか、改めて考えてまとめる。	30

<b>科目名</b>	保育表現技術 音楽Ⅰ	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	三瓶 令子,小澤 啓子		
<b>開講期</b>	通年		
<b>授業概要</b>	<p>○子どもの生活における音楽的活動の意味を理解する。☑</p> <p>○保育者として子どもにこころよく届く声をつくる。☑</p> <p>○多くの歌唱曲(子どもの歌・あそび歌)にふれながら教材研究を行い、表現力を養う。☑</p> <p>○保育者として必要な音楽的基礎力を養う。☑</p> <p>課題(実技試験)に対するフィードバック方法☑</p> <p>1.最終授業で全体に対するフィードバックを行います。☑</p> <p>2.試験終了後、その場で各自に試験内容についてコメントします。☑</p> <p>位置づけ・水準(ナンバリング) CE2129</p>		
<b>達成目標</b>	<p>保育者となるために☑</p> <p>①表現についての保育者の二つの役割りを、理解できたか。☑</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身が「表現者」として成長すること☑</li> <li>・「幼児の表現を育てる者」として成長すること。☑</li> </ul> <p>②表現者としての声(無理なく届く声)を、どの程度つくることができたか。☑</p> <p>③子どもの表現に関わるピアノ伴奏が、どの程度弾けるようになったか。☑</p> <p>④幼児曲の6つのジャンルを理解し、どの程度表現できるようになったか。☑</p> <p>単位認定方法の最低基準1:内容の8割を活用できること☑</p> <p>ディプロマポリシーと授業科目の関連☑</p> <p>○保育内容を理解し、保育を総合的に理解し実践できる☑</p> <p>○保育を実践するための方法や技術を身につけている☑</p> <p>○感性豊かな表現力とコミュニケーション力を身につけている</p>		
<b>受講資格</b>	幼児教育学科1年生	<b>成績評価 方法</b>	<p>○レポートの内容 30点☑</p> <p>○期末試験 70点</p>
<b>教科書</b>	津布菜 杏里・桑原 章寧 共著☑ 『保育・教育の現場で使える! 弾き歌いピアノ曲集』ドレミ楽譜出版 2014年		
<b>参考書</b>	三瓶 令子・庄司 康生=編☑ 古瀬 百合子外3名執筆☑ 『表現者を育てる20のレッスン』 大学図書出版 2009年		
<b>学生への要望</b>	<p>○授業の中で適宜資料(主に楽譜)を配布するので、各自ファイルを準備すること。☑</p> <p>○毎時間出席し、授業を通して体験的に学ぶこと。</p>		
<b>オフィスタイム</b>	火・水曜日のⅢ・Ⅳ時限 841研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション(授業について理解し、心構えをつくる)	<p>○カリキュラム内での授業の位置付けについて。(特に幼児教育における音楽の特性を中心に)</p> <p>○あそび歌で楽しむ。(積み重ねあそび歌「かっこうのごあいさつ」)⇒音楽授業への緊張、先入観を取り除き、お互いのコミュニケーションを図る。</p> <p>○テキストの配布と説明。</p>	幼児教育における音楽の特性について振り返り、テキストの流れを把握する。	30
2	保育における音楽とは	<p>○保育の場での音楽の役割りについて☑</p> <p>○歌と伴奏との関係について☑</p> <p>○歌声とからだとの関係について(ゼスチャーとアクションの違いについて)☑</p> <p>・幼児曲「とんぼのめがね」をサンプリングしてみる</p>	テキストを使用して授業内容を整理し、実践内容を復習する。	30
3	基本となる音符と拍子について・発声の基本について①	<p>○4分音符・2分音符・付点2分音符・8分音符についての説明とワーク☑</p> <p>○4分の4・4分の3・4分の2拍子についての説明とワーク☑</p> <p>○発声のためのワーク「ピッコロ ミニ」☑</p> <p>・リズム打ち・メロディー唱～発声のワーク☑</p> <p>・母音で歌う(バカラマナ・ビキリミニ・ブルムヌ・ベケレメネ・ポコロモノ)</p>	テキストを使用して授業内容を整理し、実践内容を復習する。	30



-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
4	発声の基本について②	<p>○声と呼吸との関係について 息を吸うこと吐くことについて☒</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発声のワーク「ピッコロミニ」母音で歌う☒</li> <li>・発声のドリル「楽しい発声のドリル」☒               <ol style="list-style-type: none"> <li>1(あくび)喉の奥を空けて声を出すレッスン☒</li> <li>2(ため息)喉の奥を脱力させて声を出すレッスン☒</li> <li>3(犬のおなか)腹筋を使って声を出すレッスン☒</li> </ol> </li> <li>・VTRによる同ドリルの確認☒</li> </ul>	テキストを使用して授業内容を整理し、実践内容を復習する。	30
5	発声の基本について③	<p>○声とからだとの関係について ゼスチャーとアクションの違いについて☒</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「からだが語る」ということのワーク「ピッコロミニ」「楽しい発声のドリル1・2・3」☒</li> </ul> <p>○幼児曲☒</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌詞(母国語)とメロディーとの関係について☒</li> <li>・歌詞とイメージについて☒</li> <li>・4分の2拍子の確認 スキップのリズム・16分音符についての説明</li> </ul>	テキストを使用して授業内容を整理し、実践内容を復習する。	30
6	幼児曲を歌う①	<p>○発声のワーク「ピッコロミニ」「楽しい発声のドリル1・2・3」動作を入れて歌う(毎回繰り返す)☒</p> <p>○幼児曲☒</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「たやけこやけ」「とんぼのめがね」4分の2拍子の確認☒</li> <li>・「どんぐりころころ」16分音符の確認 歌詞の注意(どんぐりころころどんぶりこ)☒</li> <li>・「かえるの合唱」輪唱(カノン)の体験 合唱(ハモること)の基礎☒</li> </ul> <p align="center">歌詞のイメージをからだで表現</p>	テキストを使用して授業内容を整理し、実践内容を復習する。	30
7	幼児曲を歌う②	<p>○発声のワーク「ピッコロミニ」「楽しい発声のドリル1・2・3」動作を入れて歌う(毎回繰り返す)☒</p> <p>○幼児曲☒</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「うみ」「こいのぼり」4分の3拍子のリズムあそび</li> </ul> <p>歌詞のイメージとからだの広がり さまざまな伴奏形について☒</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「しゃぼんだま」リピートについての説明 歌詞について(野口雨情と中山晋平について)☒</li> </ul> <p>○あそび歌「小さな畑」</p>	テキストを使用して授業内容を整理し、実践内容を復習する。	30
8	保育における歌と伴奏について① 小澤先生	<p>○歌の伴奏をすることについて☒</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ピアノを歌わせることについて☒</li> <li>・メロディーとプレスについて☒</li> <li>・メロディーと拍頭について☒</li> <li>・二段楽譜の伴奏法と三段楽譜の伴奏法について</li> </ul>	テキストを使用して授業内容を整理し、実践内容を復習する。	30
9	保育における歌と伴奏について② 小澤先生	<p>○即興伴奏の基礎 鍵盤上で伴奏の基礎を学ぶ☒</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主要三和音(カデンツ)についての説明とワーク☒</li> <li>・移調奏についての説明とワーク</li> </ul>	テキストを使用して授業内容を整理し、実践内容を復習する。	30
10	保育における歌と伴奏について③ 小澤先生	<p>○即興演奏の基礎 テキスト「即興のためのピアノ伴奏」を使用したワーク☒</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リトミック的なピアノ伴奏(動きのためのピアノ)についての説明とワーク☒</li> <li>・変奏やバリエーションについての説明と教師の模範演奏</li> </ul>	テキストを使用して授業内容を整理し、実践内容を復習する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	幼児曲を子どもと歌う方法について①	○保育士者の表現力・保育者の役割り 自身が「表現者」として成長すること「幼児の表現を育てる者」として成長すること・表現者としての声を育てる(声を無理なく届かせるワーク) ○幼児曲・生活のうた 「あさのうた」「おはようのうた」「おべんとう」「おかえりのうた」「さよならのうた」	テキストを使用して授業内容を整理し、実践内容を復習する。	30
12	幼児曲を子どもと歌う方法について②	○保育者の表現力・保育者の役割り 自身が「表現者」として成長すること「幼児の表現を育てる者」として成長すること・表現者としての声を育てる(声を無理なく届かせるワーク)○幼児曲「かめの遠足」物(ペープサート等)を作って歌う 4分の3拍子のリズムあそびをする「ふうせん」「だから雨ふり」	テキストを使用して授業内容を整理し、実践内容を復習する。	30
13	幼児曲を子どもと歌う方法について③	○保育者の表現力☑ ・保育者の役割り 自身が「表現者」として成長すること「幼児の表現を育てる者」として成長すること☑ ・表現者としての声を育てる(声を無理なく届かせるワーク)☑ ○幼児曲☑ ・「さんぽ」マーチのテンポをからだで覚える(120/1分)シェーカーで遊ぶ☑ ・「とけいのうた」園行事と歌との関係について学ぶ動いて遊ぶ☑ ・「時計の歌」リトミックについて説明 動きとリズムについて	テキストを使用して授業内容を整理し、実践内容を復習する。	30
14	幼児曲を子どもと歌う方法について④	○保育者の役割り☑ ・自身が「表現者」として成長すること☑ ・「幼児の表現を育てる者」として成長すること☑ ・表現者としての声を育てる(声を無理なく届かせるワーク)☑ ○幼児曲☑ ・「うちゅうせんのうた」生活の中のアソビ歌について他領域との接点☑ ・「アイアイ」ラテンのリズム(8ビート)についての説明アイアイ(サル)についての理解と他領域との接点☑ ・「森のくまさん」交互唱についての説明☑ ・「山の音楽家」楽器を弾く動作をしながら歌う体験☑	テキストを使用して授業内容を整理し、実践内容を復習する。	30
15	I期授業のまとめ	○保育者の表現力について☑ ・表現についての保育者としての二つの役割りについて☑ ①自身が「表現者」として成長すること ②「幼児の表現を育てる者」として成長すること☑ ・表現者としての声を育てる 声を無理なく届かせる☑ ○幼児曲を振り返って歌ってみる☑ ・イメージを大切に歌う曲☑ ・リズムであそびながら歌う曲☑ ・物を使って歌う曲☑ ・交互唱の曲☑ ・カノン・対話の歌・ラテンのリズムで歌う曲☑ ・楽器を使っうたう曲等	テキストを使用して授業内容を整理し、実践内容を復習する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
16	I期の振り返りとII期授業の説明	○からだと声の関係をもう一度振り返る。☑ ○II期授業の内容について☑ ・子どもの発達の実態を踏まえた表現方法、音楽あそびについて学習する。☑ ・子どもの歌に対するピアノ伴奏の方法について⇒コードネームについて他。☑ ・我が国西洋音楽の黎明期を理解する。☑ ・幼稚園・保育園(所)における行事における音楽について学習する。	テキストを使用して授業内容を整理し、実践内容を復習する。	30
17	歌うことにおける想像力と働きかけ①	○保育者が歌うことと、子どもが歌うことについてを把握する。☑ ○基本を見直す。☑ ○教師の想像力と働きかけが逮捕津であることを踏まえ、自分自身の感性、技術をふかめていく。☑ ○幼児曲☑ ・「にんげんっていいな」反復記号について(リピート・D.S.・Coda等)・総小節数を数える。☑ ・「ホ!ホ!ホ!」動作を付けたリズムあそびの体験・アフタービートについて・タイについて☑ ・「バスごっこ」動作を付けたリズムあそびの体験	テキストを使用して授業内容を整理し、実践内容を復習する。	30
18	歌うことにおける想像力と働きかけ②	○保育者が歌うことと、子どもが歌うことについてを把握する。☑ ○基本を見直す。☑ ○教師の想像力と働きかけが逮捕津であることを踏まえ、自分自身の感性、技術をふかめていく。☑ ○幼児曲☑ ・「おおきい木」詞のイメージをからだで感じて歌で表現するレッスン・変拍子について。☑ ・「きのこ」動作を付けたリズムあそびの体験☑ ・「十五夜さんのもちつき」「あんたがたどさ」わらべうたについて・動作を付けたリズムあそびの体験。☑ ☑	テキストを使用して授業内容を整理し、実践内容を復習する。	30
19	歌うことにおける想像力と働きかけ③	○保育者が歌うことと、子どもが歌うことについてを把握する。☑ ○基本を見直す。☑ ○教師の想像力と働きかけが逮捕津であることを踏まえ、自分自身の感性、技術をふかめていく。☑ ○幼児曲☑ ・「一年生になったら」「せんせいとおともだち」「めだかのがっこう」季節・行事と歌☑ ・「うれしいひなまつり」「たなばたさま」季節・行事と歌☑ ☑	テキストを使用して授業内容を整理し、実践内容を復習する。	30
20	保育における歌と伴奏について ①小澤先生	○テキスト「表現のためのやさしいピアノ即興演奏」、各種プリントより☑ ・保育の場における即興演奏について(動きにおけるピアノ奏法)☑ ・コードネームによる伴奏法について(歌の伴奏としてのピアノ奏法)Cコード・Fコード・Gコードについて☑ ・効果音としてのピアノ奏法☑	テキストを使用して授業内容を整理し、実践内容を復習する。	30
21	子どもの発達と音楽の役割り① 歌うことにおける想像力と働きかけ④	○年齢に応じた音楽的な関わりについて学習する。☑ ・手あそび・歌あそび・視覚的な物(ペープサート・パネルシアター・落とし絵・絵本等)☑ ○保育者が歌うことと、子どもが歌うことについてを把握する。☑ ○基本を見直す。☑ ○教師の想像力と働きかけが逮捕津であることを踏まえ、自分自身の感性、技術を深めていく。☑ ○幼児曲☑ ・「あさやけゆうやけ」「ゆうやけこやけ」☑ ☑ ☑	テキストを使用して授業内容を整理し、実践内容を復習する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
22	子どもの発達と音楽の役割② 歌うことにおける想像力と働きかけ⑤	○年齢に応じた音楽的な関わりについて学習する。☒ ・手あそび・歌あそび・視覚的な物(ペープサート・パネルシアター・落とし絵・絵本等)☒ ○保育者が歌うことと、子どもが歌うことについてを把握する。☒ ○基本を見直す。☒ ○教師の想像力と働きかけが逮捕津であることを踏まえ、自分自身の感性、技術を深めていく。☒ ○幼児曲☒ ・「おもいでアルバム」8分の6拍子について☒ ・「みんなともだち」「ありがとう・さようなら」「空より高く」季節・行事と歌☒ ☒	テキストを使用して授業内容を整理し、実践内容を復習する。	30
23	歌うことにおける想像力と働きかけ⑥	○保育者が歌うことと、子どもが歌うことについてを把握する。☒ ○基本を見直す。☒ ○教師の想像力と働きかけが逮捕津であることを踏まえ、自分自身の感性、技術を深めていく。☒ ○幼児曲☒ ・「にじ」レシタティーポについて☒ ・「あわてんぼうのサンタクロース」アウフタクト(弱起の曲)について☒ ・「うさぎ野原のクリスマス」季節・行事と歌☒ ☒	テキストを使用して授業内容を整理し、実践内容を復習する。	30
24	保育における歌と伴奏について ②小澤先生	○テキスト「表現のためのやさしいピアノ即興演奏」、各種プリントより☒ ・保育の場における即興演奏について(動きにおけるピアノ奏法)☒ ・コードネームによる伴奏法について(歌の伴奏としてのピアノ奏法)Cコード・Fコード・Gコードについて☒ ・効果音としてのピアノ奏法☒ ☒	テキストを使用して授業内容を整理し、実践内容を復習する。	30
25	保育における歌と伴奏について ③小澤先生	○テキスト「表現のためのやさしいピアノ即興演奏」、各種プリントより☒ ・保育の場における即興演奏について(動きにおけるピアノ奏法)☒ ・コードネームによる伴奏法について(歌の伴奏としてのピアノ奏法)Cコード・Fコード・Gコードについて☒ ・効果音としてのピアノ奏法☒ ☒	テキストを使用して授業内容を整理し、実践内容を復習する。	30
26	歌うことにおける想像力と働きかけ⑦ 楽器の演奏法とあそびについて①	○基本を見直す。☒ ○教師の想像力と働きかけが大切であることを踏まえ、自分自身の感性、技術を深めていく。☒ ○幼児曲☒ ・「さよならマーチ」「お化けなんてないさ」「ふしぎなポケット」☒ ○楽器演奏法の基本について カスタネット・タンブリン・鈴・ウッドブロック☒ ・「うさぎ野原のクリスマス」	テキストを使用して授業内容を整理し、実践内容を復習する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
27	歌うことにおける想像力と働きかけ⑧ 楽器の演奏法とあそびについて②	<p>○基本を見直す。☑</p> <p>○教師の想像力と働きかけが大切であることを踏まえ、自分自身の感性、技術を深めていく。☑</p> <p>○幼児曲☑</p> <p>・「ぶらんこ」「やぎさんゆうびん」「ありさんのおはなし」☑</p> <p>○楽器演奏法の基本とあそびについて ☑</p> <p>・「三角とらいアングル」「カスタネットでチャチャチャ」「タンブリンの輪」☑</p> <p>☑</p>	<p>テキストを使用して授業内容を整理し、実践内容を復習する。</p>	30
28	歌うことにおける想像力と働きかけ⑨ 楽器の演奏法とあそびについて③	<p>○基本を見直す。☑</p> <p>○教師の想像力と働きかけが大切であることを踏まえ、自分自身の感性、技術を深めていく。☑</p> <p>○幼児曲☑</p> <p>・「あめふりくまのこ」「いぬのおまわりさん」「世界中のこどもたちが」☑</p> <p>○楽器演奏法の基本とあそびについて ミュージックベルとトーンチャイム ☑</p> <p>・「小さな世界」「ドレミの歌」☑</p> <p>☑</p>	<p>テキストを使用して授業内容を整理し、実践内容を復習する。</p>	30
29	歌うことにおける想像力と働きかけ⑨ 1年間のまとめ	<p>○基本を見直す。☑</p> <p>○教師の想像力と働きかけが大切であることを踏まえ、自分自身の感性、技術を深めていく。☑</p> <p>○幼児曲☑</p> <p>・「そうだったらいいのにな」「おかあさん」「アイスクリームのうた」☑</p> <p>1年間を通して学んだ内容について概括をたどり、2年次の授業や実習へ繋げていく。☑</p> <p>振り返りレポート提出</p>	<p>テキストを使用して授業内容を整理し、実践内容を復習する。</p>	40
30	期末試験への準備	<p>試験の方法☑</p> <p>○2人でペアをつくる。1人はピアノ(または別の楽器でも良い)、もう1人は歌をうたいながら表現的なパフォーマンスをする。☑</p> <p>○全員の前で演じ、また鑑賞することにより、それぞれの方法を学び、理解する。☑</p> <p>上記内容についての準備をする。(試験は試験期間中に実施する。)☑</p> <p>☑</p> <p>☑</p>	<p>1年間学んだ内容を整理し、試験の課題についての準備をする。</p>	60

<b>科目名</b>	保育表現技術 音楽Ⅱ	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
<b>担当教員</b>	磯部 哲夫,菅原 美謝		
<b>開講期</b>	Ⅲ		
<b>授業概要</b>	<p>〔授業の目的・ねらい〕☑                  ○保育表現技術音楽Ⅰ、保育表現技術器楽Ⅰ、で学んだ音楽の表現技術について、更に深めていく。☑                  ○幼児の発達、創造性、感覚の実態を把握するとともに、実際に楽器や声を通して自身の創造性や即興性、伴奏法等を深めていく。☑                  ☑                  〔授業全体の内容の概要〕☑                  ○担当者は2名とし、隔週で展開する。個人レッスンにおいては、各々の表現をアクティブラーニング（能動的学修）や双方向型授業で進めて行く。☑                  ①主に楽器あそびを主とした内容。☑                  ②主に歌うことを主とした内容と、コードネームによる伴奏法についての内容。授業内で器楽演奏、コードによる弾き歌いで演奏にうよる評価を行い、演奏後コメントによってフィードバックする。位置づけ・水準 CE2230</p>		
<b>達成目標</b>	①子どもの育ちやあそびの中で展開される楽器あそびや音楽表現を、どの程度理解、または実践できるようになったか。☑ ②保育実践において、子どもの表現に関わるピアノ伴奏がどの程度できるようになったか。☑ ③保育者としての声（無理なく届く声をどの程度できるようになったか。単位認定の最低基準は①～③の内容の7割を理解し、実技試験において歌唱表現が確認できること。ディプロマ・ポリシーとの関係は、「保育の内容理解と総合的計画力」「保育の方法と技術力」「表現力とコミュニケーション能力」「豊かな人間性と規範意識」である。		
<b>受講資格</b>	短大幼児教育学科2年生	<b>成績評価 方法</b>	演奏発表90%、平常点（興味・関心・意欲・態度）10%にて評価
<b>教科書</b>	『ポケットいっぱいのおうた』 鈴木恵津子著 教育芸術社 2011☑ 『現場で生かせる幼児合奏』 三瓶令子ほか5名著 圭文社 2016☑ 適宜プリントを配付		
<b>参考書</b>	特になし		
<b>学生への要望</b>	・菅原の授業は動きやすい服装を着用すること。☑ ・コードの仕組みを確実に修得し、瞬時に鍵盤へ変換できるよう練習を重ねること。		
<b>オフィスタイム</b>	菅原：火曜日お昼、または放課後、83年館非常勤控室☑ 磯部：月曜日Ⅲ限、水曜日Ⅳ限 No2幼児教育学科（チャイルド・ミュージックコース）研究室☑		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	授業計画、授業内容、評価内容、授業への心構え、教科書について説明を行う。担当：磯部・菅原	本学科のシラバスを見て、授業内容、評価内容、スケジュールを把握しておくこと。	60
2	発声法1、メジャーコード	呼吸について説明し、腹式呼吸の習得について解説する。またコードの作り方の解説し、メジャーコードを作る。担当：磯部	腹式呼吸で発声練習を行うこと。様々な楽曲を用いて、コードを楽譜に書き出してみること。	60
3	楽器の扱い方	楽器の扱い方を覚え、子どもの表現活動での楽器導入の方法を学び、簡単なリズムに慣れる。担当：菅原	様々な楽器に触れ、音を出したり演奏を行い、楽器に慣れること。	60
4	発声法2、マイナーコード	腹式呼吸からの息の流し方を身に付ける。マイナーコードを鍵盤に置き換えてみ、コード進行で楽曲を演奏する。担当：磯部	腹式呼吸で発声練習を行うこと。様々な楽曲を用いて、コードを楽譜に書き出して弾いてみること。	60
5	鍵盤ハーモニカ指導法	鍵盤ハーモニカ指導法を学ぶ。☑打楽器でのリズム打ちを中心とした簡単な合奏を行う。担当：菅原☑	童謡を鍵盤ハーモニカで演奏すること。また小打楽器でのリズム打ちを中心とした簡単な合奏を行う。	60
6	発声法3、コードの転回形	発声についてディスカッションし、アクティブラーニングによるマンツーマンレッスン。コードの転回形を理解し、簡単な楽曲を演奏する。☑当：磯部	発声の個人レッスンによる発声のポイントを意識し発声練習を行う。コードの転回形を使い、簡単な楽曲の演奏を行う。	60
7	3歳児、4歳児、5歳児の音楽表現について①	各年齢に応じた指導法、木琴、鉄琴、小打楽器による合奏を行う。担当：菅原 ☑	少人数で、木琴、鉄琴、小打楽器による合奏を行う。	60
8	発声法4、弾き歌い1	発声についてディスカッションし、アクティブラーニングによるマンツーマンレッスン。メジャー、マイナーコードを使い簡単な楽曲を演奏する。担当：磯部	発声の個人レッスンによる発声のポイントを意識し発声練習を行う。メジャー、マイナーコードを使い簡単な楽曲の演奏を行う。	60
9	3歳児、4歳児、5歳児の音楽表現について②	各年齢に応じた指導法と音楽活動を実践する。鍵盤ハーモニカ、音板楽器、小打楽器による合奏を行う。担当：菅原☑	少人数で、鍵盤ハーモニカ、音板楽器、小打楽器による合奏を行う。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	発声法5、弾き歌い2	発声についてディスカッションし、アクティブラーニングによるマンツーマンレッスン。童謡でコードを使い演奏を行う。担当：磯部	発声の個人レッスンによる発声のポイントを意識し発声練習を行う。童謡でコードを使って弾き歌いの練習を行い、コード進行に慣れる。	60
11	簡単編曲と発表の環境設定①	子どもの曲を合奏用に編曲する方法を学ぶ。発表の環境設定について考える。担当：菅原	編曲法を用いて、子どもの曲を合奏用に編曲を行うこと。	60
12	発声法6、弾き歌い3	発声についてディスカッションし、アクティブラーニングによるマンツーマンレッスン。童謡、ポピュラー音楽のコードを使った弾き語り。担当：磯部	発声の個人レッスンによる発声のポイントを意識し発声練習を行う。童謡でコードを使って弾き歌いの練習を行い、コード進行に慣れる。	60
13	簡単編曲と発表の環境設定②	子どもの曲を合奏用に編曲する方法を学ぶ。発表の環境設定について考えグループでオリジナル合奏曲をつくる。担当：菅原☑	編曲法を用いて、グループでオリジナル合奏曲をつくること。	60
14	まとめ1	Ⅲ期で取り上げた楽曲から発表曲を選び、コードを使って弾き歌いの発表を行う。担当：磯部	童謡でコードを使って弾き歌いの練習を行う。	60
15	まとめ2	年齢に応じた音楽表現について整理する、オリジナル合奏曲をグループごとに発表する。担当：菅原☑	オリジナル合奏曲をグループごとに練習を行う。。	60

<b>科目名</b>	保育表現技術 器楽Ⅰ		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年1単位 選択
<b>担当教員</b>	横溝 聡子,渡辺 桂子,小澤 啓子,鈴木 明美,佐久間 智子,加藤 幸恵,菅原 美謝,本橋 美恵子,深谷 悠里絵			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	<p>【ピアノ表現技術】☑ 個人レッスンでは保育者として必要なピアノ演奏の基礎技法を習得し、豊かな音楽性を自主的に体得することを目的とする。授業では、音楽理論への理解を深めるとともに、個々のレベルに合わせた基礎的な技術（タッチ、音色、指の形、指使い等）を習得を目指す。また演奏技術のみの学習にとどまらず、音楽に対する興味、関心、即興力の伸長を優先させることを基本としたい。更にⅡ期では読譜力とピアノ演奏の基本技術を向上させると同時に、幼稚園・保育所での生活のための曲5曲（おはようのうた2種類・おべんとう・おかえりのうた2種類）にも取り組み、保育現場で求められる実践力を身につける。ML授業については、2人1組のグループを作り、ディスカッションを重ねながら1コマに1曲仕上げる。アンサンブルによる音楽の楽しさを体得し、アンサンブルを通して表現力や協調性、コミュニケーション能力を伸長させていく。☑ 各期の試験後に時間を設け、コメントによるフィードバックを行います。☑</p> <p>【ハンドベル表現技術】☑ ピアノ進度が比較的進んでいる学生は、ML授業に替えてハンドベル選択が可能である。ハンドベルではアンサンブルを通して豊かな表現力や人間性を養っていく。学内及び学外のフィールドワークで演奏発表を行う。ピアノとの並行履修となる。演奏発表後、全体に対するフィードバックを行います。位置づけ・水準 CE2131</p>			
<b>達成目標</b>	<p>個人レッスン☑ ①ピアノテキスト lesson12 まで終了している。☑ ②「生活のうた」の伴奏が弾ける。☑ ③楽譜や基本的な演奏技術を理解し、積極的に表現しようとしている。☑</p> <p>ML授業(Ⅱ期より)☑ ①2人のテンポやリズム感等を共感し、協力して演奏できる。☑ ②ハーモニーの美しさを感じることができる。☑ ③他の人の演奏を聴きながら、自分の演奏ができる。☑</p> <p>ハンドベル☑ ①11人でテンポやリズム感等を感じ、協力して演奏できる。☑ ②メロディーと伴奏のバランス、ハーモニーの美しさを感じられる。☑ ③ハンドベル奏法を理解し、周りの人との調和を取りながら自己表現できる。☑</p> <p>単位認定の最低基準：個人レッスンの①と②は必須条件である。その他の項目の内容の7割を理解し、授業や演奏発表において確認できること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：「保育の内容の理解と総合的計画力」「保育の方法と技術力」「表現力とコミュニケーション能力」「豊かな人間性と規範意識」</p>			
<b>受講資格</b>	幼児教育学科1年	<b>成績評価 方法</b>	個人レッスン：毎授業でのレッスン成果（態度、課題に対する取り組み姿勢・意欲、進捗等）40点☑ 、ML：平常点（意欲・態度等）、アンサンブル発表 40点☑ 定期試験(2回)：20点	
<b>教科書</b>	<p>【ピアノ】☑ 吉野 幸男・三瓶 令子 外10名 執筆・編集者☑ 『幼稚園教諭・小学校教諭・保育士養成課程のためのピアノ・テキスト』改訂版 ドレミ楽譜出版社 ☑ 津布楽杏里・桑原章寧 共著『保育・教育の現場で使える！ 弾き歌いピアノ曲集』 ドレミ楽譜出版社☑</p> <p>【ハンドベル】☑ ベル用楽譜を入手し、適宜学生と相談の上選択</p>			
<b>参考書</b>	進捗に合わせて、適宜楽譜を紹介する。			
<b>学生への要望</b>	<p>○毎時間休まないでレッスンを受けること。☑ ○毎日最低30分の練習をし、自己の課題解決に励むこと。☑ ○爪をカットし、髪の毛が前に下がらないようにまとめてくること。</p>			
<b>オフィスタイム</b>	月曜日・金曜日 12:00～12:50 場所：83年館4F コピー室兼非常勤控室 月曜日4限・金曜日1限 場所：芸術館3F No.1幼児教育学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・器楽演習の授業形態の説明→1コマ90分を45分ずつに分割し、個人レッスンとMLのレッスンとする。☑</li> <li>・各グレード別のグループ分けの結果を受け、個人レッスンの担当者が決定する。☑</li> <li>・使用テキストの紹介。</li> </ul>	各人の進捗に合わせて、基礎的な技法（タッチ、音色、指の形、指使い等）を習得する。	30



-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
2	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。☑</li> <li>・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートをレッスンする。☑</li> <li>・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。☑</li> <li>・1期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。</li> </ul>	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
3	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。☑</li> <li>・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートをレッスンする。☑</li> <li>・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。☑</li> <li>・1期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。</li> </ul>	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
4	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。☑</li> <li>・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートをレッスンする。☑</li> <li>・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。☑</li> <li>・1期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。</li> </ul>	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
5	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。☑</li> <li>・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートをレッスンする。☑</li> <li>・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。☑</li> <li>・1期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。</li> </ul>	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
6	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。☑</li> <li>・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートをレッスンする。☑</li> <li>・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。☑</li> <li>・1期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。</li> </ul>	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
7	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑥	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。☑</li> <li>・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートをレッスンする。☑</li> <li>・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。☑</li> <li>・1期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。</li> </ul>	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑦	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。☑</li> <li>・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートをレッスンする。☑</li> <li>・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。☑</li> <li>・1期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。</li> </ul>	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
9	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑧	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。☑</li> <li>・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートをレッスンする。☑</li> <li>・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。☑</li> <li>・1期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。</li> </ul>	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
10	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑨	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。☑</li> <li>・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートをレッスンする。☑</li> <li>・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。☑</li> <li>・1期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。</li> </ul>	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
11	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑩	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。☑</li> <li>・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートをレッスンする。☑</li> <li>・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。☑</li> <li>・1期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。</li> </ul>	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
12	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑪	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。☑</li> <li>・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートをレッスンする。☑</li> <li>・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。☑</li> <li>・1期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。</li> </ul>	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
13	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。☑</li> <li>・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートをレッスンする。☑</li> <li>・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。☑</li> <li>・1期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。</li> </ul>	試験に向けて演奏技術と表現力の向上を目指しながら練習に取り組む。マーチの暗譜を確実にする。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑬	<ul style="list-style-type: none"> <li>各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。☑</li> <li>テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1~24の内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンを。☑</li> <li>進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。☑</li> <li>1期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。</li> </ul>	試験に向けて演奏技術と表現力の向上を目指しながら練習に取り組む。マーチの暗譜を確実にする。	30
15	1期のまとめ、及び確認	15回のレッスンを通して得た奏法を振り返り、確認テストの準備をする。	試験に向けて演奏技術と表現力の向上を目指しながら練習に取り組む。マーチの暗譜を確実にする。	30
16	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験①	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人レッスン→1期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。☑</li> <li>幼稚園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた2種類・おべんとう、おかえりのうた2種類)を課題とする。☑</li> <li>MLレッスン→アンサンブル体験☑</li> </ul>	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
17	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験②	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人レッスン→1期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。☑</li> <li>幼稚園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた2種類・おべんとう、おかえりのうた2種類)を課題とする。☑</li> <li>MLレッスン→アンサンブル体験☑</li> </ul>	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
18	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験③	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人レッスン→1期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。☑</li> <li>幼稚園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた2種類・おべんとう、おかえりのうた2種類)を課題とする。☑</li> <li>MLレッスン→アンサンブル体験☑</li> </ul>	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
19	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験④	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人レッスン→1期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。☑</li> <li>幼稚園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた2種類・おべんとう、おかえりのうた2種類)を課題とする。☑</li> <li>MLレッスン→アンサンブル体験☑</li> </ul>	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
20	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人レッスン→1期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。☑</li> <li>幼稚園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた2種類・おべんとう、おかえりのうた2種類)を課題とする。☑</li> <li>MLレッスン→アンサンブル体験☑</li> </ul>	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
21	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑥	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人レッスン→1期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。☑</li> <li>幼稚園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた2種類・おべんとう、おかえりのうた2種類)を課題とする。☑</li> <li>MLレッスン→アンサンブル体験☑</li> </ul>	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
22	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑦	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人レッスン→1期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。☑</li> <li>幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう)☑</li> <li>MLレッスン→アンサンブル体験☑</li> </ul>	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
23	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑧	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人レッスン→1期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。☑</li> <li>幼稚園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた2種類・おべんとう)☑</li> <li>MLレッスン→アンサンブル体験☑</li> </ul>	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
24	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑨	・個人レッスン→Ⅰ期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。☒ 幼稚園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた2種類・おべんとう)☒ ・MLレッスン→アンサンブル体験☒	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
25	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑩	・個人レッスン→Ⅰ期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。☒ 幼稚園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた2種類・おべんとう)☒ ・MLレッスン→アンサンブル体験☒	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
26	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑪	・個人レッスン→Ⅰ期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。☒ 幼稚園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた2種類・おべんとう)☒ ・MLレッスン→アンサンブル体験☒	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
27	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑫	・個人レッスン→Ⅰ期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。☒ 幼稚園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた2種類・おべんとう)☒ ・MLレッスン→アンサンブル体験☒	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
28	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑬	・個人レッスン→Ⅰ期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。☒ 幼稚園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた2種類・おべんとう)☒ ・MLレッスン→アンサンブル体験☒	試験に向けて演奏技術と表現力の向上を目指しながら練習に取り組む。生活のうたの暗譜を確実にする。	30
29	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑭	・個人レッスン→Ⅰ期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。☒ 幼稚園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた2種類・おべんとう)☒ ・MLレッスン→アンサンブル体験☒	演奏技術と表現力の向上を目指しながら練習に取り組む。生活のうたの暗譜を確実にする。	30
30	Ⅱ期のまとめ、及び確認	15回のレッスンを通して得た奏法を振り返り、確認テストの準備をする。	演奏技術と表現力の向上を目指しながら練習に取り組む。生活のうたの暗譜を確実にする。	30

<b>科目名</b>	ピアノⅠ（主科）		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年2単位 選択
<b>担当教員</b>	横溝 聡子			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	ピアノ演奏の基礎的技術の習得と豊かな表現力を体得することを目的とする。手、腕、身体を使い方や読譜など基礎的な知識や技術の習得のために個々のレベルに合わせて授業を展開する。基礎的練習曲や多声音楽、古典派などの楽曲などを通して音楽理論や作品の様式を理解し、表現するための技術や演奏法を学ぶ。加えて幼児教育現場で歌われる「生活のうた」やマーチも学び、保育者としての実践力を養う。また、マンツーマンの授業やアンサンブル、ディスカッションを通して豊かな人間性やコミュニケーション能力を高め、自発的で豊かな演奏表現ができることを目指す。各試験後、個々に時間を設定しフィードバックを行います。☒ 位置づけ・水準 CE2132☒			
<b>達成目標</b>	目標は ①ピアノの基本的技術や音楽理論を理解し、演奏技術の訓練に励むことができる。 ②多声音楽作品や古典派などの楽曲を学び、基本的な演奏法を理解できている。 ③自己の表現力や人間性を高めることができている。☒ ④「生活のうた」の弾き歌いができる。 単位認定の最低基準：④は必須である。①から③までの内容の7割は理解し、授業や演奏発表で確認できること。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：「保育の方法と技術力」「表現とコミュニケーション能力」「豊かな人間性と規範意識」			
<b>受講資格</b>	幼児教育学科チャイルド・ミュージックコース1年	<b>成績評価 方法</b>	実技試験90%、平常点10%	
<b>教科書</b>	ツェルニー、バッハ、古典派作品など進度に応じてその都度指示。☒ 「ピアノ・テキスト」ドレミ楽譜出版社☒ 「弾き歌いピアノ曲集」ドレミ楽譜出版社			
<b>参考書</b>	進度に合わせて、適宜楽譜を紹介する。			
<b>学生への要望</b>	実技科目のため積極的な練習の積み重ねが重要です。授業での課題を次の授業までに出来るよう、よく考えながら根気強く取り組みましょう。			
<b>オフィスタイム</b>	水曜日Ⅳ限 金曜日Ⅰ限 No.1 幼児教育学科（チャイルド・ミュージックコース）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	基礎技術の学習1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派などの作品の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を、次週までにできるようにする。事前事後学習の目安時間は最低必要な時間である。各自授業に対応できるよう準備が必要である。	120
2	基礎技術の学習2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派などの作品の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
3	基礎技術の学習3	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派などの作品の学習。マーチの学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
4	基礎技術の学習4	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派などの作品の学習。マーチの学習。楽曲分析と演奏法の学習。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
5	基礎技術の学習5	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派などの作品の学習。マーチの学習。楽曲分析と演奏法の学習。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
6	基礎技術の学習6	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派などの作品の学習。マーチの学習。試験曲の選定。正確な読譜を行う。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
7	基礎技術の学習7	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派などの作品の学習。マーチの学習。試験曲の正確な読譜を行う。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
8	基礎技術の学習8	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲とマーチの学習。楽曲分析と演奏法の学習。	基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	基礎技術の学習9	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲とマーチの学習。楽曲への理解を深め演奏表現に繋げる。	基礎的な技術と表現力の向上に向け練習を行う。マーチの試験に向けて準備する。	120
10	基礎技術の学習10	マーチの試験。練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。演奏表現を深める。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
11	演奏表現の学習1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。演奏表現を深める。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
12	演奏表現の学習2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。演奏表現を深める。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
13	演奏表現の学習3	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。自発的な演奏表現を目指す。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
14	演奏表現の学習4	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。自発的な演奏表現を目指す。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
15	演奏表現の学習とまとめ	試験に向けステージを想定した発表を行い、グループでのディスカッションを通じて自己の演奏を振り返り、更なる演奏表現の向上を目指す。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を試験までにできるようにする。	120
16	演奏技術の学習1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派、ロマン派、近現代などの作品の学習。アンサンブル曲の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
17	演奏技術の学習2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派、ロマン派、近現代などの作品の学習。アンサンブル曲の学習。正確な読譜力を身につける。	アンサンブルでの演奏発表に向けて合わせも含め練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
18	演奏技術の学習3	古典派、ロマン派、近現代などの作品の学習。アンサンブル曲の学習。演奏発表に向けグループでディスカッションを行いながらアンサンブルでのより良い表現を目指す。	アンサンブルでの演奏発表に向けて合わせも含め練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
19	演奏技術の学習4	アンサンブルの演奏発表を行う。演奏後それぞれの演奏表現についてディスカッションする。	次の授業に向けた譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。	120
20	演奏技術の学習5	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派、ロマン派、近現代などの作品の学習。「生活のうた」の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
21	演奏技術の学習6	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派、ロマン派、近現代などの作品の学習。「生活のうた」の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
22	演奏技術の学習7	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派、ロマン派、近現代などの作品の学習。「生活のうた」の学習。試験曲の選定。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を、次週までにできるようにする。	120
23	演奏技術の学習8	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲と「生活のうた」の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
24	演奏技術の学習9	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。正確な読譜力を身につける。「生活のうた」の学習。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。「生活のうた」弾き歌いテストに向けて準備する。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
25	演奏表現の学習 1	「生活のうた」の弾き歌いテスト。Ⅱ期試験曲の学習。楽曲分析と演奏法の学習。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
26	演奏表現の学習 2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。楽曲分析と演奏法の学習。「生活の歌」の学習。	楽曲への理解を深め、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
27	演奏表現の学習 3	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。楽曲への理解を深め演奏表現に繋げる。「生活の歌」の学習。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
28	演奏表現の学習 4	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。自発的な演奏表現を目指す。「生活の歌」の学習。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
29	演奏表現の学習 5	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。自発的な演奏表現を目指す。「生活の歌」の学習。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の更なる向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
30	演奏表現の学習 6 とまとめ	試験に向けステージを想定した発表を行い、グループでのディスカッションを通じて自己の演奏を振り返り、更なる演奏表現の向上を目指す。	試験に向け確実性のある演奏技術と表現力の更なる向上を目指し練習を行う。授業での課題を試験までにできるようにする。	120

科目名	ピアノⅠ（副科）		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年1単位 選択
担当教員	横溝 聡子			
開講期	通年			
授業概要	ピアノ演奏の基礎的技術の習得と豊かな表現力を体得することを目的とする。手、腕、身体の使い方や読譜など基礎的な知識や技術の習得のために個々のレベルに合わせて授業を展開する。基礎的練習曲や様々な時代の楽曲などを通して音楽理論や作品の様式を理解し、表現するための技術や演奏法を学ぶ。加えて幼児教育現場で歌われる「生活のうた」やマーチも学び、保育者としての実践力を養う。また、マンツーマンの授業やアンサンブル、ディスカッションを通して豊かな人間性やコミュニケーション能力を高め、自発的で豊かな演奏表現ができることを目指す。各試験後、個々に時間を設定しフィードバックを行います。☒ 位置づけ・水準 CE2133☒			
達成目標	目標は ①ピアノの基本的技術や音楽理論を理解し、演奏技術の訓練に励むことができる。☒ ②「生活のうた」の弾き歌いができる。☒ ③ピアノ初心者については、「ピアノ・テキスト」Lesson16まで終わらせている。 ④自己の表現力や人間性を高めることができる。☒ 単位認定の最低基準：②③は必須である。①と④は内容の7割を理解し、授業や試験において確認できること。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：「保育の方法と技術力」「表現とコミュニケーション能力」「豊かな人間性と規範意識」☒			
受講資格	幼児教育学科チャイルド・ミュージックコース1年	成績評価 方法	実技試験90%、平常点10%	
教科書	「ピアノ・テキスト」ドレミ楽譜出版社☒ 「弾き歌いピアノ曲集」ドレミ楽譜出版社☒ 進度に応じてその都度指示。			
参考書	進度に合わせて、適宜楽譜を紹介する。			
学生への要望	実技科目のため積極的な練習の積み重ねが重要です。授業での課題を次の授業までに出来るよう、よく考えながら根気強く取り組みましょう。			
オフィスタイム	月曜日Ⅱ限、金曜日Ⅲ限 No.1 幼児教育学科（チャイルド・ミュージックコース）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 基礎技術の学習1	入学前課題の確認。シラバスを用いたオリエンテーション。テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を、次週までにできるようにする。事前事後学習の目安時間は最低必要な時間である。各自授業に対応できるよう準備が必要である。	60
2	基礎技術の学習2	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
3	基礎技術の学習3	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
4	基礎技術の学習4	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。マーチの学習。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
5	基礎技術の学習5	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。マーチの学習。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
6	基礎技術の学習6	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。マーチの学習。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
7	基礎技術の学習7	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。マーチの学習。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
8	基礎技術の学習8	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。マーチの学習。試験曲の選定。	基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
9	基礎技術の学習9	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。マーチの学習。試験曲の譜読みを進める。	基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。マーチの試験に向けての準備。	60
10	基礎技術の学習10	マーチの試験。テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。試験曲の楽曲分析と演奏法の学習。	試験に向け技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60



-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	演奏表現の学習 1	試験曲の学習。演奏に必要な技術を確実に身につけ表現に結びつける。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
12	演奏表現の学習 2	試験曲の学習。演奏に必要な技術を確実に身につけ表現に結びつける。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
13	演奏表現の学習 3	試験曲の学習。楽曲を理解し演奏に必要な技術を確実に身につけ表現に結びつける。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
14	演奏表現の学習 4	試験曲の学習。楽曲を理解し演奏に必要な技術を確実に身につけ自発的な表現に結びつける。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
15	演奏表現の学習とまとめ	試験に向けステージを想定した発表を行い、グループでのディスカッションを通じて自己の演奏を振り返り、更なる演奏表現の向上を目指す。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を試験までにできるようにする。	60
16	アンサンブルの学習 1	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。アンサンブル曲に取り組む。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
17	アンサンブルの学習 2	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。アンサンブルにより人と呼吸を合わせることに慣れる。	アンサンブルでの演奏発表に向けて合わせも含め練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
18	アンサンブルの学習 3	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。アンサンブルによる音楽の楽しさを体感する。	アンサンブルでの演奏発表に向けて合わせも含め練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
19	アンサンブルの学習 4	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。グループ毎にディスカッションしながら表現力を高め、音楽の楽しさを体感する。	アンサンブルでの演奏発表に向けて合わせも含め練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
20	アンサンブルの学習とまとめ	アンサンブル曲の演奏発表を行う。演奏についてディスカッションを行う。	アンサンブルでの演奏発表に向けて合わせも含め仕上げの練習を行う。授業後は次の課題の譜読みをする。	60
21	演奏技術の学習 1	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。「生活のうた」の学習。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
22	演奏技術の学習 2	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。「生活のうた」の学習。小テストに向け仕上げをする。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を、次週までにできるようにする。	60
23	演奏技術の学習 3	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。「生活のうた」の学習。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
24	演奏技術の学習 4	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。「生活のうた」の学習。試験曲の選定。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。「生活のうた」の弾き歌いテストに向けての準備。	60
25	演奏表現の学習 1	「生活のうた」の弾き歌いテスト。テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。試験曲を正確に譜読みする。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
26	演奏表現の学習 2	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。試験曲を正確に譜読みする。	楽曲への理解を深め、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
27	演奏表現の学習 3	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。試験曲への理解を深め、表現について考える。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
28	演奏表現の学習 4	試験曲の確実な技術の習得と自発的な演奏表現を目指す。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
29	演奏表現の学習 5	試験曲の確実な技術の習得と自発的な演奏表現を目指す。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の更なる向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
30	演奏表現の学習とまとめ	試験に向けステージを想定した発表を行い、グループでのディスカッションを通じて自己の演奏を振り返り、更なる演奏表現の向上を目指す。	試験に向け確実性のある演奏技術と表現力の更なる向上を目指し練習を行う。授業での課題を試験までにできるようにする。	60

<b>科目名</b>	ピアノⅠ（副科）	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年1単位 選択
<b>担当教員</b>	深谷 悠里絵		
<b>開講期</b>	通年		
<b>授業概要</b>	〔授業の目的・狙い〕 <input checked="" type="checkbox"/> ピアノ演奏の基礎的技術の習得と豊かな表現力を体得することを目的とする。加えて幼児教育現場で歌われる「生活のうた」の伴奏やマーチも学ぶ。 <input checked="" type="checkbox"/> 〔授業全体の内容の概略〕手、腕、身体の使い方や読譜など基礎的な知識や技術の習得のために個々のレベルに合わせて授業を展開する。基礎的練習曲や様々な時代の楽曲、幼児曲などを通して音楽理論や作品の様式を理解し、表現するための技術や演奏法を学ぶ。 <input checked="" type="checkbox"/> 位置づけ・水準 CE2133 <input checked="" type="checkbox"/>		
<b>達成目標</b>	授業修了時の達成目標は、ピアノの基礎的技術をしっかりとし身につけるとともに、楽曲を通じて音楽理論や時代様式を理解し、自己の表現ができることを目標とする。また、マンツーマンの授業やアンサンブルを通して豊かな人間性やコミュニケーション能力を養う。 <input checked="" type="checkbox"/> ①様々な楽曲を通して基礎的な読譜力や演奏法を身につけることができたか。 <input checked="" type="checkbox"/> ②「生活のうた」の弾き歌いができるようになったか。 <input checked="" type="checkbox"/> ③自己の表現力や人間性を高めることができたか。 <input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 単位認定の最低基準：楽曲に対する基本的な演奏表現の7割を表現できること。 <input checked="" type="checkbox"/> ディプロマ・ポリシーとの関係：保育の方法と技術力、表現とコミュニケーション能力、豊かな人間性と規範意識 <input checked="" type="checkbox"/>		
<b>受講資格</b>	幼児教育学科チャイルド・ミュージックコース1年	<b>成績評価 方法</b>	実技試験90%、平常点10%
<b>教科書</b>	「ピアノ・テキスト」ドレミ出版社2011年 <input checked="" type="checkbox"/> 「弾き歌いピアノ曲集」ドレミ出版2014年 <input checked="" type="checkbox"/> 進度に応じてその都度指示。		
<b>参考書</b>	進度に合わせて、適宜楽譜を紹介する。		
<b>学生への要望</b>	実技科目のため積極的な練習の積み重ねが重要です。授業での課題を次の授業までに出来るよう、よく考えながら根気強く取り組みましょう。		
<b>オフィスタイム</b>	月曜Ⅱ限、金曜Ⅲ限 No.1 幼児教育学研究室(チャイルドミュージックコース)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	基礎技術の学習1	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を、次週までにできるようにする。事前事後学習の目安時間は最低必要な時間である。各自授業に対応できるよう準備が必要である。	60
2	基礎技術の学習2	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
3	基礎技術の学習3	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
4	基礎技術の学習4	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。マーチの学習。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
5	基礎技術の学習5	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。マーチの学習。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
6	基礎技術の学習6	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。マーチの学習。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
7	基礎技術の学習7	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。マーチの学習。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
8	基礎技術の学習8	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。マーチの学習。試験曲の選定。	基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
9	基礎技術の学習9	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。マーチの学習。試験曲の譜読みを進める。	基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。マーチの試験に向けての準備。	60
10	基礎技術の学習10	マーチの試験。テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。試験曲の楽曲分析と演奏法の学習。	試験に向け技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	演奏表現の学習 1	試験曲の学習。演奏に必要な技術を確実に身につけ表現に結びつける。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
12	演奏表現の学習 2	試験曲の学習。演奏に必要な技術を確実に身につけ表現に結びつける。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
13	演奏表現の学習 3	試験曲の学習。楽曲を理解し演奏に必要な技術を確実に身につけ表現に結びつける。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
14	演奏表現の学習 4	試験曲の学習。楽曲を理解し演奏に必要な技術を確実に身につけ自発的な表現に結びつける。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
15	演奏表現の学習とまとめ	試験に向けステージを想定した発表を行い、グループでのディスカッションを通じて自己の演奏を振り返り、更なる演奏表現の向上を目指す。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を試験までにできるようにする。	60
16	アンサンブルの学習 1	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。アンサンブル曲に取り組む。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
17	アンサンブルの学習 2	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。アンサンブルにより人と呼吸を合わせることに慣れる。	アンサンブルでの演奏発表に向けて合わせも含め練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
18	アンサンブルの学習 3	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。アンサンブルによる音楽の楽しさを体感する。	アンサンブルでの演奏発表に向けて合わせも含め練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
19	アンサンブルの学習 4	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。グループ毎にディスカッションしながら表現力を高め、音楽の楽しさを体感する。	アンサンブルでの演奏発表に向けて合わせも含め練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
20	アンサンブルの学習とまとめ	アンサンブル曲の演奏発表を行う。演奏についてディスカッションを行う。	アンサンブルでの演奏発表に向けて合わせも含め仕上げの練習を行う。授業後は次の課題の譜読みをする。	60
21	演奏技術の学習 1	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。「生活のうた」の学習。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
22	演奏技術の学習 2	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。「生活のうた」の学習。小テストに向け仕上げをする。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を、次週までにできるようにする。	60
23	演奏技術の学習 3	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。「生活のうた」の学習。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
24	演奏技術の学習 4	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。「生活のうた」の学習。試験曲の選定。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。「生活のうた」の弾き歌いテストに向けての準備。	60
25	演奏表現の学習 1	「生活のうた」の弾き歌いテスト。テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。試験曲を正確に譜読みする。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
26	演奏表現の学習 2	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。試験曲を正確に譜読みする。	楽曲への理解を深め、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
27	演奏表現の学習 3	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。試験曲への理解を深め、表現について考える。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
28	演奏表現の学習 4	試験曲の確実な技術の習得と自発的な演奏表現を目指す。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
29	演奏表現の学習 5	試験曲の確実な技術の習得と自発的な演奏表現を目指す。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の更なる向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
30	演奏表現の学習とまとめ	試験に向けステージを想定した発表を行い、グループでのディスカッションを通じて自己の演奏を振り返り、更なる演奏表現の向上を目指す。	試験に向け確実性のある演奏技術と表現力の更なる向上を目指し練習を行う。授業での課題を試験までにできるようにする。	60

<b>科目名</b>	保育表現技術 器楽Ⅱ		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
<b>担当教員</b>	横溝 聡子,小澤 啓子,鈴木 明美,本橋 美恵子,佐久間 智子,深谷 悠里 絵			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	<p>【ピアノ表現技術】☑ Ⅲ期は、幼児曲の弾き歌いを中心に学習する。子どもたちを意識した演奏ができるようになることをねらいとし、保育の方法と技術力を身につける。Ⅳ期では、教育実習・保育実習をすべて終えたことを踏まえ、これまで学んだことを基盤に置き、演奏技術のみの学習に留まらず、子どもの発達に応じてピアノであそぶことが出来る表現力、即興力、応用力の伸長を図る。☑ ML授業については、アンサンブルにおいてパートナーとディスカッションを重ねながら取り組み、更なる表現力の向上やコミュニケーション能力を伸長を図る。また、コードネーム等による即興伴奏法を学び、保育現場での実践力を養う。各期の試験後に時間を設け、コメントによるフィードバックを行います。☑</p> <p>【ハンドベル表現技術】☑ Ⅰ・Ⅱ期でハンドベルを選択した学生は、更にベルの演奏技術やアンサンブル力を深める。また地域ボランティア活動等に出向き本学幼児教育学生として、地域交流を図る。演奏発表後にコメントによるフィードバックを行います。 位置づけ・水準 CE2234</p>			
<b>達成目標</b>	<p>個人レッスン☑ ①幼児曲を最低15曲仕上げる。☑ ②幼児曲の弾き歌いに於いて、歌を生かす伴奏ができる。☑ ③幼児曲の弾き歌いにおいて曲想をイメージして歌うことができる。☑ ML授業☑ ①他の人のテンポやリズム感に共感し、協力して演奏できる。☑ ②コードネーム等による即興伴奏法ができる。☑ ハンドベル☑ ①11人でテンポやリズム感等を共感し、協力して演奏できる。☑ ②メロディーと伴奏のバランスハーモニーの美しさを感じられる。☑ ③ハンドベル奏法を理解し、周りの人との調和を取りながら自己表現できる。☑</p> <p>単位認定の最低基準：個人レッスンの①は必須条件である。その他の項目は内容の7割を理解し、授業や演奏発表において確認できること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：「保育の内容の理解と総合的計画力」「保育の方法と技術力」「表現力とコミュニケーション能力」「豊かな人間性と規範意識」</p>			
<b>受講資格</b>	幼児教育学科2年生	<b>成績評価 方法</b>	個人レッスン：毎授業でのレッスン成果（態度、課題に対する取り組み姿勢・意欲、進捗等）40点、ML：平常点（意欲・態度等）40点、定期試験：20点	
<b>教科書</b>	<p>吉野 幸男・三瓶 令子外10名 執筆・編集者☑ 『幼稚園教諭・小学校教諭・保育士養成課程のためのピアノ・テキスト』ドレミ楽譜出版社 ☑ 津布楽 杏里・桑原 章寧 共著☑ 『保育・教育の現場で使える！ 弾き歌いピアノ曲集』ドレミ楽譜出版社☑ 全国大学音楽教育学会 編著☑ 『明日へ歌い継ぐ 日本の子どもの歌—唱歌童謡140年の歩み』音楽之友社☑ の中から選択</p>			
<b>参考書</b>	個人に合わせて適宜使用する			
<b>学生への要望</b>	<p>○毎時間休まないでレッスンを受けること。☑ ○毎日最低30分は練習し、自己の課題に取り組むこと。☑</p> <p style="text-align: right;">○爪をきちんと切り、髪の毛は、下がないようにまとめてくること。</p>			
<b>オフィスタイト</b>	月曜日・金曜日 12:00~12:50 場所：83年館4F コピー室兼非常勤控室 No.1幼児教育学研究室		月曜日4限・金曜日1限 場所：芸術館3F	

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	春休みの課題(生活のうた)確認	・ピアノ担当教員全員の前で、春休みの課題(生活のうた)の中から1曲を弾き歌いする。	試験で演奏した結果を振り返り、弾けなかった部分を再度練習する。	30
2	オリエンテーション	<p>・1年次の担当教員を入れ替える。☑ ・授業形態は、1年次同様1コマ90分を45分ずつに分割し、個人レッスンとMLのレッスンとする。☑ ・授業内容については、添付資料(参考曲)を参照する。行事のうた(8曲) 季節のうた(13曲) その他(24曲)☑ ・授業方法は、1年次で学んだ基礎的内容をもとに、上記幼児曲(46曲)の中から15曲以上弾き歌いができるようにする。☑ ☑</p>	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパートリーを増やす。	30



-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	幼児曲の弾き歌いのレパトリーを増やす MLによるアンサンブル・即興演奏体験⑪	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパトリーを増やす。☒ ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。☒ ・MLレッスン→アンサンブル体験、及びコードネーム等による即興演奏体験をする。	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパトリーを増やす。	30
14	幼児曲の弾き歌いのレパトリーを増やす MLによるアンサンブル・即興演奏体験⑫	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパトリーを増やす。☒ ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。☒ ・MLレッスン→アンサンブル体験、及びコードネーム等による即興演奏体験をする。	確認テストに向け練習に取り組む。	30
15	Ⅲ期のまとめ、及び確認	15回のレッスンで挑戦した幼児曲を振り返り、確認テストの準備をする。	確認テストに向け練習に取り組む。	30
16	幼児曲の弾き歌いのレパトリーを増やす MLによるアンサンブル・即興演奏体験⑬	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパトリーを増やす。☒ ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。☒ ・MLレッスン→アンサンブル体験、及びコードネーム等による即興演奏体験をする。	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパトリーを増やす。	30
17	幼児曲の弾き歌いのレパトリーを増やす MLによるアンサンブル・即興演奏体験⑭	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパトリーを増やす。☒ ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。☒ ・MLレッスン→アンサンブル体験、及びコードネーム等による即興演奏体験をする。	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパトリーを増やす。	30
18	幼児曲の弾き歌いのレパトリーを増やす MLによるアンサンブル・即興演奏体験⑮	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパトリーを増やす。☒ ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。☒ ・MLレッスン→アンサンブル体験、及びコードネーム等による即興演奏体験をする。	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパトリーを増やす。	30
19	幼児曲の弾き歌いのレパトリーを増やす MLによるアンサンブル・即興演奏体験⑯	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパトリーを増やす。☒ ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。☒ ・MLレッスン→アンサンブル体験、及びコードネーム等による即興演奏体験をする。	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパトリーを増やす。	30
20	幼児曲の弾き歌いのレパトリーを増やす MLによるアンサンブル・即興演奏体験⑰	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパトリーを増やす。☒ ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。☒ ・MLレッスン→アンサンブル体験、及びコードネーム等による即興演奏体験をする。	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパトリーを増やす。	30
21	幼児曲の弾き歌いのレパトリーを増やす MLによるアンサンブル・即興演奏体験⑱	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパトリーを増やす。☒ ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。☒ ・MLレッスン→アンサンブル体験、及びコードネーム等による即興演奏体験をする。	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパトリーを増やす。	30
22	幼児曲の弾き歌いのレパトリーを増やす MLによるアンサンブル・即興演奏体験⑲	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパトリーを増やす。☒ ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。☒ ・MLレッスン→アンサンブル体験、及びコードネーム等による即興演奏体験をする。	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパトリーを増やす。	30



-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
23	幼児曲の弾き歌いのレパートリーを増やす MLによるアンサンブル・即興演奏体験⑳	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパートリーを増やす。☒ ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。☒ ・MLレッスン→アンサンブル体験、及びコードネーム等による即興演奏体験をする。	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパートリーを増やす。	30
24	幼児曲の弾き歌いのレパートリーを増やす MLによるアンサンブル・即興演奏体験㉑	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパートリーを増やす。☒ ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。☒ ・MLレッスン→アンサンブル体験、及びコードネーム等による即興演奏体験をする。	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパートリーを増やす。	30
25	幼児曲の弾き歌いのレパートリーを増やす MLによるアンサンブル・即興演奏体験㉒	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパートリーを増やす。☒ ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。☒ ・MLレッスン→アンサンブル体験、及びコードネーム等による即興演奏体験をする。	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパートリーを増やす。	30
26	幼児曲の弾き歌いのレパートリーを増やす MLによるアンサンブル・即興演奏体験㉓	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパートリーを増やす。☒ ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。☒ ・MLレッスン→アンサンブル体験、及びコードネーム等による即興演奏体験をする。	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパートリーを増やす。	30
27	幼児曲の弾き歌いのレパートリーを増やす MLによるアンサンブル・即興演奏体験㉔	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパートリーを増やす。☒ ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。☒ ・MLレッスン→アンサンブル体験、及びコードネーム等による即興演奏体験をする。	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパートリーを増やす。	30
28	幼児曲の弾き歌いのレパートリーを増やす MLによるアンサンブル・即興演奏体験㉕	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパートリーを増やす。☒ ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。☒ ・MLレッスン→アンサンブル体験、及びコードネーム等による即興演奏体験をする。	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパートリーを増やす。	30
29	幼児曲の弾き歌いのレパートリーを増やす MLによるアンサンブル・即興演奏体験㉖	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパートリーを増やす。☒ ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。☒ ・MLレッスン→アンサンブル体験、及びコードネーム等による即興演奏体験をする。	確認テストに向け練習に取り組む。	30
30	IV期のまとめ、及び確認	15回のレッスンで挑戦した幼児曲を振り返り、確認テストの準備をする。	確認テストに向け練習に取り組む。	30

<b>科目名</b>	保育表現技術 造形Ⅰ	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年2単位 必修
<b>担当教員</b>	草野 葉子		
<b>開講期</b>	通年		
<b>授業概要</b>	<p>子どもの感性とイメージの世界を豊かにし創造力を養うには、環境のひとつである保育者のかかわりが重要となる。それは保育者の価値観や感性、想像力や創造力、体験の幅により左右される。豊かな保育環境を構成できる保育者について造形活動の視点からとらえ、その資質の向上を図る。☑</p> <p>基本となる造形素材・描画材を取り上げ、その特徴や魅力と活用方法について自らの表現体験を通して学び、感性を豊かにすると共に表現力を養う。自然を含む身近な環境や生活の場に造形素材を求め体験の幅を拡大する。また、子どもの作品鑑賞や活動事例から発達過程を学び、造形の視点から子ども理解を深め、加えて体験活動の保育への展開も考える。☑</p> <p style="text-align: right;">課題に対するフィードバック</p> <p>1. 各課題終了時に提出する活動記録について、コメント等を記載しフィードバックを行います。 2. 作品発表会においては、講評の形でフィードバックを行います。</p> <p>保位置づけ・水準：CE2135☑ ☑</p>		
<b>達成目標</b>	<p>☑</p> <p>①造形や描画素材が身近に存在することに気づき、素材の特徴や魅力を知り活用することができる。☑ ②さまざまな素材を応用発展させて、自分の考えや思いを表現することができる。☑</p> <p>③グループ活動を通して、相互に意見交換を行い学びを高めあうことができる。☑ ④幼児期の特徴と発達過程について、描画や造形活動の視点から理解し、保育計画立案の基礎的実践力を身につける。</p> <p>単位認定の最低基準：上記4項目の内容について6割以上を満たしていること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：保育内容の理解と実践力・方法や技術力・表現力とコミュニケーション力☑ ☑</p>		
<b>受講資格</b>	幼児教育学科の学生（主として1年生）	<b>成績評価 方法</b>	課題取組結果である作品・活動記録と活動状況にて評価する。 配点は作品50点、記録30点、活動状況（平常点）20点。
<b>教科書</b>	教科書は使用せず、課題に応じた印刷物等の資料により行う。		
<b>参考書</b>	課題により授業時に指示する。		
<b>学生への要望</b>	<p>◎活動に必要な道具・材料（事前連絡）を忘れず持参し授業に臨む。☑ ◎失敗を恐れず実験的な取り組みを積極的に行う。☑ ◎作品・活動記録の提出期限を厳守。☑</p>		
<b>オフィスタイム</b>	火曜～木曜 15:00～17:00 83年館2階823研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス・イメージと色	<p>1. 「保育表現技術造形Ⅰ」のねらいと授業計画及び準備物について説明。☑ 2. イメージの表現。☑ ①イメージと色の関係について表現を通して考える。☑ ②形のないものを表現する体験をする。☑ ③感情を色で表現する体験を通し、自己と対話する。</p>	色と心の関係をテーマとした資料や本を探し目を通す。	60
2	描画コミュニケーション	<p>描画による他者との対話を通し、相手の心持やイメージを共有する。☑ ①ペアドローイング・スキュグルを体験する。☑ ②相手の心持や息遣いを感じとり表現する。☑ ③感受性を刺激し豊かにする。</p>	描画による対話体験が、保育や子どもとの関わりによどのように発展できるかについて考えたことをまとめる。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
3	自然を凝視める	造形と子どもについて自然との関係から考える。☒ 1. 自然の造形美を味わう。☒ ①身近な植物を観察し、その造形美に触れる。☒ ②観察する目を養う。☒ 2. 自然環境と子どもについて考える。☒ 子どもの記録を紹介し、子どもと自然環境との関係について造形の視点から考える。	学内や自宅周辺など身近な環境に目を向け、草花や樹木等の姿を観察する。	30
4	布による表現Ⅰ	テーマ：布と環境☒ 自在に変化する布の特徴をいかした造形表現体験。☒ ①自在に変化する布の特徴を知る。☒ ②光・空気等環境の影響により表情が変化する布の魅力を知る。☒ ③身体に布を巻きつけた表現を行う。☒ ④「③」の取り組みを相互に発表し、布の多様性を学ぶ。	次回使用する紐類の選択準備、作品の構想や環境活用についてグループで話し合う。	30
5	布による表現Ⅱ	テーマ：布と紐と環境（5～6名のグループ活動）☒ 「布による表現Ⅰ」の体験を基に、紐を加えた造形表現体験。☒ ①紐が加わり表現方法の幅が拡大することを知る。☒ ②活動場所にある物を積極的に取り入れ、環境をいかした表現に取り組む。☒ ③「見立て」による表現や遊びを創造する。☒ ④作品を発表し相互に学びを共有する。	布や環境を活用した表現や遊びについて、その発展的展開や保育への応用について考えたことをまとめる。	30
6	布による表現Ⅲ	活動記録のまとめ(5～6名のグループ活動) ☒ 「布による表現Ⅰ・Ⅱ」の作品と活動内容を写真と記録にまとめる。☒ ①作品写真によりグループで活動を振り返り、布の特徴や表現素材としての収穫を記録する。☒ ②実際の保育への展開について考えたことをグループで話し合い、情報を共有する。☒	子どもの具体的な行動をイメージした保育展開を考える。次の課題「身近な素材による表現」に使用する雑誌や新聞等の印刷物と用具の準備をする。	30
7	身近な素材による表現Ⅰ	平面表現《カラーージュ》☒ 雑誌や新聞等の写真や文字等を切り抜き貼りあわせて平面を構成する。☒ ①写真等素材の持つ表情の豊かさを味わい楽しむ。☒ ②見立て表現の体験を通し、物を見る目や発想力を刺激する。☒ ③切り抜きの再構成により新たな世界を創り出す。	カラーージュ体験が、どのように保育へ発展させることができるか考えたことをまとめる。	30
8	身近な素材による表現Ⅱ	平面表現《紙芝居作り》☒ カラーージュ作品に物語を添えて紙芝居を作る。☒ ①即興による物語づくりを体験する。☒ ②紙芝居作りを通して保育教材への展開を考える。	物語作りの体験をもとに、絵本等を参考に物語の構成について研究する。次回の立体表現に使用する素材と用具の準備をする。	30
9	身近な素材による表現Ⅲ－その1	立体表現：身近な素材を使用して立体造形を行う（5～6名のグループ活動）☒ ①素材を観察し、その特徴や性質を知る。☒ ②加工方法について研究する。☒ ③作品の構想を練る。	実験体験を踏まえて作品構想をグループで話し合い、素材や用具の追加を行う。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	身近な素材による表現Ⅲ-その2	立体表現：身近な素材を使用して立体造形を行う（5～6名のグループ活動）☑ ①作品構想を基に具体化する。☑ ②素材の特徴をいかし、他の素材と組み合わせてより豊かな作品にする。☑ ☑	作品未完成の場合は、完成までの活動計画と実践。次回作品発表のグループ打合せを行う。	60
11	身近な素材による表現Ⅳ	作品発表会：コラージュ紙芝居と立体作品の発表会☑5～6名のグループ活動) ①作品発表により、情報の整理と伝達方法について学ぶ。 ②他者の取り組みから素材の活用方法や表現の多様性について学ぶ。☑ ③活動過程を振り返りまとめとしての活動記録を提出する。	紙芝居作りや立体表現体験をもとに保育への発展について考えたことをまとめる。次の課題「色材による表現」に使用するクレパスやスケッチブックを準備する。	30
12	色材による表現Ⅰ	テーマ：色材の基礎知識とクレパスの特性をいかした表現体験☑ 色材の組成を土台に、クレパスの特徴及び魅力を知ると共に、身近な素材が道具として活用できることを学ぶ。☑ ①組成から色材の特性を知る。☑ ②カラーカーボン・スクラッチ・ステンシルを体験し、技法の相違によるクレパスの表情の変化を味わう。☑ ③生活用品が表現道具として使用できることを知る。	身近な生活の中に体験した技法に関連したものがあるか観察する。次回使用する水彩用具一式の準備をする。	20
13	色材による表現Ⅱ	テーマ：水彩の特性をいかした表現体験☑ 水溶性色材の特性を学ぶ。☑ ①ひたし染め・ステンシル等の技法体験を通し水彩の特徴と表情の豊かさを知る。☑ ②自然混色による偶発的な色や形の面白さを味わう。☑ ③身近な素材が表現道具として使用できることを知る。	身近な生活の中に体験した技法に関連したものがあるか観察する。水彩用具に加えて、次回使用する野菜等の準備をする。	30
14	色材による表現Ⅲ	テーマ：版画による表現体験☑ 身近な素材を活用した表現により、版画の魅力と多様性を学ぶ。☑ ①スタンプの技法を体験し、版画の多様性を知る。☑ ②素材の違いによる表情の変化を味わう。☑ ③野菜や生活用品等様々な物が表現道具として使用できることを知る。	身近な生活の中に体験した技法に関連したものがあるか観察する。グリーティングカード郵送者の住所等情報を収集する。また作品制作に必要な材料や用具を準備する。	30
15	色材による表現Ⅳ	テーマ：まとめの作品づくり☑ クレパス・水彩による表現体験Ⅰ～Ⅲを基にコラージュによる作品づくり。☑ ①表現体験したものを素材として使用し、その一部を切り取り貼りあわせてカードに仕立てる。☑ ②各技法の異なる表情からイメージを拡大し、見立てや抽象的な表現として自分の考えや思いを平面に表現する。	身近な生活の中に体験した技法に関連したものがあるか観察する。次の課題「ペーパークラフト」に使用するスケッチブック・カッター・接着剤等の準備をする。	20
16	ペーパークラフトⅠ	紙について、その性質や加工方法を学ぶ。☑ 1. 紙の性質☑ ①紙の繊維の方向について知る。☑ ②繊維の方向と加工の関係について学ぶ。☑ 2. 加工方法の基礎（その1）☑ ①「切る・折る」の加工による立体表現の基礎を体験する。☑ ②曲線折りによる曲面や陰影の美しさを味わう。	身近な生活の中に体験した技法に関連したものがあるか観察する。次回使用する用具を確認し準備する。	20

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
17	ペーパークラフトⅡ	1. 加工方法の基礎（その2）☑ ①「丸める」加工と繊維の方向の関係について学ぶ。☑ ②「伸びる」性質を踏まえ「伸ばす」加工によるレリーフ表現を体験する。☑ 2. 応用表現（その1）☑ ①「斜め折り」による「動く」ペーパークラフトの原理を学ぶ。☑ ②基本原理を基に実験を行い表現の拡大を図る。	身近な生活の中に体験した技法に関連したものがあるか観察する。次回使用する用具を確認し準備する。また仕掛け絵本などに目を通す。	60
18	ペーパークラフトⅢ	応用表現（その2）☑ ①「切る・折る」の応用として立体表現「飛び出し」の原理を学ぶ。☑ ②基本原理を基に実験を行い表現の拡大を図る。	次回使用する用具を確認し準備する。仕掛けのある絵本やカードなどに目を通し作品構想を練る。	60
19	ペーパークラフトⅣ-①	ペーパークラフトまとめとしての作品づくり（その1）☑ 加工方法の基礎や応用表現を基にまとめとしての作品をつくる。☑ ①応用表現の「斜め折り」「平行折り」を使用し、グリーティングカードを作る。☑ ②ペーパークラフトⅠ～Ⅲを土台に作品構想を練る。☑ ③作品構想に基づき実験を行う。	作品に使用する紙など、構想に基づいた素材を探し準備する。作品に関連する資料についても継続して収集する。	30
20	ペーパークラフトⅣ-②	ペーパークラフトまとめとしての作品づくり（その2）☑ 作品をまとめ完成させる。☑ ①構想にあった紙を選択する。☑ ②実験結果をまとめて作品として完成させる。	次回の発表までに作品を完成させる。	60
21	ペーパークラフトⅤ-作品鑑賞会	完成させた作品を相互に鑑賞する。☑ ①他者の取り組みから基礎加工の応用発展や素材の活用について吸収し学びあう。☑ ②活動過程と鑑賞結果を記録し、活動の振り返りとまとめを行う。	書店等を訪ね仕掛け表現を活用したものに目を向け視野を拡大する。次の課題「光と影による表現」に使用するカッター・はさみ・接着剤等を準備する。	20
22	光と影による表現Ⅰ	光と色の関係について、切り紙や折り紙を通して学ぶ。☑ ①日本の伝統切り紙と外国の折り紙を体験し、光との関係から色が変わることを知る。☑ ②重なりによる色や形の変化を味わう。☑ ③色影の魅力を味わう。	身近な生活の中に体験した技法に関連したものがあるか観察する。次回使用する光にかざすことのできる素材を準備する。	30
23	光と影による表現Ⅱ	光と物体との関係からできる影の魅力を味わう。（3～4名のグループ活動）☑ ①各種素材を光にかざし表情の変化を観察する。☑ ②光の遮断・透過・反射等により異なる表情を観察する。☑ ③さまざまな物で光と影による表現を行う。	表現体験をもとに作品構想についてグループで話し合う。更に必要な素材についても準備する。	40
24	光と影による表現Ⅲ	光と影による作品づくり。（3～4名のグループ活動）☑ ①さまざまな物を組み合わせて光と影による見立て表現を行う。☑ ②表現実験をもとに影絵として作品にまとめる。	光と影の表現体験をもとに、どのように保育へ発展させることができるか考えたことをまとめる。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
25	素材体験Ⅰ－小麦粉を素材とした表現体験①	フィンガーペインティング－色のりと身体による表現体験☑ ①小麦粉を使用した「のり作り」を体験し、色のりの作り方を学ぶ。☑ ②色のりの感触を味わう。☑ ③手の動きによる色のりの表情の変化を味わう。☑	フィンガーペインティングの体験をもとに、子どものさまざまな反応を予測した上で、保育へ生かし方について考えたことをまとめる。	30
26	素材体験Ⅱ－小麦粉を素材とした表現体験②	小麦粉粘土－粘土の特徴と魅力☑ ①小麦粉粘土の作り方を学ぶ。☑ ②小麦粉粘土の特徴を知る。☑ ③粘土遊びを通して感触や立体造形の魅力を味わう。	小麦粉粘土の体験をもとに、子どものさまざまな反応を予測した上で、保育へ生かし方について考えたことをまとめる。	30
27	素材体験Ⅲ－お菓子を素材とした表現体験	お菓子による造形表現☑ ①色・形・模様等お菓子の表情の豊かさを楽しむ。☑ ②お菓子の特徴をいかした立体造形の魅力を味わう。☑ ③保育の場における行事や親子活動への発展的展開を考える。	お菓子による造形表現体験をもとに、保育行事等への展開方法について具体的に考えたことをまとめる。	30
28	描画・造形活動からみた子どもⅠ	描画及び造形活動の視点から幼児期を理解する。☑ ①子どもの描画及び造形活動を年齢別に概観し発達過程について学ぶ。☑ ②実例をもとに各時期の特徴について学ぶ。	授業内容を踏まえて、1月の教育実習Ⅲ、2月の保育実習Ⅰ－1における、子どもの発達過程に関する観察視点についてポイントをまとめる。	30
29	描画・造形活動からみた子どもⅡ	描画及び造形活動に表現された子どもの内面について考える。☑ ①描画や造形作品に表出された子どもの内面をさぐる。☑ ②造形活動における保育者の役割と子どもの行動の関係について考える。	授業内容を踏まえて、1月の教育実習Ⅲ、2月の保育実習Ⅰ－1における、子どもの内面と表現についての観察視点のポイントをまとめる。	30
30	まとめ	保育環境と造形。☑ ①保育環境とは何かについて造形の視点から考える。☑ ②保育環境を創りだす者に求められる資質について考える。	授業内容を踏まえて、1月の教育実習Ⅲ、2月の保育実習Ⅰ－1における、保育環境に関する観察視点についてポイントをまとめる。	30

<b>科目名</b>	保育表現技術 造形Ⅱ	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択	
<b>担当教員</b>	早川 仁			
<b>開講期</b>	Ⅲ			
<b>授業概要</b>	保育に関する環境構成や、適した造形素材・用具知識・技法等を幼児発達過程の理解と共に学び、自己研 究を積み重ね、造形活動の側面から保育実践力を身につける。☑ ・課題作品については添削返却時に簡略なコメントを記す。☑ ・研究発表に対しては随時内容に対するフィードバックを全体、または個々に対して行う。☑ 位置づけ・水準CE2236☑			
<b>達成目標</b>	1 保育における造形活動に適した環境構成・造形素材・用具などの知識、基礎技法を修得する。☑ ディプロマポリシーとの関係；保育の内容理解と総合的計画力。☑ 2 描画基礎を身に付けると共に他者の作品の良さに気づくこと。☑ ディプロマポリシーとの関係；表現力とコミュニケーション能力・豊かな人間性。☑ 3 幼児の発達過程を造形表現の側面から理解できるようにする。☑ ディプロマポリシーとの関係；保育の内容理解。☑ ・単位認定の最低基準；☑ 規定授業数の3分の2以上出席していること。☑ 課題作品（自学自習課題含む）3分の2以上提出していること。☑ ☑ ☑			
<b>受講資格</b>	保育表現技術造形Ⅰを取得していることが望ましい。	<b>成績評価 方法</b>	・授業課題作品 60点☑ ・平常点 10点☑ ・自学自習課題 30点	
<b>教科書</b>	特になし。			
<b>参考書</b>	著-V・ローエンフェルド 訳-竹内清 ☑ 「美術による人間形成」☑ 1989年 黎明書房 ☑ （特に用意しなくとも良いが一読しておく事を薦める）。			
<b>学生への要望</b>	毎回、運動着着用で授業に臨むこと。☑ 毎回、授業終了時に清掃を行うこと。☑ 課題作品提出締切日を厳守すること。☑ ☑ ☑			
<b>オフィスタイトム</b>	月曜日・水曜日・金曜日の5時限目 826研究室。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業オリエンテーション・校内スケッチ	1 授業オリエンテーション 配布物と内容説明（授業の約束・授業日程表）☑ ・授業目的・授業計画内容・受講上の約束事等の説明を理解する。☑ 2 スケッチ課題「わたしが気になる場所」☑ ・校内で「自分にとっての春」を探索してスケッチ記録する。☑ ・それがなぜ自分にとっての春なのか、個々の生活体験に基づいた情感や美意識でスケッチする。☑ 描画素材-水彩・色鉛筆・クレヨンなど（鉛筆・ペンなどの単色も可）☑ ☑	次回授業のシラバス・シラバイを確認し、授業目的及び使用する材料・道具を準備する。宿題作品（折り紙構成及びキャラクターデザイン画）を各1枚仕上げる	90

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
2	壁面構成①	<p>壁面構成とは何かを学ぶ。☒</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児が、「自然の変化や身の回りを美しく飾ることに興味関心を持ち、豊かな心情や思考力を培う」。</li> <li>又、「行事・伝統習慣に馴染み理解する」。ことが出来るようにしていくための方法であることを理解する。☒</li> <li>A 自然・B 行事・C 造形装飾、3つのテーマから各自1つ選択し、壁面構成する</li> </ul> <p>☒</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・選択テーマの研究（行事の謂われ、季節の動植物、デザイン構成など）～アイディアスケッチ作成～提出（中間指導）。☒</li> </ul>	<p>次回授業のシラバス・シラバイを確認し、授業目的及び使用する材料・道具を準備する。☒</p> <p>いろいろな壁面構成の作品を調べる。宿題作品（折り紙構成及びキャラクターデザイン画）を各1枚仕上げる</p>	90
3	壁面構成②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・用紙、素材、制作道具を各自準備し、表現の狙い・画面構成・配色等を検討して、作品制作。～完成～提出。☒</li> <li>・鑑賞会 学内に作品を掲示。これを互いに鑑賞し、表現を学び合う。*素材は各自購入 *サイズ指定=全版二分の一 ☒</li> <li>・ベース素材=厚手の紙であれば自由（模造紙は薄いので不可・ボール紙は可） ☒</li> <li>・装飾素材=自由（保育現場で使用する身近なものがより望ましい） ☒</li> <li>・立体平面どちらも可 ・個人制作とする ・優秀作品は83年館1階掲示☒</li> </ul> <p>☒</p>	<p>次回授業のシラバス・シラバイを確認し、授業目的及び使用する材料・道具を準備する。☒</p> <p>いろいろな壁面構成の作品を調べる。宿題作品（折り紙構成及びキャラクターデザイン画）を各1枚仕上げる</p>	90
4	実習準備研究① 案の実例から学ぶ	<p>計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 計画案プリント・計画案作成ポイント資料配布☒</li> <li>1 計画案の実例から学ぶ（先輩の実習指導案・報告書 資料から）☒</li> <li>・発達段階・現場環境・活動時間・衛生・安全などを考慮した計画が立てられるよう、指導案作成のポイントを理解する。☒</li> <li>2 各自実習で実践してみたい造形活動内容を造形工作資料など用いて決定し素材・手順など教材研究する。☒</li> <li>* 次回までに必要な素材の購入・用具準備の計画を立てる。☒</li> </ul>	<p>次回授業のシラバス・シラバイを確認し、授業目的及び使用する材料・道具を準備する。☒</p> <p>教育実習で取り入れたい造形活動を検討しておく。宿題作品（折り紙構成及びキャラクターデザイン画）を各1枚仕上げる</p>	90
5	実習準備研究②	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 実際の制作を通して教材研究する。☒</li> <li>2 教材研究と並行しながら計画案を作成する。（次回までに仕上げる）☒</li> <li>3 模擬授業発表グルーピング（1G6名程度）～担当配役決定（実習生1名・園児ーその他全員）*対象年齢・環境構成・実施時間など明確しておく。☒</li> <li>次回までにグループ検討会で使用する材料を実習生役の学生を中心にグループで準備。☒</li> </ul>	<p>次回授業のシラバス・シラバイを確認し、授業目的及び使用する材料・道具を準備する。☒</p> <p>教育実習で取り入れたい造形活動の教材研究と並行しながら計画案を作成する。宿題作品（折り紙構成及びキャラクターデザイン画）を各1枚仕上げる</p>	90
6	実習準備研究③	<p>模擬授業グループ内検討会～発表練習☒</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ内で、実習生役学生の計画案に基づき模擬授業を行う。☒</li> <li>より良い実習が充実できるように授業内容について適切であるか等、検討し合う。（幼児役も含めて一指定年齢の幼児ならどんな行動をするかなども検討してみる） ☒</li> <li>・次回の発表練習 ☒</li> </ul>	<p>教材研究と並行しながら計画案を作成する☒</p> <p>模擬授業発表の材料を準備する宿題作品（折り紙構成及びキャラクターデザイン画）を各1枚仕上げる</p>	90
7	実習準備研究④	<ul style="list-style-type: none"> <li>各グループ模擬授業発表☒</li> <li>発表を通して、他の教材展開の仕方、活動のポイントや発展展開の可能性・安全面・幼児の発達興味関心との整合性、時間配分など学び合う☒</li> </ul> <p>☒</p>	<p>宿題作品（折り紙構成及びキャラクターデザイン画）を各1枚仕上げる</p>	90



-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	実習準備研究⑤ 行事ポスター制作①	1、実習で実践した（造形活動）実施報告書記載☑ 2、授業研究用アンケート。☑ 3、保育現場での行事に関わる制作活動の一環としてポスターを描く。ポスターとは何か 表現の目的を参考作品を鑑賞しながら探る。☑ 内容日程・参考作品鑑賞・文字情報・技法について～下絵制作。サイズ＝F－6☑	実践報告書をまとめる。宿題作品（折り紙構成及びキャラクターデザイン画）を各1枚仕上げる	90

<b>科目名</b>	保育表現技術 体育Ⅰ	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年2単位 必修
<b>担当教員</b>	柴田 卓		
<b>開講期</b>	通年		
<b>授業概要</b>	〔授業の目的・ねらい〕☑ ①幼児体育・運動遊びを実践し、その意義を理解する。☑ ②実践を通して計画方法・指導方法・評価方法を理解する。☑ ③授業の振り返りを通して、指導のポイントや安全面についての理解を深め、実践的なスキルを習得する。☑ 〔授業全体の概要〕☑ 実技や講義を通して、さまざまな視点から運動の面白さを探究し、子どもが意欲的かつ主体的に取り組む運動遊びの内容や指導方法を習得する。また、対象年齢に応じた運動遊び指導のポイント、安全面や環境設定等を実践的に学習するためにロールプレイやケーススタディを多く実施する。また、ポートフォリオを活用した振り返りによって、専門性や実践力を高める。ポートフォリオの各提出後と実技発表後にフィードバックを行う。位置づけ・水準 CE2137☑ ☑ 単位認定の最低基準は、到達目標に対してその内容を7割以上習得していること。☑ ディプロマ・ポリシーとの関連：保育の内容理解と総合的計画力、子どもの発達の理解と支援の力、保育の方法と技術力、表現力とコミュニケーション力		
<b>達成目標</b>	①幼児期の運動・健康について理解する。☑ ②幼児体育の指導計画・指導方法・評価方法を理解する。☑ ③幼体体育・運動遊びを子どもと保育者の目線で実践し、その意味と価値を理解する。		
<b>受講資格</b>	幼児教育学科1年生	<b>成績評価 方法</b>	ポートフォリオ（ノート）50点☑ 実技20点 レポート10点 平常点20点
<b>教科書</b>	柴田卓 石森真由子編,楽しく学ぶ運動遊びのすすめ-ポートフォリオを活用した保育実践力の探求-,みらい,2017		
<b>参考書</b>	幼児期運動指針策定委員会,幼児期運動指針ガイドブック,文部科学省,2013		
<b>学生への要望</b>	テキスト、筆記用具を持参すること☑ 運動着であること アクセサリーを身に着けないこと☑ 気温によってタオル、水分補給、着替えを準備すること☑		
<b>オフィスタイム</b>	月曜日3・4時限 水曜日4・5時限 824研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション（体育館）	授業の目的と概要・評価方法・準備物を確認する。	ルーブリックを活用し、現状の知識・スキルについて、自己診断を行う。	45
2	アイスブレイクと準備体操	遊びを通してより良い関係性を築く手法を理解する。☑ 幼児期における準備体操の意義と手法を理解する。☑	アイスブレイクについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
3	道具を使わない遊びⅠ	鬼遊びの導入・展開・発展方法を理解する。☑ （じゃんけんゲームや伝承遊びなど）☑	鬼遊びについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
4	道具を使わない遊びⅡ	ルール・課題の設定、説明の仕方などを理解する。また、グループ作りの方法やその活動におけるポイントを理解する。（協力・コミュニケーションスキルなど）	鬼遊びについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
5	道具を使った遊びⅠ	ボールを使ったチャレンジ遊びを理解する。☑	ボール遊びについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
6	道具を使った遊びⅡ	フラフープ・コーンを使った遊びの導入・展開方法を理解する☑	フラフープやコーン遊びについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
7	グループ演習①（集団遊びの制作）	グループでオリジナルの集団遊びを作成する。（グループワーク）	グループワークについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
8	グループ演習②（集団遊びの発表）	作成した遊びを発表・実践し評価する。（ロールプレイ）☑ 第1回ノート提出	グループで発表した内容について、振り返り、ポートフォリオにまとめる。	45
9	ドッジボールの導入方法	一斉指導における説明の方法とドッジボールにおける導入について学習する。	ドッジボールについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
10	ドッジボールの展開・評価方法	ドッジボールの展開方法および勝敗の扱い方を学習する。	ドッジボールについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	グループ演習③(リズムダンス)	子ども向けの音楽を選択し、振り付けを考える。	リズムダンスについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
12	グループ演習④(リズムダンス)	リズムダンスの作成を通して、子どもが楽しめる動作と指導言語を理解する。☒ ☒	リズムダンスについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
13	グループ演習⑤(リズムダンス)	リズムダンスの発表(ロールプレイ)	グループで発表した内容について、振り返り、ポートフォリオにまとめる。	45
14	親子体操	親子体操の種目と展開方法について理解する。	親子体操について、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
15	講義(教室)	自分たちの発表したリズムダンスの映像を見ながら、お互いに評価を行う。	リズムダンスの発表映像から、各自の課題と後期の目標を設定する。	45
16	縄跳び	短・長縄跳びを使った遊びを理解する。(単・長縄跳びの導入・展開)	縄跳びについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
17	外遊び	外でダイナミックに遊ぶ方法と留意点を理解する。	外遊びについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
18	跳箱Ⅰ	跳箱を使った遊びを理解する。(跳箱を使った遊びの導入・展開)	跳び箱について、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
19	跳箱Ⅱ	跳箱の技術と指導のポイントを理解する。(跳箱の指導法と留意点)	跳び箱について、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
20	マットⅠ	マットを使った遊びを理解する。(マットを使った遊びの導入・展開)	マットについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
21	マットⅡ	マット運動の技術と指導のポイントを理解する。(前転・後転・側転の指導法)	マットについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
22	グループ演習⑥(リスクマネジメント)	マット・跳箱・トランポリンの指導を通して、運動遊びにおけるリスクマネジメントと安全教育について理解する。第3回ノート提出☒	安全管理について、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
23	運動会種目Ⅰ	徒競走・リレー・障害物競争の導入・展開方法について理解する。	運動会種目について、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
24	運動会種目Ⅱ	年中児の発表種目について理解する。(バルーン演技等)	バルーンについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
25	運動会種目Ⅲ	年長児の発表種目について理解する。(組体操の演技等)	組み立て体操について、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
26	伝承遊び	はないちもんめなど伝承遊びや歌遊びを理解する。	伝承遊びについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
27	グループ演習⑦(模擬保育)	実習で実施できる運動遊び(場所・道具・ルール)を考え、指導案を作成する。	指導計画作成について、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
28	グループ演習⑧(模擬保育)	作成した指導案をもとに発表し、学生同士で評価する。	発表した内容について、疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
29	グループ演習⑨(模擬保育)	作成した指導案をもとに発表し、学生同士で評価する。	発表した内容について、疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
30	まとめ	保育における運動遊びの意義について、1年間を振り返りながらレポートを作成する。第4回ノート提出	テキストのルーブリックを活用し、1年間の成長を自己診断する。	45

科目名	保育表現技術 体育Ⅱ	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択	
担当教員	一柳 智子			
開講期	Ⅲ			
授業概要	<p>自分自身と幼児の身体を理解し把握することにより、身体表現能力を高め、子どもの身体表現を豊かにするための質の高い保育実践を目指し、保育現場に役立てることを目的とする。☑</p> <p>子どもの身体表現を豊かにするための指導力向上のため、子どもの年齢別運動特性を知り、無理のない自由な表現能力の開発を行う。さらに、グループで楽しくダンスを楽しみ、幼児のための小品を創作することができるようにする。☑</p> <p>最終授業で創作作品発表をし、全体のフィードバックを行う。☑</p> <p>位置づけ・水準CE2238☑</p> <p>音楽・映像を使用する際著作権を侵害しないようにする。</p>			
達成目標	<p>① 子どもの運動特性を知ることができたか。 ☑</p> <p>② 身体表現を豊かにすることができたか。☑</p> <p>③ 種々のダンスを楽しく協力して創作することができたか。 ☑</p> <p>単位認定の基準は：内容の7割を理解していること。☑</p> <p>ディプロマ・ポリシーとの関係：技術力、表現とコミュニケーション能力</p>			
受講資格	幼児教育学科2年AB	成績評価 方法	試験30点、提出物40点、平常点30点	
教科書	特になし			
参考書	<p>松本千代栄『舞踊学の現在』（文理閣、2011）☑</p> <p>松本千代栄『松本千代栄撰集 2 人間発達と表現－幼・小期』（明治図書、2008）</p>			
学生への要望	<p>こどもたちの身体を理解するためには、自分の身体認識がされていなければなりません。☑</p> <p>自分の長所のすべてを他に表現し理解を得られるように、内面の表出を心がけましょう。ひいては、自己啓発にもつながり、幼児の表現能力を引き出せるノウハウを身に着けることにもつながります。</p>			
オフィスタイト	<p>木曜日 Ⅲ限目（12：50～14：20）☑</p> <p>Ⅳ限目（14：30～16：00） ☑</p> <p>825研究室（一柳）</p>			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の展開内容の説明☑</li> <li>・授業の目的：本授業は選択授業であることを認識すること。ダンスおよび舞台パフォーマンスに特に関心の強いかたのニーズを満足させるための授業を目的とする。☑</li> <li>・授業の準備、窓の開閉、掃除係の分担決め☑</li> <li>・授業の準備として、体育館中央のネットをひく。☑</li> <li>・服装等：ジャージ上下またはダンス用のウェアを着てもよい。靴は運動用シューズまたはダンスシューズ。☑</li> <li>・授業前半ではヨガマットを使用してストレッチを行う。ヨガマットの上に敷く大判のバスタオルを毎回持参すること。</li> </ul>	ストレッチ	20
2	身体表現の基礎	<p>前半：アップ（ウォーキング、ジョギング、スキップ、ギャロップ、ケンケンパ等）。基本動作から。呼吸とともにストレッチ。腹筋の各所を意識して鍛えましょう。股関節、肩関節など関節の可動範囲を大きくしましょう。準備運動は自分の体の各部位を意識して行うとより効果的です。☑</p> <p>後半：姿勢と立ち姿の確認。座った姿勢、立った姿勢。☑</p> <p>自分の体のゆがみを確認します。☑</p> <p>動きの種類：歩行：日常的歩行、スポーツ的歩行、舞台的歩行。☑</p> <p>バレエ的身体表現 ボードブラ（上肢の滑らかな舞踊動作の練習）☑</p>	ストレッチ	20

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
3	子どもの運動特性について-1:「はとぼっぼ体操」から	前半:準備運動。基本動作から。呼吸とともにストレッチ。腹筋の各所を意識して鍛えましょう。股関節、肩関節など関節の可動範囲を大きくしましょう。準備運動は自分の体の各部分を詳細に意識して行くと、より効果的です。☑ 後半:幼児体操の古典である「はとぼっぼ体操」を習得する。	ストレッチ	20
4	子どもの運動特性について-2:「はとぼっぼ体操」から	前半:準備運動。基本動作から。呼吸とともにストレッチ。腹筋の各所を意識して鍛えましょう。股関節、肩関節など関節の可動範囲を大きくしましょう。準備運動は自分の体の各部分を詳細に意識して行くと、より効果的です。☑ 後半:「はとぼっぼ体操」を習得し、各部分を分析し、子どもの運動可能領域と特性を考えよう。	ストレッチ	20
5	幼児用ダンス作品の創作-1	前半:準備運動。基本動作から。呼吸とともにストレッチ。腹筋の各所を意識して鍛えましょう。股関節、肩関節など関節の可動範囲を大きくしましょう。準備運動は自分の体の各部分を詳細に意識して行くと、より効果的です。☑ 後半:舞踊小作品の創作-1 幼児ダンスあるいは創作ダンスの小品を創る。ミュージカル作品を参考にしたり、舞踊音源のからの音取りでもよい。1分ほど創作。	ストレッチ	20
6	幼児用ダンス作品の創作-2	前半:準備運動。基本動作から。呼吸とともにストレッチ。腹筋の各所を意識して鍛えましょう。股関節、肩関節など関節の可動範囲を大きくしましょう。準備運動は自分の体の各部分を詳細に意識して行くと、より効果的です。☑ 後半:舞踊小作品の創作-2 幼児ダンスあるいは創作ダンスの小品を創る。ミュージカル作品を参考にしたり、舞踊音源のからの音取りでもよい。さらに1分ほど創作。	ストレッチ	20
7	幼児用ダンス作品の創作-3	前半:準備運動。基本動作から。呼吸とともにストレッチ。腹筋の各所を意識して鍛えましょう。股関節、肩関節など関節の可動範囲を大きくしましょう。準備運動は自分の体の各部分を詳細に意識して行くと、より効果的です。☑ 後半:舞踊小作品の創作-3 幼児ダンスあるいは創作ダンスの小品を創る。ミュージカル作品を参考にしたり、舞踊音源のからの音取りでもよい。さらに1分ほど創作。	ストレッチ	20
8	幼児用ダンス作品の発表会	前半:準備運動。基本動作から。呼吸とともにストレッチ。腹筋の各所を意識して鍛えましょう。股関節、肩関節など関節の可動範囲を大きくしましょう。準備運動は自分の体の各部分を詳細に意識して行くと、より効果的です。☑ 後半:舞踊小品の発表会。自己の作品を発表するとともに、他グループの作品を鑑賞する。鑑賞ポイントを押さえながら、鑑賞し、自己の作品と比較考察する。身体表現の豊かさの構築に役立てる。☑	ストレッチ	20

<b>科目名</b>	乳児保育Ⅰ	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	永瀬 悦子		
<b>開講期</b>	Ⅰ		
<b>授業概要</b>	<p>乳児、すなわち3歳未満の子どもは、人間形成の基盤を培う時期である。生命の保持および安全・安楽の確保に努めながら発育発達支援について学修する。子どもの基本的な生活習慣や基本的な生活習慣を獲得するための必要な乳児保育の役割を乳児の成長・発達の応じた保育について学修する。※ここで【課題に対する</p> <p>フィードバック方法】①最終授業で全体に対するフィードバックを行う。②課題・レポート提出後、フィードバックの時間を設定し連絡する。③レポートを添削・返却し、コメント等によるフィードバックを行う</p> <p>【授業の目的】</p> <p>乳児保育の理論や知識・技術の基本を理解できるようになる。【位置づけ・水準】CE2139</p>		
<b>達成目標</b>	<p>1)乳児保育の保育内容を理解し、乳児保育を総合的に計画・実践について説明できる。 2)乳児の発育発達を理解し、必要な乳児保育について論じることができる 3)3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容を説明できる。</p> <p>4)乳児保育を実践する姿勢として、感性豊かな表現力とコミュニケーションを身につける必要性を感じることができる</p> <p>5)乳児保育を実践する姿勢として幅広い教養と豊かな人間性や規範意識を身につける必要性を感じることができる</p> <p>ディプロマポリシーとの関係から「保育の内容理解と総合計画力」「子どもの発達の理解と支援の力」「保育の方法と技術力」「表現力とコミュニケーション能力」「豊かな人間性と規範意識」「問題解決力」を身につけることを達成目標とする。これらのことを7割達成すれば単位認定とする。</p>		
<b>受講資格</b>	保育士資格取得希望学生	<b>成績評価 方法</b>	筆記試験80点、レポート20点
<b>教科書</b>	<p>咲間まり子編著『コンパス乳児保育』建帛社 2019年 入江慶太編著『乳児保育—子ども・家庭・保育者が紡ぐ営み—』教育情報出版 2019年</p> <p>※資料を随時配布</p>		
<b>参考書</b>	<p>『保育所保育指針』フレーベル館 2017年</p> <p>榎原洋一・今井和子編著『乳児保育の実践と子育て支援』ミネルヴァ書房 2015年</p>		
<b>学生への要望</b>	乳児保育を実践する場合、乳児の発育・発達に合わせた保育内容を理解でき、実践できるように積極的に講義に臨んで下さい。		
<b>オフィスタイム</b>	<p>月曜日 1時限 (8:50~10:20) 832研究室</p> <p>木曜日 1時限 (8:50~10:20) 832研究室</p>		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	乳児保育の意義・目的と役割	1)乳児保育の意義・目的と歴史の変遷 2)乳児保育の役割と機能 3)乳児保育における養護及び教育 ※乳児期は人格形成の基礎を培う重要な時期であることを理解する。乳児保育の役割と機能について、乳児保育の特徴を踏まえながら、養護と教育の一体性とは何かを学ぶ。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。	120
2	乳児保育の現状と課題①	1)乳児保育および子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題 ※保育をめぐる制度や法改正、子育て世代を取り巻く社会的状況を踏まえながら、乳児保育の重要性や保育所の子育て支援を学ぶ。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。	120
3	乳児保育の現状と課題②	1)保育所における乳児保育 ※保育所の役割や位置づけ、乳児保育の現状を学ぶ。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。	120
4	乳児保育の現状と課題③	1)保育所以外の児童福祉施設(乳児院等)における乳児保育 2)家庭的保育等における乳児保育 3)3歳児未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場 ※乳児院を中心に、保育所以外の児童福祉施設の現状と課題について学ぶ。また、乳児院の役割と支援方法の基礎的理解をする。	保育所以外の児童福祉施設の種類と役割を調べる。	120
5	3歳児未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場①	1)3歳未満児の生活と環境① 2)3歳未満児の遊びと環境① 3)3歳以上児の保育に移行する時期の保育① ※3歳未満児の発育・発達を理解し、生活を環境の視点から捉え、環境を通じた保育について学ぶ。子どもの遊びと環境の視点から保育について学ぶ。	課題レポート ※ テーマは授業中に説明する。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	3歳児未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場②	1)3歳未満児の生活と環境② 2)3歳未満児の遊びと環境② 3)3歳以上児の保育に移行する時期の保育② ※3歳未満児の発育・発達を理解し、生活を環境の視点から捉え、環境を通じた保育について学ぶ。子どもの遊びと環境の視点から保育について学ぶ。	課題レポート ※ テーマは授業中に説明する。	120
7	3歳児未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場③	1)3歳以上児の保育に移行する時期の保育 ※『保育所保育指針』における1歳以上3歳未満児のねらいと内容及び内容の取扱いでは「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」という5領域につながることを理解する。養護と教育が一体となった3歳以上児の保育について学びを深める。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。	120
8	3歳児未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場④	1)3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり① ※乳児保育において子どもひとり一人の発達には個人差や月齢差を考慮した保育が重要であることを理解する。3歳未満児の発育・発達を考慮しながら保育を進めることを理解する。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。	120
9	3歳児未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場⑤	1)3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり② ※乳児保育において子どもひとり一人の発達には個人差や月齢差を考慮した保育が重要であることを理解する。3歳未満児の発育・発達を考慮しながら保育を進めることを理解する。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。	120
10	3歳児未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場⑥	1)3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮 2)乳児保育における計画・記録・評価とその意義 ※心身が未熟な3歳児未満児の心身の機能が未熟であることから、生命の保持と情緒の安定が重要であることを理解する。発達に応じた安心・安全な保育を学ぶ。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。	120
11	3歳未満児の発育・発達と保育①	1)3歳未満児の発育・発達に応じた保育① ※乳児の発育・発達過程を理解し、「健やかにのびのび育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものと関わり感性が育つ」視点から遊びや食事の保育を学ぶ。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。	120
12	3歳未満児の発育・発達と保育②	1)3歳未満児の発育・発達に応じた保育② ※乳児の発育・発達過程を理解し、排泄の援助方法を理解する。基本的な生活習慣の自立に向けて必要な保育を学ぶ。また、基本的な生活習慣の自立に向けて保育所のみで進めることはできないことを理解し、家庭との連携について考える。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。	120
13	3歳未満児の発育・発達と保育③	1)3歳未満児の発育・発達に応じた保育③ ※乳児の発育・発達過程を理解し、基本的な生活習慣の自立に向けた衣服の着脱・清潔の保持の援助方法を理解する。子どもの年齢により、自己主張が強くなり自分でやろうとする子どもに対して、子どもの気持ちを尊重し見守り適切な援助をしていく必要性を理解する。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。	120
14	3歳未満児の発育・発達と保育④	1)3歳未満児の発育・発達に応じた保育④ ※乳児の発育・発達過程を理解し、月齢に応じた抱っこ・おんぶの方法について理解する。乳児の欲求に対して愛情ある応答的にかかわることで乳児は養育者と愛着関係を深めていくことを理解する。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。	120
15	乳児保育における連携・協働	1)職員間の連携・協働 2)保護者との連携・協働 3)自治体や地域の関係機関等との連携・協働 ※乳児の健康と安全を守るための関係機関の連携について学ぶ。子育て支援や虐待から子どもの命を守るための保育所・保育者の役割について理解する。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。	120

<b>科目名</b>	乳児保育Ⅱ	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択
<b>担当教員</b>	永瀬 悦子		
<b>開講期</b>	Ⅱ		
<b>授業概要</b>	<p>乳児、すなわち3歳未満の子どもは、人間形成の基盤を培う時期である。生命の保持および安全・安楽の確保に努めながら発育発達支援について学修する。子どもの基本的な生活習慣や基本的な生活習慣を獲得するための必要な乳児保育の役割を乳児の成長・発達の応じた保育について学修する。※ここで【課題に対する】</p> <p>フィードバック方法】①最終授業で全体に対するフィードバックを行う。②課題・レポート提出後、フィードバックの時間を設定し連絡する。③レポートを添削・返却し、コメント等によるフィードバックを行う</p> <p>【授業の目的】</p> <p>乳児保育の理論や知識・技術の基本を理解できるようになる。【位置づけ・水準】CE2139</p>		
<b>達成目標</b>	<p>1)乳児保育の保育内容を理解し、乳児保育を総合的に計画・実践について説明できる。 2)乳児の発育発達を理解し、必要な乳児保育について論じることができる 3)3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容を説明できる。</p> <p>4)乳児保育を実践する姿勢として、感性豊かな表現力とコミュニケーションを身につける必要性を感じることができる</p> <p>5)乳児保育を実践する姿勢として幅広い教養と豊かな人間性や規範意識を身につける必要性を感じることができる</p> <p>ディプロマポリシーとの関係から「保育の内容理解と総合計画力」「子どもの発達の理解と支援の力」「保育の方法と技術力」「表現力とコミュニケーション能力」「豊かな人間性と規範意識」「問題解決力」を身につけることを達成目標とする。これらのことを7割達成すれば単位認定とする。</p>		
<b>受講資格</b>	保育士資格取得希望学生	<b>成績評価 方法</b>	筆記試験80点、レポート20点
<b>教科書</b>	咲間まり子編著『コンパス乳児保育』建帛社 2019年 入江慶太編著『乳児保育—子ども・家庭・保育者が紡ぐ営み—』教育情報出版 2019年 ※資料を随時配布		
<b>参考書</b>	『保育所保育指針』フレーベル館 2017年 榎原洋一・今井和子編著『乳児保育の実践と子育て支援』ミネルヴァ書房 2015年		
<b>学生への要望</b>	乳児保育を実践する場合、乳児の発育・発達に合わせた保育内容を理解でき、実践できるように積極的に講義に臨んで下さい。		
<b>オフィスタイム</b>	月曜日 1時限 (8:50~10:20) 832研究室 木曜日 1時限 (8:50~10:20) 832研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	乳児保育の意義・目的と役割	1)乳児保育の意義・目的と歴史の変遷 2)乳児保育の役割と機能 3)乳児保育における養護及び教育 ※乳児期は人格形成の基礎を培う重要な時期であることを理解する。乳児保育の役割と機能について、乳児保育の特徴を踏まえながら、養護と教育の一体性とは何かを学ぶ。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。	120
2	乳児保育の現状と課題①	1)乳児保育および子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題 ※保育をめぐる制度や法改正、子育て世代を取り巻く社会的状況を踏まえながら、乳児保育の重要性や保育所の子育て支援を学ぶ。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。	120
3	乳児保育の現状と課題②	1)保育所における乳児保育 ※保育所の役割や位置づけ、乳児保育の現状を学ぶ。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。	120
4	乳児保育の現状と課題③	1)保育所以外の児童福祉施設(乳児院等)における乳児保育 2)家庭的保育等における乳児保育 3)3歳児未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場 ※乳児院を中心に、保育所以外の児童福祉施設の現状と課題について学ぶ。また、乳児院の役割と支援方法の基礎的理解をする。	保育所以外の児童福祉施設の種類と役割を調べる。	120
5	3歳児未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場①	1)3歳未満児の生活と環境① 2)3歳未満児の遊びと環境① 3)3歳以上児の保育に移行する時期の保育① ※3歳未満児の発育・発達を理解し、生活を環境の視点から捉え、環境を通じた保育について学ぶ。子どもの遊びと環境の視点から保育について学ぶ。	課題レポート ※ テーマは授業中に説明する。	120



-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	3歳児未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場②	1)3歳未満児の生活と環境② 2)3歳未満児の遊びと環境② 3)3歳以上児の保育に移行する時期の保育② ※3歳未満児の発育・発達を理解し、生活を環境の視点から捉え、環境を通じた保育について学ぶ。子どもの遊びと環境の視点から保育について学ぶ。	課題レポート ※ テーマは授業中に説明する。	120
7	3歳児未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場③	1)3歳以上児の保育に移行する時期の保育 ※『保育所保育指針』における1歳以上3歳未満児のねらいと内容及び内容の取扱いでは「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」という5領域につながることを理解する。養護と教育が一体となった3歳以上児の保育について学びを深める。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。	120
8	3歳児未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場④	1)3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり① ※乳児保育において子どもひとり一人の発達には個人差や月齢差を考慮した保育が重要であることを理解する。3歳未満児の発育・発達を考慮しながら保育を進めることを理解する。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。	120
9	3歳児未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場⑤	1)3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり② ※乳児保育において子どもひとり一人の発達には個人差や月齢差を考慮した保育が重要であることを理解する。3歳未満児の発育・発達を考慮しながら保育を進めることを理解する。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。	120
10	3歳児未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場⑥	1)3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮 2)乳児保育における計画・記録・評価とその意義 ※心身が未熟な3歳児未満児の心身の機能が未熟であることから、生命の保持と情緒の安定が重要であることを理解する。発達に応じた安心・安全な保育を学ぶ。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。	120
11	3歳未満児の発育・発達と保育①	1)3歳未満児の発育・発達に応じた保育① ※乳児の発育・発達過程を理解し、「健やかにのびのび育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものと関わり感性が育つ」視点から遊びや食事の保育を学ぶ。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。	120
12	3歳未満児の発育・発達と保育②	1)3歳未満児の発育・発達に応じた保育② ※乳児の発育・発達過程を理解し、排泄の援助方法を理解する。基本的な生活習慣の自立に向けて必要な保育を学ぶ。また、基本的な生活習慣の自立に向けて保育所のみで進めることはできないことを理解し、家庭との連携について考える。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。	120
13	3歳未満児の発育・発達と保育③	1)3歳未満児の発育・発達に応じた保育③ ※乳児の発育・発達過程を理解し、基本的な生活習慣の自立に向けた衣服の着脱・清潔の保持の援助方法を理解する。子どもの年齢により、自己主張が強くなり自分でやろうとする子どもに対して、子どもの気持ちを尊重し見守り適切な援助をしていく必要性を理解する。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。	120
14	3歳未満児の発育・発達と保育④	1)3歳未満児の発育・発達に応じた保育④ ※乳児の発育・発達過程を理解し、月齢に応じた抱っこ・おんぶの方法について理解する。乳児の欲求に対して愛情ある応答的にかかわることで乳児は養育者と愛着関係を深めていくことを理解する。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。	120
15	乳児保育における連携・協働	1)職員間の連携・協働 2)保護者との連携・協働 3)自治体や地域の関係機関等との連携・協働 ※乳児の健康と安全を守るための関係機関の連携について学ぶ。子育て支援や虐待から子どもの命を守るための保育所・保育者の役割について理解する。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。	120

<b>科目名</b>	子どもの健康と安全	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
<b>担当教員</b>	永瀬 悦子		
<b>開講期</b>	Ⅲ		
<b>授業概要</b>	<p>「子どもの保健」で学んだ内容を基礎として、保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について学修する。助産師・看護師として医療機関勤務および乳幼児健診等をしてきた経験を活かして、子どもの体調不良等に対する適切な対応、感染症対策、健康及び安全管理の体制について学修する。☑</p> <p>【課題に対するフィードバック方法】①最終授業で全体に対するフィードバックを行う。②課題・レポート提出後、フィードバックの時間を設定し連絡する。③レポートを添削・返却し、コメント等によるフィードバックを行う☑</p> <p>【授業の目的・ねらい】☑</p> <p>「子どもの保健」の基礎知識をもとに、保育現場で実践できる子どもの健康管理や成長・発達を促す養護技術・保育における健康及び安全管理について知識・技術を学ぶ。☑</p> <p>【位置づけ・水準】CE2241</p>		
<b>達成目標</b>	<p>1)保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について総合的に計画・実践内容を述べるができる</p> <p>2)保育における子どもの発達を理解し、衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策の支援について説明できる。</p> <p>3)子どもの体調不良等に対する適切な対応方や技術について述べるができる。</p> <p>4)保育における感染症対策について説明できる。</p> <p>5)保育における保健の学修した知識や技術を統合し、子どもの健康が逸脱した時の問題解決方法を説明できる。</p> <p>6)子どもの健康及び安全管理に関わる組織的取組や保健活動の根底には幅広い教養と豊かな人間性や規範意識があることを説明できる ディプロマポリシーとの関係から「保育の内容理解と総合計画力」「子どもの発達の理解と支援の力」「保育の方法と技術力」「豊かな人間性と規範意識」「問題解決力」「表現力とコミュニケーション能力」を身に付けることを達成目標とする。これらのことを7割達成すれば単位認定とする。</p>		
<b>受講資格</b>	保育士資格取得を希望する学生	<b>成績評価 方法</b>	筆記試験60点、レポート40点
<b>教科書</b>	<p>松本峰雄監修『子どもの保健演習ブック』ミネルヴァ書房 2016年☑</p> <p>咲間まり子編著『コンパス乳児保育』建帛社 2018年☑</p> <p>※随時、資料配布</p>		
<b>参考書</b>	『保育所保育指針』フレーベル館 2017年		
<b>学生への要望</b>	乳幼児のケアをおこなうためには、根拠のある確かな知識（頭）、愛情や相手を思いやる心、適切で正確な技術（技）が大切である。講義は積極的のぞむことを期待する。		
<b>オフィスタイム</b>	<p>火曜日 Ⅲ時限（12：50～14：30） 832研究室☑</p> <p>木曜日 Ⅰ時限（8：50～10：20） 832研究室</p>		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	感染症対策	1)感染症の集団発生の予防 2)感染症発生時と罹患後の対応 ※長時間生活する保育所等の施設は、子どもたちにとり過ごしやすく、安全・衛生的な環境を整えることの大切さを理解する。病気の予防や感染症拡大を防止する衛生管理を学ぶ。	『2018年改訂版、保育所における感染症対策ガイドライン』（平成30年3月厚生労働省）をよく読む	60
2	子どもの体調不良等に対する適切な対応①	1)子どもの状態観察と評価 ※子どもの生理機能を理解して、子どもの状態観察と評価を学ぶ。	教科書をよく読み学びを深める	60
3	子どもの体調不良等に対する適切な対応②	1)薬の与薬 2)体調不良や傷害が発生した場合の対応 ※健康状態の観察と薬の与え方について学び、正しく行うことを身につける。	家庭生活にある薬の種類と使用方法を調べる	60
4	子どもの体調不良等に対する適切な対応③	1)救急処置や救急蘇生法 2)応急処置 ※乳幼児救急蘇生法の方法について理解し、包帯や三角布を利用した応急処置を実践する。	救急蘇生法について教科書を用いて学修する	60
5	保育における健康及び安全管理	1)保育における保健的対応の基本的な考え方 2)保育における健康を促進する関わり 3)個別的な配慮を要する子ども・障害のある子どもへの対応 ※慢性疾患やアレルギー疾患等をもちながら生活する子どもと家族支援の方法を学ぶ。子どもなりの成長・発達とは何かを考える。	教科書をよく読み学びを深める	60
6	保育における保健的対応	1)衛生管理 2)事故防止及び安全対策3)危機管理と災害への備え ※教育・保育施設における事故防止と安全対策の必要を理解し、危機管理と災害への備えの重要性を学ぶ。	『教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン』（平成28年3月、内閣府・文部科学省・厚生労働省）をよく読む	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	健康及び安全の管理の実施体制	1)職員間の連携・協働と組織的取組 2)保育における保健活動の計画及び評価 3)母子保健・地域保健における自治体との連携 4)家庭、専門機関、地域の関係機関との連携 ※子どもの育ちや子育て支援制度、地域の社会資源や関係機関について理解する。	『保育所におけるアレルギー対応ガイドライン』(平成23年3月厚生労働省)をよく読む	60
8	保健的観点を踏まえた保育環境及び援助	1)子どもの健康と保育環境(身体計測と評価) 2)子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康及び安全管理 3)子どもの生活習慣と心身の健康増進を図るための健康管理 ※子どもの健康の維持・増進にむけ保健計画を作成し、職員全体でねらいと目的を共通理解して実践していくことを理解する。保健計画および成長・発達の評価の資料となる身体計測の技術と留意点を学ぶ。	子どもの健康を増進するために必要な「保健たより」を作成する	60

科目名	社会的養護Ⅱ	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択	
担当教員	細川 梢			
開講期	Ⅳ			
授業概要	社会的養護の基本理念に沿って、施設で生活する児童の援助方法・職員の専門性に対する理解を、演習等もまじえて実践的に習得することを目標とする。			
達成目標	社会的養護の基本理念に沿って、施設で生活する児童の援助方法・職員の専門性に対する理解を、演習等もまじえて実践的に習得することを目標とする。			
受講資格	幼児教育学科2年	成績評価 方法	出席を含む授業態度（40％）、授業内レポート（30％）、試験（30％）により評価する。	
教科書	随時、資料を配布する。			
参考書	授業の中で、随時紹介する。			
学生への要望	身近な事から取り上げ、イメージしやすい授業を心がけるので、積極的な授業参加を望む。☑ 事前学習：当日の内容を参考書で確認する（30分）。☑ 事後学習：授業を踏まえて各授業の要点をノートにまとめる（30分）。			
オフィスタイム	授業開始前：創学館2階教務部非常勤講師室 ☑ 授業終了後			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	・授業内容、評価方法についての説明を行う。☑		0
2	児童虐待について	・児童虐待の概要について学ぶ。☑ ・児童虐待と社会的養護との関わりについて理解する。		0
3	社会的養護の実際	・施設養護について理解する。☑ ・里親制度について理解する。		0
4	児童の自立支援について	・児童の自立支援について具体的に学ぶ。		0
5	施設養護の基本的な援助技術	・カウンセリングの基本についてグループ討議を通して学ぶ。☑		0
6	職種理解とチームワーク	・社会的養護に関連する職種の理解と施設内外のスタッフ		0
7	児童福祉施設援助者としての専門性	・ソーシャルワーカーとしての専門性についてグループ討議を通して考察する。		0
8	社会的養護の課題と今後	・学習してきたことから現在の課題を考察するとともに有		0

<b>科目名</b>	教育実習Ⅰ		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年1単位 選択
<b>担当教員</b>	柴田 卓,安部 高太郎,山上 裕子,賀門 康博,奥 美代,仲西 真美子			
<b>開講期</b>				
<b>授業概要</b>	授業は、幼稚園教育に関しての基本事項（実習の意義・教員の役割・保育の実際・幼児の発達理解）の内容を踏まえた上で、教育実習Ⅱ（附属幼稚園の基礎実習）、教育実習Ⅲ（学外 観察参加実習）、教育実習Ⅳ（学外 本実習）と学内での学習との関連について理解を図る。また、実習の準備および事後の反省を通して、自身の課題・問題を発見し、主体的・自発的に改善しながら幼稚園教育の専門職として確立できるよう授業をする。なお、本授業の内容は、すべての実習の基本となるため、幼稚園教育要領をもとに5領域、子どもの発達、幼児理解、保護者対応、関わり方、環境設定等について基本的な内容を学習する。☑ 位置づけ・水準CE2143			
<b>達成目標</b>	①教育実習の意義と目的を理解することができる。☑ ②幼稚園教育の基本事項である5領域、子ども理解、環境設定、関わり方、保護者対応等について理解することができる。☑ ③教育実習Ⅱ（附属幼稚園の基礎実習）、教育実習Ⅲ（学外観察参加実習）に向けた事前学習と事後学習を主体的に進め、理解を深めることができる。☑ ④実習生としての姿勢や態度、ルールやマナーを理解し、積極的にコミュニケーションを図ることができる。☑ ※単位認定の最低基準は、内容の7割を理解していること。☑ ※ディプロマポリシーとの関係：保育の本質理解、子どもの発達の理解と支援の力、表現力とコミュニケーション能力			
<b>受講資格</b>	幼児教育学科1年「幼二種」免許取得希望者	<b>成績評価 方法</b>	課題・小テスト50% レポート・ノート50%	
<b>教科書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学びをいかすハンドブック(大学図書出版)☑</li> <li>・文部科学省幼稚園教育要領解説（フレーベル館）☑</li> <li>・厚生労働省保育所保育指針（フレーベル館）☑</li> <li>・内閣府幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(フレーベル館)☑</li> </ul> ☑ ☑ ☑			
<b>参考書</b>	・授業中に適宜資料を配布する。☑			
<b>学生への要望</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業・実習に関する資料を随時、配布する。配布された資料をファイリングすること☑</li> <li>・平日頃から基本的な生活態度を身につけ、目的意識をもって主体的意欲的に受講する。☑</li> <li>・欠席・遅刻はしないこと。☑</li> <li>・講義室の座席は、番号順とする。☑</li> <li>・授業連絡は実習掲示板で確認すること。☑</li> </ul> 【教育実習掲示：83年館3階 831講義室前】☑			
<b>オフィスタイム</b>	☑ ・柴田83年館2階 824研究室☑ (月曜日・木曜日10:00~12:00)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション☑	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習の意義、目的、概要、評価方法について理解する。</li> <li>・学外希望調査書を配布、説明する。</li> <li>・教科書、ノート、スケッチブックの活用や自学自習の方法など、受講方法について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本日の講義内容をノートにまとめる。</li> <li>・資料の整理をする。</li> <li>・幼稚園教育要領を読む。</li> </ul>	45
2	教育実習の理解① 「幼稚園教育要領の理解」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教育要領を読みながら、幼稚園教育について理解する。特に、5領域と保育のポイントについて理解する。</li> <li>・その上で、なぜ実習に行く必要があるのかについて、グループワークで考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本日の講義内容をノートにまとめる。</li> <li>・資料の整理をする。</li> <li>・幼稚園教育要領を読む。</li> </ul>	45
3	教育実習の理解② 「幼稚園教育要領から発達を理解する」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教育要領から3・4・5歳の発達と保育のポイントを理解する。</li> <li>・学外希望調査書の提出・</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本日の講義内容をノートにまとめる。</li> <li>・資料の整理をする。</li> <li>・3・4・5歳児の発達と保育活動について、テキストを参考に復習する。</li> </ul>	45
4	教育実習の準備① 「学外実習の準備」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学外幼稚園実習先への電話のかけ方、訪問の仕方について理解する。</li> <li>・学外幼稚園実習先へのお伺い文書を配布し、記入する。</li> <li>・「グループワーク」附属幼稚園での自己紹介方法を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークで検討した自己紹介方法について、スケッチブックやペーパーサート等を準備する。</li> </ul>	45

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	教育実習の準備② 「附属幼稚園の見学」	・附属幼稚園見学をする。 ・施設（保育室・園庭遊具）、職員、子どもの様子、保護者の様子等について確認する。 ・園長講話を聴き、園の方針を理解する。	・附属幼稚園で見学した内容をノートに整理する。☑	45
6	教育実習の準備③ 「附属幼稚園実習の準備」	・実習生としての心構えと実習生の視点 ・教育実習における日誌の意義を理解する。 ・記録のとり方、日誌の書き方、エピソードの書き方を理解する。	・本日の授業内容をノートにまとめる。☑ ・エピソード記録を書いてくる。	45
7	幼稚園教育の基礎① 「遊びを通した学びを考える」	・教室のできる遊びを体験する。 ・「グループワーク」体験した遊びから学びを探究する。	・本日の授業の内容を整理してノートに記入する。	45
8	幼稚園教育の基礎② 「3歳の発達と保育のポイント」	・3歳児の発達と関わり方を理解する。	・本日の授業の内容を整理してノートに記入する。	45
9	幼稚園教育の基礎③ 「4歳の発達と保育のポイント」	・4歳児の発達と関わり方を理解する。	・本日の授業の内容を整理してノートに記入する。	45
10	幼稚園教育の基礎③ 「5歳の発達と保育のポイント」	・5歳児の発達と関わり方を理解する。	・本日の授業の内容を整理してノートに記入する。	45
11	子ども理解①	・子どもを観察する視点を理解する。 ・子どもの行動と言葉を理解する。 ・子どもの関わり方を探究する。	・本日の授業の内容を整理してノートに記入する。	45
12	子ども理解②	・エピソード記録を理解する。 ・エピソード記録から子どもの姿を考察し、子どもの可能性についてグループで議論する	・本日の授業の内容を整理してノートに記入する。	45
13	子ども理解③	・「グループワーク」 トラブルなどの事例やエピソードから、当事者意識をもって子どもの関わり方を探究する。また、個別対応と一斉対応について考える。	・本日の授業の内容を整理してノートに記入する。 ・本授業を振り返り、学習内容を整理する。	45
14	まとめ	・本授業で学習したことを振り返り、まとめる。 ・ノートを提出する。	なし	0
15	学修成果の確認	・まとめの内容をフィードバックし、Ⅱ期教育実習Ⅲへの課題・問題を明確にする。 ・夏休みの課題「パペット・手袋人形等」を説明する。 ・1～5班は附属幼稚園実習のフィードバックを行う。	・夏休みの制作課題に取り組む	120

<b>科目名</b>	教育実習Ⅱ		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択
<b>担当教員</b>	柴田 卓,安部 高太郎,山上 裕子,仲西 真美子			
<b>開講期</b>	I			
<b>授業概要</b>	本授業は、幼稚園教育に関する基本事項（実習の意義・教員の役割・保育の実際・幼児の発達理解）の内容を踏まえた上で、教育実習Ⅱ（附属幼稚園の基礎実習）を通して、幼稚園教育の全体像を理解する。また、教育実習Ⅲ（学外 観察参加実習）に向けて、保育内容の理解と総合的な計画力の向上を目指し、保育表現力やコミュニケーション力を習得できるよう授業を実施する。☑ 位置づけ・水準CE2144			
<b>達成目標</b>	①附属幼稚園実習を通して、幼稚園教育の基本的事項について理解することができる。☑ ②附属幼稚園実習を通して、実習生としての姿勢や態度、ルールやマナー、保育者としてのコミュニケーション能力について理解することができる。☑ ③年齢に応じた保育内容を理解し、保育計画を立てることができる。☑ ④保育計画に基づき、保育の方法や技術を習得し、表現することができる。☑ ※単位認定の最低基準は、内容の7割を理解していること。☑ ※ディプロマポリシーとの関係：保育の内容理解と総合的計画力、保育の方法と技術力、表現力とコミュニケーション能力			
<b>受講資格</b>	幼児教育学科☑ 教職課程履修者	<b>成績評価 方法</b>	実習園からの評価40% 実習日誌20% レポート・ノート40%	
<b>教科書</b>	学びをいかすハンドブック（大学出版）			
<b>参考書</b>	・文部科学省2018『幼稚園教育要領解説』フレーベル館☑ ・厚生労働省2018『保育所保育指針』フレーベル館☑ ・内閣府2018『幼保連携型認定子ども園教育・保育解説 フレーベル館☑ ・授業中に適宜資料を配布する。			
<b>学生への要望</b>	☑ ・平日頃から基本的な生活習慣を身につけ、目的意識や課題意識を持って、意欲的に実習を行えるようにすること。☑ ・実習のフィードバックは各クラスで班単位で行う。			
<b>オフィスタイム</b>	・柴田 8 3 年館2階 824研究室（月曜日・木曜日10:00~12:00）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 「教育実習の概要を理解する」	・授業の概要と評価方法を確認する。 ・学外幼稚園実習希望園を確認する。 ・学外実習について説明する。	・本日の講義内容をノートにまとめる。 ・資料の整理をする。	45
2	事前指導① 「実践演習」	・グループワーク「夏休みの課題発表」 ・発表内容を再検討 ・発達段階を踏まえた保育活動の違い	・本日の実践に対する振り返りをノートにまとめ、自身の課題を明確化する。	45
3	事前指導② 「3歳児の保育活動を理解する」	・グループワーク 「3歳児の保育活動事例の収集」 ・音図体の遊び、絵本等を探求する	・収集した保育活動事例をノートに整理する。	45
4	事前指導③ 「3歳児の保育活動を計画する」	・グループワーク 「3歳児の保育活動計画作成」 「導入方法の検討」	・指導計画を作成する。	45
5	事前指導④ 「4歳児の保育活動を理解する」	・グループワーク 「4歳児の保育活動事例の収集」 ・音図体の遊び、絵本等を探求する	・収集した保育活動事例をノートに整理する。	45
6	事前指導⑤ 「4歳児の保育活動を計画する」	・グループワーク 「4歳児の保育活動計画の作成」 「導入方法の検討」	・指導計画を作成する。	45
7	事前指導⑥ 「5歳児の保育活動を理解する」	・グループワーク 「5歳児の保育活動事例の収集」 ・音図体の遊び、絵本等を探求する	・収集した保育活動事例をノートに整理する。	45
8	事前指導⑦ 「5歳児の保育活動を計画する」	・グループワーク 「5歳児の保育活動計画の作成」 「導入方法の検討」	・指導計画を作成する。	45
9	事前指導⑧ 「実習日誌の記入方法を理解する」	・実習日誌の記入方法を理解する。 書き言葉と話し言葉の違い 子どもの様子を表現する言葉の使い方	・本日の講義内容をノートにまとめる。 ・資料の整理をする。	45
10	事前指導⑨ 「実習日誌を記入する」	・グループワーク 実習日誌の記入と評価 園により記入が異なることを理解する ・実習日誌を記入してみる。	・本日の講義内容をノートにまとめる。 ・資料の整理をする。	45

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	学外実習の準備・指導① 「附属幼稚園実習の振り返り」	・実習関係書類を配布し、その内容を説明する。 (実習手引き・日誌・出勤表・自動車通勤願い) ・グループワーク「附属実習の振り返り」 振り返りから自身の課題と解決策を計画する。	・附属幼稚園実習の振り返りから自身の課題を明確化する。	45
12	附属幼稚園実習フィードバック	各クラス班ごとに附属幼稚園実習のフィードバックを行う。  ※第1班～5班は7月に実施済み	・学外実習に向けての目標を設定する。	45
13	学外実習の準備・指導② 「実習生の姿勢とモラルを理解する」	・実習の手引きを理解する ・実習における学生の姿勢（礼儀・モラル） ・積極性とコミュニケーションを考える ・冬休みの課題「手遊び」を3つ習得する	・本日の講義内容をノートにまとめる。 ・資料の整理をする。	45
14	学外実習の準備・指導③ 「各種書類確認と緊急時対応の確認」	・実習を通して学ぶことを再確認する ・各書類の清書、お礼状の書き方 ・緊急時の対応確認（報連相の方法）	・本日の授業内の課題を学習・記入する	45
15	まとめ	・まとめと実習の振り返り「レポート記入」 ・Ⅲ期「教育実習Ⅲ」事後指導の確認 ・春休みの制作課題「エプロンシアターなど」	・春休みの課題を制作する。	120



<b>科目名</b>	教育実習Ⅲ	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年1単位 選択	
<b>担当教員</b>	柴田 卓			
<b>開講期</b>	Ⅱ			
<b>授業概要</b>	本授業は、幼稚園教育に関する基本事項（実習の意義・保育の実際・幼児の発達理解）の内容を踏まえた上で、教育実習Ⅲ（学外幼稚園・観察参加実習）を通し、幼稚園教育の全体像と保育者の役割を理解する。また、教育実習Ⅳに向けて、具体的な保育内容の計画・展開・評価の方法を習得するため、保育表現技術やコミュニケーション能力を探究する。☒ 位置づけ・水準CE2145			
<b>達成目標</b>	①学外幼稚園実習を通して、幼稚園教育の基本事項について理解することができる。☒ ②学外幼稚園実習を通して、保育者の役割について理解することができる。☒ ③年齢に応じた保育内容を理解し、保育内容を具体的に計画・立案することができる。☒ ④保育計画に基づき、保育表現技術を探究し、豊かに保育活動を展開することができる。☒ ※単位認定の最低基準は、内容の7割を理解していること。☒ ※ディプロマポリシーとの関係：保育の内容理解と総合的計画力、保育の方法と技術力、表現力とコミュニケーション能力			
<b>受講資格</b>	幼児教育学科1年☒ 教職課程履修者	<b>成績評価 方法</b>	・実習園からの評価40% ・実習日誌20% ・課題とレポート40%	
<b>教科書</b>	学びをいかすハンドブック（大学出版）			
<b>参考書</b>	☒ ・文部科学省2018『幼稚園教育要領解説』フレーベル館☒ ・厚生労働省2018『保育所保育指針』フレーベル館☒ ・内閣府2018『幼保連携型認定子ども園教育・保育解説』フレーベル館☒ ・授業中に適宜資料を配布する。☒			
<b>学生への要望</b>	・平日頃から基本的な生活習慣を身につけ、目的意識や課題意識を持って、意欲的に実習に臨むこと。☒ ・事前指導(Ⅱ期)、事後指導(Ⅲ期)を受講すること。☒			
<b>オフィスタイム</b>	☒ ・柴田83年館2階 824研究室☒ (月曜日・木曜日10:00~12:00)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション（大教室）	・オリエンテーション ・教材制作（エプロンシアター等）の説明 ・学外実習のフィードバック(各クラス個人毎)① ・グループワーク① 「学外実習の振り返り 困難編」	・学外実習の振り返りをノートにまとめる。	45
2	学外実習フィードバック 学外実習振り返り	・学外実習のフィードバック(各クラス個人毎)② ・グループワーク② 「学外実習の振り返り 学び編」	・学外実習の振り返りをノートにまとめる。	45
3	指導計画の作成と教材制作①	・グループワーク 「グループで教材の発表・展開の検討」	・発表方法の改善策をノートにまとめる。	45
4	指導計画の作成と教材制作②	・3、4、5歳児の指導計画を作成し、教材を制作する。	・教材を探究し、ノートにまとめる。	45
5	指導計画の作成と教材制作③	・3、4、5歳児の指導計画を作成し、教材を制作する。	・教材を探究し、ノートにまとめる。	45
6	実習事前準備①	・日誌等書類配布 ・日誌の書き方確認 ・実習の手引き確認	・本日学習したことをノートにまとめる。	45
7	実習事前準備②	・実習の心構え ・実習におけるモラル ・緊急時対応の確認	・本日学習したことをノートにまとめる。	45
8	学習成果の振り返り 日誌の提出	・本実習の振り返りをレポートにまとめる。	・保育実習に向けて、課題と準備物を整理する。	45

<b>科目名</b>	教育実習Ⅳ		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 2年2単位 選択
<b>担当教員</b>	柴田 卓,安部 高太郎,山上 裕子,仲西 真美子			
<b>開講期</b>	Ⅲ			
<b>授業概要</b>	本授業は、教育実習Ⅲ（学外幼稚園・観察参加実習）の内容を踏まえた上で、自身の課題や問題を明確化する。また、教育実習Ⅳに向けて具体的な保育内容の計画・展開・評価方法を主体的に探求する。教育実習Ⅳの後は、グループワークで実習中の指導計画・日誌・態度・生活・職員とのコミュニケーションなどを振り返り、改善策を検討する。2年間の学びを振り返り、改めて保育の魅力や理想とする保育者像を探求する。☒ 位置づけ・水準CE2246			
<b>達成目標</b>	①学外幼稚園実習を通して、幼稚園教育について理解することができる。☒ ②学外幼稚園実習を通して、保育者の役割について理解することができる。☒ ③年齢に応じた保育内容を理解し、保育内容を具体的に計画・立案・展開することができる。☒ ④2年間の学びを振り返り、自身の課題や問題を客観視することができ、改善に向けて具体的に行動すること、学び続けることができる。☒ ※単位認定の最低基準は、内容の7割を理解していること。☒ ※ディプロマポリシーとの関係：保育の内容理解と総合的計画力、保育の方法と技術力、表現力とコミュニケーション能力、問題解決力			
<b>受講資格</b>	幼児教育学科2年☒ 教職課程履修者	<b>成績評価 方法</b>	・実習園からの評価40％・日誌20％・課題・レポート・発表40％	
<b>教科書</b>	学びをいかすハンドブック（大学出版）			
<b>参考書</b>	・文部科学省2018『幼稚園教育要領解説』フレーベル館☒ ・厚生労働省2018『保育所保育指針』フレーベル館☒ ・内閣府2018『幼保連携型認定子ども園教育・保育解説』フレーベル館☒ ・授業中に適宜資料を配布する。			
<b>学生への要望</b>	・平日頃から基本的な生活習慣を身につけ、目的意識や課題意識を持って、意欲的・積極的に実習を行☒うこと。☒ ☒ ・学外実習（本実習）の事前・事後指導を受けることを条件とする			
<b>オフィスタイム</b>	・柴田83年館2階 824研究室☒ （月曜日・木曜日10:00~12:00）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 学外実習フィードバック ※各クラス数人ずつ	・オリエンテーション ・ラウンドテーブルの説明 ・ラウンドテーブルのグループ分け ・学外実習フィードバック（個人）	・学外実習のフィードバックを整理する。	45
2	学外実習フィードバック グループワーク 「学外実習の振り返り」①	・学外実習のフィードバック(個人) ・ラウンドテーブル①	・学外実習のフィードバックを整理する。	45
3	学外実習フィードバック グループワーク 「学外実習の振り返り」②	・学外実習のフィードバック(個人) ・ラウンドテーブル②	・学外実習のフィードバックを整理する。	45
4	学外実習フィードバック グループワーク 「学外実習の振り返り」③	・学外実習のフィードバック(個人) ・ラウンドテーブル③ポスター制作	・学外実習のフィードバックを整理する。	45
5	学外実習フィードバック グループワーク 「学外実習の振り返り」④	・学外実習のフィードバック(個人) ・ラウンドテーブル④1年制へ向けた実習報告ポスター発表	・効果的な発表方法を考え練習する。	45
6	幼稚園教諭免許書類等作成	・幼稚園教諭申請についての書類や記入の仕方の説明をする。 ・書類の作成 ※印鑑・筆記用具持参	・本日の授業内容をまとめる。	45
7	教育実習総まとめ	・レポート課題 「実習から学んだこと、理想とする保育者」	・本日の授業内容をまとめる。	45
8	主任講話	・講話演題 「社会人として、保育者としての心構え」	本日の授業内の課題を学習・記入する	45

<b>科目名</b>	保育実習指導Ⅰ		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	小林 徹,安部 高太郎,沼田 春香,宗像 佑華			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	1. 保育実習の意義・目的を理解する。☑ 2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。☑ 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。☑ 4. 実習の保育計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。☑ 課題等の返却時に授業内でフィードバックを行う。☑ ☑ 位置づけ・水準 CE2147☑			
<b>達成目標</b>	1. 保育実習の意義・目的・内容を理解し、自らの課題を明確にすることができたか。☑ 2. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解することができたか。☑ 3. 実習の保育計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解することができたか。☑ 単位認定の最低基準は、内容の7割が理解できていること。☑ ディプロマ・ポリシーとの関係：保育の内容理解と総合的計画力、保育の方法と技術力、表現力とコミュニケーション能力			
<b>受講資格</b>	幼児教育学科1年	<b>成績評価 方法</b>	平常点50点（提出物の有無、遅刻や授業態度の減点）☑ 授業内テストの成績、提出物の内容50点	
<b>教科書</b>	厚生労働省編『保育所保育指針解説書』フレーベル館,2018☑ 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館,2018			
<b>参考書</b>	保育実習の手引き（2020年度版）☑ 福島県保育実習施設（2020年度）いずれも福島県保育者養成校連絡会編			
<b>学生への要望</b>	本授業はⅠ期に8コマ、Ⅱ期に8コマ（あわせて2単位）、保育実習の事前指導として開設される。☑ 保育実習（保育所・施設）は、保育士資格取得に関わるたいへん重要な科目であり、本授業内容を正確に理解しない場合、資格が取得できない危険性がある。本授業の受講に際しては、慎重かつ真摯な態度が不可欠である。☑			
<b>オフィスタイム</b>	毎週火曜16：10～17：05、822研究室、それ以外は個別相談（cobalt@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	保育実習の意義①	オリエンテーション、実習の目的、保育実習とは、保育所実習の概要、実習希望先の確認	予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。小テストのための学習。	30
2	実習の内容と課題の明確化①	実習の内容および課題、実習希望先の調整	予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。小テストのための学習。	30
3	実習についての留意事項	子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務・信用失墜行為の禁止、個人情報保護法と保育、実習生に求められる情報管理、実習希望先の決定	予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。小テストのための学習。	30
4	保育所実習の実際①	保育所実習の留意事項および保育所の基本的な理解と、実習場面における子どもや職員との関わりについて☑	予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。小テストのための学習。	30
5	実習の記録①	実習における実践、観察、記録について、実習日誌の書き方 ☑	予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。小テストのための学習。	30
6	実習の記録②	実習における実践、観察、記録について、実習日誌の書き方 ☑	予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。小テストのための学習。	30
7	実習の計画①	実習における保育計画（指導案）の作成について ☑	予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。小テストのための学習。	30
8	実習の計画②	実習における保育計画（指導案）の作成について ☑	予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。	30
9	保育実習の意義②	オリエンテーション、実習の目的、保育実習とは、施設実習の概要	予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。小テストのための学習。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	実習の内容と課題の明確化②	施設実習における心構え・準備について、実習施設別の基本的な特徴の理解、実習希望先の確認	予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。小テストのための学習。	30
11	施設実習と守秘義務・個人情報の保護	実習の内容と日誌、ケース記録の書き方の基本、守秘義務を考慮した日誌の書き方☑実習希望先の調整	予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。小テストのための学習。	30
12	施設実習の実際	実習の留意事項について☑施設実習の基本的な理解と、実習場面における園生や職員との関わりについて、実習希望先の決定	予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。小テストのための学習。	30
13	保育所実習事前指導①	実習生としての心構え☑実習日誌の配布、誓約書について	予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。小テストのための学習。	30
14	保育所実習事前指導②	実習の課題の明確化☑実習日誌の記入、保菌検査・抗体検査について	予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。小テストのための学習。	30
15	保育所実習の実際②	保育所実習の留意事項および保育所の基本的な理解と、実習場面における子どもや職員との関わりについて☑ (外部の専門家を講師に予定している)	予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。小テストのための学習。	30
16	保育所実習の実際③	保育所実習の留意事項および保育所の基本的な理解と、実習場面における子どもや職員との関わりについて☑ (外部の専門家を講師に予定している)	予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。	30

科目名	保育実習指導Ⅱ又はⅢ		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員	小林 徹,安部 高太郎,沼田 春香,宗像 佑華			
開講期	Ⅲ			
授業概要	1. 保育実習の意義・目的を理解する。☑ 2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。☑ 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。☑ 4. 実習の保育計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。☑ 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、課題や学習目標を明確にする。☑ 課題等の返却時に授業内でフィードバックを行う。☑ ☑ 位置づけ・水準 CE2248☑			
達成目標	1. 保育実習の意義・目的・内容を理解し、自らの課題を明確にすることができたか。☑ 2. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解することができたか。☑ 3. 実習の保育計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解することができたか。☑ 単位認定の最低基準は、内容の7割が理解できていること。☑ ディプロマ・ポリシーとの関係：保育の内容理解と総合的計画力、保育の方法と技術力、表現力とコミュニケーション能力☑			
受講資格	幼児教育学科 2年	成績評価 方法	平常点50点（提出物の有無、遅刻や授業態度の減点）授業内テストの成績、提出物の内容50点	
教科書	厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル館,2018。☑ 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館,2018☑ 適宜、資料等配布。			
参考書	保育実習の手引き（2019年度版）、福島県保育実習施設（2019年度）いずれも福島県保育者養成校連絡会編			
学生への要望	本授業はⅢ期に8コマ（1単位）、保育実習の事前指導として開設される。保育実習（保育所・施設）は、保育士資格取得に関わるたいへん重要な科目であり、本授業内容を正確に理解しない場合、資格が取得できない危険性がある。本授業の受講に際しては、慎重かつ真摯な態度が不可欠である。☑ ☑			
オフィスタイム	毎週火曜16：10-17：05、822研究室。それ以外は個別相談（cobalt@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	保育実習の振り返り①	オリエンテーション、本授業の目的、保育所実習の概要、反省・感想	予習：当日の内容をテキスト等で確認する。 復習：授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
2	保育実習の振り返り②	保育所実習の概要、反省・感想	予習：当日の内容をテキスト等で確認する。 復習：授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
3	実習で学んだ重要事項①	子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務・信用失墜行為の禁止、個人情報保護法と保育、実習生に求められる情報管理	予習：当日の内容をテキスト等で確認する。 復習：授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
4	実習で学んだ重要事項②	保育所実習における保育計画と実践、観察、記録及び評価、実習の内容と日誌、ケース記録の書き方の基本、守秘義務を考慮した日誌の書き方。	予習：当日の内容をテキスト等で確認する。 復習：授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
5	福祉職として働くために①	保育所実習の留意事項および保育所の基本的な理解と実習場面における子どもや職員との関わりについて。☑ 実習することと実際に保育所に勤務することの接続と困難点。（授業担当者に加えてゲストスピーカーを予定）☑	予習：当日の内容をテキスト等で確認する。 復習：授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
6	福祉職として働くために②	施設実習の基本的な理解と実習場面における園生や職員との関わりについて。実習することと実際に保育所に勤務することの接続と困難点。（授業担当者に加えてゲストスピーカーを予定）	予習：当日の内容をテキスト等で確認する。 復習：授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	保育所実習の実際①	保育所実習の留意事項および保育所の基本的な理解と実習場面における子どもや職員との関わりについて。☑授業担当者に加えてゲストスピーカーを予定)	予習：当日の内容をテキスト等で確認する。 復習：授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
8	保育所実習の実際②	保育所実習の留意事項および保育所の基本的な理解と、実習場面における子どもや職員との関わりについて☑授業担当者に加えてゲストスピーカーを予定)	予習：当日の内容をテキスト等で確認する。 復習：授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

<b>科目名</b>	保育実習Ⅰ-1	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年2単位 選択
<b>担当教員</b>	小林 徹		
<b>開講期</b>	Ⅱ		
<b>授業概要</b>	1 保育所の役割や機能を具体的に理解する。 <input checked="" type="checkbox"/> 2 観察や、子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 <input checked="" type="checkbox"/> 3 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 <input checked="" type="checkbox"/> 5 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。 <input checked="" type="checkbox"/> 6 実習生としてふさわしい適切な態度で実習に臨む。 <input checked="" type="checkbox"/> 実習終了後、事後指導の時間を設定しフィードバックを行う。 <input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 位置づけ・水準 CE2149		
<b>達成目標</b>	1 保育所の役割や機能、保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解できたか。 <input checked="" type="checkbox"/> 2 子どもへの理解を深め、子どもの保育及び保護者への支援について理解できたか。 <input checked="" type="checkbox"/> 3 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解できたか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 実習生としてふさわしい適切な態度で実習に臨めたか。 <input checked="" type="checkbox"/> 単位認定の最低基準は、内容の7割が理解できていること。 <input checked="" type="checkbox"/> ディプロマ・ポリシーとの関係：保育の内容理解と総合的計画力、子どもの発達の理解と支援の力、保育の方法と技術力、表現力とコミュニケーション能力、問題解決力、豊かな人間性と規範意識		
<b>受講資格</b>	幼児教育学科	<b>成績評価 方法</b>	大学による評価 50% 福祉施設による実習の評価 50% <input checked="" type="checkbox"/>
<b>教科書</b>	保育実習の手引き（2020年度版）福島県保育者養成校連絡会編 <input checked="" type="checkbox"/>		
<b>参考書</b>	特に指定しない		
<b>学生への要望</b>	実習は、実際の保育現場で行われるので、社会人のマナーを厳守し、緊張感と感謝の心をもって取り組むこと。保育実習（保育所・施設）は、保育士資格取得に関わるたいへん重要な科目であり、事前指導の内容を正確に理解しない場合、資格が取得できない危険性がある。実習に際しては、慎重かつ真摯な態度が不可欠である。		
<b>オフィスタイム</b>	毎週火曜・木曜16：10～17：05、822研究室。それ以外は個別相談（cobalt@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	保育所実習の内容	1. 保育所の役割や機能の具体的展開 <input checked="" type="checkbox"/> ・ 養護と教育が一体となって行われる保育 <input checked="" type="checkbox"/> ・ 保育所の社会的役割と責任	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
2	保育所実習の内容	2. 観察に基づく保育理解 <input checked="" type="checkbox"/> ・ 子どもの心身の状態や活動の記録 <input checked="" type="checkbox"/> ・ 保育士等の動きや実践の観察 <input checked="" type="checkbox"/> ・ 保育所の生活の流れや展開の把握	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
3	保育所実習の内容	3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 <input checked="" type="checkbox"/> ・ 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 <input checked="" type="checkbox"/> ・ 入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援 <input checked="" type="checkbox"/> ・ 地域社会との連携	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
4	保育所実習の内容	4. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 <input checked="" type="checkbox"/> ・ 保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育課程の理解 <input checked="" type="checkbox"/> ・ 作成した指導計画に基づく保育実践と評価 <input checked="" type="checkbox"/>	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
5	保育所実習の内容	5. 保育士の業務と職業倫理 <input checked="" type="checkbox"/> ・ 多様な保育の展開と保育士の業務 <input checked="" type="checkbox"/> ・ 多様な保育の展開と保育士の職業倫理	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
6	保育所実習の内容	6. 自己の課題の明確化	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
7	実習生としてふさわしい適切な態度	・ 意欲・積極性 <input checked="" type="checkbox"/> ・ 責任感 <input checked="" type="checkbox"/> ・ 探究心 <input checked="" type="checkbox"/> ・ 協調性	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
---	----	------	------	------



科目名	保育実習Ⅰ-2	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択
担当教員	小林 徹,宗像 佑華		
開講期	Ⅲ		
授業概要	1 児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能を具体的に理解する。 ☑ 2 観察や、子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。☑ 3 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。☑ 4 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。☑ 5 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。☑ 6 実習生としてふさわしい適切な態度で実習に臨む。☑ 実習終了後、事後指導の時間を設定しフィードバックを行う。 ☑ ☑ 位置づけ・水準 CE2250		
達成目標	1 児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能、保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解できたか。 ☑ 2 利用者への理解を深め、支援について理解できたか。☑ 3 支援の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解できたか。☑ 4 実習生としてふさわしい適切な態度で実習に臨めたか。☑ 単位認定の最低基準は、内容の7割が理解できていること。☑ ディプロマ・ポリシーとの関係：保育の内容理解と総合的計画力、子どもの発達の理解と支援の力、保育の方法と技術力、表現力とコミュニケーション能力、問題解決力、豊かな人間性と規範意識		
受講資格	幼児教育学科	成績評価 方法	大学による評価 50%☑ 福祉施設による実習の評価 50%☑
教科書	保育実習の手引き（2019年度版）☑ 福島県保育実習施設（2019年度版）☑ いずれも福島県保育者養成校連絡会編☑		
参考書	特に指定しない		
学生への要望	実習は、実際の保育現場で行われるので、社会人のマナーを厳守し、緊張感と感謝の心をもって取り組むこと。☑ 保育実習（保育所・施設）は、保育士資格取得に関わるたいへん重要な科目であり、事前指導の内容を正確に理解しない場合、資格が取得できない危険性がある。実習に際しては、慎重かつ真摯な態度が不可欠である。		
オフィスタイム	毎週火曜16：10-17：05、822研究室☑ それ以外は個別相談（cobalt@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における実習の内容	1. 施設の役割と機能☑ ・施設の生活と一日の流れ☑ ・施設の役割と機能	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
2	居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における実習の内容	2. 利用者の理解☑ ・利用者の観察とその理解☑ ・個々の状態に応じた援助やかかわり	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
3	居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における実習の内容	3. 養護内容・生活環境☑ ・計画に基づく活動や援助☑ ・利用者の心身の状態に応じた対応☑ ・利用者の活動と生活の環境☑ ・健康管理、安全対策の理解	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
4	居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における実習の内容	4. 計画と記録☑ ・支援計画の理解と活用☑ ・記録に基づく省察・自己評価	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
5	居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における実習の内容	5. 専門職としての保育士の役割と倫理☑ ・保育士の業務内容☑ ・職員間の役割分担や連携☑ ・保育士の役割と職業倫理	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
6	実習生としてふさわしい適切な態度	・意欲・積極性☑ ・責任感☑ ・探究心☑ ・協調性	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60

<b>科目名</b>	保育実習Ⅱ	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	安部 高太郎,沼田 春香		
<b>開講期</b>	Ⅲ		
<b>授業概要</b>	1 保育所の役割や機能を具体的に理解する。 <input checked="" type="checkbox"/> 2 観察や、子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 <input checked="" type="checkbox"/> 3 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 <input checked="" type="checkbox"/> 5 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。 <input checked="" type="checkbox"/> 6 実習生としてふさわしい適切な態度で実習に臨む。 <input checked="" type="checkbox"/> 実習終了後、事後指導の時間を設定し、フィードバックを行う。 <input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> ○位置づけ・水準 CE2251		
<b>達成目標</b>	1 保育所の役割や機能、保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解できたか。 <input checked="" type="checkbox"/> 2 子どもへの理解を深め、子どもの保育及び保護者への支援について理解できたか。 <input checked="" type="checkbox"/> 3 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解できたか。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 実習生としてふさわしい適切な態度で実習に臨めたか。 <input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> ○単位認定の最低基準は、内容の7割が理解できていること。 <input checked="" type="checkbox"/> ○ディプロマ・ポリシーとの関係：保育の内容と理解と総合的な計画力、子どもの発達の理解と支援の力、保育の方法と技術力、表現力とコミュニケーション能力、問題解決力、豊かな人間性と規範意識。		
<b>受講資格</b>	幼児教育学科	<b>成績評価 方法</b>	大学による評価 50% 福祉施設による実習の評価 50%
<b>教科書</b>	福島県保育者養成校連絡会 編 (2019)『保育実習の手引き』(2019年度版)。		
<b>参考書</b>	特に指定しない。		
<b>学生への要望</b>	実習は、実際の保育現場で行われるので、社会人のマナーを厳守し、緊張感と感謝の心をもって取り組むこと。保育実習（保育所・施設）は、保育士資格取得に関わるたいへん重要な科目であり、事前指導の内容を正確に理解しない場合、資格が取得できない危険性がある。実習に際しては、慎重かつ真摯な態度が不可欠である。		
<b>オフィスタイト</b>	・火曜日V限（16：10～17：40） <input checked="" type="checkbox"/> ・水曜日V限（16：10～17：40） <input checked="" type="checkbox"/> いずれも、83年館2階の安部研究室（821研究室）とします。そのほかの時間帯を希望する場合は、予め、安部（k-abe@koriyama-kgc.ac.jp）までメールで連絡を入れてください。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	保育所実習の内容	1. 保育所の役割や機能の具体的展開 <input checked="" type="checkbox"/> ・養護と教育が一体となって行われる保育 <input checked="" type="checkbox"/> ・保育所の社会的役割と責任	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
2	保育所実習の内容	2. 観察に基づく保育理解 <input checked="" type="checkbox"/> ・子どもの心身の状態や活動の記録 <input checked="" type="checkbox"/> ・保育士等の動きや実践の観察 <input checked="" type="checkbox"/> ・保育所の生活の流れや展開の把握	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
3	保育所実習の内容	3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 <input checked="" type="checkbox"/> ・環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に 行う保育の理解 <input checked="" type="checkbox"/> ・入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て 家庭への支援 <input checked="" type="checkbox"/> ・地域社会との連携	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
4	保育所実習の内容	4. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 <input checked="" type="checkbox"/> ・保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価 と保育課程の理解 <input checked="" type="checkbox"/> ・作成した指導計画に基づく保育実践と評価 <input checked="" type="checkbox"/>	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
5	保育所実習の内容	5. 保育士の業務と職業倫理 <input checked="" type="checkbox"/> ・多様な保育の展開と保育士の業務 <input checked="" type="checkbox"/> ・多様な保育の展開と保育士の職業倫理	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
6	保育所実習の内容	6. 自己の課題の明確化	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	実習生としてふさわしい適切な態度	・意欲・積極性☑ ・責任感☑ ・探究心☑ ・協調性	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60

<b>科目名</b>	保育実習Ⅲ		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	小林 徹,宗像 佑華			
<b>開講期</b>	Ⅲ			
<b>授業概要</b>	1 児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して理解を深める。 ☑ 2 家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。 ☑ 3 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 ☑ 4 保育士としての自己の課題を明確化する。 ☑ 実習終了後、事後指導の時間を設定しフィードバックを行う。 ☑ ☑ 位置づけ・水準 CE2252			
<b>達成目標</b>	1 児童福祉施設等の役割や機能、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力について実践を通して理解を深めることができたか。 ☑ 2 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解し、自己の課題を明確にできたか。 ☑ 単位認定の最低基準は、内容の7割が理解できていること。 ☑ ディプロマ・ポリシーとの関係：保育の内容理解と総合的計画力、子どもの発達の理解と支援の力、保育の方法と技術力、表現力とコミュニケーション能力、問題解決力、豊かな人間性と規範意識 ☑			
<b>受講資格</b>	幼児教育学科	<b>成績評価 方法</b>	大学による評価 50% ☑ 福祉施設による実習の評価 50% ☑	
<b>教科書</b>	保育実習の手引き（2019年度版） ☑ 福島県保育実習施設（2019年度版） ☑ いずれも福島県保育者養成校連絡会編 ☑			
<b>参考書</b>				
<b>学生への要望</b>	実習は、実際の施設で行われるので、社会人のマナーを厳守し、緊張感と感謝の心をもって取り組むこと。 ☑ 保育実習（保育所・施設）は、保育士資格取得に関わるたいへん重要な科目であり、事前指導の内容を正確に理解しない場合、資格が取得できない危険性がある。実習に際しては、慎重かつ真摯な態度が不可欠である。			
<b>オフィスタイム</b>	毎週火曜16：10-17：05、822研究室 ☑ それ以外は個別相談（cobalt@koryama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能	児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して理解を深める。	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
2	施設における支援の実際	1,受容し、共感する態度 ☑ 2,個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解 ☑ 3,個別支援計画の作成と実践 ☑ 4,子どもの家族への支援と対応 ☑ 5,多様な専門職との連携 ☑ 6,地域社会との連携	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
3	保育士の多様な業務と職業倫理	保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
4	保育士としての自己の課題を明確化	保育士としての自己の課題を明確化する。	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
5	実習生としてふさわしい適切な態度	・意欲・積極性 ☑ ・責任感 ☑ ・探究心 ☑ ・協調性 ☑	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60

<b>科目名</b>	教職・保育実践演習	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択	
<b>担当教員</b>	富士盛 公年			
<b>開講期</b>	IV			
<b>授業概要</b>	建学の精神である「尊敬」「責任」「自由」の実践を通しての、「個の確立と他との協調」を教育目標とする本学園での教職実践演習では、ここに位置づけて次の目標を目指す。☒			
<b>達成目標</b>	☒ ①現場の先生方の話を聞いてそれを理解し、実践的な見地から自分なりの考えを述べるができる。☒ ②教育実習を終えて、現場で通用できる指導案を書くことができる。☒ ③今までの学習を反省総括し、実践的な教育力を自分につける。☒			
<b>受講資格</b>	最終学年の後期	<b>成績評価 方法</b>	特別講義の感想	40点☒
			発表・プレゼンテーションの評価	30点☒
			まとめのレポート	30点
<b>教科書</b>	授業でプリントを配布			
<b>参考書</b>	授業中に紹介する			
<b>学生への要望</b>	教職の授業の中で最後になる本授業では、今までの講義、演習、実習などを通じて学習したことを総括し、自分に不足した部分をさらに学ぶことになる。☒ 実践的でまとめになるこの授業を通じて、現場の教員となって課題に直面した時にそれを解決する力を身につけてほしい。そのためにも積極的に授業に参加し、発表や話し合いで自分の力を高めることを学生に要望する。☒ 事前にはあらかじめ配布済みのプリントを読み、関連の事例などについてまとめておくこと。事後にはコメントを提出してよく復習すること。			
<b>オフィスタイト</b>	授業の責任者 富士盛研究室(833) 火曜日午後4時から5時 水曜日午後4時から5時☒			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーションと履修カルテの指導	第1回 「オリエンテーションと履修カルテの指導」 ☒ 授業についてのオリエンテーションと履修カルテの記入についての指導を各クラスごとに行う。担当富士盛,折笠、草野、伊藤☒	教職についての自己分析をレポートする。	60
2	①課題説明と討議	第2回 クラス4展開①課題説明と討議☒ A組猪股 B組草野 C組富士盛( D組伊藤☒ ☒	それぞれの課題について準備する。	60
3	①課題説明と討議	第3回 クラス4展開①課題説明と討議☒ B組猪股 C組草野 D組富士盛 A組伊藤☒	それぞれの課題について準備する。	60
4	①課題説明と討議	第4回 クラス4展開①課題説明と討議☒ C組猪股 D組草野 A組富士盛 B組伊藤☒	それぞれの課題について準備する。	60
5	①課題説明と討議	第5回 クラス4展開①課題説明と討議☒ D組猪股 A組草野 B組富士盛 C組伊藤☒	それぞれの課題について準備する。	60
6	②討議とレポート作成	第6回 クラス4展開②討議とレポート作成☒ A組猪股 B組草野 C組富士盛 D組伊藤☒	それぞれの課題について準備する。	60
7	②討議とレポート作成	第7回 クラス4展開②討議とレポート作成☒ B組猪股 C組草野 D組富士盛 A組伊藤☒ ☒	それぞれの課題について準備する。	60
8	②討議とレポート作成	第8回 クラス4展開②討議とレポート作成☒ C組猪股 D組草野 A組富士盛 B組伊藤☒	それぞれの課題について準備する。	60
9	②討議とレポート作成	第9回 クラス4展開②討議とレポート作成☒ D組猪股 A組草野 B組富士盛 C組伊藤☒	それぞれの課題について準備する。	60
10	③事例研究	第10回 郡山市内の幼稚園教員から教職への期待、役割、態度を学ぶ☒	ポートフォリオをまとめ、さらに考察を深める。	60
11	③事例研究	第11回 郡山市内の幼稚園教員から教職への期待、役割、態度を学ぶ☒	ポートフォリオをまとめ、さらに考察を深める。	60
12	③事例研究	第12回 保育園と連携して保育者としての役割、態度を学ぶ	ポートフォリオをまとめ、さらに考察を深める。	60
13	④事例研究	第13回 附属幼稚園と連携して事例研究☒	ポートフォリオをまとめ、さらに考察を深める。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	演習「現場への教職としての態度を学ぶ実践研究」	第14回 附属幼稚園と連携して事例研究☑	レポートをまとめる。	60
15	まとめ	第15回 履修カルテの最終確認、レポート提出 ☑ 「教育職についての理解」教育職に求める資質・能力を持っているか。自己理解と自己反省を促すディスカッションを行い、履修カルテを完成させ、最終レポートを提出する。☑ 担当 富士盛 折笠、草野、伊藤☑	レポートをまとめる。	90

<b>科目名</b>	ピアノⅡ（主科）		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	横溝 聡子			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	ピアノ演奏の基礎的技術の習得と豊かな表現力を体得することを目的とする。練習曲やバロックから近現代までの様々な曲を通して音楽理論や作品の構成や様式を理解し、表現するための技術や演奏法を学ぶ。加えて幼児曲の弾き歌いの伴奏法を学び、保育者としての実践力を養う。授業は個々のレベルに合わせて展開し、アンサンブルやディスカッションを通して問題解決能力やコミュニケーション能力を高め、自発的で豊かな演奏表現ができることを目指す。各試験後、個々に時間を設定しフィードバックを行います。☒ 位置づけ・水準 CE2254☒			
<b>達成目標</b>	目標は ①様々な楽曲の学習を通して、曲の構成や様式、演奏法を理解できている。☒ ②ピアノの基本的な演奏技術が身についている。☒ ③自発的で豊かな演奏表現ができる。☒ ④幼児曲の弾き歌いが15曲以上できる。☒ 単位認定の最低基準：④は必須である。①から③までの内容の7割は理解し、授業や演奏発表で確認できること。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：「保育の方法と技術力」「表現とコミュニケーション能力」「問題解決能力」「豊かな人間性と規範意識」「音楽表現力」☒			
<b>受講資格</b>	幼児教育学科チャイルド・ミュージックコース2年	<b>成績評価 方法</b>	実技試験90%、平常点10%	
<b>教科書</b>	進度に応じてその都度指示。☒ 津布楽杏里・桑原章寧 共著『保育・教育の現場で使える！弾き歌いピアノ曲集』ドレミ楽譜出版社 全国大学音楽教育学会 編著『明日へ歌い継ぐ 日本の子どもの歌—唱歌童謡140年の歩み』音楽之友社			全国大
<b>参考書</b>	進度に合わせて適宜楽譜を紹介する。			
<b>学生への要望</b>	実技科目のため積極的な練習の積み重ねが重要です。授業での課題を次の授業までに出来るよう、よく考えながら根気強く取り組みましょう。			
<b>オフィスタイム</b>	水曜日Ⅳ限 金曜日Ⅰ限 No.1 幼児教育学科研究室（チャイルド・ミュージックコース）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	基礎技術の学習1	春休み中の課題の確認。練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を、次週までにできるようにする。事前事後学習の目安時間は最低必要な時間である。各自授業に対応できるよう準備が必要である。	120
2	基礎技術の学習2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。ロマン派などの作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
3	基礎技術の学習3	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。ロマン派などの作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
4	基礎技術の学習4	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。ロマン派などの作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
5	基礎技術の学習5	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。ロマン派などの作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
6	基礎技術の学習6	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。ロマン派などの作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。試験曲の選定。正確な読譜を行う。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
7	基礎技術の学習7	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。幼児曲の伴奏についての学習。試験曲の正確な読譜を行う。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。幼児曲弾き歌い確認テストに向けた準備を行う。	120
8	基礎技術の学習8	幼児曲の弾き歌い確認テスト。結果をコメントでフィードバック後、期末試験曲について楽曲分析と演奏法の学習。	基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	演奏表現の学習 1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。楽曲への理解を深め演奏表現に繋げる。	基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
10	演奏表現の学習 2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。ペダリングと演奏表現の工夫について。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
11	演奏表現の学習 3	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。演奏表現を深める。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
12	演奏表現の学習 4	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。演奏表現を深める。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
13	演奏表現の学習 5	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。自発的な演奏表現を目指す。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
14	演奏表現の学習 6	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。自発的な演奏表現を目指す。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
15	演奏表現の学習 7 とまとめ	試験に向けステージを想定した発表を行い、グループでのディスカッションを通じて自己の演奏を振り返り、更なる演奏表現の向上を目指す。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を試験までにできるようにする。	120
16	演奏技術の学習 1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派、ロマン派、近現代などの作品の学習。アンサンブル曲の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
17	演奏技術の学習 2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派、ロマン派、近現代などの作品の学習。アンサンブル曲の学習。正確な読譜力を身につける。	アンサンブルでの演奏発表に向けて合わせも含め練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
18	演奏技術と表現の学習 1	古典派、ロマン派、近現代などの作品の学習。アンサンブル曲の学習。演奏発表に向けグループでディスカッションを行いながらアンサンブルでのより良い表現を目指す。	アンサンブルでの演奏発表に向けて合わせも含め練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
19	演奏技術と表現の学習 2	アンサンブルの演奏発表を行う。演奏後それぞれの演奏表現についてディスカッションする。	次の授業に向けた譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。	120
20	演奏技術の学習 1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派、ロマン派、近現代などの作品の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
21	演奏技術の学習 2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派、ロマン派、近現代などの作品の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
22	演奏技術の学習 3	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派、ロマン派、近現代などの作品の学習。試験曲の選定。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を、次週までにできるようにする。	120
23	演奏技術の学習 4	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
24	演奏技術の学習 5	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
25	演奏表現の学習 1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。楽曲分析と演奏法の学習。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120



-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
26	演奏表現の学習2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。楽曲分析と演奏法の学習。	楽曲への理解を深め、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
27	演奏表現の学習3	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。楽曲への理解を深め演奏表現に繋げる。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
28	演奏表現の学習4	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。自発的な演奏表現を目指す。☑ ☑	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
29	演奏表現の学習5	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。自発的な演奏表現を目指す。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の更なる向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
30	演奏表現の学習6とまとめ	試験に向けステージを想定した発表を行い、グループでのディスカッションを通じて自己の演奏を振り返り、更なる演奏表現の向上を目指す。	試験に向け確実性のある演奏技術と表現力の更なる向上を目指し練習を行う。授業での課題を試験までにできるようにする。	120

科目名	ピアノⅡ（副科）	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員	横溝 聡子		
開講期	通年		
授業概要	ピアノ演奏の基礎的技術の習得と豊かな表現力を体得することを目的とする。練習曲やバロックから近現代までの様々な曲を通して音楽理論や作品の構成や様式を理解し、表現するための技術や演奏法を学ぶ。加えて幼児曲の弾き歌いの伴奏法を学び、保育者としての実践力を養う。授業は個々のレベルに合わせて展開し、アンサンブルやディスカッションを通して問題解決能力やコミュニケーション能力を高め、自発的で豊かな演奏表現ができることを目指す。各試験後、個々に時間を設定しフィードバックを行います。☒ 位置づけ・水準 CE2255☒		
達成目標	目標は ①様々な楽曲の学習を通して、曲の構成や様式、演奏法を理解できている。☒ ②ピアノの基本的な演奏技術が身につけている。☒ ③自発的で豊かな演奏表現ができる。☒ ④幼児曲の弾き歌いが15曲以上できる。☒ 単位認定の最低基準：④は必須である。①から③までの内容の7割は理解し、授業や演奏発表で確認できること。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：「保育の方法と技術力」「表現とコミュニケーション能力」「問題解決能力」「豊かな人間性と規範意識」「音楽表現力」☒		
受講資格	幼児教育学科チャイルド・ミュージックコース2年	成績評価 方法	実技試験90%、平常点10%
教科書	進度に応じてその都度指示。☒ 津布楽杏里・桑原章寧 共著『保育・教育の現場で使える！弾き歌いピアノ曲集』ドレミ楽譜出版社 全国大学音楽教育学会 編著『明日へ歌い継ぐ 日本の子どもの歌ー唱歌童謡140年の歩み』音楽之友社		
参考書	進度に合わせて適宜楽譜を紹介する。		
学生への要望	実技科目のため積極的な練習の積み重ねが重要です。授業での課題を次の授業までに出来るよう、よく考えながら根気強く取り組みましょう。		
オフィスタイム	水曜日Ⅳ限、金曜日Ⅰ限 No.1 幼児教育学科（チャイルド・ミュージックコース）		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	基礎技術の学習1	春休み中の課題の確認。練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を、次週までにできるようにする。事前事後学習の目安時間は最低必要な時間である。各自授業に対応できるよう準備が必要である。	120
2	基礎技術の学習2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
3	基礎技術の学習3	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力と演奏技術を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
4	基礎技術の学習4	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力と演奏技術を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
5	基礎技術の学習5	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力と演奏技術を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
6	基礎技術の学習6	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力と演奏技術を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
7	基礎技術の学習7	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力と演奏技術を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。幼児曲弾き歌い確認テストに向けた準備を行う。	120
8	基礎技術の学習8	幼児曲の弾き歌い確認テスト。結果をコメントでフィードバック後、期末試験曲の選定をする。	基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
9	演奏表現の学習1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学習。正確な読譜力を身につける。	基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
10	演奏表現の学習2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学習。正確な読譜力を身につける。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	演奏表現の学習 3	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学習。楽曲分析と演奏法の工夫。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
12	演奏表現の学習 4	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学習。演奏表現を深める。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
13	演奏表現の学習 5	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学習。自発的な演奏表現を目指す。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
14	演奏表現の学習 6	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学習。自発的な演奏表現を目指す。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
15	演奏表現の学習 7 とまとめ	試験に向けステージを想定した発表を行い、グループでのディスカッションを通じて自己の演奏を振り返り、更なる演奏表現の向上を目指す。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を試験までにできるようにする。	120
16	演奏技術の学習 1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。簡単なアンサンブル曲の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
17	演奏技術の学習 2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。簡単なアンサンブル曲の学習。正確な読譜力を身につける。	アンサンブルでの演奏発表に向けて合わせも含め練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
18	演奏技術と表現の学習 1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。簡単なアンサンブル曲の学習。正確な読譜力を身につける。	アンサンブルでの演奏発表に向けて合わせも含め練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
19	演奏技術と表現の学習 2	アンサンブルの演奏発表を行う。演奏後それぞれの演奏表現についてディスカッションする。	次の授業に向けた譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。	120
20	演奏技術の学習 1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
21	演奏技術の学習 2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
22	演奏技術の学習 3	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。試験曲の選定。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を、次週までにできるようにする。	120
23	演奏技術の学習 4	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
24	演奏技術の学習 5	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。。試験曲の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
25	演奏表現の学習 1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学習。楽曲分析と演奏法の学習。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
26	演奏表現の学習 2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学習。楽曲分析と演奏法の学習。	楽曲への理解を深め、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
27	演奏表現の学習 3	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学習。楽曲への理解を深め演奏表現に繋げる。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
28	演奏表現の学習 4	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学習。自発的な演奏表現を目指す。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
29	演奏表現の学習 5	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学習。自発的な演奏表現を目指す。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の更なる向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
30	演奏表現の学習6とまとめ	試験に向けステージを想定した発表を行い、グループでのディスカッションを通じて自己の演奏を振り返り、更なる演奏表現の向上を目指す。	試験に向け確実性のある演奏技術と表現力の更なる向上を目指し練習を行う。授業での課題を試験までにできるようにする。	120

<b>科目名</b>	ボーカルⅠ（主科）	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年2単位 選択
<b>担当教員</b>	磯部 哲夫		
<b>開講期</b>	通年		
<b>授業概要</b>	<p>[授業の目的・ねらい]☑                  保育者が正しい発声法を身につけることは、保育現場において歌唱の表現活動が正しく行うことができ、また保育者の音声障がい等を回避するという観点からも重要なことである。本科目は腹式呼吸を正確に身につけ基本的な発声を修得し、保育現場における様々な楽曲に対応できる歌唱表現テクニックの修得をねらいとする。☑</p> <p>[授業全体の内容の概要]☑                  テノール歌手としてオペラやリサイタル等の様々な舞台出演の経験を活かし、個々の歌唱能力を伸ばすため、個人レッスン形式の授業で歌唱表現について指導する。まず基本的な発声法を学び、実際に歌唱楽曲を用い徐々に楽曲の難易度を上げながら歌唱のポイントを解説する。また各個人の音楽表現についてディスカッションし表現技術を身につけていく（アクティブラーニング）。毎回の授業において目標管理カードを記入し、ラーニング・ポートフォリオとして学習成果を蓄積する。第10目の授業において小テストを実施し、テスト終了後コメントによるフィードバック、期末実技試験においてはルーブリックによるフィードバックを行う。位置づけ・水準 CE2156</p>		
<b>達成目標</b>	<p>①腹式呼吸が正確に習得できていることが確認できる。☑                  ②各原語が正しく発音できる。☑                  ③基本的な発声法を習得し、それを基に楽曲のフレージング処理ができる。 単位認定の最低基準は①～③の内容の7割を理解し、実技試験において歌唱表現が確認できること。ディプロマ・ポリシーとの関係は、「保育の方法と技術力」「表現力とコミュニケーション能力」「問題解決力」「豊かな人間性と規範意識」「音楽表現能力」である。</p>		
<b>受講資格</b>	短期大学部 幼児教育学科チャイルド・ミュージックコース 1年	<b>成績評価 方法</b>	ラーニング・ポートフォリオ5%、実技による小テスト5%、実技による期末試験90%、期末試験はルーブリック評価で評価を行う。
<b>教科書</b>	コンコーネ50番中声用（全音楽楽譜出版）、イタリア歌曲集1中声用（全音楽楽譜出版）、童謡曲集、ミュージカル曲集。		
<b>参考書</b>	発声や歌唱に関する書物全般		
<b>学生への要望</b>	発声や歌唱法は理論を基に身体で覚えていくものである。授業での学びを振り返り主体的に予習復習に励むこと。☑ ☑		
<b>オフィスタイム</b>	月曜日Ⅲ限、水曜日Ⅳ限 No.2幼児教育学科（チャイルド・ミュージックコース）研究室☑		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	授業計画、授業内容、評価内容、授業への心構えコンコーネ50番、イタリア歌曲の意義について説明する。	本学科のシラバスを見て、授業内容、評価内容、スケジュールを把握しておくこと。	120
2	発声法について	発声のメカニズム、呼吸法、歌唱姿勢、換声点を理解する。	腹式呼吸、歌唱姿勢のチェックを毎日行う。また実際に様々な音型で発声練習、コンコーネ50番No.1を練習すること。	120
3	発声法・歌唱法1	コンコーネ50番No.1を歌唱しながら、初期段階の腹式呼吸および順次音程の歌唱法を理解する。	腹式呼吸の習得に努め、腹式呼吸を使いながらコンコーネ50番No.1・2・3の譜読み、歌唱練習を行う。	120
4	発声法・歌唱法2	腹式呼吸を活かしながらコンコーネ50番No.2・3の歌唱を行う。3度および4度の跳躍音程の歌唱法を理解する。	腹式呼吸を活かしながら、コンコーネ50番No.2・3・4・5の譜読み、歌唱練習を行う。	120
5	発声法・歌唱法3	コンコーネ50番No.4・5を歌唱しながら、5度以上の跳躍音程およびレガートの歌唱法を理解する。	跳躍音程の歌唱法を意識して、コンコーネ50番No.4・5・6・7の譜読み、歌唱練習を行う。	120
6	発声法・歌唱法4	コンコーネ50番No.6・7を歌唱しながら、ロングトーンおよび3連符の歌唱法を理化する。	跳躍音程の歌唱法を意識して、コンコーネ50番No.6・7・8・9の譜読み、歌唱練習を行う。	120
7	発声法・歌唱法5	コンコーネ50番No.8・9を歌唱しながら、細かいリズムの歌唱法およびフレージングの処理法を理解する。	小テストへ向け、今まで歌って来たコンコーネ50番の練習を行う。またイタリア語の発音を調べておくこと。	120
8	イタリア歌曲1	コンコーネ50番より小テストを行う。イタリア語の発音について解説し、イタリア歌曲の歌唱を行う。	イタリア歌曲より「Caro mio ben」の譜読み、歌唱練習を行う。	120
9	イタリア歌曲2	イタリア歌曲より「Caro mio ben」の歌唱を行い、フレージングのポイントを解説する。音楽表現についてのディスカッションを行う。	正確なイタリア語の発音で、イタリア歌曲より「Caro mio ben」の歌唱練習、「Nel cor piu non mi sento」の譜読み、歌唱練習を行う。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	小テスト・イタリア歌曲3	コンコーネ50番より小テストを行う。イタリア歌曲より「Nel cor piu non mi sento」の歌唱を行い、8分の6拍子の歌唱法を解説する。	「Nel cor piu non mi sento」の歌唱練習、コンコーネ50番No.10の譜読み、歌唱練習を行う。	120
11	イタリア歌曲4	イタリア歌曲より「Nel cor piu non mi sento」の歌唱を行い、フレージングや歌唱表現のポイントを解説する。音楽表現についてのディスカッションを行う。	「Nel cor piu non mi sento」の歌唱練習、コンコーネ50番No.10の歌唱練習、「Star vicino」の譜読み、歌唱練習を行う。	120
12	イタリア歌曲5	イタリア歌曲より「Star vicino」の歌唱を行い、3拍子の歌唱ポイントを解説する。音楽表現についてのディスカッションを行う。	試験曲の歌唱練習を行う。また、伴奏者を決め、伴奏合わせを行う。	120
13	I期のまとめ1	イタリア歌曲より選択した試験曲について、伴奏者と演奏し、アンサンプルのポイントを解説する。音楽表現についてのディスカッションを行う。	試験曲の歌唱練習を行う。また、伴奏合わせを行い、アンサンブルを深めていくこと。	120
14	I期のまとめ2	イタリア歌曲より選択した試験曲について、伴奏者と演奏し、音楽表現のポイントを解説する。音楽表現についてのディスカッションを行う。	試験曲の歌唱練習を行う。また、伴奏合わせを行い、アンサンブル及び音楽表現を深めていくこと。	120
15	I期のまとめ3	イタリア歌曲より選択した試験曲について、伴奏者と演奏し、I期実技試験へ向けて音楽表現を完成させる。音楽表現についてのディスカッションを行う。	試験曲の歌唱練習を行う。また、伴奏合わせを行い、アンサンブル及び音楽表現を深めていくこと。	120
16	呼吸法1	後期段階の腹式呼吸習得のポイントを解説し、コンコーネ50番No.11・12の歌唱を行う。	後期段階の腹式呼吸を考えながら、コンコーネ50番No.11・12・13・14の譜読み、歌唱練習を行う。	120
17	呼吸法2	後期段階の腹式呼吸を使いコンコーネ50番No.13・14の歌唱を行う。	後期段階の腹式呼吸を考えながら、コンコーネ50番No.11・12・13・14の譜読み、歌唱練習を行い音楽表現を深める。	120
18	様々な発声法1	自分の換声点を見つけ、ヘッド・チェストボイスを使い分け、ミドルボイスについて解説する。	自分の換声点を見つけ、ヘッド・チェストボイス、ミドルボイスを意識しながら、既習曲で歌唱練習を行う。	120
19	様々な発声法2	地声声域の多い楽曲を選択し、チェストボイスについて解説し、地声で歌唱を行う。	チェストボイスの発声練習、音程の低い楽曲を選択し、チェストボイスで歌唱練習を行う。	120
20	様々な発声法3	裏声声域の多い楽曲を選択し、ヘッドボイスについて解説し、裏声で歌唱を行う。	ヘッドボイスの発声練習、音程の高い楽曲を選択し、ヘッドボイスで歌唱練習を行う。また、童謡集の中から選択した楽曲をの歌唱練習を行う。	120
21	日本の歌1	童謡を取り上げヘッド、ミドル、チェストボイスを使い分けながら歌唱するポイントを解説する。	童謡集の中から選択した楽曲をヘッド、チェストボイスを使いながら歌唱練習する。またミドルボイスが使えれば、ミドルボイスも交えて練習する。	120
22	日本の歌2	童謡をヘッド、ミドル、チェストボイスを使い分けながら歌唱するポイントを解説し、それを活かしながら歌唱を行う。音楽表現についてのディスカッションを行う。	童謡集の中から選択した楽曲をヘッド、チェストボイスを使いながら歌唱練習する。またミドルボイスが使えれば、ミドルボイスも交えて練習する。	120
23	日本の歌3	ポップスを取り上げヘッド、ミドル、チェストボイスを使い分けながら歌唱するポイントを解説する。	ポップスの中から選択した楽曲をヘッド、チェストボイスを使いながら歌唱練習する。またミドルボイスが使えれば、ミドルボイスも交えて練習する。	120
24	日本の歌4	ポップスをヘッド、ミドル、チェストボイスを使い分けながら歌唱するポイントを解説し、それを活かしながら歌唱を行う。音楽表現についてのディスカッションを行う。	ポップスの中から選択した楽曲をヘッド、チェストボイスを使いながら歌唱練習する。またミドルボイスが使えれば、ミドルボイスも交えて練習する。	120
25	ミュージカルナンバー1	選択したミュージカル楽曲を取り上げ、様々な発声法を使いながら歌唱を行う。	選択したミュージカル楽曲の譜読みする。ヘッド、ミドル、チェストボイスを使い分けながら歌唱練習を行う。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
26	ミュージカルナンバー 2	選択したミュージカル楽曲を取り上げ、換声点を意識しながら、音型により微妙に換声点が移動することを感じながらどのように歌唱するかを考察する。また、II期に取り上げたミュージカル楽曲の中から、試験曲を決める。	選択したミュージカル楽曲を、ヘッド、ミドル、チェストボイスを使い分けながら歌唱練習を行う。また試験の伴奏者を決めておくこと。	120
27	ミュージカルナンバー 3	試験曲で、基本的な身体表現を、歌いながらどのタイミングで入れればよいか、基本的な身体表現を解説する。音楽表現についてのディスカッションを行う。	試験曲に決めた楽曲について、ヘッド、ミドル、チェストボイスを使い分けながら歌唱練習を行い、更に伴奏者を付け身体表現を入れながら練習する。	120
28	ミュージカルナンバー 4	試験曲に決めた楽曲について、基本的な身体表現を入れ、伴奏を付けながら、楽曲全体の音楽表現を完成させる。音楽表現についてのディスカッションを行う。	試験曲に決めた楽曲について、ヘッド、ミドル、チェストボイスを使い分けながら歌唱練習を行い、更に伴奏者を付け身体表現を入れながら練習する。	120
29	II期のまとめ 1	試験曲に決めた楽曲について、伴奏者と演奏を行い、アンサンプル、身体表現のポイント、を解説する。音楽表現についてのディスカッションを行う。	試験曲に決めた楽曲について、ヘッド、ミドル、チェストボイスを使い分けながら歌唱練習を行い、更に伴奏者を付け身体表現を入れながら練習する。	120
30	II期のまとめ 2	試験曲に決めた楽曲について、音楽表現、身体表現の両面を含んだ、総合的な表現を完成させる。	試験曲に決めた楽曲について、ヘッド、ミドル、チェストボイスを使い分けながら歌唱練習を行い、更に伴奏者を付け身体表現を入れながら練習し、楽曲表現を完成させる。	120

<b>科目名</b>	ボカールⅠ（副科）	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年1単位 選択
<b>担当教員</b>	磯部 哲夫		
<b>開講期</b>	通年		
<b>授業概要</b>	[授業の目的・ねらい]☑ 保育者が正しい発声法を身につけることは、保育現場において歌唱の表現活動が正しく行うことができ、また保育者の音声障がい等を回避するという観点からも重要なことである。本科目は基本的な発声を修得し、保育現場における様々な楽曲に対応できる歌唱表現の修得をねらいとする。☑ [授業全体の内容の概要]☑ テノール歌手としてオペラやリサイタル等の様々な舞台出演の経験を活かし、個々の歌唱能力を伸ばすため、個人レッスン形式の授業で歌唱表現について指導する。まず基本的な発声法を学び、実際に歌唱楽曲を用い徐々に楽曲の難易度を上げながら歌唱のポイントを解説する。また各個人の音楽表現についてディスカッションし表現技術を身につけていく（アクティブラーニング）。毎回の授業において目標管理カードを記入し、ラーニング・ポートフォリオとして学習成果を蓄積する。期末実技試験においてはルーブリックによるフィードバックを行う。位置づけ・水準 CE2157		
<b>達成目標</b>	[授業修了時の達成課題]☑ ①腹式呼吸が正確に習得できていることが確認できる。☑ ②各原語が正しく発音できる。☑ ③基本的な発声法を習得し、それを基に楽曲のフレージング処理ができる。 単位認定の最低基準は①～③の内容の7割を理解し、実技試験において歌唱表現が確認できること。ディプロマ・ポリシーとの関係は、「保育の方法と技術力」「表現力とコミュニケーション能力」「問題解決力」「豊かな人間性と規範意識」「音楽表現能力」である。		
<b>受講資格</b>	幼児教育学科チャイルド・ミュージックコース1年	<b>成績評価 方法</b>	ラーニング・ポートフォリオ10%、実技による期末試験90%、期末試験はルーブリック評価で評価を行う。
<b>教科書</b>	コンコーネ50番中声用（全音楽楽譜出版）、イタリア歌曲集1中声用（全音楽楽譜出版）、童謡曲集、ミュージカル曲集。		
<b>参考書</b>	発声や歌唱に関する書物全般		
<b>学生への要望</b>	発声や歌唱法は理論を基に身体で覚えていくものである。授業での学びを振り返り主体的に予習復習に励むこと。☑ ☑		
<b>オフィスタイム</b>	月曜日Ⅲ限、水曜日Ⅳ限 No.2幼児教育学科（チャイルド・ミュージックコース）研究室☑ ☑		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	授業計画、授業内容、評価内容、授業への心構えコンコーネ50番、イタリア歌曲の意義について説明する。	本学科のシラバスを見て、授業内容、評価内容、スケジュールを把握しておくこと。	120
2	発声法について	発声のメカニズム、腹式呼吸、歌唱姿勢、換声点について説明し、実際に様々な音型で発声を行う。	腹式呼吸、歌唱姿勢のチェックを毎日行う。また実際に様々な音型で発声練習、コンコーネ50番No.1を練習すること。	120
3	発声法・歌唱法1	コンコーネ50番No.1を歌唱しながら、初期段階の腹式呼吸および順次音程の歌唱法を理解する。	腹式呼吸の習得に努め、腹式呼吸を使いながらコンコーネ50番No.1・2・3の譜読み、歌唱練習を行う。	120
4	発声法・歌唱法2	腹式呼吸を活かしながらコンコーネ50番No.2・3の歌唱を行う。3度および4度の跳躍音程の歌唱法を理解する。	腹式呼吸を活かしながら、コンコーネ50番No.4の譜読み、歌唱練習を行う。	120
5	発声法・歌唱法3	コンコーネ50番No.4を歌唱しながら、5度以上の跳躍音程およびレガートの歌唱法を理解する。	跳躍音程の歌唱法を意識して、コンコーネ50番No.5の譜読み、歌唱練習を行う。	120
6	発声法・歌唱法4	コンコーネ50番No.5を歌唱しながら、オクターブの跳躍音程およびロングトーンの歌唱法を理解する。	跳躍音程の歌唱法を意識して、コンコーネ50番の既習局の歌唱練習を行う。	120
7	イタリア歌曲1	イタリア語の発音について解説し、イタリア歌曲より「Caro mio ben」の歌唱を行う。	小テストへ向け、今まで歌って来たコンコーネ50番の練習を行う。またイタリア語の発音を調べておくこと。	120
8	イタリア歌曲2	コンコーネ50番より小テストを行う。イタリア歌曲より「Caro mio ben」の歌唱を行い、フレージングのポイントを解説する。音楽表現についてディスカッションを行う。	イタリア歌曲より「Caro mio ben」の譜読み、歌唱練習を行う。	120
9	イタリア歌曲3	イタリア歌曲より「Nel cor piu non mi sento」の歌唱を行い、8分の6拍子の歌唱法を解説する。	正確なイタリア語の発音で、イタリア歌曲より「Caro mio ben」の歌唱練習、「Nel cor piu non mi sento」の譜読み、歌唱練習を行う。	120



-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	イタリア歌曲 4	イタリア歌曲より「Nel cor piu non mi sento」の歌唱を行い、フレージングや歌唱表現のポイントを解説する。音楽表現についてディスカッションを行う。	「Nel cor piu non mi sento」の歌唱練習、コンコーネ 5 0 番No.10の譜読み、歌唱練習を行う。	120
11	イタリア歌曲 5	イタリア歌曲より「Star vicino」の歌唱を行い、3拍子の歌唱ポイントを解説する。音楽表現についてディスカッションを行う。	「Nel cor piu non mi sento」の歌唱練習、コンコーネ 5 0 番No.10の歌唱練習、「Star vicino」の譜読み、歌唱練習を行う。	120
12	イタリア歌曲 6	イタリア歌曲より試験曲に決めた楽曲について、発声、姿勢、歌唱フレージングを意識し、音楽表現する。	試験曲の歌唱練習を行う。また、伴奏者を決め伴奏合わせを行う。	120
13	I期のまとめ 1	イタリア歌曲より試験曲に決めた楽曲について、伴奏者と演奏を行い、アンサンブルのポイントを解説する。	試験曲の歌唱練習を行う。また、伴奏合わせを行い、アンサンブルを深めていくこと。	120
14	I期のまとめ 2	イタリア歌曲より試験曲に決めた楽曲について、伴奏者と演奏を行い、音楽表現を深めていく。音楽表現についてディスカッションを行う。	試験曲の歌唱練習を行う。また、伴奏合わせを行い、アンサンブル及び音楽表現を深めていくこと。	120
15	I期のまとめ 3	イタリア歌曲より選択した楽曲を伴奏者と演奏を行い、I期実技試験へ向けて音楽表現を完成させる。音楽表現についてディスカッションを行う。	試験曲の歌唱練習を行う。また伴奏合わせを行い、アンサンブル及び音楽表現を深めていくこと。	120
16	呼吸法	後期段階の腹式呼吸習得のポイントを解説し、コンコーネ 5 0 番No.6・7の歌唱を行う。	後期段階の腹式呼吸を考えながら、コンコーネ 5 0 番No.8の譜読み、No.6・7・8の歌唱練習を行う。	120
17	様々な発声法 1	コンコーネ 5 0 番No.8の歌唱を行いながら、自分の換声点を見つけ、ヘッド・チェストボイスを使い分け、ミドルボイスについて解説する。	後期段階の腹式呼吸を考えながら、コンコーネ 5 0 番No.8の歌唱練習を行い音楽表現を深める。また地声の多い楽曲を、チェストボイスで練習する。	120
18	様々な発声法 2	地声声域の多い楽曲を選択し、チェストボイスについて解説し、地声で歌唱を行う。	自分の換声点を見つけ、ヘッド・チェストボイス、ミドルボイスを意識しながら、既習曲で歌唱練習を行う。	120
19	様々な発声法 3	裏声声域の多い楽曲を選択し、ヘッドボイスについて解説し、裏声で歌唱を行う。	チェストボイスの発声練習、音程の低い楽曲を選択し、チェストボイスで歌唱練習を行う。	120
20	日本の歌 1	童謡を取り上げヘッド、ミドル、チェストボイスを使い分けながら歌唱するポイントを解説する。	ヘッドボイスの発声練習、音程の高い楽曲を選択し、ヘッドボイスで歌唱練習を行う。また、童謡集の中から選択した楽曲をの歌唱練習を行う。	120
21	日本の歌 2	童謡でヘッド、ミドル、チェストボイスを使い分けながら歌唱するポイントを解説し、それを活かしながら歌唱を行う。音楽表現についてディスカッションを行う。	童謡集・ポップスの中から選択した楽曲をヘッド、チェストボイスを使いながら歌唱練習する。またミドルボイスが使えれば、ミドルボイスも交えて練習する。	120
22	日本の歌 3	ポップスを取り上げヘッド、ミドル、チェストボイスを使い分けながら歌唱するポイントを解説する。	ポップスの中から選択した楽曲をヘッド、チェストボイスを使いながら歌唱練習する。またミドルボイスが使えれば、ミドルボイスも交えて練習する。	120
23	日本の歌 4	ポップスをヘッド、ミドル、チェストボイスを使い分けながら歌唱するポイントを解説し、それを活かしながら歌唱を行う。音楽表現についてディスカッションを行う。	ポップスの中から選択した楽曲をヘッド、チェストボイスを使いながら歌唱練習する。またミドルボイスが使えれば、ミドルボイスも交えて練習する。	120
24	ミュージカルナンバー 1	選択したミュージカル楽曲を取り上げ、様々な発声法を使いながら歌唱を行う。	選択したミュージカル楽曲をヘッド、チェストボイスを使いながら歌唱練習する。またミドルボイスが使えれば、ミドルボイスも交えて練習する。	120
25	ミュージカルナンバー 2	換声点を意識しながら、音型により微妙に換声点が移動することを感知しながらどのように歌唱するかを考察する。	選択したミュージカル楽曲の譜読みする。ヘッド、ミドル、チェストボイスを使い分けながら歌唱練習を行う。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
26	ミュージカルナンバー 3	基本的な身体表現を、歌いながらどのタイミングで入れればよいか、基本的な身体表現を解説する。Ⅱ期で取り上げた楽曲の中から試験曲を決定する	選択したミュージカル楽曲を、ヘッド、ミドル、チェストボイスを使い分けながら身体表現を入れながら、歌唱練習を行う。試験曲の伴奏者を決めておくこと。	120
27	ミュージカルナンバー 4	基本的な身体表現を伴った、楽曲全体の音楽表現を完成させる。音楽表現についてディスカッションを行う。	試験曲に決めた楽曲について、ヘッド、ミドル、チェストボイスを使い分けながら歌唱練習する、更に伴奏者を付け身体表現を入れながら練習する。	120
28	Ⅱ期のまとめ 1	試験曲に決めた楽曲について、発声、姿勢、歌唱フレーズを意識し音楽表現する。音楽表現についてディスカッションを行う。	試験曲に決めた楽曲について、ヘッド、ミドル、チェストボイスを使い分けながら歌唱練習し、更に伴奏者を決め、伴奏を付けて練習する。	120
29	Ⅱ期のまとめ 2	試験曲に決めた楽曲について、伴奏者と演奏を行い、アンサンブル、身体表現のポイントについて解説する。音楽表現についてディスカッションを行う。	試験曲に決めた楽曲について、ヘッド、ミドル、チェストボイスを使い分けながら歌唱練習を行い、更に伴奏者を付け身体表現を入れながら練習する。	120
30	Ⅱ期のまとめ 3	試験曲に決めた楽曲について、音楽表現、身体表現の両面を含んだ、総合的な表現を完成させ、Ⅱ期の試験に臨む。	試験曲に決めた楽曲について、ヘッド、ミドル、チェストボイスを使い分けながら歌唱練習し、更に伴奏者を付け身体表現を入れながら練習し、楽曲表現を完成させる。	120

<b>科目名</b>	ボーカルⅡ（主科）	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	磯部 哲夫		
<b>開講期</b>	通年		
<b>授業概要</b>	<p>[授業の目的・ねらい]☑                  ボーカルⅠで修得した発声法を基に、保育現場における様々な楽曲に対応できる身体的表現を含んだ歌唱表現技術の習得をねらいとする。☑                  [授業全体の内容の概要]☑                  テノール歌手としてオペラやリサイタル等の様々な舞台出演の経験を活かし、個々の歌唱能力を伸ばすため、個人レッスン形式の授業で歌唱表現について指導する。ボーカルⅠで修得した発声法を基に、Ⅲ期では保育現場で歌われている幼児用歌唱曲取り上げ、歌唱のポイントを解説しピアノ伴奏を付けながらの弾き歌いの技術を修得する。Ⅳ期においては、幼児用歌唱曲やミュージカル楽曲を取り上げ、身体的表現と歌唱表現を修得する。また各個人の音楽表現については、1年次から実施している表現についてのディスカッションで音楽表現技術を身につけていく（アクティブラーニング）。毎回の授業において目標管理カードを記入し、ラーニング・ポートフォリオとして学修成果を蓄積する。第25回目の授業において小テストを実施し、テスト終了後コメントによるフィードバック、期末実技試験は建学記念講堂大ホールで試験を行い、ステージ上で身体的表現と歌唱表現ができているか、ルーブリックによるフィードバックを行う。位置づけ・水準 CE2158</p>		
<b>達成目標</b>	<p>①正確な原語発音、腹式呼吸、共鳴を含めた発声法を修得している。☑                  ②ピアノ伴奏付け、表情を付けながら幼児用歌唱曲の弾き歌いができる。☑                  ③幼児用歌唱曲やミュージカル楽曲において、身体的表現と歌唱表現を融合させた音楽表現ができ、舞台上で表現が確認できる。単位認定の最低基準は①～③の内容の7割を理解し、実技試験において確認できること。ディプロマ・ポリシーとの関係は、「保育の方法と技術力」「表現力とコミュニケーション能力」「問題解決力」「豊かな人間性と規範意識」「音楽表現能力」である。</p>		
<b>受講資格</b>	幼児教育学科チャイルド・ミュージックコース 2年	<b>成績評価 方法</b>	ラーニング・ポートフォリオ5%、実技による小テスト5%、実技による期末試験90%、期末試験はルーブリック評価で評価を行う。
<b>教科書</b>	童謡曲集、ミュージカル曲集より随時指定する。		
<b>参考書</b>	発声や歌唱に関する書物全般		
<b>学生への要望</b>	保育現場に必要な弾き歌いや身体表現を伴った歌唱表現が修得できるよう、授業での学びを振り返り主体的に予習復習に励むこと。☑ ☑		
<b>オフィスタイム</b>	月曜日Ⅲ限、水曜日Ⅳ限 No.2幼児教育学科（チャイルド・ミュージックコース）研究室☑ ☑		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	シラバスを用いたオリエンテーション。	本学科のシラバスを見て、授業内容、評価内容、スケジュールを把握しておくこと。	120
2	幼児歌唱曲 1	1年次で修得した発声を活かし、幼児歌唱曲の歌唱技術を解説する。	幼児歌唱曲の練習を行う。	120
3	幼児歌唱曲 2	1年次で修得した発声を活かし、幼児歌唱曲の歌唱技術を解説する。	幼児歌唱曲の練習を行う。	120
4	弾き歌い 1	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
5	弾き歌い 2	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
6	弾き歌い 3	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
7	弾き歌い 4	弾き歌いによる小テスト。その後小テストの振り返りを行う。	小テストの振り返りを行い練習する。	120
8	弾き歌い 5	小テストの振り返りを踏まえて、弾き歌いを行う。	小テストの振り返りを行い練習する。	120
9	幼児歌唱曲 3	幼児歌唱曲に身体的表現を付けながら歌う。幼児歌唱曲に合わせてそのように身体的表現を行えばよいか、ディスカッションで表現を考察する。	身体的表現の情報を収集し練習する。	120
10	幼児歌唱曲 4	幼児歌唱曲に身体的表現を付けながら歌う。幼児歌唱曲に合わせてそのように身体的表現を行えばよいか、ディスカッションで表現を考察する。	身体的表現の情報を収集し練習する。	120
11	幼児歌唱曲 5	幼児歌唱曲に身体的表現を付けながら歌う。幼児歌唱曲に合わせてそのように身体的表現を行えばよいか、ディスカッションで表現を考察する。	身体的表現の情報を収集し練習する。	120
12	ミュージカル曲 1	ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌う。ミュージカル曲に合わせてそのように身体的表現を行えばよいか、ディスカッションで表現を考察する。	身体的表現の情報を収集し練習する。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	ミュージカル曲2	ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌う。ミュージカル曲に合わせてそのように身体的表現を行えばよいか、ディスカッションで表現を考察する。	身体的表現の情報を収集し練習する。	120
14	ミュージカル曲3	ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌う。ミュージカル曲に合わせてそのように身体的表現を行えばよいか、ディスカッションで表現を考察する。	身体的表現の情報を収集し練習する。	120
15	まとめ	期末試験に向け、III期のまとめを行う。	III期の振り返りを行い、期末試験の練習を行う。	120
16	身体的表現を伴った歌唱表現1	様々な楽曲を取り上げ、体的表現を伴った歌唱表現を考察する。	様々な楽曲の身体的表現の情報を収集し、身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
17	身体的表現を伴った歌唱表現2	様々な楽曲を取り上げ、体的表現を伴った歌唱表現を考察する。	様々な楽曲の身体的表現の情報を収集し、身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
18	身体的表現を伴った歌唱表現3	様々な楽曲を取り上げ、体的表現を伴った歌唱表現を考察する。	様々な楽曲の身体的表現の情報を収集し、身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
19	身体的表現を伴った歌唱表現4	様々な楽曲を取り上げ、体的表現を伴った歌唱表現を考察する。	様々な楽曲の身体的表現の情報を収集し、身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
20	身体的表現を伴った歌唱表現5	様々な楽曲を取り上げ、体的表現を伴った歌唱表現を考察する。	様々な楽曲の身体的表現の情報を収集し、身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
21	コードによる弾き歌い1	幼児歌唱曲にコードによるピアノ伴奏を付け弾き歌いを行う。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
22	コードによる弾き歌い2	幼児歌唱曲にコードによるピアノ伴奏を付け弾き歌いを行う。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
23	コードによる弾き歌い3	幼児歌唱曲にコードによるピアノ伴奏を付け弾き歌いを行う。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
24	コードによる弾き歌い4	幼児歌唱曲にコードによるピアノ伴奏を付け弾き歌いを行う。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
25	コードによる弾き歌い5	幼児歌唱曲にコードによるピアノ伴奏を付け弾き歌いを行う。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
26	ミュージカル表現1	ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌い、ディスカッションをしながら身体的・音楽的表現を深めていく。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
27	ミュージカル表現2	ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌い、ディスカッションをしながら身体的・音楽的表現を深めていく。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
28	ミュージカル表現3	ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌い、ディスカッションをしながら身体的・音楽的表現を深めていく。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
29	ミュージカル表現4	ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌い、ディスカッションをしながら身体的・音楽的表現を深めていく。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
30	ミュージカル表現5・まとめ	期末試験に向け、IV期のまとめを行う。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。IV期の振り返りを行う。	120

<b>科目名</b>	ボカールⅡ（副科）	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
<b>担当教員</b>	磯部 哲夫		
<b>開講期</b>	通年		
<b>授業概要</b>	<p>[授業の目的・ねらい]☒ ボカールⅠで修得した発声法を基に、保育現場における様々な楽曲に対応できる身体的表現を含んだ歌唱表現技術の習得をねらいとする。☒ [授業全体の内容の概要]☒ テノール歌手としてオペラやリサイタル等の様々な舞台出演の経験を活かし、個々の歌唱能力を伸ばすため、個人レッスン形式の授業で歌唱表現について指導する。ボカールⅠで修得した発声法を基に、Ⅲ期では保育現場で歌われている幼児用歌唱曲取り上げ、歌唱のポイントを解説しピアノ伴奏を付けながらの弾き歌いの技術を修得する。Ⅳ期においては、幼児用歌唱曲やミュージカル楽曲を取り上げ、身体的表現と歌唱表現を修得する。また各個人の音楽表現については、1年次から実施している表現についてのディスカッションで音楽表現技術を身につけていく（アクティブラーニング）。毎回の授業において目標管理カードを記入し、ラーニング・ポートフォリオとして学修成果を蓄積する。Ⅲ期に弾き歌いによる小テストを行い、小テスト終了後コメントによるフィードバック、期末実技試験においてはルーブリックによるフィードバックを行う。位置づけ・水準 CE2159</p>		
<b>達成目標</b>	<p>①正確な原語発音、腹式呼吸等の発声法を修得している。☒ ②ピアノ伴奏付け、表情を付けながら幼児用歌唱曲の弾き歌いができる。☒ ③幼児用歌唱曲やミュージカル楽曲において、身体的表現と歌唱表現を融合させた音楽表現ができる☒ 。単位認定の最低基準は①～③の内容の7割を理解し、実技試験において確認できること。ディプロマ・ポリシーとの関係は、「保育の方法と技術力」「表現力とコミュニケーション能力」「問題解決力」「豊かな人間性と規範意識」「音楽表現能力」である。</p>		
<b>受講資格</b>	幼児教育学科チャイルド・ミュージックコース 2年	<b>成績評価 方法</b>	ラーニング・ポートフォリオ5%、実技による小テスト5%、実技による期末試験90%、期末試験はルーブリック評価で評価を行う。
<b>教科書</b>	童謡曲集、ミュージカル曲集より随時指定する。		
<b>参考書</b>	発声や歌唱に関する書物全般		
<b>学生への要望</b>	保育現場に必要な弾き歌いや身体表現を伴った歌唱表現が修得できるよう、授業での学びを振り返り主体的に予習復習に励むこと。☒ ☒		
<b>オフィスタイト</b>	月曜日Ⅲ限、水曜日Ⅳ限 No.2幼児教育学科（チャイルド・ミュージックコース）研究室☒ ☒		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	シラバスを用いたオリエンテーション。	本学科のシラバスを見て、授業内容、評価内容、スケジュールを把握しておくこと。	120
2	幼児歌唱曲1	1年次で修得した発声を活かし、幼児歌唱曲の歌唱技術を解説する。	幼児歌唱曲の練習を行う。	120
3	幼児歌唱曲2	1年次で修得した発声を活かし、幼児歌唱曲の歌唱技術を解説する。	幼児歌唱曲の練習を行う。	120
4	弾き歌い1	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
5	弾き歌い2	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
6	弾き歌い3	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
7	弾き歌い4	弾き歌いによる小テスト。その後小テストの振り返りを行う。	小テストの振り返りを行い練習する。	120
8	弾き歌い5	小テストの振り返りを踏まえて、弾き歌いを行う。	小テストの振り返りを行い練習する。	120
9	弾き歌い6	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
10	弾き歌い7	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
11	弾き歌い8	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
12	幼児歌唱曲3	幼児歌唱曲に身体的表現を付けながら歌う。幼児歌唱曲に合わせてそのように身体的表現を行えばよいか、ディスカッションで表現を考察する。	身体的表現の情報を収集し練習する。	120
13	幼児歌唱曲4	幼児歌唱曲に身体的表現を付けながら歌う。幼児歌唱曲に合わせてそのように身体的表現を行えばよいか、ディスカッションで表現を考察する。	身体的表現の情報を収集し練習する。	120
14	幼児歌唱曲5	幼児歌唱曲に身体的表現を付けながら歌う。幼児歌唱曲に合わせてそのように身体的表現を行えばよいか、ディスカッションで表現を考察する。	身体的表現の情報を収集し練習する。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
15	まとめ	期末試験に向け、Ⅲ期のまとめを行う。	Ⅲ期の振り返りを行い、期末試験の練習を行う。	120
16	身体的表現を伴った歌唱表現 1	様々な楽曲を取り上げ、体的表現を伴った歌唱表現を考察する。	様々な楽曲の身体的表現の情報を収集し、身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
17	身体的表現を伴った歌唱表現 2	様々な楽曲を取り上げ、体的表現を伴った歌唱表現を考察する。	様々な楽曲の身体的表現の情報を収集し、身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
18	身体的表現を伴った歌唱表現 3	様々な楽曲を取り上げ、体的表現を伴った歌唱表現を考察する。	様々な楽曲の身体的表現の情報を収集し、身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
19	コードによる弾き歌い 1	幼児歌唱曲にコードによるピアノ伴奏を付け弾き歌いを行う。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
20	コードによる弾き歌い 2	幼児歌唱曲にコードによるピアノ伴奏を付け弾き歌いを行う。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
21	コードによる弾き歌い 3	幼児歌唱曲にコードによるピアノ伴奏を付け弾き歌いを行う。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
22	コードによる弾き歌い 4	幼児歌唱曲にコードによるピアノ伴奏を付け弾き歌いを行う。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
23	コードによる弾き歌い 5	幼児歌唱曲にコードによるピアノ伴奏を付け弾き歌いを行う。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
24	コードによる弾き歌い 6	幼児歌唱曲にコードによるピアノ伴奏を付け弾き歌いを行う。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
25	コードによる弾き歌い 7	幼児歌唱曲にコードによるピアノ伴奏を付け弾き歌いを行う。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
26	ミュージカル表現 1	ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌い、ディスカッションをしながら身体的・音楽的表現を深めていく。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
27	ミュージカル表現 2	ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌い、ディスカッションをしながら身体的・音楽的表現を深めていく。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
28	ミュージカル表現 3	ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌い、ディスカッションをしながら身体的・音楽的表現を深めていく。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
29	ミュージカル表現 4	ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌い、ディスカッションをしながら身体的・音楽的表現を深めていく。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
30	ミュージカル表現 5・まとめ	期末試験に向け、Ⅳ期のまとめを行う。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。Ⅳ期の振り返りを行う。	120

科目名	器楽Ⅰ（主科）	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年2単位 選択
担当教員	柳沼 和幸		
開講期	通年		
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 <input checked="" type="checkbox"/> 奏法に於ける重要なポイントを身に付け安定した演奏を可能にして試験に臨む。 <input checked="" type="checkbox"/> 〔授業全体の内容の概要〕 <input checked="" type="checkbox"/> エチュード、古典の作品を通して、奏法及び曲の解釈を学ぶ。 <input checked="" type="checkbox"/>		
達成目標	〔授業修了時の達成課題〕 <input checked="" type="checkbox"/> 適切な楽曲解釈と奏法によって、自分の表現が自由にできるようになる。 <input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> ①管楽器演奏テクニックの問題点がある程度把握し演奏技術の訓練に生かす事ができているか。 <input checked="" type="checkbox"/> ②楽曲を通してその奏法をある程度理解できたか。 <input checked="" type="checkbox"/> ③ピアノ伴奏者とのアンサンブルが良くできているか。 <input checked="" type="checkbox"/>		
受講資格	短大幼児教育学科チャイルドミュージックコース1年生	成績評価 方法	実技試験90% <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト10%
教科書	音及び基本奏法に関する教本をレパートリーと併用して使用する。		
参考書	ローズ32のエチュード他 <input checked="" type="checkbox"/>		
学生への要望	練習時間を確保し、忍耐を忘れず知的練習を重ねること。 <input checked="" type="checkbox"/>		
オフィスタイム	No.1音楽科研究室 <input checked="" type="checkbox"/> 火曜～金曜 12:00～12:50 <input checked="" type="checkbox"/>		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	基礎練習①	支えと音の方向性について	自分に合った練習方法を確立し、次回の授業に向かって、スケール、エチュードを仕上げてくること	120
2	基礎練習②	ソルフェージュの重要性	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120
3	基礎練習③	演奏時の舌の位置	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120
4	基礎練習、前期試験に向けて①	身体ポジションとそれに連動するアンブシュア	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120
5	基礎練習、前期試験に向けて②	低音域のポジション	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120
6	基礎練習、前期試験に向けて③	高音域のポジション	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120
7	基礎練習、前期試験に向けて④	“声楽”に学ぶ意味	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120
8	基礎練習、前期試験に向けて⑤	“のど”のチューニング	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120
9	基礎練習、前期試験に向けて⑥	“頭声”と楽器の音の関係	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120
10	基礎練習、前期試験に向けて⑦	“胸声”と楽器の音の関係	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120
11	基礎練習、前期試験に向けて⑧	fの出し方	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120
12	基礎練習、前期試験に向けて⑨	Pの出し方	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120
13	基礎練習、前期試験に向けて⑩	クレッシェンド・ディミヌエンドの方法	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120
14	基礎練習、前期試験に向けて⑪	ことばを発音するが如く吹くには	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120
15	基礎練習、前期試験に向けて⑫	前期のまとめ	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120
16	基礎練習、後期試験に向けて①	“弦楽器”に学ぶ意味	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120
17	基礎練習、後期試験に向けて②	ポウイングのupとdownを取り入れる	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120
18	基礎練習、後期試験に向けて③	弓の速度と息の速度	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120
19	基礎練習、後期試験に向けて④	弦楽器のヴィブラートに学ぶ	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
20	基礎練習、後期試験に向けて⑤	タンキングと弓使い	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120
21	基礎練習、後期試験に向けて⑥	アーティキュレーションを立体的に表現するには	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120
22	基礎練習、後期試験に向けて⑦	フランス風toneについて	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120
23	基礎練習、後期試験に向けて⑧	ドイツ風toneについて	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120
24	基礎練習、後期試験に向けて⑨	ピアノあるいは他楽器との協和性を得るには	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120
25	基礎練習、後期試験に向けて⑩	ピアノあるいは他楽器との協和性を得るには	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120
26	基礎練習、後期試験に向けて⑪	ピアノあるいは他楽器との協和性を得るには	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120
27	基礎練習、後期試験に向けて⑫	後期試験に向けて最終チェック	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120
28	基礎練習、後期試験に向けて⑬	後期試験に向けて最終チェック	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120
29	基礎練習、後期試験に向けて⑭	後期試験に向けて最終チェック	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120
30	基礎練習、後期試験に向けて⑮	演奏と評価	前回の授業での問題を解決し、次回の授業に備えること。	120



<b>科目名</b>	器楽Ⅰ（主科）	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	會田 瑞樹		
<b>開講期</b>	通年		
<b>授業概要</b>	〔授業の目的・ねらい〕 打楽器演奏における基礎力の強化と表現力の育成を目指す。さらに子どもたちと打楽器を結ぶ架け橋となるような奏者を目指し様々な表現への挑戦を実践する。		
<b>達成目標</b>	〔授業修了時の達成課題〕 打楽器を用いて様々な演奏表現を展開し、子どもたちをはじめ、多くの人たちに親しみある音楽の魅力を伝えることのできる奏者の育成を目指す。さらに音楽家として多種多様な表現力を身につけ、打楽器演奏家としての可能性を追求することを目標とする。 また自ら楽曲を作曲/編曲を実現できる能力を習得することも視野に入れる。		
<b>受講資格</b>	短大幼児教育学科チャイルドミュージックコース1年生	<b>成績評価 方法</b>	前後期における実技試験90% 出席10%
<b>教科書</b>	W.A.Mozart《Adagio in C kv356》（授業時に配布） W.F.Ludwig《Collection Drum solos》（Ludwig Music Publishing Company）		
<b>参考書</b>	A.J.Cirone《Portraits in Rhythm》（Bellwin mills）その他授業内で提示をする。		
<b>学生への要望</b>	日々の稽古が上達への鍵となる。また自身で演奏してみたい楽曲などの提案も期待する。習熟度に応じてより発展的にレパートリー研究を行う。		
<b>オフィスタイム</b>	木曜日授業開始前、終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	教科書の説明や年間授業の方針を確認する。	ルーディメント26通りの確認。	60
2	小太鼓を用いた上の発想・下の発想の思考と一つ打ちおよびルーディメント奏法について	有賀誠門先生が提唱した「上の発想・下の発想」を応用した演奏研究と全米ルーディメント協会(N.A.R.D)が指定した26通りの小太鼓の手順を学ぶ。	26のルーディメントの手順を確認する。配布した有賀誠門先生の論文に目を通しておく。	60
3	二つ打ち、オープンロール、クローズロール	「あげて・おろす」打楽器奏法を習得し小太鼓の基礎を学ぶ。	バチが左右均等に上がっているかどうか確認する。	60
4	ルーディメント奏法について その1	前半13のルーディメントを習得する。	パラディドゥル奏法を見直す。	60
5	ルーディメント奏法について その2	後半13のルーディメントを習得する。	No.20のフラムタップは特に難度が高いため確認する。	60
6	実践的レパートリーの開拓に向けて 小太鼓編その1	Collection Drum solosの中から任意の楽曲を学ぶ。	ルーディメントを用いた楽曲の構造を理解する。	60
7	実践的レパートリーの開拓に向けて 小太鼓編その2	Collection Drum solosの中から任意の楽曲を学ぶ。	ルーディメントを用いた即興をイメージする。	60
8	実践的レパートリーの開拓に向けて 小太鼓編その3	小太鼓100曲集(網代景介/岡田知之著)を用いた初見試奏。	素早く譜読みする能力を身につける。	60
9	鍵盤打楽器を用いた上の発想・下の発想の思考と二本バチ	マレットを用いて「あげて・おろす」打楽器奏法を習得し鍵盤打楽器の基礎を学ぶ。	鍵盤打楽器に親しむ。	60
10	四本バチの多様な持ち方とそのサウンドの探求	四本バチの多様な持ち方を研究する。	自分にあったグリップを選択する。	60
11	実践的レパートリーの開拓に向けて 鍵盤編その1	W.A.Mozart《Adagio》を基軸に鍵盤打楽器を学ぶ。	モーツァルトのハーモニーの美しさを学ぶ。	60
12	実践的レパートリーの開拓に向けて 鍵盤編その2	W.A.Mozart《Adagio》を基軸に鍵盤打楽器を学ぶ。	モーツァルトのその他の作品もCD等で親しむ。	60
13	実践的レパートリーの開拓に向けて 鍵盤編その3	自ら選択した楽曲を基軸に鍵盤打楽器を学ぶ。	様々な演奏を聴く機会を設ける。	60
14	演奏へ向けての心得	試験に向けての実践的なプレ会を行い緊張との向き合い方を考える。	人前で演奏することの面白さを学ぶ。	60
15	身近な童謡を編曲する試み その1	《さくらさくら》を用いた即興演奏。	日本音階の魅力を知る。	60
16	身近な童謡を編曲する試み その2	《紅葉》を用いた即興演奏。	文部省唱歌の持つ魅力を知る。	60
17	身近な童謡を編曲する試み その3	自ら選択した楽曲を基軸に即興演奏。	自ら音楽を主体的に行う契機とする。	60
18	子どものための音楽作り その1	會田瑞樹作曲《音楽絵本組曲"ヨビボエン"》の楽譜を元に作曲の面白さを学ぶ。	テーマとしたい教材を探す。	60
19	子どものための音楽作り その2	打楽器を用いた楽曲作りを模索する。	楽譜を書くことに慣れる。	60
20	子どものための音楽作り その3	打楽器を用いた楽曲作りを模索する。	楽譜化して演奏することの面白さを学ぶ。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
21	多種多様な打楽器を用いた表現について その1	多様な打楽器を用いて独奏曲の演奏を模索する。	セッティングの大切さを学ぶ。	60
22	多種多様な打楽器を用いた表現について その2	多様な打楽器を用いて独奏曲の演奏を模索する。	自分にあったセッティングを素早く組み立てる。	60
23	世界的に有名な打楽器奏者のレパートリーを追って その1	安倍圭子先生による作曲作品の魅力学ぶ。	奏者が作曲することの意味を考える。	60
24	世界的に有名な打楽器奏者のレパートリーを追って その2	高橋美智子先生、吉原すみれ先生、神谷百子先生のレパートリー楽曲を知る。	演奏家として活動することの魅力を知る。	60
25	実技試験にむけて その1	試験に向けての楽曲研究。	作品の構造を理解する。	60
26	実技試験にむけて その2	試験に向けての楽曲研究。	作品がどのような意味を持つか知る。	60
27	実技試験にむけて その3	試験に向けての楽曲研究。	作品を表現していくための稽古を深める。	60
28	実技試験にむけて その4	試験に向けての楽曲研究。	暗譜の方法を模索する。	60
29	実技試験にむけて その5	試験に向けての楽曲研究。	打楽器で様々な表現ができるように稽古を深める。	60
30	1年間のまとめ	今後演奏したい作品などを発見する。	日々の稽古を欠かさず行う。	60

科目名	リトミック	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
担当教員	小林 郁子		
開講期	通年		
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 幼稚園・保育園においてリトミックの指導を行う技術と、実践する力を身に付ける。 〔授業全体の内容の概要〕 指導者になるためのリズム運動と、年齢別の具体的な指導法、指導に必要な演奏法を、実技を通して指導する。また、幼稚園で20年以上、リトミック指導を継続している経験を元に、実際の子どもの発達に即した音楽的指導や子どもの反応、園の状況に応じた実践方法を指導する。〔実務経歴〕1997年より、東京都の栄光乃園幼稚園において年少、年中、年長の保育課内リトミック指導を行なっている。また1999年より、リトミック研究センター指導者養成校、月例研修会において、リトミック指導者養成クラスにて指導を行っている。〔フィードバックの方法〕認定試験終了後にフィードバックを行います。		
達成目標	〔授業修了時の達成課題〕 ①幼稚園保育園において、リトミック指導を行なうことができる②リトミック研究センターが実施する、幼稚園・保育園のためのリトミック2級指導資格、1級指導資格を得る試験に合格する		
受講資格	短大幼児教育学科チャイルドミュージックコース2年生	成績評価 方法	
教科書	幼稚園、保育園のためのリトミック3歳児用、4歳児用、5歳児用（リトミック研究センター）		
参考書			
学生への要望	動きやすい服装で出席してください		
オフィスタイム	水曜日授業開始前、終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	リズム-1	リトミックについて リトミック研究センターの紹介 リトミックの経験	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120
2	リズム-2 ティーチング-1	基礎的な動き 基礎リズム ティーチング3歳児-1 (1学期)	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120
3	リズム-3 ティーチング-2	基礎的な動き 基礎リズム ステップ ティーチング3歳児-2 (1学期)	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120
4	リズム-4 ティーチング-3	基礎的な動き 基礎リズム ステップ ティーチング3歳児-3 (1学期)	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120
5	リズム-5 ティーチング-4	基礎リズム ステップ 複雑なリズム ティーチング3歳児-4 (1学期)	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120
6	リズム-6 ティーチング-5	基礎リズム ステップ 複雑なリズム ティーチング3歳児-5 (2学期)	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120
7	リズム-7 ティーチング-6	基礎リズム ステップ 拍子-1 ティーチング3歳児-6 (2学期)	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120
8	リズム-8 ティーチング-7	基礎リズム ステップ 拍子-2 ティーチング3歳児-7 (2学期)	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120
9	リズム-9 ティーチング-8	基礎リズム リズムフレーズ-1 ティーチング3歳児-8 (2学期)	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120
10	リズム-10 ティーチング-9	認定試験公示 試験課題練習 リズムフレーズ-2 ティーチング3歳児-9 (3学期)	自分の課題曲を練習 試験課題練習	120
11	リズム-11 ティーチング-10	試験課題練習 リズムカノン-1 ティーチング3歳児-10 (3学期)	自分の課題曲を練習 試験課題練習	120
12	リズム-12 ティーチング-11	試験課題練習 リズムカノン-2 ティーチング3歳児-11 (3学期)	自分の課題曲を練習 試験課題練習	120
13	リズム-13 ティーチング-12	試験課題練習 J=ダルクローズについて-1 ティーチング3歳児-12 (3学期)	自分の課題曲を練習 試験課題練習	120
14	リズム-14 ティーチング-13	試験課題練習 ティーチング3歳児-13 (年間を通してのまとめ)	自分の課題曲を練習 試験課題練習	120
15	資格認定試験	リトミック研究センター 幼稚園保育園のためのリトミック2級 資格認定試験	指導書4歳児の課題曲を練習する	120
16	リズム-15 ティーチング-14	リズムフレーズ-3 ティーチング4歳児-1 (1学期)	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120
17	リズム-16 ティーチング-15	リズムフレーズ-4 ティーチング4歳児-2 (1学期)	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120
18	リズム-17 ティーチング-16	リズムフレーズ-5 ティーチング4歳児-3 (2学期)	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120
19	リズム-18 ティーチング-17	リズムカノン-3 ティーチング4歳児-4 (2学期)	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
20	リズム-19 ティーチング-18	リズムカノン-4 ティーチング4 歳児-5 (3学期)	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120
21	リズム-20 ティーチング-19	リズムカノン-5 ティーチング4 歳児-6 (3学期)	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120
22	リズム-21 ティーチング-20	リズムカノン-6 ティーチング4 歳児-7 (年間を通してのまとめ)	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120
23	リズム-22 ティーチング-21	複リズム-1 ティーチング5 歳児-1 (1学期)	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120
24	リズム-23 ティーチング-22	複リズム-2 ティーチング5 歳児-2 (1学期)	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120
25	リズム-24 ティーチング-23	試験公示 複リズム-3 ティーチング5 歳児-3 (2学期)	自分の課題曲を練習 試験課題練習	120
26	リズム-25 ティーチング-24	試験課題練習 複リズム-4 ティーチング5 歳児-4 (2学期)	自分の課題曲を練習 試験課題練習	120
27	リズム-26 ティーチング-25	試験課題練習 ティーチング5 歳児-5 (3学期)	自分の課題曲を練習 試験課題練習	120
28	リズム-27 ティーチング-26	試験課題練習 ティーチング5 歳児-6 (3学期)	自分の課題曲を練習 試験課題練習	120
29	リズム-28 ティーチング-27	試験課題練習 ティーチング5 歳児-7 (年間を通してのまとめ) J=ダルクローズについて-2	自分の課題曲を練習 試験課題練習	120
30	資格認定試験	リトミック研究センター 幼稚園保育園のためのリトミック1級 資格認定試験		0

<b>科目名</b>	ハンドベル演習	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	横溝 聡子		
<b>開講期</b>	通年		
<b>授業概要</b>	<p>ハンドベル（イングリッシュ・ハンドベル）は様々な演奏法により多彩な音楽表現ができる楽器である。ハンドベルの多様な奏法の基礎的な知識や技術を身につけ、美しい音の響きで表現するための演奏法を学ぶ。また、アンサンブルを通して音楽表現力を高め、個人の責任と他との協調を大切にすることを養い、コミュニケーション能力を身につけることをねらいとする。授業では音楽表現についてディスカッションをしながら曲を創り上げることで、問題解決能力も養う。また、地域貢献活動など学外での演奏を通して子どもたちと交流し、総合的な実践力を身につける。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 演奏発表後や最終授業で、フィードバックを行う。<input checked="" type="checkbox"/> 位置づけ・水準 CE2263<input checked="" type="checkbox"/></p>		
<b>達成目標</b>	<p>目標は</p> <p>①ハンドベルの基本的な取り扱い方や奏法、音楽的知識を身につけている。<input checked="" type="checkbox"/></p> <p>②美しい響きや表現を目指すために、豊かな感性や想像力を持って積極的に演奏に取り組むことができる。<input checked="" type="checkbox"/></p> <p>③個人の責任を果たし、他と協調しながらコミュニケーション能力を高めることができている。<input checked="" type="checkbox"/></p> <p>④保育現場でも役立つような音楽創りの力を身につけていることが確認できる。<input checked="" type="checkbox"/></p> <p>単位認定の最低基準：①～④の内容の7割を理解し、授業や演奏において確認できること。<input checked="" type="checkbox"/></p> <p>ディプロマ・ポリシーとの関係：「保育の方法と技術力」「表現とコミュニケーション能力」「問題解決能力」「豊かな人間性と規範意識」「音楽表現能力」<input checked="" type="checkbox"/></p>		
<b>受講資格</b>	幼児教育学科チャイルド・ミュージックコース2年	<b>成績評価 方法</b>	平常点60%、成果発表30%、ノート10%
<b>教科書</b>	進度に合わせて、その都度指示。 <input checked="" type="checkbox"/>		
<b>参考書</b>	進度に合わせて、適宜楽譜を紹介する。		
<b>学生への要望</b>	手袋・筆記用具・楽譜を必ず持参する。ハンドベルに適した服装にし、長い髪の毛は後ろで結ぶこと。欠席・遅刻をしないようにすること。		
<b>オフィスタイム</b>	水曜日IV限 金曜日I限 No.1 幼児教育学科（チャイルド・ミュージックコース）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	基礎技術の学習1	ハンドベルの基本的な扱い方と、基礎的な技術の習得を図る。	楽譜の読み方やリズムへの理解を深めておく。	30
2	基礎技術の学習2	曲を用いて基礎的な技術や奏法の習得を図る。	楽譜を整え、必要な点をノートに整理しておく。	30
3	基礎技術の学習3	曲を用いて基礎的な技術や奏法の習得を図る。	楽譜を整え、必要な点をノートに整理しておく。	30
4	基礎技術の学習4	曲を用いて基礎的な技術や奏法の習得を図る。	楽譜を整え、必要な点をノートに整理しておく。	30
5	基礎技術の学習5	曲を用いて基礎的な技術や奏法の習得を図る。	楽譜を整え、必要な点をノートに整理しておく。	30
6	基礎技術の学習6	曲を用いて基礎的な技術や奏法の習得を図る。	楽譜を整え、必要な点をノートに整理しておく。	30
7	基礎技術の学習7	曲を用いて基礎的な技術や奏法の習得を図る。	楽譜を整え、必要な点をノートに整理しておく。譜読みの復習。	30
8	基礎技術の学習8	曲を用いて基礎的な技術や奏法の習得を図る。	楽譜を整え、必要な点をノートに整理しておく。譜読みの復習。	30
9	基礎技術の学習9	曲を用いて基礎的な技術や奏法の習得を図る。	楽譜を整え、必要な点をノートに整理しておく。譜読みの復習	30
10	基礎技術の学習10	曲を用いて基礎的な技術や奏法の習得を図る。	楽譜を整え、必要な点をノートに整理しておく。譜読みの復習。	30
11	演奏表現の学習1	演奏発表に向け、アンサンブル力を高める。アサインメント（ベルの割り振り）を考え、実践する。	楽譜を整え、必要な点をノートに整理しておく。譜読みの復習。	30
12	演奏表現の学習2	演奏発表に向け、音楽創りのためのディスカッションをしながら練習する。	楽譜を整え、必要な点をノートに整理しておく。譜読みの復習。	30
13	演奏表現の学習3	演奏発表に向け、音楽創りのためのディスカッションをしながら練習する。	楽譜を整え、必要な点をノートに整理しておく。譜読みの復習。	30
14	演奏表現の学習4	演奏発表に向け、音楽創りのためのディスカッションをしながら練習する。	演奏発表にむけた練習。	60
15	演奏表現の学習とまとめ	演奏発表を行う。その演奏に対するフィードバックやディスカッションを行い、学外発表に向けて更なる演奏表現の向上を目指した練習を行う。	必要な点をノートに整理しておく。譜読みの復習。	60
16	器楽合奏の学習1	学内外での演奏発表に向けた練習。保育現場で使用する楽器や他の楽器とのアンサンブルの実践と創作。	保育現場で使用する楽器を使って幼児曲のアレンジを考える。保育現場での指導法を考える。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
17	器楽合奏の学習 2	学内外での演奏発表に向けた練習。保育現場で使用する楽器や他の楽器とのアンサンブルの実践と創作。	保育現場で使用する楽器を使って幼児曲のアレンジを考える。保育現場での指導法を考える。	30
18	器楽合奏の学習 3	学内外での演奏発表に向けた練習。保育現場で使用する楽器や他の楽器とのアンサンブルの実践と創作。	保育現場で使用する楽器を使って幼児曲のアレンジを考える。保育現場での指導法を考える。	30
19	器楽合奏の学習 4	学内外での演奏発表に向けた練習。保育現場で使用する楽器や他の楽器とのアンサンブルの実践と創作のまとめ。	授業のまとめを行い、保育現場での指導法を考える。	30
20	演奏技術の学習 1	学内外での演奏発表に向けた練習。トーンチャイムの基本的奏法の習得。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	30
21	演奏技術の学習 2	学内外での演奏発表に向けた練習。トーンチャイムの基本的奏法の習得。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	30
22	演奏技術の学習 3	学内外での演奏発表に向けた練習。トーンチャイムの基本的奏法の習得。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を、次週までにできるようにする。	30
23	演奏技術の学習 4	学内外での演奏発表に向けた練習。トーンチャイムの基本的奏法の習得。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	30
24	演奏技術の学習 5	学内外での演奏発表に向けた練習。トーンチャイムの基本的奏法の習得。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。「生活のうた」弾き歌いテストに向けて準備する。	30
25	演奏表現の学習 1	学内外での演奏発表に向けた練習。演奏表現の向上に向け、ディスカッションをしながら表現を創意工夫する。	楽曲への理解を深め、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	30
26	演奏表現の学習 2	学内外での演奏発表に向けた練習。演奏表現の向上に向け、ディスカッションをしながら表現を創意工夫する。	楽曲への理解を深め、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	30
27	演奏表現の学習 3	学内外での演奏発表に向けた練習。演奏表現の向上に向け、ディスカッションをしながら表現を創意工夫する。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	30
28	演奏表現の学習 4	学内外での演奏発表に向けた練習。演奏表現の向上に向け、ディスカッションをしながら表現を創意工夫する。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	30
29	演奏表現の学習 5	学内外での演奏発表に向けた練習。演奏表現の向上に向け、ディスカッションをしながら表現を創意工夫する。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の更なる向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
30	演奏表現の学習 6 とまとめ	演奏発表を行う。ディスカッションを通じて演奏を振り返り、1年間の学習のまとめとしてのフィードバックを行う。	1年間の授業のノートを提出できるよう、まとめておく。	60

科目名	ミュージカル演習	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員	磯部 哲夫		
開講期	IV		
授業概要	本科目では卒業研究と連動させた科目であり、音楽、歌、踊り、芝居を融合させた総合舞台表現であるミュージカル制作を行う。卒業研究での振り返りを基に、キャスト・スタッフの課題解決をねらいとする。授業では卒業研究のキャストの身体表現、音楽表現の考察、スタッフの舞台製作、キャスト、スタッフの共同ディスカッションで互いの問題を解決しながら、ミュージカル作品を作り上げていく。毎時間の学修ポートフォリオによるフィードバック、最終授業で全体に対するフィードバックを行う。位置づけ・水準 CE2268		
達成目標	①キャストの身体表現、音楽表現、スタッフの造形的表現の基礎技術が身につけていることが確認できる。☑ ②キャスト・スタッフの共同作業において、問題解決能力を身につけていることが確認できる。☑ ③幼児を対象にした音楽的表現、造形的表現が身につけていることが確認できる。☑ 単位認定の最低基準は①～③の内容の7割を理解し、授業や研究発表において確認できること。ディプロマ・ポリシーとの関係は、「保育の方法と技術力」「表現力とコミュニケーション能力」「問題解決力」「豊かな人間性と規範意識」「音楽表現能力」である。		
受講資格	幼児教育学科2年生	成績評価 方法	平常点（興味・関心、意欲、態度、創意工夫、協調性）80%、学修ポートフォリオ20%
教科書	ミュージカル演目が決定後指定する。		
参考書	ミュージカル制作に関する書籍		
学生への要望	研究倫理を十分に理解し、ルールを決めて協調性を持って共同作業を行うこと。☑ ☑		
オフィスタイム	磯部：月曜日Ⅲ限、水曜日Ⅳ限 No.2幼児教育学科（チャイルド・ミュージックコース）研究室☑ 横溝：水曜日Ⅳ限、金曜日Ⅰ限 No.1幼児教育学科（チャイルド・ミュージックコース）研究室		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	授業計画、授業内容、評価内容、授業への心構え、教科書について説明を行う。	シラバスを見て、授業内容、評価内容、スケジュールを把握しておくこと。	60
2	通し稽古・舞台製作1	もみじ会に向けて、キャストは身体・音楽表現、スタッフは造形的表現の最終確認を行う。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	60
3	通し稽古・舞台製作2	もみじ会に向けて、キャストは身体・音楽表現、スタッフは造形的表現の最終確認を行う。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	60
4	もみじ会発表振り返り	もみじ会発表についてディスカッションを行う。	もみじ会発表の振り返りをする。	60
5	音楽稽古・舞台製作1	中間発表の振り返りを踏まえ、キャスト、スタッフそれぞれの修正を確認しキャストは音楽稽古、スタッフは舞台製作に取り組む。	修正点について考察する。	60
6	音楽稽古・舞台製作2	中間発表の振り返りを踏まえ、キャスト、スタッフそれぞれの修正を確認しキャストは音楽稽古、スタッフは舞台製作に取り組む。	修正点について考察する。	60
7	音響機器研究1	建学記念講堂の音響機器について操作方法等の説明を基に、音響・照明のシミュレーションを考察する。	音響機器について情報を収集する	60
8	音響機器研究2	建学記念講堂の音響機器について操作方法等の説明を基に、音響・照明のシミュレーションを考察する。	音響機器について情報を収集する	60
9	音響機器研究3	建学記念講堂の音響機器について操作方法等の説明を基に、音響・照明のシミュレーションを考察する。	音響機器について情報を収集する	60
10	立ち稽古・舞台製作1	修正点を踏まえ、身体的表現、音楽的表現、造形的表現を考察する。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	60
11	立ち稽古・舞台製作2	修正点を踏まえ、身体的表現、音楽的表現、造形的表現を考察する。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	60
12	通し稽古・舞台製作1	身体的表現、音楽的表現、造形的表現の最終確認を行い、研究発表に向け総合舞台表現の完成度をチェックする。	総合舞台表現の完成度をチェックする。	60
13	通し稽古・舞台製作2	身体的表現、音楽的表現、造形的表現の最終確認を行い、研究発表に向け総合舞台表現の完成度をチェックする。	総合舞台表現の完成度をチェックする。	60
14	通し稽古・舞台製作3	卒研リハーサルを振り返り修正を行う。	振り返りを基に最終点検を行う。	60
15	まとめ、通し稽古・舞台製作4	ミュージカルの全体的な最終点検を行う。	振り返りを基に最終点検を行う。	60

<b>科目名</b>	卒業研究	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	三瓶 令子		
<b>開講期</b>	通年		
<b>授業概要</b>	<p>○本卒業研究では、「世界のおそび歌・日本のおそび歌・わらべ歌」等、保育現場で活用できる歌おそびについて研究する。(IT機器やDVD・CD等を有効に活用する。)</p> <p>○出来るだけ子どもに近いところで、子どもに届く表現を大切に研究する。</p> <p>○基礎技能の音楽・造形・体育(ダンス)で学んだそれぞれの表現方法を、総合的に表現出来るようにする。</p> <p>○協働で表現活動をするという学びの場を共有し、発表の機会を体験する。</p> <p>○フィードバックの方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月最終週の授業で、おそび歌の発表に対するフィードバックを行います。</li> <li>・もみじ会での発表内容をレポート提出後、フィードバックの時間を設けます。</li> </ul> <p>○位置づけ・水準(ナンバリング): CE2270</p>		
<b>達成目標</b>	<p>○歌おそびの研究を通して、学生同士協働的に学ぶことができるようになる。</p> <p>○出来るだけ子どもに近いところで、子どもに届く表現ができようになる。</p> <p>○基礎技能の音楽・造形・体育(ダンス)で学んだそれぞれの表現方法を、総合的に表現できるようになる。</p> <p>○研究倫理について学ぶ。</p> <p>○ディプロマ・ポリシーと授業科目の関連</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育内容を理解し、保育を総合的に実践できる。</li> <li>・保育を実践するための方法や技術を身につけている。</li> <li>・感性豊かな表現力とコミュニケーション能力を身につけている。</li> </ul> <p>単位認定の最低基準: 実践内容の8割が活用できること。</p>		
<b>受講資格</b>	幼児教育学科 2年生	<b>成績評価 方法</b>	平常点(取り組みの姿勢、意欲、態度、他との協力、チームへの貢献度等)60点 成果(研究発表、本文、『保育研究』原稿)40点
<b>教科書</b>	なし		
<b>参考書</b>	適宜推薦		
<b>学生への要望</b>	<p>○グループで学びあうルールやマナーを守る。</p> <p>○他の卒研グループとも互いに尊重し合い、体験を共有する。</p> <p>○時間割上の時間だけでなく、時間外活動を有効に使う。</p> <p>○研究倫理を遵守する。</p>		
<b>オフィスタイム</b>	<p>三瓶 時間: 火・水のIV時限</p> <p>場所: 83年館4F 841研究室</p>		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション1	<p>○メンバーの顔合わせと自己紹介</p> <p>○リーダー・サブリーダー</p> <p>○1年間の日程確認</p> <p>○「おそび歌」とは何かについて学ぶ</p>	グルーピングに向けて、歌おそびの種類について調査する。	30
2	オリエンテーション2	<p>○メンバーの顔合わせと自己紹介</p> <p>○リーダー・サブリーダー</p> <p>○1年間の日程確認</p> <p>○「おそび歌」とは何かについて学ぶ</p>	グルーピングに向けて、歌おそびの種類について調査する。	30
3	テーマの選択①	<p>○歌おそびとは何かについて学ぶ</p> <p>○話し合い(それぞれの希望を出し合う)</p> <p>○資料検索(図書館・資料室・幼教資料・VTR・DVD)</p>	演目設定のための資料検索	30
4	テーマの選択②	<p>○歌おそびとは何かについて学ぶ</p> <p>○話し合い(それぞれの希望を出し合う)</p> <p>○資料検索(図書館・資料室・幼教資料・VTR・DVD)</p>	演目設定のための資料探索	30
5	テーマの選択③	<p>○歌おそびとは何かについて学ぶ</p> <p>○話し合い(それぞれの希望を出し合う)</p> <p>○資料検索(図書館・資料室・幼教資料・VTR・DVD)</p>	演目設定のための資料探索	30
6	テーマの選択④	<p>○歌おそびとは何かについて学ぶ</p> <p>○話し合い(それぞれの希望を出し合う)</p> <p>○資料検索(図書館・資料室・幼教資料・VTR・DVD)</p>	演目設定のための資料探索	30



-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	テーマの選定⑤	○歌あそびとは何かについて学ぶ☑ ○話し合い(それぞれの希望を出し合う)☑ ○資料検索(図書館・資料室・幼教資料・VTR・DVD)	歌あそびに関する資料探索	30
8	テーマの選定⑥	○歌あそびとは何かについて学ぶ☑ ○話し合い(それぞれの希望を出し合う)☑ ○資料検索(図書館・資料室・幼教資料・VTR・DVD)	歌あそびに関する資料探索	30
9	歌あそび研究のグルーピング①	○基礎レッスン(ストレッチ・発声・言葉・身体・セクションでのレッスン)☑ ○グルーピング☑ ・自分の研究対象の歌あそびを選択し、グループを作る	歌あそびに関する文、楽譜の探索と、基礎レッスンの復習	30
10	歌あそび研究のグルーピング②	○基礎レッスン(ストレッチ・発声・言葉・身体・セクションでのレッスン)☑ ○グルーピング☑ ・自分の研究対象の歌あそびを選択し、グループを作る	歌あそびに関する文献・楽譜の探索と、基礎レッスンの復習	30
11	歌あそび研究のグルーピング③	○基礎レッスン(ストレッチ・発声・言葉・身体・セクションでのレッスン)☑ ○グルーピング☑ ・自分の研究対象の歌あそびを選択し、グループを作る	歌あそびに関する文献・楽譜の探索と、基礎レッスンの復習	30
12	歌あそび研究のグルーピング④	○基礎レッスン(ストレッチ・発声・言葉・身体・セクションでのレッスン)☑ ○グルーピング☑ ・自分の研究対象の歌あそびを選択し、グループを作る	歌あそびに関する文献・楽譜の探索と、基礎レッスンの復習	30
13	研究対象のあそび歌にふれる①	○多くのあそび歌にふれる☑ ○あそび歌のあそび方を覚える☑ ○グループの仲間同士で実際にあそんでみる☑ ○子どもに近い表現内容か☑ ○子どもの発達や年齢を視野に入れているか	あそび歌のあそび方を復習する	30
14	研究対象のあそび歌にふれる②	○多くのあそび歌にふれる☑ ○あそび歌のあそび方を覚える☑ ○グループの仲間同士で実際にあそんでみる☑ ○子どもに近い表現内容か☑ ○子どもの発達や年齢を視野に入れているか	あそび歌のあそび方を復習する	30
15	研究対象のあそび歌にふれる③	○多くのあそび歌にふれる☑ ○あそび歌のあそび方を覚える☑ ○グループの仲間同士で実際にあそんでみる☑ ○子どもに近い表現内容か☑ ○子どもの発達や年齢を視野に入れているか	あそび歌のあそび方を復習する	30
16	研究対象のあそび歌にふれる④	○多くのあそび歌にふれる☑ ○あそび歌のあそび方を覚える☑ ○グループの仲間同士で実際にあそんでみる☑ ○子どもに近い表現内容か☑ ○子どもの発達や年齢を視野に入れているか	あそび歌のあそび方を復習する	30
17	研究対象のあそび歌にふれる⑤	○多くのあそび歌にふれる☑ ○あそび歌のあそび方を覚える☑ ○グループの仲間同士で実際にあそんでみる☑ ○子どもに近い表現内容か☑ ○子どもの発達や年齢を視野に入れているか	あそび歌のあそび方を復習する	45
18	研究対象のあそび歌にふれる⑥	○多くのあそび歌にふれる☑ ○あそび歌のあそび方を覚える☑ ○グループの仲間同士で実際にあそんでみる☑ ○子どもに近い表現内容か☑ ○子どもの発達や年齢を視野に入れているか	あそび歌のあそび方を復習する⑥	45

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
19	研究対象のあそび歌について調べる①	○文献等の資料により、研究対象のあそび歌についてリサーチする☒ ○グループの仲間同士で、リサーチ結果を交換する	リサーチ結果をまとめる	45
20	研究対象のあそび歌について調べる②	○文献等の資料により、研究対象のあそび歌についてリサーチする☒ ○グループの仲間同士で、リサーチ結果を交換する	リサーチ結果をまとめる②	30
21	研究対象のあそび歌について調べる③	○文献等の資料により、研究対象のあそび歌についてリサーチする☒ ○グループの仲間同士で、リサーチ結果を交換する	リサーチ結果をまとめる③	60
22	研究対象のあそび歌について調べる④	○文献等の資料により、研究対象のあそび歌についてリサーチする☒ ○グループの仲間同士で、リサーチ結果を交換する	リサーチ結果をまとめる④	60
23	研究対象のあそび歌について調べる⑤	○文献等の資料により、研究対象のあそび歌についてリサーチする☒ ○グループの仲間同士で、リサーチ結果を交換する	リサーチ結果をまとめる⑤	60
24	研究対象のあそび歌について調べる⑥	○文献等の資料により、研究対象のあそび歌についてリサーチする☒ ○グループの仲間同士で、リサーチ結果を交換する	リサーチ結果をまとめる⑥	60
25	もみじ会準備(チャイルドシアター)①	○1・2年生の各グループリーダー同士でチャイルドシアター全体を見通し、全体のプログラムを作る。☒ ○発表会場の環境を整え、練習やリハーサルのスケジュールを作る。☒ ○あそび歌の卒研グループは、観客(子ども)に届く表現方法を工夫し、卒研としてより質の高い作品となるよう仕上げる。(音楽・声・言葉・動き・音響・照明等)	舞台表現の総合的な練習	60
26	もみじ会準備(チャイルドシアター)②	○1・2年生の各グループリーダー同士でチャイルドシアター全体を見通し、全体のプログラムを作る。☒ ○発表会場の環境を整え、練習やリハーサルのスケジュールを作る。☒ ○あそび歌の卒研グループは、観客(子ども)に届く表現方法を工夫し、卒研としてより質の高い作品となるよう仕上げる。(音楽・声・言葉・動き・音響・照明等)	舞台表現の総合的な練習	60
27	もみじ会準備(チャイルドシアター)③	○1,2年生年同志で学び合う関係性を作り、またグループごとに協調し、全体として協同的に学び合う関係を確立する。☒ ○あそび歌の卒研グループは、観客(子ども)に届く表現方法を工夫し、卒研としてより質の高い作品となるよう仕上げる。(音楽・発声・言葉・動き・音響・照明等)	舞台表現の総合的な練習	60
28	もみじ会準備(チャイルドシアター)④	○1,2年生年同志で学び合う関係性を作り、またグループごとに協調し、全体として協同的に学び合う関係を確立する。☒ ○あそび歌の卒研グループは、観客(子ども)に届く表現方法を工夫し、卒研としてより質の高い作品となるよう仕上げる。(音楽・発声・言葉・動き・音響・照明等)	舞台表現の総合的な練習	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
29	もみじ会発表(チャイルドシアター)①	○舞台発表を、観客(子ども)との相互関係の中で捉え、次の発表や保育と結び付ける。☑ ○発表期間中、それぞれの役割りを認識し、個と全体を見通した活動となるよう努める。☑ ○発表内容の記録(写真,VTR,DVD等)撮り、反省の機会を設ける。☑	舞台表現の総合的な練習(発表における来場者の反応を踏まえる)	60
30	もみじ会発表(チャイルドシアター)②	○舞台発表を、観客(子ども)との相互関係の中で捉え、次の発表や保育と結び付ける。☑ ○発表期間中、それぞれの役割りを認識し、個と全体を見通した活動となるよう努める。☑ ○発表内容の記録(写真,VTR,DVD等)撮り、反省の機会を設ける。☑	舞台表現の総合的な練習(発表における来場者の反応を踏まえる)	60
31	もみじ会発表(チャイルドシアター)③	○舞台発表を、観客(子ども)との相互関係の中で捉え、次の発表や保育と結び付ける。☑ ○発表期間中、それぞれの役割りを認識し、個と全体を見通した活動となるよう努める。☑ ○発表内容の記録(写真,VTR,DVD等)撮り、反省の機会を設ける。☑	舞台表現の総合的な練習(発表における来場者の反応を踏まえる)	60
32	もみじ会発表(チャイルドシアター)④	○舞台発表を、観客(子ども)との相互関係の中で捉え、次の発表や保育と結び付ける。☑ ○発表期間中、それぞれの役割りを認識し、個と全体を見通した活動となるよう努める。☑ ○発表内容の記録(写真,VTR,DVD等)撮り、反省の機会を設ける。☑	舞台表現の総合的な練習(発表における来場者の反応を踏まえる)	60
33	もみじ会反省	○もみじ会全体、チャイルドシアター全体、オペレッタ全体(1,2年生全体)、オペレッタ卒研とし、協働的な学びとなったかお互いに反省の機会を持つ。☑ ○記録(写真,VTR,DVD等)を観て、発表内容を省察し、次の学びへ繋げる。☑	記録(写真,VTR,DVD等)を観て、発表内容を省察し、次の学びへ繋げる。☑	30
34	もみじ会反省	○もみじ会全体、チャイルドシアター全体、オペレッタ全体(1,2年生全体)、オペレッタ卒研とし、協働的な学びとなったかお互いに反省の機会を持つ。☑ ○記録(写真,VTR,DVD等)を観て、発表内容を省察し、次の学びへ繋げる。☑	記録(写真,VTR,DVD等)を観て、発表内容を省察し、次の学びへ繋げる。☑	30
35	卒研発表へ向けての練習①	○もみじ会の内容を分析し、卒研発表会へ向けてより質の高い内容とするための工夫をする。☑ ○発表会場(記念講堂)を視野に入れ、人、物、空間等を検討する。☑ ○授業とのバランスを考え、計画表を作成する。☑	キャスト・楽器隊・スタッフごとに記念講堂を視野に入れて内容を深める。	30
36	卒研発表へ向けての練習②	○もみじ会の内容を分析し、卒研発表会へ向けてより質の高い内容とするための工夫をする。☑ ○発表会場(記念講堂)を視野に入れ、人、物、空間等を検討する。☑ ○授業とのバランスを考え、計画表を作成する。☑	キャスト・楽器隊・スタッフごとに記念講堂を視野に入れて内容を深める。	30
37	卒研発表へ向けての練習③	○記念講堂の広さを把握し、表現方法、内容を工夫する。☑ ○基礎レッスン(ストレッチ・発声・言葉・身体・セクションでのレッスン)を毎回行う。☑ ○各自個人の役作りを深めると共に、協働で表現活動をする事で、学びの場を共有する☑ ○各自役割りごとに、音響・照明・衣装・大道具・小道具等、より舞台効果が出るようなアイデアを考える	各自記念講堂を視野に入れて表現内容を深める。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
38	卒研発表へ向けての練習④	○記念講堂の広さを把握し、表現方法、内容を工夫する。☑ ○基礎レッスン(ストレッチ・発声・言葉・身体・セクションでのレッスン)を毎回行う。☑ ○各自個人の役作りを深めると共に、協働で表現活動をする ことで、学びの場を共有する☑ ○各自役割りごとに、音響・照明・衣装・大道具・小道具等、より舞台効果が出るようなアイデアを考える	各自記念講堂を視野に入れて表現内容を深める。	30
39	卒研発表へ向けての練習⑤	○記念講堂の広さを把握し、表現方法、内容を工夫する。☑ ○基礎レッスン(ストレッチ・発声・言葉・身体・セクションでのレッスン)を毎回行う。☑ ○各自個人の役作りを深めると共に、協働で表現活動をする ことで、学びの場を共有する☑ ○各自役割りごとに、音響・照明・衣装・大道具・小道具等、より舞台効果が出るようなアイデアを考える	各自記念講堂を視野に入れて、表現内容を深める。	30
40	卒研発表へ向けての練習⑥	○記念講堂の広さを把握し、表現方法、内容を工夫する。☑ ○基礎レッスン(ストレッチ・発声・言葉・身体・セクションでのレッスン)を毎回行う。☑ ○各自個人の役作りを深めると共に、協働で表現活動をする ことで、学びの場を共有する☑ ○各自役割りごとに、音響・照明・衣装・大道具・小道具等、より舞台効果が出るようなアイデアを考える	各自記念講堂を視野に入れて、表現内容を深める。	30
41	記念講堂機材説明会①	○講堂機材全般の操作方法を取得する。☑ ○特にスタッフは、実際に機材にふれ、操作方法を覚える。☑ ○機材操作の注意事項を把握し、事故・故障の原因を作らないよう慎重に取り扱うよう注意する。☑	機材説明会の内容を踏まえ、各個人用の独自のマニュアルを作成する。	30
42	記念講堂機材説明会②	○講堂機材全般の操作方法を取得する。☑ ○特にスタッフは、実際に機材にふれ、操作方法を覚える。☑ ○機材操作の注意事項を把握し、事故・故障の原因を作らないよう慎重に取り扱うよう注意する。☑	機材説明会の内容を踏まえ、各個人用の独自のマニュアルを作成する。	30
43	卒研発表へ向けての練習⑦	○発表に向けて、全体の仕上げに入る。☑ ○グループの仲間同士で意見交換を密接にし、1人1人がそれぞれの表現内容をより洗練させ、子ども☑に届く表現について協同的に学んでいく。	各自の役割ごとに繰り返し練習し、内容を深める。☑ また小グループごと、全体として協働的に学びコミュニケーションを密にとる。	60
44	卒研発表へ向けての練習⑧	○発表に向けて、全体の仕上げに入る。☑ ○グループの仲間同士で意見交換を密接にし、1人1人がそれぞれの表現内容をより洗練させ、子ども☑に届く表現について協同的に学んでいく。	各自の役割ごとに繰り返し練習し、内容を深める。☑ また小グループごと、全体として協働的に学びコミュニケーションを密にとる。	60
45	卒研発表へ向けての練習⑨	○発表に向けて、全体の仕上げに入る。☑ ○グループの仲間同士で意見交換を密接にし、1人1人がそれぞれの表現内容をより洗練させ、子ども☑に届く表現について協同的に学んでいく	各自の役割ごとに繰り返し練習し、内容を深める。☑ また小グループごと、全体として協働的に学びコミュニケーションを密にとる。	60
46	卒研発表へ向けての練習⑩	○発表に向けて、全体の仕上げに入る。☑ ○グループの仲間同士で意見交換を密接にし、1人1人がそれぞれの表現内容をより洗練させ、子ども☑に届く表現について協同的に学んでいく	各自の役割ごとに繰り返し練習し、内容を深める。☑ また小グループごと、全体として協働的に学びコミュニケーションを密にとる。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
47	卒研発表会	○1年生全員と、2年生の論文発表のメンバー他来場者に、発表目的や制作課程の説明、発表をする。☑ ○作品の発表を観て頂く。☑ ○記録(VTR,DVD,写真等)を撮る。	発表本番に向けて気持ちを統一し、声・ことば・遊び方を再チェックする。	30
48	卒研発表会	○1年生全員と、2年生の論文発表のメンバー他来場者に、発表目的や制作課程の説明、発表をする。☑ ○作品の発表を観て頂く。☑ ○記録(VTR,DVD,写真等)を撮る。	発表本番に向けて気持ちを統一し、声・ことば・遊び方を再チェックする。	30
49	つどいへ向けての練習	○オアそび歌卒研として、協同的な学びとなったかお互いに反省の機会を持つ。☑ ○記録(写真,VTR,DVD等)観て、発表内容を省察し、次の学びへ繋げる。☑ ○つどいに向けて、更に内容を吟味、整理していく。	卒研で発表した内容を各自更に深め、繰り返し練習する。☑ また仲間同士で観せ合い、お互いに批評し合う。	60
50	つどいへ向けての練習	○あそび歌卒研として、協同的な学びとなったかお互いに反省の機会を持つ。☑ ○記録(写真,VTR,DVD等)観て、発表内容を省察し、次の学びへ繋げる。☑ ○つどいに向けて、更に内容を吟味、整理していく。	卒研で発表した内容を各自更に深め、繰り返し練習する。☑ また仲間同士で観せ合い、お互いに批評し合う。	60
51	劇とあそびのつどいリハーサル①	○あそび歌単独でなく、各リーダー同士連絡を密にして、つどい全体が学科行事として地域にアピールできるようにする。特に舞台発表は全体として統一した流れとなるように、それぞれのグループ同士、将来の保育者を目指し、協働的に学んでいく。☑ ○一方で、それぞれのパートの内容を、更に吟味、整理していく。	リハーサルで納得のいかなかった部分を話し合い、検討・修正し更に練習を深める。	60
52	劇とあそびのつどいリハーサル②	○あそび歌単独ではなく、各リーダー同士連絡を密にして、つどい全体が学科行事として地域にアピールできるようにする。特に舞台発表は全体として統一した流れとなるように、それぞれのグループ同士、将来の保育者を目指し、協働的に学んでいく。☑ ○一方で、それぞれのパートの内容を、更に吟味、整理していく。	リハーサルで納得のいかなかった部分を話し合い、検討・修正し更に練習を深める。	60
53	リハーサル振り返り①	○記録(写真,VTR,DVD等)を観て、発表内容を省察し、次の学びへ繋げる。☑ ○つどい全体が学科行事として地域にアピールできるようになっているか検討する。特に舞台発表は全体として統一した流れとなっているか検討する。☑ ○全体のタイムレコーダーの確認。☑	リハーサルで納得のいかなかった部分を話し合い、検討・修正し更に練習を深める。	60
54	リハーサル振り返り②	○記録(写真,VTR,DVD等)を観て、発表内容を省察し、次の学びへ繋げる。☑ ○つどい全体が学科行事として地域にアピールできるようになっているか検討する。特に舞台発表は全体として統一した流れとなっているか検討する。☑ ○全体のタイムレコーダーの確認。☑	リハーサルで納得のいかなかった部分を話し合い、検討・修正し更に練習を深める。	60
55	劇とあそびのつどいリハーサル③	○つどい当日の疑似体験を経験し、落ちないように準備する。☑	リハーサルで納得のいかなかった部分を話し合い、検討・修正し更に練習を深める。	60
56	劇とあそびのつどいリハーサル④	○つどい当日の疑似体験を経験し、落ちないように準備する。☑	リハーサルで納得のいかなかった部分を話し合い、検討・修正し更に練習を深める。	60
57	リハーサル振り返り③	○全体の確認。☑	各自練習の中で、最終確認をする。その際、子どもに対する表現発表であることを再自覚する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
58	リハーサル振り返り④	○全体の確認。☒	各自練習の中で、最終確認をする。その際、子どもに対する表現発表であることを再自覚する。	60
59	劇とあそびのつどい①	○学生の創造的表現力・運営力及び発表力を高め、学習意欲の高揚を図ることを目的とし、1年生・2年生の全学生が、年度末の発表としての発表活動を行なう。☒ 更に、保育者養成機関として、地域社会のサービスを図る。	発表本番に向けて気持ちを統一し、声・こどば。動き等を再チェックする。	30
60	劇とあそびのつどい②	○学生の創造的表現力・運営力及び発表力を高め、学習意欲の高揚を図ることを目的とし、1年生・2年生の全学生が、年度末の発表としての発表活動を行なう。☒ 更に、保育者養成機関として、地域社会のサービスを図る。	発表本番に向けて気持ちを統一し、声・こどば。動き等を再チェックする。	30

<b>科目名</b>	卒業研究		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	富士盛 公年			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	<p>本授業は幼児教育学科の学生として、実際に保育や幼稚園教育の現場に出て、必要な能力の養成を目指している。特にこの心理学の卒業研究では、学生がテーマを選び、心理学の調査や参考文献の読み方を学び、実際に調査をしたり、作業によって、コラージュなどの作成で、テーマごとに研究を深め、年度末の発表と論文作成を行う。研究倫理について、特にプライバシー保護や個人情報の取り扱いについて学習する。</p> <p>①初回と最終回に、「自己確認シート」をととした自己評価を行うこと。☒</p> <p>②5月と10月に、第一回論文の書き方指導、第二回論文の書き方指導を1コマずつ行うこと。☒</p> <p>③第一回目の論文の書き方指導の内容に、研究倫理について学ぶこと。☒</p>			
<b>達成目標</b>	<p>本学の学生は、建学の理念である「尊敬・責任・自由」の精神を持って遂行することが求められる。本授業では実際に保育や幼稚園教育の現場に出て、この理念を持って、幼児に対しては責任を持ち、児童の保護者に対しては尊敬の念を持って、保育者として活動する力を形成することを目指す。</p>			
<b>受講資格</b>	幼児教育学科2年	<b>成績評価 方法</b>	授業態度、意欲などを60点、発表の成果を40点として評価する。	
<b>教科書</b>	教科書は使わず、プリントを配布する。			
<b>参考書</b>	参考書は授業ごとに指示する。			
<b>学生への要望</b>	<p>現場に出たら、いろいろな経験に遭遇する。それに対応できるだけの知識や理論を習得するのは大変困難なことである。それを自覚して、十分に熱意を持って取り組んでほしい。事前にはあらかじめ配布済みのプリントを読み、関連の事例などについてまとめておくこと。事後にはコメントを提出してよく復習すること。☒</p>			
<b>オフィスタイム</b>	火曜日の4時から5時、水曜日4時から5時 富士盛研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	研究の基礎 オリエンテーション	心理学の研究の基礎的な説明	自分の研究テーマについてまとめてくる。	90
2	研究の基礎 オリエンテーション	心理学の研究の基礎的な説明	自分の研究テーマについてまとめてくる。	90
3	研究の基礎 説明	心理学の研究調査の方法の説明 研究倫理について、特にプライバシー保護や個人情報の取り扱いについて学習	自分の研究テーマについてまとめてくる。	90
4	研究の基礎 説明	心理学の研究調査の方法の説明	自分の研究テーマについてまとめてくる。	90
5	研究の概念形成	研究のテーマについての話し合い	自分の研究テーマについてまとめてくる。	90
6	研究の概念形成	研究のアウトラインについての話し合い テーマ決定	研究テーマへの調査学習	90
7	研究の概念形成	研究のサブテーマについての話し合い	研究テーマへの調査学習	90
8	研究の概念形成	研究のアウトラインについての話し合い サブテーマ決定	研究テーマへの調査学習	90
9	研究調査の手順	研究調査の手順についての話し合い	研究テーマへの調査学習	90
10	研究調査の手順	研究調査の手順についての話し合い	研究テーマへの調査学習	90
11	調査用紙作成1	調査用紙作成についての話し合い	研究テーマへの調査学習	90
12	調査用紙作成2	調査用紙作成についての話し合い	研究テーマへの調査学習	90
13	調査用紙作成3	調査用紙作成についての話し合い	研究テーマへの調査学習	90
14	調査用紙作成4	調査用紙作成についての話し合い	研究テーマへの調査学習	90
15	調査の分析1	KJ法分類についての説明☒	KJ法で分析して資料を作成	90
16	調査の分析2	KJ法分類実施 データ分類	KJ法で分析して資料を作成	90
17	調査の分析3	KJ法分類実施 データ分類	KJ法で分析して資料を作成	90
18	調査の分析4	KJ法分類実施 データ分類	KJ法で分析して資料を作成	90
19	調査の分析5	KJ法分類実施 データ分類	KJ法で分析して資料を作成	90
20	調査の分析6	KJ法分類実施 データ貼り付け	KJ法で分析して資料を作成	90
21	調査のまとめ1	分析結果のまとめについての話し合い	まとめ資料を作成	90
22	調査のまとめ2	分析結果のまとめについての話し合い	まとめ資料を作成	90
23	調査のまとめ3	分析結果のまとめについての話し合い	まとめ資料を作成	90
24	調査のまとめ4	分析結果のまとめについての話し合い	まとめ資料を作成	90
25	調査のまとめ5	分析結果のまとめについての話し合い	まとめ資料を作成	90
26	調査のまとめ6	分析結果のまとめについての話し合い	まとめ資料を作成	90
27	研究発表の準備1	研究発表の準備作業	研究発表への準備	90
28	研究発表の準備2	研究発表の準備作業	研究発表への準備	90
29	研究発表の準備3	研究発表の準備作業	研究発表への準備	90
30	研究発表の準備4	研究発表の準備作業	研究発表への準備	90

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
31	中間発表 1	ゼミの中での中間発表 それについての全員での検討	分析してまとめる	90
32	中間発表 2	ゼミの中での中間発表 それについての全員での検討	分析してまとめる	90
33	中間発表 3	ゼミの中での中間発表 それについての全員での検討	分析してまとめる	90
34	中間発表 4	ゼミの中での中間発表 それについての全員での検討	分析してまとめる	90
35	追加調査準備 1	追加の調査用紙の作成	資料作成	90
36	追加調査準備 2	追加の調査用紙の作成	資料作成	90
37	追加調査準備 3	追加の調査用紙の作成	資料作成	90
38	追加調査準備 4	追加の調査用紙の作成	資料作成	90
39	追加調査の集計 1	追加調査の集計とまとめ	資料作成	90
40	追加調査の集計 2	追加調査の集計とまとめ	資料作成	90
41	追加調査の集計 3	追加調査の集計とまとめ	資料作成	90
42	追加調査の集計 4	追加調査の集計とまとめ	資料作成	90
43	発表についての説明	これからの発表と論文作成の手順についての説明	資料作成	90
44	発表についての説明	これからの発表と論文作成の手順についての説明	資料作成	90
45	卒業研究のまとめ 1	考察を検討する 全員で検討する	資料作成	90
46	卒業研究のまとめ 2	考察を検討する 全員で検討する	資料作成	90
47	卒業研究のまとめ 3	考察を検討する 全員で検討する	資料作成	90
48	卒業研究のまとめ 4	考察を検討する 全員で検討する	資料作成	90
49	卒業研究発表準備 1	発表のリハーサル	資料作成	90
50	卒業研究発表準備 2	発表のリハーサル	資料作成	90
51	卒業研究発表	卒業研究の発表プレゼンテーション	修正作業	90
52	卒業研究発表	卒業研究の発表プレゼンテーション	修正作業	90
53	卒業研究発表	卒業研究の発表プレゼンテーション	修正作業	90
54	卒業研究発表	卒業研究の発表プレゼンテーション	修正作業	90
55	論文作成 1	論文の作成	論文作成	90
56	論文作成 2	論文の作成	論文作成	90
57	論文作成 3	論文の作成	論文作成	90
58	論文作成 4	論文の作成	論文作成	90
59	論文提出のための準備	論文の最終確認、印刷、製本、訂正	論文作成	90
60	論文提出のための準備	論文の最終確認、印刷、製本、訂正	論文作成	90



<b>科目名</b>	卒業研究	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	一柳 智子		
<b>開講期</b>	通年		
<b>授業概要</b>	建学の精神である「尊敬・責任・自由」の理念を追求し、グループ活動での協調性を大切にし、各人が積極的に表現運動に関わる活動を行うこと。作品制作に関しては、お互いのアイデアを出し合い、発表会や論文の提出に向け、共同作業での実践力を身に付ける。☑ 5月と10月に、第一回論文の書き方指導、第二回論文の書き方指導を1コマずつ行うこと。☑ 第一回目(5月)の論文の書き方指導の内容に、研究倫理について学ぶこと。☑ 位置づけ・水準 CE2270☑		
<b>達成目標</b>	1. 保育者に必要な協調性およびグループをまとめる能力の養成。☑ 2. 幼児教育における身体表現の開発を目的とした運動経験的指導力の養成。☑ 3. 自己の心身の健康を意識すること及び幼児の心身の健康育成の指導のための知識と経験を得る。☑ 単位認定の基準は：内容の7割を理解していること。☑ ディプロマ・ポリシーとの関係：総合的計画力、人間性と規範意識、問題解決力☑		
<b>受講資格</b>	幼児教育学科2年生	<b>成績評価 方法</b>	平常点60点(取り組みの姿勢、意欲、態度、他との協力、チームへの貢献度、担当の係)☑ 成果40点(研究発表、本文、『保育研究』原稿)☑
<b>教科書</b>	特になし		
<b>参考書</b>	適宜紹介する		
<b>学生への要望</b>	熱心に授業に取り組むことはもちろんのこと、グループ活動では主体的に関わりながら、協調性をもって積極的に活動することが重要である。☑ ①先行研究の検討☑ ②題材、テーマ、ストーリーの創作☑ ③振付創作、曲の選択☑ ④実技活動(自学自習としてストレッチ等を怠らない)☑ ⑤発表会の運営と実践☑ ⑥卒業論文の作成と「保育研究」冊子の原稿作成と提出		
<b>オフィスタイム</b>	木曜日 III限目(12:50~14:20)☑ IV限目(14:30~16:00)☑ 825研究室(一柳)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス	幼児用のダンスまたはダンス作品を制作するにあたってのガイダンス。☑ 「自己確認シート」を通して自己評価をする。	ストレッチ	30
2	授業ガイダンス	幼児用のダンスまたはダンス作品を制作するにあたっての先行資料研究。	ストレッチ	30
3	研究テーマの構想について	幼児用のダンスまたはダンス作品を制作するにあたっての先行資料研究。リーダーの選出をする。	ストレッチ	30
4	研究テーマの構想について	幼児用のダンスまたはダンス作品制作するにあたっての先行資料研究。研究テーマ、ストーリーなど構想を練る。	ストレッチ	30
5	ダンス作品コンセプトの決定	幼児用のダンスまたはダンス作品制作☑相互に出た案を基に一つのストーリーの概略を創り上げる。	ストレッチ	30
6	ダンス作品コンセプトの決定	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。☑ 相互に出た案を基に一つのストーリーの概略を創り上げる。	ストレッチ	30
7	ダンス作品コンセプトの完成	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。 出来上がったストーリーの場面構成と感情抽出を行い、キャストをどうするか相談する。	ストレッチ	30
8	ダンス作品コンセプトの完成	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。☑ 出来上がったストーリーの場面構成と感情抽出を行い、キャストをどうするか相談する。	ストレッチ	30
9	役割分担、選曲	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。 選曲をどうするか絞る。	ストレッチ	30
10	役割分担、選曲	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。☑ 選曲をどうするか絞る。	ストレッチ	30
11	リズムカルな身体作りの実践	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。☑ ステップワーク、リズムカルな身体作りと身体表現の基礎運動を実施する。	ストレッチ	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	リズムカルな身体作りの実践	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。 ステップワーク、リズムカルな身体作りと身体表現の基礎運動を実施する。	ストレッチ	30
13	即興表現、振り付け、選曲	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。 即興表現と振り付けによる創作活動を行う。	ストレッチ	30
14	即興表現、振り付け、選曲	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。 即興表現と振り付けによる創作活動を行う。	ストレッチ	30
15	創作活動	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。 共通のキャスト同士で振付を創作する。	ストレッチ	30
16	創作活動・脚本作成・衣装考案	幼児用のダンスまたはダンス作品制作 衣装考案、振り付け創作を進める。	ストレッチ	30
17	創作活動・脚本作成・衣装考案	幼児用のダンスまたはダンス作品制作 選曲したものに振付を創作する。	ストレッチ	30
18	創作活動・脚本作成・衣装考案	幼児用のダンスまたはダンス作品制作 選曲したものに振付を創作する。	ストレッチ	30
19	創作活動・脚本作成・衣装考案	幼児用のダンスまたはダンス作品制作 衣装考案、振り付け創作を進める。	ストレッチ	30
20	創作活動・脚本作成・衣装考案	幼児用のダンスまたはダンス作品制作 衣装考案、振り付け創作を進める。	ストレッチ	30
21	創作活動・脚本作成・衣装考案	幼児用のダンスまたはダンス作品制作 衣装考案、振り付け創作を進める。	ストレッチ	30
22	創作活動・脚本作成・衣装考案	幼児用のダンスまたはダンス作品制作 衣装考案、振り付け創作を進める。	ストレッチ	30
23	衣装制作・舞台大道具考案・創作 もみじ会中間発表に向けての取り組み	幼児用のダンスまたはダンス作品制作 衣装考案、大道具考案、振り付け創作を進める。	ストレッチ	30
24	衣装制作・舞台大道具考案・創作 もみじ会中間発表に向けての取り組み	幼児用のダンスまたはダンス作品制作 衣装考案、大道具考案、振り付け創作を進める。	ストレッチ	30
25	衣装制作・舞台大道具考案・創作 もみじ会中間発表に向けての取り組み	幼児用のダンスまたはダンス作品制作 前回と同様に進める。舞台を発表の工夫と研究。	ストレッチ	30
26	衣装制作・舞台大道具考案・創作 もみじ会中間発表に向けての取り組み	幼児用のダンスまたはダンス作品制作 前回と同様に進める。舞台を発表の工夫と研究。	ストレッチ	30
27	衣装制作・舞台大道具考案・創作 もみじ会中間発表に向けての取り組み	幼児用のダンスまたはダンス作品制作 前回同様に進める。舞台を発表の工夫と研究。	ストレッチ	30
28	衣装制作・舞台大道具考案・創作 もみじ会中間発表に向けての取り組み	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。 前回同様に進める。舞台を発表の工夫と研究。	ストレッチ	30
29	衣装制作・舞台大道具考案・創作 もみじ会中間発表に向けての取り組み	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。 前回同様に進める。照明や舞台装置の工夫をする。	ストレッチ	30
30	衣装制作・舞台大道具考案・創作 もみじ会中間発表に向けての取り組み	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。 前回同様に進める。照明や舞台装置の工夫をする。	ストレッチ	30
31	衣装制作・舞台大道具考案・創作 もみじ会中間発表	もみじ会中間発表と反省会。	ストレッチ	30
32	衣装制作・舞台大道具考案・創作 もみじ会中間発表	もみじ会中間発表と反省会。	ストレッチ	30
33	卒業研究機材説明会	記念講堂大ホールの照明や舞台装置の使用法を学習する。	ストレッチ	30
34	卒業研究機材説明会	記念講堂大ホールの照明や舞台装置の使用法を学習する。	ストレッチ	30
35	卒業論文の準備・発表会の準備	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。 卒業論文の準備と役割を分担する。卒業研究発表会に向けての準備をする。	ストレッチ	30
36	卒業論文の準備・発表会の準備	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。 卒業論文の準備と役割を分担する。卒業研究発表会に向けての準備をする。	ストレッチ	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
37	卒業研究発表会に向けての準備・卒業論文作成	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。☒ 卒業研究発表会に向けて舞台練習を進める。卒業論文を作成する。	ストレッチ	30
38	卒業研究発表会に向けての準備・卒業論文作成	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。☒ 卒業研究発表会に向けて舞台練習を進める。卒業論文を作成する。	ストレッチ	30
39	卒業研究発表会に向けての準備・練習	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。 卒業研究発表会に向けて舞台練習を進める。卒業論文を作成する。	ストレッチ	30
40	卒業研究発表会に向けての準備・練習	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。 卒業研究発表会に向けて舞台練習を進める。卒業論文を作成する。	ストレッチ	30
41	卒業研究発表会に向けての準備・VTR制作	幼児用のダンスまたはダンス作品踊りこみ。 卒業研究発表会に向けて舞台練習を進める。	ストレッチ	30
42	卒業研究発表会に向けての準備・VTR制作	幼児用のダンスまたはダンス作品踊りこみ。 卒業研究発表会に向けて舞台練習を進める。	ストレッチ	30
43	卒業研究発表会に向けての準備と練習・卒業論文の準備	幼児用のダンスまたはダンス作品踊りこみ。 卒業研究発表会に向けての準備と練習・卒業論文の準備・役割分担を明確にして進める。	ストレッチ	30
44	卒業研究発表会に向けての準備と練習・卒業論文の準備	幼児用のダンスまたはダンス作品踊りこみ。 卒業研究発表会に向けての準備と練習・卒業論文の準備・役割分担を明確にして進める。	ストレッチ	30
45	卒業研究発表会に向けての準備と練習・卒業論文の準備	幼児用のダンスまたはダンス作品踊りこみ。 卒業研究発表会に向けての準備と練習・卒業論文の準備・役割分担を明確にして進める。	ストレッチ	30
46	卒業研究発表会に向けての準備と練習・卒業論文の準備	幼児用のダンスまたはダンス作品 卒業研究発表会に向けての準備と練習・卒業論文の準備・役割分担を明確にして進める。	ストレッチ	30
47	卒業論文の作成・卒業研究発表会の準備と練習	幼児用のダンスまたはダンス作品踊りこみ。 卒業論文の作成・卒業研究発表会の準備と練習を進める。	ストレッチ	30
48	卒業論文の作成・卒業研究発表会の準備と練習	幼児用のダンスまたはダンス作品踊りこみ。 卒業論文の作成・卒業研究発表会の準備と練習を進める。	ストレッチ	30
49	卒業論文の作成・卒業研究発表会の準備と練習	幼児用のダンスまたはダンス作品踊りこみ。☒ 卒業論文の作成・卒業研究発表会の準備と練習を進める。	ストレッチ	30
50	卒業論文の作成・卒業研究発表会の準備と練習	幼児用のダンスまたはダンス作品踊りこみ。 卒業論文の作成・卒業研究発表会の準備と練習を進める。	ストレッチ	30
51	保育研究冊子原稿の作成・卒業研究発表会に向けての踊り込み	幼児用のダンスまたはダンス作品踊りこみ。 保育研究冊子原稿の作成と、一致協力して発表会に向けての踊り込みを進める。	ストレッチ	30
52	保育研究冊子原稿の作成・卒業研究発表会に向けての踊り込み	幼児用のダンスまたはダンス作品踊りこみ。 保育研究冊子原稿の作成と、一致協力して発表会に向けての踊り込みを進める。	ストレッチ	30
53	卒業研究発表会に向けての準備・踊り込み1回目リハーサル	幼児用のダンスまたはダンス作品踊りこみ。 卒業研究発表会に向けての準備・踊り込みを徹底する。	ストレッチ	30
54	卒業研究発表会に向けての準備・踊り込み2回目リハーサル	幼児用のダンスまたはダンス作品踊りこみ。 卒業研究発表会に向けての準備・踊り込みを徹底する。	ストレッチ	30
55	卒業研究発表会に向けての準備・踊り込み2回目リハーサル、卒業論文・保育研究冊子の原稿作成	幼児用のダンスまたはダンス作品完成。 前回同様に進め、完成度を高める。卒業論文・保育研究冊子の原稿作成も同時に進める。	ストレッチ	30
56	卒業研究発表会に向けての準備・踊り込み3回目リハーサル、卒業論文・保育研究冊子の原稿作成	幼児用のダンスまたはダンス作品完成。 前回同様に進め、完成度を高める。卒業論文・保育研究冊子の原稿作成も同時に進める。	ストレッチ	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
57	卒業研究発表会・反省会	幼児用のダンスまたはダンス作品発表。 卒業研究の発表会に全精力を傾注し堂々とする。反省会を行い、論文に反映させる。	ストレッチ	30
58	卒業研究発表会・反省会	幼児用のダンスまたはダンス作品発表。 卒業研究の発表会に全精力を傾注し堂々とする。反省会を行い、論文に反映させる。	ストレッチ	30
59	卒業論文・保育研究冊子原稿の完成・提出	卒業論文・保育研究冊子原稿の完成させ、提出する。「劇とあそびのつどい」に向けて練習する。	ストレッチ	30
60	卒業論文・保育研究冊子原稿の完成・提出	卒業論文・保育研究冊子原稿の完成させ、提出する。「劇とあそびのつどい」に向けて練習する。☒ 「自己確認シート」を通して自己評価を行う。	ストレッチ	30

科目名	卒業研究	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
担当教員	早川 仁		
開講期	通年		
授業概要	・この卒業研究では子どもの成長発達に欠かせない自然環境・地域社会や児童文化などを含め、教育と文化の両面から学生自身が最も興味関心の深い課題を設定し、それらが子どもの成長発達にどのような意義を持っているかなどについて研究する。☒ 位置づけ、水準 CE2270☒		
達成目標	1、発達に関わる造形遊びの製作などを行なう。☒ ディプロマポリシーとの関連；問題解決能力☒ 2、研究の成果を幼稚園や保育所での実習、又は地域社会のボランティア体験・学内行事発表会などで実践し、それらを通して子ども理解と保育者としての資質を向上させる。☒ ディプロマポリシーとの関連；総合的計画力☒ 3、研究活動を通して本学建学の精神「尊敬・責任・自由」を体現する。又、グループ活動によりコミュニケーション能力を高める。☒ ディプロマポリシーとの関連；規範意識		
受講資格	幼児教育学科2年生	成績評価方法	・平常点（取り組み姿勢、意欲、他との協力、チームへの貢献など）60点。☒ ・成果（研究発表、本文、「保育研究」原稿）40点
教科書	特になし		
参考書	担当教員より必要に応じて指示		
学生への要望	・自己課題の解決に向けて積極的に取り組むこと。☒ ・活動後に毎回清掃を行うこと。☒ ☒		
オフィスタイトム	水曜日・木曜日 15:00～17:00☒ 826研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業オリエンテーション☒	・オリエンテーション・シラバイ説明（人形劇指導趣旨及び活動日程説明。）☒ ・自己紹介☒ ・自己確認シート記録☒	シナリオ原作の選定	30
2	授業オリエンテーション	・シナリオ（既成のお話）～シナリオ原作の決定 ・人形形態について（棒使い人形）	人形形態を調べる	30
3	過去の作品鑑賞	・先輩の作品鑑賞を通して研究意欲を高める。人形劇にたいする理解を深める	人形劇について自由に調べる	30
4	役割組織づくり	・チームの役割組織をつくり互いの責任を明確にすると共にチームワークを高める。	人形劇について自由に調べる	30
5	シナリオ検討	・作品選定	役割組織担当毎に年間計画案を立てる	30
6	登場キャラクター検討	・人形デザイン決定。	人形デザインの考案	30
7	シナリオ再検討	・シナリオ原案を全員で検討する	作品から台本案を起こす	30
8	シナリオ修正	・人形劇の演出効果を考慮したシナリオ修正をする。	台本の下読みをする	30
9	人形製作	・論文指導－研究倫理について学ぶ。 ・もみじ会用人形制作（12月卒研発表会、講堂発表の試作品として制作）	研究の狙いを各自で立てる	30
10	人形製作☒	・人形の構造を研究・検討する	作品素材の検討と準備	30
11	人形制作	・人形制作構造の研究	作品素材の検討と準備	30
12	人形制作	・人形制作構造の研究	作品素材の検討と準備	30
13	人形制作	・人形完成作品の完成。	作品素材の検討と準備	30
14	人形制作	・人形完成作品の完成。	作品素材の検討と準備	30
15	人形操作練習	・操作練習 棒使い人形の操作について研究する。	棒使い人形の下調べをする	30
16	立ち稽古（行動線の確認）	・人形を用いて演じるときの動作一連の流れを稽古する。 ・行動線確認。 ・発声練習。 ☒ ☒	台本を読み込む	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
17	立ち稽古（音の表現）	・人形を用いて演じるときの動作一連の流れを稽古する。 ・行動線確認。	台本を読み込む	30
18	立ち稽古 大小道具・背景制作	大小道具・背景を検討しデザイン～制作する。	舞台演出を検討する	30
19	立ち稽古 大小道具・背景制作	大小道具・背景を検討しデザイン～制作する。	舞台演出を検討する	30
20	立ち稽古 大小道具・背景制作	大小道具・背景を検討しデザイン～制作する。	作品素材の検討と準備	30
21	立ち稽古 大小道具・背景制作	大小道具・背景を検討しデザイン～制作する。	作品素材の検討と準備	30
22	立ち稽古 大小道具・背景制作	立ち稽古	演者の行動線を検討する	30
23	立ち稽古 大小道具・背景制作	大小道具・背景制作	作品素材の検討と準備	30
24	後期オリエンテーション	後期授業内容、卒研行事等の確認。論文作成（前期活動経過）作成。	前期授業内容まとめ	30
25	後期オリエンテーション	論文作成（前期活動経過）作成。	「もみじ会」の舞台演出を検討しておく	30
26	もみじ会中間発表準備1	・卒業研究中間発表としての「もみじ会」に向け、発表準備をする。	「もみじ会」の舞台演出を検討しておく	30
27	もみじ会中間発表準備2	・「もみじ会」の発表会場舞台構造により大小道具準備又は、演出機材等の操作練習をする。	「もみじ会」の舞台演出を検討しておく	30
28	もみじ会中間発表準備3	・「もみじ会」の発表における幕間の内容も含めて準備、練習する。	音楽・効果音素材を検討・準備しておく	30
29	もみじ会中間発表準備4	・「もみじ会」の発表における幕間の内容も含めて準備、練習する。	音楽・効果音素材を検討・準備しておく	30
30	もみじ会中間発表練習	・卒業研究の中間発表として「もみじ会」に向けた発表練習をする。 ・各係毎に発表会運営に関する業務にあたる。	各、準備担当作業の不備を補う	30
31	もみじ会中間発表練習	・発表会場舞台等の設営	演技・演出担当毎に各自練習を積む	60
32	中間発表準備・練習	・各係毎に発表会運営に関する業務にあたる。	演技・演出担当毎に各自練習を積む	60
33	中間発表準備・練習	・卒業研究の中間発表として「もみじ会」に向けた発表練習をする。 ・発表会場舞台等の設営	演技・演出担当毎に各自練習を積む	60
34	中間発表準備・練習～もみじ会発表	・卒業研究の中間発表として「もみじ会」に向けた発表練習をする。 ・発表会場舞台等の設営・各係毎に発表会運営に関する業務にあたる。	演技・演出担当毎に各自練習を積む	60
35	中間発表準備・練習～もみじ会発表	・卒業研究の中間発表として「もみじ会」に向けた発表練習をする。 ・発表会場舞台等の設営・各係毎に発表会運営に関する業務にあたる。	演技・演出担当毎に各自練習を積む	60
36	もみじ会反省会	・「もみじ会」発表記録ビデオから客観的に自分たちの演技を確認する。 ・来場者の感想アンケートなどを基にして作品内容、演技内容等、活動全般の反省をする。	演技・演出担当毎に各自練習を積む	60
37	棒遣い人形劇計画	・卒研発表に向けたシナリオ及び人形の制作計画。	新たな作品シナリオを検討する	60
38	中間発表準備・練習～もみじ会発表	・論文指導ー研究倫理について学ぶ。 ・発表会場舞台等の設営・各係毎に発表会運営に関する業務にあたる。  ・発表会場舞台等の設営・各係毎に発表会運営に関する業務にあたる	新たな作品の研究・狙いテーマを検討しておく	30
39	中間発表準備・練習～もみじ会発表	・卒業研究の中間発表として「もみじ会」に向けた発表練習をする。	演技・演出担当毎に各自練習を積む	60
40	シナリオ・人形の手直し	・卒業研究発表会に向けて、「もみじ会」中間発表反省。	演技・演出担当毎に各自練習を積む	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
41	シナリオ・人形の手直し	・卒業研究発表会に向けて、人形、シナリオの手直しをする	新たな作品シナリオを検討する	30
42	卒研発表練習	・記念講堂の舞台を生かしたシナリオ手直しをする。	新たな作品シナリオを検討する	30
43	卒研発表練習	・記念講堂の舞台を生かした演出の手直しをする。	新たな作品シナリオを検討する	30
44	卒研発表練習	・次回の記念講堂機材担当者の決定と説明会で学ぶ内容の確認をする。	舞台演出を検討する	30
45	機材操作説明会	・記念講堂機材説明会で演出機材の操作内容を学ぶ。 ・機材演出を作品に活かす工夫を研究する。	舞台演出を検討する	30
46	機材操作説明会	・記念講堂機材説明会で演出機材の操作内容を学ぶ。 ・機材演出を作品に活かす工夫を研究する。	舞台演出を検討する	30
47	ステージ発表練習	・ステージ発表練習（演技・機材による演出）。 ・記念講堂発表用の大・小道具を製作する。	各自練習を積む・研究論文をまとめる	60
48	ステージ発表練習	・ステージ発表練習（演技・機材による演出）。 ・記念講堂発表用の大・小道具を製作する。	各自練習を積む・研究論文をまとめる	60
49	ステージ発表練習	・ステージ発表練習（演技・機材による演出）。 ・記念講堂発表用の大・小道具を製作する。	各自練習を積む・研究論文をまとめる	60
50	ステージ発表練習	・ステージ発表練習（演技・機材による演出）。 ・記念講堂発表用の大・小道具を製作する。	各自練習を積む・研究論文をまとめる	60
51	ステージ発表練習	・ステージ発表練習（演技・機材による演出）。 ・記念講堂発表用の大・小道具を製作する。	各自練習を積む・研究論文をまとめる	60
52	ステージ発表練習	・ステージ発表練習（演技・機材による演出）。 ・記念講堂発表用の大・小道具を製作する。	各自練習を積む・研究論文をまとめる	60
53	ステージ発表練習	・ステージ発表練習（演技・機材による演出）。 ・記念講堂発表用の大・小道具を製作する。	各自練習を積む・研究論文をまとめる	60
54	ステージ発表練習	・ステージ発表練習（演技・機材による演出）。 ・記念講堂発表用の大・小道具を製作する。。	各自練習を積む・研究論文をまとめる	60
55	卒研発表リハーサル①	・卒研発表リハーサル 建学記念講堂で行う。	各自練習を積む・研究論文をまとめる	60
56	卒研発表リハーサル②	・卒研発表リハーサル 建学記念講堂で行う。	各自練習を積む・研究論文をまとめる	60
57	卒研発表リハーサル③	・卒研発表リハーサル 建学記念講堂で行う。	各自練習を積む・研究論文をまとめる	60
58	卒研発表リハーサル④	・卒研発表リハーサル 建学記念講堂で行う。	各自練習を積む・研究論文をまとめる	60
59	卒研発表会（論文発表）		各自練習を積む・研究論文をまとめる	60
60	卒研発表会（舞台発表）	・卒研発表会（舞台発表）を上演する。 ・論文・冊子原稿提出 ・卒研反省～劇と遊びのつどい準備	各自練習を積む・研究論文をまとめる	60

<b>科目名</b>	卒業研究	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	草野 葉子		
<b>開講期</b>	通年		
<b>授業概要</b>	玩具や絵本その他の児童文化財や子どもの描画・造形活動と保育について制作を中心とした研究を行う。表現方法や素材活用の実験研究を通して、児童文化財や保育環境について作品制作過程から理解を深めるとともに新たな提案をめざす。研究は個人またはグループで行い、研究経過報告の機会を持ち相互に高め合う。 研究のフィードバック：報告会や中間発表を含む発表会において、講評によるフィードバックを行います。 位置づけ・水準：CE2270		
<b>達成目標</b>	①テーマに基づき資料収集や制作実験に意欲的に取り組み、研究する姿勢を身に着ける。 ②保育の視点に立ち、表現方法や素材に関する知識を深め、表現技術を向上させる。 ③独自の視点から研究テーマをとらえ、新たな取り組みを盛り込み研究を進化させる。 ④研究倫理を踏まえて、研究過程や成果を分かりやすくまとめて発表することができる。 単位認定の最低基準：上記4項目の内容について6割以上を満たしていること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：保育内容の理解・問題解決力・人間性と規範意識		
<b>受講資格</b>	幼児教育学科2年生。	<b>成績評価 方法</b>	研究成果40点（作品：30点・論文：10点） 平常点60点（研究態度・意欲・貢献度 各20点）
<b>教科書</b>	教科書は使用せず、必要に応じて資料等を印刷し配布する。		
<b>参考書</b>	研究内容に応じて指示する。		
<b>学生への要望</b>	自ら課題をもって意欲的に取り組む。☑ 資料収集、実験研究等課外の時間を積極的に活用する。☑		
<b>オフィスタイム</b>	火曜から木曜 15:00～17:00☑ 83年館2階823研究室。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	研究課題を決めるⅠ-①	関心ある研究テーマについて発表し、学生相互に意識を高めあうと共に学生自身の考えを明確にしていく。☑ 学生自身の現状と研究目標を「振り返りシート（start）」に記載し明確にする。	学生各自のテーマに関連する資料を収集する。	30
2	研究課題を決めるⅠ-②	関心ある研究テーマについて発表し、学生相互に意識を高めあうと共に学生自身の考えを明確にしていく。☑	1回と同様の活動。	30
3	研究課題を決めるⅡ-①	資料や参考作品の収集-その1 資料等を紹介し、情報交換すると共に相互に刺激しあう。各自の関心を視覚的にとらえることにより、研究課題の焦点をより明確にしていく。	情報交換により得た新たな視点をもとに、資料収集を継続する。	30
4	研究課題を決めるⅡ-②	資料や参考作品の収集-その1 資料等を紹介し、情報交換すると共に相互に刺激しあう。各自の関心を視覚的にとらえることにより、研究課題の焦点をより明確にしていく。	3回と同様の活動。	30
5	研究課題を決めるⅢ-①	資料や参考作品の収集-その2☑ 前回より深化させた資料や参考作品を持ち寄り、研究テーマを決める。☑	研究テーマに基づき、実験研究に参考となる具体的な資料を収集する。	30
6	研究課題を決めるⅢ-②	資料や参考作品の収集-その2☑ 前回より深化させた資料や参考作品を持ち寄り、研究テーマを決める。☑	5回と同様の活動。	30
7	研究活動の計画①	基礎研究・制作実験・中間発表（実践）・本制作を柱に活動計画を立てる。テーマに基づいた基礎研究を行う。	基礎研究体験をもとに、深化のための資料収集を行う。	30
8	研究活動の計画②	基礎研究・制作実験・中間発表（実践）・本制作を柱に活動計画を立てる。テーマに基づいた基礎研究を行う。	7回と同様の活動。	30



-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	論文書き方指導Ⅰ	論文の書き方指導Ⅰ ◎研究の基本的進め方と論文の基本的構成について。 ◎研究論理について。	前回の活動計画と卒業論文の構成を比較し、研究活動の方向性について確認検討する。	20
10	基礎研究Ⅰ	研究課題に関連する各種技法の表現体験と資料収集—その1 ◎各種表現方法を体験し、表現に関する視野の拡大と技術の基礎力を養う。 ◎関連分野の資料収集により研究課題に関する基礎知識を養う。	基礎研究としてここで計画した表現実験の内容を実現させる。また関係する資料等を収集する。	60
11	基礎研究Ⅱ－①	研究課題に関連する各種技法の表現体験と資料収集—その2 ☒ ◎各種表現方法を体験し、表現に関する視野の拡大と技術の基礎力を養う。☒ ◎関連分野の資料収集により研究課題に関する基礎知識を養う。	ここで計画した表現実験の内容を実現させる。また関係する資料等の収集を継続して行う。	30
12	基礎研究Ⅱ－②	研究課題に関連する各種技法の表現体験と資料収集—その2 ☒ ◎各種表現方法を体験し、表現に関する視野の拡大と技術の基礎力を養う。☒ ◎関連分野の資料収集により研究課題に関する基礎知識を養う。	11回と同様の活動。	30
13	基礎研究Ⅲ－①	研究課題に関連する各種技法の表現体験と資料収集—その3 ☒ ◎各種表現方法を体験し、表現に関する視野の拡大と技術の基礎力を養う。☒ ◎関連分野の資料収集により研究課題に関する基礎知識を養う。☒ ◎各自の研究課題を軸に基礎研究をまとめる。	基礎研究の結果として得たものをまとめあげ、次回の視覚化に向けて使用素材を準備する。	30
14	基礎研究Ⅲ－②	研究課題に関連する各種技法の表現体験と資料収集—その3 ☒ ◎各種表現方法を体験し、表現に関する視野の拡大と技術の基礎力を養う。☒ ◎関連分野の資料収集により研究課題に関する基礎知識を養う。☒ ◎各自の研究課題を軸に基礎研究をまとめる。	13回と同様の活動。	30
15	制作実験Ⅰ－①	課題を具体化する—その1 基礎研究をもとに研究課題の構想を具体化し制作実験する。	この回で実験目標とした内容を実現させる。	30
16	制作実験Ⅰ－②	課題を具体化する—その1 基礎研究をもとに研究課題の構想を具体化し制作実験する。	15回と同様の内容。	30
17	制作実験Ⅱ－①	課題を具体化する—その2 ☒ 制作実験の継続。	15回と同様の内容。	30
18	制作実験Ⅱ－②	課題を具体化する—その2 ☒ 制作実験の継続。	15回と同様の内容。	30
19	制作実験Ⅲ－①	課題を具体化する—その3 ☒ 制作実験の継続。	15回と同様の内容。	30
20	制作実験Ⅲ－②	課題を具体化する—その3 ☒ 制作実験の継続。	15回と同様の内容。	30
21	制作実験Ⅳ－①	課題を具体化する—その4 ☒ 研究経過報告会に向けて制作実験結果をまとめる。	基礎研究で取組んだ内容を発表できるよう完成させる。	30
22	制作実験Ⅳ－②	課題を具体化する—その4 ☒ 研究経過報告会に向けて制作実験結果をまとめる。	21回と同様の活動。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
23	制作実験Ⅴ-①	課題を視覚化するーその⑤「研究経過報告会」☒ 制作実験結果を相互に発表し講評しあう。	講評を参考に実験結果を見直し、中間発表できるようにまとめる。	20
24	制作実験Ⅴ-②	課題を視覚化するーその⑤「研究経過報告会」☒ 制作実験結果を相互に発表し講評しあう。	23回と同様の内容。	20
25	中間発表Ⅰ-①	研究成果の中間発表の実施計画。☒ ◎「研究経過報告会」の結果を基に、中間発表の目的を明確にする。☒ ◎中間発表の方法について具体化し、準備を行う。☒ ☒	計画に基づき、中間発表の環境設定等準備を完了させる。	20
26	中間発表Ⅰ-②	研究成果の中間発表の実施計画。☒ ◎「研究経過報告会」の結果を基に、中間発表の目的を明確にする。☒ ◎中間発表の方法について具体化し、準備を行う。☒ ☒	25回と同様の活動。	20
27	中間発表Ⅱ-①	研究中間発表を行う。☒ ◎研究過程を実験作品としてまとめ、学園行事や実習において実践する。☒ ◎中間発表目的に基づき結果を記録する。	中間発表の記録を次回の結果報告に向けて整理する。	20
28	中間発表Ⅱ-②	研究中間発表を行う。☒ ◎研究過程を実験作品としてまとめ、学園行事や実習において実践する。☒ ◎中間発表目的に基づき結果を記録する。	27回と同様の活動。	20
29	中間発表Ⅲ-①	中間発表の結果と考察。☒ 中間発表記録をもとに研究内容の検討と考察を行う。☒	中間発表の結果と考察をもとに、本研究に向けた関連資料の収集と実験材料の準備。	30
30	中間発表Ⅲ-②	中間発表の結果と考察。☒ 中間発表記録をもとに研究内容の検討と考察を行う。☒	29回と同様の活動。	30
31	制作Ⅰ-①	中間発表の検討考察をもとに本制作の構想を具体化する。☒ 本制作の構想を発表し相互に講評を行い、研究内容をより充実させる。	中間発表の結果と考察から得た、本研究構想に関する資料の収集と実験材料の準備。	30
32	制作Ⅰ-②	中間発表の検討考察をもとに本制作の構想を具体化する。☒ 本制作の構想を発表し相互に講評を行い、研究内容をより充実させる。	31回と同様の活動。	30
33	制作Ⅱ-①	本制作構想に基づき各自制作する。	ここで計画した内容を実現させる。参考となる資料と素材を収集する。	30
34	制作Ⅱ-②	本制作構想に基づき各自制作する。	33回と同様の活動。	30
35	制作Ⅲ-①	本制作構想に基づき各自制作する。	33回と同様の活動。	30
36	制作Ⅲ-②	本制作構想に基づき各自制作する。	33回と同様の活動。	30
37	制作Ⅳ-①	本制作構想に基づき各自制作する。	33回と同様の活動。	30
38	制作Ⅳ-②	本制作構想に基づき各自制作する。	33回と同様の活動。	30
39	制作Ⅴ-①	本制作構想に基づき各自制作する。	完成予定を見据えて計画した段階までを実現させる。	30
40	制作Ⅴ-②	本制作構想に基づき各自制作する。	39回と同様の活動。	30
41	制作Ⅵ-①	本制作構想に基づき各自制作する。	39回と同様の活動。	30
42	制作Ⅵ-②	本制作構想に基づき各自制作する。	39回と同様の活動。	30
43	制作Ⅶ-①	作品を完成させる。	不十分な点を確実に完成させる。	30
44	制作Ⅶ-②	作品を完成させる。	43回と同様の活動。	30
45	制作Ⅷ-①	完成作品の相互発表をする。☒ 作品を相互に発表し、異なる視点からの助言を通して作品を見直す。☒	助言をもとに具体的な対策と方法を検討する。必要に応じて素材を準備する。	20
46	制作Ⅷ-②	完成作品の相互発表をする。☒ 作品を相互に発表し、異なる視点からの助言を通して作品を見直す。☒	45回と同様の内容。	20
47	制作Ⅸ-①	相互発表を受け作品の手直しと最終確認をする。	作品を完成させる。	30
48	制作Ⅸ-②	相互発表を受け作品の手直しと最終確認をする。	47回と同様の活動。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
49	論文書き方指導Ⅱ	論文の書き方指導Ⅱ ◎本文、「保育研究」の原稿の書き方指導。 ◎研究題目等の調査及び提出用USB配布。	論文に必要な研究資料や情報を確認し準備する。	20
50	研究まとめⅠ	書き方指導を基に発表原稿を作成する。☒ ◎研究経過及び成果をわかりやすく順序だてて整理する。☒ ◎資料写真の確認と撮影。☒	発表に必要な資料等を整える	60
51	研究まとめⅡ-①	卒業研究発表の準備及び発表練習。☒ 研究結果をパワーポイントにまとめ、発表原稿とあわせて練習を行う。☒ ☒	作品の発表方法とパワーポイント内容の手直しをする。	30
52	研究まとめⅡ-②	卒業研究発表の準備及び発表練習。☒ 研究結果をパワーポイントにまとめ、発表原稿とあわせて練習を行う。☒ ☒	51回と同様の活動。	30
53	研究まとめⅢ-①	卒業研究発表会☒ 研究成果を作品と共に発表する。	発表を振り返り、反省や他者からの学びをまとめる。	20
54	研究まとめⅢ-②	卒業研究発表会☒ 研究成果を作品と共に発表する。	53回と同様の活動。	20
55	研究まとめⅣ-①	卒業研究結果のまとめ-その①☒ 研究過程と結果を文章及び写真資料等によりわかりやすく整理し研究論文にまとめる。	この回で計画したことを確実に言い終了させる。	30
56	研究まとめⅣ-②	卒業研究結果のまとめ-その①☒ 研究過程と結果を文章及び写真資料等によりわかりやすく整理し研究論文にまとめる。	56回と同様の活動。	30
57	研究まとめⅤ-①	卒業研究結果のまとめ-その②☒ ◎研究過程と結果を文章及び写真資料等によりわかりやすく整理し研究論文にまとめる。☒ ◎研究論文を基に、卒業研究要旨集「保育研究」の原稿を指定書式により作成する。	56回と同様の活動。	30
58	研究まとめⅤ-②	卒業研究結果のまとめ-その②☒ ◎研究過程と結果を文章及び写真資料等によりわかりやすく整理し研究論文にまとめる。☒ ◎研究論文を基に、卒業研究要旨集「保育研究」の原稿を指定書式により作成する。	56回と同様の活動。	30
59	研究まとめⅥ-①	研究論文と卒業研究要旨集「保育研究」の最終確認。 ◎論文内容及び書式の最終確認をする。 ◎研究論文は配布のUSBメモリへ入れ、「保育研究」は印刷して提出。	この回で計画したことを確実に言い終了させる。	20
60	研究まとめⅥ-②	研究論文と卒業研究要旨集「保育研究」の最終確認。 ◎論文内容及び書式の最終確認をする。 ◎研究論文は配布のUSBメモリへ入れ、「保育研究」は印刷して提出。 「振り返りシート」により研究活動の振り返りと自己評価を行う。	卒業研究の本文・保育研究の内容確認を行い、規定の時間に遅れず提出する。	20

<b>科目名</b>	卒業研究	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	小林 徹		
<b>開講期</b>	通年		
<b>授業概要</b>	この卒業研究では、子どもの生活や成長に関わる種々の問題を扱う。具体的には、障がい児や支援の必要な子どもへの対応、虐待や家庭内暴力などの問題について、文献研究やフィールドワークによって、理解を深める。Ⅲ期は、全員そろってのフィールドワークと文献購読を行い、Ⅳ期は、研究論文の執筆に向けた研究を行う。もみじ会での展示、卒業研究発表会での発表、研究倫理を十分に踏まえた研究論文の執筆と冊子「保育研究」の原稿執筆と全員で協力して進めていき、その都度、成果物についてフィードバックを行う。☑ ☑ 位置づけ・水準 CE2270		
<b>達成目標</b>	1. メンバーと協力して研究テーマを設定できたか。☑ 2. 積極的にフィールドワークや文献研究等に取り組むことができたか。☑ 3. もみじ会や卒業研究発表会等でメンバーと協力して準備し、積極的に発表できたか。☑ 4. 年間を通して研究に真摯に取り組み、論文をまとめることができたか。☑ 単位認定の最低基準は、内容の7割が実行できていること。☑ ディプロマ・ポリシーとの関係：保育の内容理解と総合的計画力、問題解決力、豊かな人間性と規範意識		
<b>受講資格</b>	幼児教育学科	<b>成績評価 方法</b>	平常点（研究態度、議論への参加）60%☑ 展示、発表、研究成果40%
<b>教科書</b>	小林徹・栗山宣夫編著『ライフステージを見通した障害児の保育・教育』みらい,2016		
<b>参考書</b>	授業内で例示する。		
<b>学生への要望</b>	授業を休まず、予復習も怠らない、やる気のある学生の履修を希望する。		
<b>オフィスタイト</b>	毎週火曜・木曜16:10~17:05、822研究室、それ以外は個別相談（cobalt@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	卒業研究の位置づけ☑研究方法の指導☑年間予定の確認☑	事前：テキストの予習 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
2	オリエンテーション	卒業研究の位置づけ☑研究方法の指導☑年間予定の確認☑	事前：テキストの予習 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
3	フィールドワーク1	特別支援教育、障がい児保育、障がい児施設等の現場を訪問し、施設および実践を見学し、インタビューを行う。	事前：フィールドワーク準備 事後：内容の振り返り	30
4	フィールドワーク1	特別支援教育、障がい児保育、障がい児施設等の現場を訪問し、施設および実践を見学し、インタビューを行う。☑	事前：フィールドワーク準備 事後：内容の振り返り	30
5	フィールドワーク2	特別支援教育、障がい児保育、障がい児施設等の現場を訪問し、施設および実践を見学し、インタビューを行う。	事前：フィールドワーク準備 事後：内容の振り返り	30
6	フィールドワーク2	特別支援教育、障がい児保育、障がい児施設等の現場を訪問し、施設および実践を見学し、インタビューを行う。	事前：フィールドワーク準備 事後：内容の振り返り	30
7	フィールドワーク3	特別支援教育、障がい児保育、障がい児施設等の現場を訪問し、施設および実践を見学し、インタビューを行う。	事前：フィールドワーク準備 事後：内容の振り返り	30
8	フィールドワーク3	特別支援教育、障がい児保育、障がい児施設等の現場を訪問し、施設および実践を見学し、インタビューを行う。	事前：フィールドワーク準備 事後：内容の振り返り	30
9	フィールドワーク4	特別支援教育、障がい児保育、障がい児施設等の現場を訪問し、施設および実践を見学し、インタビューを行う。	事前：フィールドワーク準備 事後：内容の振り返り	30
10	フィールドワーク4	特別支援教育、障がい児保育、障がい児施設等の現場を訪問し、施設および実践を見学し、インタビューを行う。	事前：フィールドワーク準備 事後：内容の振り返り	30
11	フィールドワーク5	特別支援教育、障がい児保育、障がい児施設等の現場を訪問し、施設および実践を見学し、インタビューを行う。	事前：フィールドワーク準備 事後：内容の振り返り	30
12	フィールドワーク5	特別支援教育、障がい児保育、障がい児施設等の現場を訪問し、施設および実践を見学し、インタビューを行う。	事前：フィールドワーク準備 事後：内容の振り返り	30
13	フィールドワーク6	特別支援教育、障がい児保育、障がい児施設等の現場を訪問し、施設および実践を見学し、インタビューを行う。	事前：フィールドワーク準備 事後：内容の振り返り	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	フィールドワーク6	特別支援教育、障がい児保育、障がい児施設等の現場を訪問し、施設および実践を見学し、インタビューを行う。	事前：フィールドワーク準備 事後：内容の振り返り	30
15	フィールドワーク7	特別支援教育、障がい児保育、障がい児施設等の現場を訪問し、施設および実践を見学し、インタビューを行う。	事前：フィールドワーク準備 事後：内容の振り返り	30
16	フィールドワーク7	特別支援教育、障がい児保育、障がい児施設等の現場を訪問し、施設および実践を見学し、インタビューを行う。	事前：フィールドワーク準備 事後：内容の振り返り	30
17	フィールドワーク8	特別支援教育、障がい児保育、障がい児施設等の現場を訪問し、施設および実践を見学し、インタビューを行う。	事前：フィールドワーク準備 事後：内容の振り返り	30
18	フィールドワーク8	特別支援教育、障がい児保育、障がい児施設等の現場を訪問し、施設および実践を見学し、インタビューを行う。	事前：フィールドワーク準備 事後：内容の振り返り	30
19	フィールドワーク9	特別支援教育、障がい児保育、障がい児施設等の現場を訪問し、施設および実践を見学し、インタビューを行う。	事前：フィールドワーク準備 事後：内容の振り返り	30
20	フィールドワーク9	特別支援教育、障がい児保育、障がい児施設等の現場を訪問し、施設および実践を見学し、インタビューを行う。	事前：フィールドワーク準備 事後：内容の振り返り	30
21	フィールドワーク10	特別支援教育、障がい児保育、障がい児施設等の現場を訪問し、施設および実践を見学し、インタビューを行う。	事前：フィールドワーク準備 事後：内容の振り返り	30
22	フィールドワーク10	特別支援教育、障がい児保育、障がい児施設等の現場を訪問し、施設および実践を見学し、インタビューを行う。	事前：フィールドワーク準備 事後：内容の振り返り	30
23	フィールドワークのまとめ	見学後のレポートの提出☑再構成担当者を決めて、まとめを作成する。	事前：フィールドワークのまとめ 事後：内容の振り返り	30
24	フィールドワークのまとめ	見学後のレポートの提出☑再構成担当者を決めて、まとめを作成する。	事前：フィールドワークのまとめ 事後：内容の振り返り	30
25	テキスト購読1	「ライフステージを見通した障害児の保育・教育」「〈子どもの虐待〉を考える」を輪読する。	事前：テキストの予習 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
26	テキスト購読1	「ライフステージを見通した障害児の保育・教育」「〈子どもの虐待〉を考える」を輪読する。	事前：テキストの予習 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
27	テキスト購読2	「ライフステージを見通した障害児の保育・教育」「〈子どもの虐待〉を考える」を輪読する。	事前：テキストの予習 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
28	テキスト購読2	「ライフステージを見通した障害児の保育・教育」「〈子どもの虐待〉を考える」を輪読する。	事前：テキストの予習 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
29	これまでのまとめと研究活動計画	これまでの内容を振り返る。☑研究テーマの内容と活動計画を立案する。☑	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
30	これまでのまとめと研究活動計画	これまでの内容を振り返る。☑研究テーマの内容と活動計画を立案する。☑	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
31	研究テーマの決定	資料の収集と整理の方法や論文の書き方を学ぶ。☑研究方法の検討。☑り組みたい内容や研究テーマを検討する。☑料や参考書を持ち寄り、研究テーマ決定。☑	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
32	研究テーマの決定	資料の収集と整理の方法や論文の書き方を学ぶ。☑研究方法の検討。☑り組みたい内容や研究テーマを検討する。☑料や参考書を持ち寄り、研究テーマ決定。☑	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
33	研究活動1	もみじ会での展示発表に向けて構想を練る。☑員とメンバーとグループディスカッション☑	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
34	研究活動1	もみじ会での展示発表に向けて構想を練る。☑員とメンバーとグループディスカッション☑	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
35	研究活動2	もみじ会での展示発表に向けた準備を行う。☑員とメンバーとグループディスカッション☑ ☑	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
36	研究活動2	もみじ会での展示発表に向けた準備を行う。☑員とメンバーとグループディスカッション☑ ☑	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
37	中間発表	研究の中間発表として「もみじ会」において発表する。	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
38	中間発表	研究の中間発表として「もみじ会」において発表する。	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
39	研究活動3	中間発表「もみじ会」での反省をもとに、研究内容の検討を行う。 ☑	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
40	研究活動3	中間発表「もみじ会」での反省をもとに、研究内容の検討を行う。 ☑	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
41	研究活動4	これまでの研究成果を振り返り、今後の研究の方向性を定める。	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
42	研究活動4	これまでの研究成果を振り返り、今後の研究の方向性を定める。	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
43	論文執筆の準備	研究テーマを卒研担当者に提出。☑究論文の構成を考える。研究倫理の説明。	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
44	論文執筆の準備	研究テーマを卒研担当者に提出。☑究論文の構成を考える。研究倫理の説明。	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
45	論文執筆作業1 論文提出方法	研究結果の整理と考察☑発表用原稿・作品の仕上げ、担当者に提出し指導を受ける。☑文のフォーマットを知る。	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
46	論文執筆作業1 論文提出方法	研究結果の整理と考察☑発表用原稿・作品の仕上げ、担当者に提出し指導を受ける。☑文のフォーマットを知る。	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
47	論文執筆作業2	研究結果の整理と考察☑研究発表に向けて、発表（プレゼンテーション）の準備をする。☑	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
48	論文執筆作業2	研究結果の整理と考察☑研究発表に向けて、発表（プレゼンテーション）の準備をする。☑	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
49	論文執筆作業3	研究結果の整理と考察☑ ☑表用原稿の仕上げ、担当者に提出し指導を受ける。☑	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
50	論文執筆作業3	研究結果の整理と考察☑ ☑表用原稿の仕上げ、担当者に提出し指導を受ける。☑	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
51	卒業研究発表の練習	発表用原稿を準備し、発表の練習をする。	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
52	卒業研究発表の練習	発表用原稿を準備し、発表の練習をする。	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
53	卒業研究発表会	卒業研究の完成と成果発表	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
54	卒業研究発表会	卒業研究の完成と成果発表	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
55	研究まとめ1	卒業研究発表を終え、1年間の卒業研究の成果を論文提出規定に従って、執筆し提出準備をする。①	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
56	研究まとめ1	卒業研究発表を終え、1年間の卒業研究の成果を論文提出規定に従って、執筆し提出準備をする。①	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
57	研究まとめ2	卒業研究発表を終え、1年間の卒業研究の成果を論文提出規定に従って、執筆し提出準備をする。②	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
58	研究まとめ2	卒業研究発表を終え、1年間の卒業研究の成果を論文提出規定に従って、執筆し提出準備をする。②	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと次回に向けた準備	30
59	論文提出	「卒業研究論文」冊子原稿、及び「保育研究」の原稿の提出	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと1年間の反省	30
60	論文提出	「卒業研究論文」冊子原稿、及び「保育研究」の原稿の提出	事前：ここまでの研究の整理 事後：振り返りと1年間の反省	30

科目名	卒業研究	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
担当教員	山上 裕子		
開講期	通年		
授業概要	保育活動で使用するさまざまな「モノ」（絵本、玩具、遊具等）を手がかりにして、保育の世界を探究する。例えば、「モノ」の誕生の背景やその後の歴史、使用することによる保育のねらいや注意点など、多様なテーマが考えられる。文献だけでなく実際幼稚園を訪れて、実地調査もおこないたい。テーマの設定の仕方、探究の方法、記録の取り方、文章の書き方、そして研究を進める上での研究倫理など、研究方法の基礎も合わせて指導する。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。 ☑ ☑ 位置づけ・水準 CE2270☑		
達成目標	本科目は、・ディプロマ・ポリシーの「保育の内容理解と総合的計画力」「問題解決力」「豊かな人間性と規範意識」に対応している。 ☑ ①保育に関する課題を自ら設定し、年間を通して課題と向き合う。☑ ②課題を解決するための方法を、7割以上身に付ける。その際、研究倫理について学ぶ。☑ ③保育の世界を広げるとともに、保育への理解を深める。		
受講資格	幼児教育学科2学年	成績評価 方法	平常点（60点）、研究成果（40点：研究発表、本文、『保育研究』原稿）
教科書	特に指定はしない。		
参考書	適時、紹介する。		
学生への要望	どんな小さなことでもよいので、疑問に思ったことをメモとること。☑		
オフィスタイトム	木曜日：14：30～16：00 ☑ 金曜日：14：30～16：00（Ⅲ期）☑ 12：50～14：20（Ⅳ期）       ☑ 場所：833研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	授業の内容、進め方、評価について説明を聞く。何を研究したいのかを出し合う。「自己確認シート」の記入をする。	自身が研究したいことを確認する。	30
2	研究の模索 1	過去の研究冊子『保育研究』を調査し、自身の興味の方向を定めていく。	自身の興味関心のある情報を探す。	30
3	研究の模索 2	図書館で資料を検索し、自身の興味の方向を定めていく。研究ノートの記載の仕方を知る。	自身の興味関心のある情報を探す。	30
4	研究の模索 3	図書館で資料を検索し、研究ノートに記載していく。	自身の興味関心のある情報を探す。	30
5	研究の模索 4	自身のテーマの方向性をまとめる。	自身の研究の方向性のまとめを進める。	30
6	研究の確認☑その1	これまでの資料収集の結果を報告する。☑	報告資料をそろえ、研究の方向を調整する。	30
7	研究の方法 1	書誌情報の整理の仕方、インターネット情報の検索結果の整理の方法を知る。	自己の興味関心のある情報を探す。	30
8	研究の方法 2	研究ノートに整理をしていく。	研究ノート整理をする。	30
9	研究を進める 1	研究ノートをもとに、これからの研究計画を立てる。	研究ノート整理をする。	30
10	研究を進める 2	研究計画について発表する。	計画を練る。	30
11	研究を進める 3	資料の整理を引き続き行う。	自己の興味関心のある情報を探す。	30
12	研究を進める 4	資料の整理を引き続き行い、ノートに整理する。	自己の興味関心のある情報を探す。	30
13	研究の確認 その2	研究の進捗状況を確認し合う。	研究ノート整理をする。	30
14	研究を進める 5	報告をとおして、研究の方向性を修正していく。	報告資料をそろえ、研究の方向を調整する。	30
15	テーマの決定 1	研究の仮テーマを考える。	研究の方向を調整する。	30
16	テーマの決定と計画の修正	研究テーマに沿った計画に修正する。	研究ノート整理をする。	30
17	研究を進める 6	文献を読み進める。	テーマに沿った情報を収集する。	30
18	研究を進める 7	文献を読み進める。	テーマに沿った情報を収集する。	30
19	研究を進める 8	引き続き、文献を読み進める。	テーマに沿った情報を収集する。	30
20	研究を進める 9	引き続き、文献を読み進める。	テーマに沿った情報を収集する。	30
21	研究を進める 10	文献の整理をする。	テーマに沿った情報を収集する。	30
22	研究を進める 11	文献の整理をする。	テーマに沿った情報を収集する。	30
23	研究の確認 その3	これまでの研究の進捗を報告し、研究内容を確かめる。☑	研究の方向を調整する。	30
24	研究を進める 12	研究内容の充実のための計画を練り直す。	研究の方向を調整する。	30
25	研究を進める 13	研究テーマを絞りこむ。	テーマに沿った情報を収集する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
26	テーマの確認	テーマを確認すると同時に、新たな課題を確認する。	テーマに沿った情報を収集する。	30
27	中間発表の計画 1	卒業研究の中間発表の場である、もみじ会に向けた準備を考える。	研究ノート整理をする。	30
28	中間発表の計画 2	もみじ会に向けた準備の計画をたてる。	もみじ会の準備を進める。	30
29	中間発表の準備 1	もみじ会の準備を始める。	もみじ会の準備を進める。	30
30	中間発表の準備 2	もみじ会の準備を始める。	もみじ会の準備を進める。	30
31	中間発表の準備 3	もみじ会の準備を進める。	もみじ会の準備を進める。	30
32	中間発表の準備 4	もみじ会の準備を進める。	もみじ会の準備を進める。	30
33	研究を進める 1 4	収集した資料の内容を整理する。	研究ノートを振り返る。	30
34	研究を進める 1 5	収集した資料の内容をまとめていく。	研究の方向を調整する。	30
35	論文の執筆 1	研究発表会、本文、『保育研究』のフォーマットを知り、論文作成の準備を始める。☒	執筆の計画を考える。	30
36	論文の執筆 2	研究発表会、本文、『保育研究』の提出に関して知り、今後の計画を立てる。☒	執筆の計画を考える。	30
37	論文の執筆 3	論文の執筆を始める。	執筆する。	30
38	論文の執筆 4	論文の執筆を始め、適宜指導を受ける。	執筆する。	30
39	論文の執筆 5	論文の執筆を進める。	執筆する。	30
40	論文の執筆 6	論文の執筆を進める。	執筆する。	30
41	論文の執筆 7	進捗状況を確認し、指導を受ける。	執筆する。	30
42	論文の執筆 8	指導に応じた執筆をする。	執筆する。	30
43	論文の執筆 9	引き続き、論文を執筆する。	執筆する。	30
44	論文の執筆 1 0	引き続き、論文を執筆する。	執筆する。	30
45	論文の執筆 1 1	よりよいものになるように、写真や図などを効果的に取り入れていく。	執筆する。	30
46	論文の執筆 1 2	写真や図などを効果的に取り入れて行く。	執筆する。	30
47	論文の執筆 1 3	本文、『保育研究』の原稿の仕上げをしていく。	執筆する。	30
48	論文の執筆 1 4	本文、『保育研究』の原稿の仕上げをしていく。	執筆する。	30
49	卒業研究発表会の準備 1	発表用のパワーポイントの原稿を作成する。	パワーポイントの作成をする。	60
50	卒業研究発表会の準備 2	パワーポイントの原稿を作成する。	パワーポイントの作成をする。	60
51	卒業研究発表会の準備 3	研究発表会の準備を進める。	パワーポイントの作成をする。	60
52	卒業研究発表会の準備 4	原稿を読み上げ、声の出し方、読む速度など確認する。	発表の練習をする。	60
53	卒業研究発表会リハーサル 1	機材を実際に操作し、不備がないか確かめる。☒ 他の研究分野と協力して、よりよい発表会にするための準備を行う。	発表の練習をする。	60
54	卒業研究発表会リハーサル 2	よりよい発表会にするための準備を行う。	発表の練習をする。	60
55	卒業研究発表会 1	卒業研究のこれまでの成果をプレゼンテーションする。	発表の準備をし、振り返る。	30
56	卒業研究発表会 2	卒業研究のこれまでの成果をプレゼンテーションする。	発表の準備をし、振り返る。	30
57	卒業研究発表会 3	他の分野の研究成果を聴き、学ぶ。	自身の発表と比較する。	30
58	卒業研究発表会 4	他の分野の研究成果を聴き、学ぶ。	自身の発表と比較する。	30
59	まとめ 1	提出に向けて、本文と『保育研究』の原稿を仕上げる。	原稿を、よりよいものに仕上げる。	30
60	まとめ 2	「自己確認シート」の記入をとおして、これまでの卒業研究で学んだことを確認する。	原稿を、よりよいものに仕上げる。自身の成長を確かめる。	30



科目名	卒業研究	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
担当教員	折笠 国康		
開講期	通年		
授業概要	実際に保育や幼稚園教育の現場に出たときに求められる、児童の好ましい成長を支える態度や知見を習得することを目標とする。また、自他の尊重と幸福の追求の態度を身につけ、実践する基礎力を身につけることも目標とする。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。☒ 位置づけ・水準 CE2270		
達成目標	①実際に保育や幼稚園教育の現場に出たときに求められる、児童の好ましい成長を支える態度や知見を☒ 習得することを目標とする。☒ ②自他の尊重と幸福の追求の態度を身につけ、実践する基礎力を身につけることも目標とする。☒ 単位認定の最低基準は、：「内容の8割を理解していること」☒ ディプロマ・ポリシーとの関連：保育の内容理解と総合的計画力、問題解決力、豊かな人間性と規範意識		
受講資格	短期大学部 幼児教育学科 2年	成績評価 方法	平常点60点、研究成果を40点として評価する。
教科書	教科書は使わず、プリントを配布する。		
参考書	参考書は授業ごとに指示する。		
学生への要望	自他のためになる知的活動の時間として捉えてほしい。		
オフィスタイム	金曜 2限 835研究室☒ 3限 835研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	研究の基礎 オリエンテーション	心理学の研究の基礎的な説明	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
2	研究の基礎 オリエンテーション	心理学の研究の基礎的な説明	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
3	研究の基礎	心理学の研究調査の方法の説明	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
4	研究の基礎	心理学の研究調査の方法の説明	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
5	研究の概念形成	研究のテーマについての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
6	研究の概念形成	研究のテーマについての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
7	研究の概念形成	研究のアウトラインについての話し合い テーマ決定	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
8	研究の概念形成	研究のアウトラインについての話し合い テーマ決定	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
9	研究調査の手順	研究調査の手順についての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
10	研究調査の手順	研究調査の手順についての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
11	調査用紙作成1	調査用紙作成についての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
12	調査用紙作成2	調査用紙作成についての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
13	調査用紙作成3	調査用紙作成についての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
14	調査用紙作成4	調査用紙作成についての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
15	調査の分析1	質問紙についての説明☒	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
16	調査の分析2	質問紙についての説明☒	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
17	調査の分析3	統計処理についての概説	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
18	調査の分析4	統計処理についての概説	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
19	調査の分析5	統計処理についての概説	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
20	調査の分析6	統計処理についての概説	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
21	調査の分析7	統計処理についての概説	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
22	調査の分析8	統計処理についての概説	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	0
23	調査のまとめ1	分析結果のまとめについての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
24	調査のまとめ2	分析結果のまとめについての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
25	調査のまとめ3	分析結果のまとめについての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
26	調査のまとめ4	分析結果のまとめについての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
27	調査のまとめ5	分析結果のまとめについての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
28	調査のまとめ6	分析結果のまとめについての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
29	調査のまとめ7	分析結果の考察についての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
30	調査のまとめ8	分析結果の考察についての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
31	調査のまとめ9	分析結果の考察についての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
32	調査のまとめ10	分析結果の考察についての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
33	研究発表の準備1	研究発表の準備作業	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
34	研究発表の準備2	研究発表の準備作業	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
35	研究発表の準備3	追加の調査用紙の作成	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
36	研究発表の準備4	追加の調査用紙の作成	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
37	研究発表の準備5	研究発表の準備作業	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
38	研究発表の準備6	研究発表の準備作業	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
39	中間発表1	ゼミの中での中間発表 それについての全員での検討	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
40	中間発表2	ゼミの中での中間発表 それについての全員での検討	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
41	中間発表3	ゼミの中での中間発表 それについての全員での検討	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
42	中間発表4	ゼミの中での中間発表 それについての全員での検討	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
43	発表についての説明	これからの発表と論文作成の手順についての説明	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
44	発表についての説明	これからの発表と論文作成の手順についての説明	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
45	卒業研究のまとめ1	考察を検討する 全員で検討する	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
46	卒業研究のまとめ2	考察を検討する 全員で検討する	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
47	卒業研究のまとめ3	考察を検討する 全員で検討する	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
48	卒業研究のまとめ4	考察を検討する 全員で検討する	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
49	卒業研究発表準備1	発表のリハーサル	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
50	卒業研究発表準備2	発表のリハーサル	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
51	卒業研究発表準備3	発表のリハーサル	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
52	卒業研究発表準備4	発表のリハーサル	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
53	卒業研究発表	卒業研究の発表プレゼンテーション	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
54	卒業研究発表	卒業研究の発表プレゼンテーション	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
55	論文作成1	論文の作成	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
56	論文作成2	論文の作成	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
57	論文作成3	論文の作成	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
58	論文作成4	論文の作成	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
59	論文提出のための準備1	論文の最終確認、印刷、製本	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
60	論文提出のための準備2	論文の最終確認、印刷、製本	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60

<b>科目名</b>	卒業研究		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	永瀬 悦子			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	<p>現在の子どもたちの生活実態から健康課題を見出しその解決に向けた健康教育を学修する。健康増進活動の実践については、栄養・食生活、運動・身体活動等の行動変容を地域における生活環境の視点から学修をする。具体的には、健康問題に関する情報収集・分析・アセスメントをし、その結果から問題解決に向けた効果的なアプローチを立案・実施・評価といった一連の過程を学修する。☒</p> <p>①初回と最終回に、「自己確認シート」をおとした自己評価を行うこと。②5月と10月に、第一回論文の書き方指導、第二回論文の書き方指導を1コマずつ行うこと。③第一回目の論文の書き方指導の内容に、研究倫理について学ぶこと。☒</p> <p>[授業の目的・ねらい]☒</p> <p>教育の専門職として課題を捉え、その課題を研究的視点で追及する。【位置づけ・水準】 CE2270</p>			
<b>達成目標</b>	<p>1) 研究の意義を説明できる☒</p> <p>2) 子どもの健康を維持・増進するための健康教育の方法を実践できる☒</p> <p>3) 健康教育の実践過程において積極的に参加できる☒</p> <p>これらのことを7割達成すれば単位認定とする。</p>			
<b>受講資格</b>	幼児教育学科学生2年生	<b>成績評価 方法</b>	平常点60点、研究成果40点	
<b>教科書</b>	宗像恒次著『行動科学からみた健康と病気』メディカルフレンド社 2000年			
<b>参考書</b>	全国保育園保健師看護師連絡会『保育のなかの健康教育』2018年			
<b>学生への要望</b>	主体的な問題解決能力、思考力、表現力等が求められます。講義以外の時間を費やすことが多いと思いますが、課題を追求するため、熱意と積極的姿勢で参加して下さい。			
<b>オフィスタイト</b>	火曜日 V 時限 (16:10~17:40) 832研究室☒ 木曜日 I 時限 (8:50~10:20) 832研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	卒業研究の概要1	卒業研究の進め方、メンバーの紹介等。☒ 研究とは何か、について理解する☒	現在の子どもの健康課題について書籍・新聞等を通して調べる	60
2	卒業研究の概要2	研究の進め方について	具体的な教育方法について書籍等を通し考える	60
3	研究課題について1	研究の課題の見つけ方・研究課題の絞り込み方について理解する	教材研究	60
4	研究課題について2	研究の課題の見つけ方・研究課題の絞り込み方について理解する	教材研究	60
5	研究課題の明確化と概念枠組み1	研究課題の明確化と概念枠組みの設定について理解する	教材研究	60
6	研究課題の明確化と概念枠組み2	研究課題の明確化と概念枠組みの設定について理解する	教材研究	60
7	研究方法と研究デザインの選定1	研究方法の選定と研究デザインの選定を理解する	教材研究	60
8	研究方法と研究デザインの選定2	研究方法の選定と研究デザインの選定を理解する	教材研究	60
9	研究方法のデータ収集と分析1	研究方法のデータ収集と分析を理解する	教材研究	60
10	研究方法のデータ収集と分析2	研究方法のデータ収集と分析を理解する	教材研究	60
11	研究結果の分析/研究課題の絞り込みの実際1	研究結果とその分析について理解する☒ 研究課題の絞り込みをする	教材研究	60
12	研究結果の分析/研究課題の絞り込みの実際2	研究結果とその分析について理解する☒ 研究課題の絞り込みをする	教材研究	60
13	倫理的配慮について1	研究における倫理的配慮について	教材研究	60
14	倫理的配慮について2	研究における倫理的配慮について	教材研究	60
15	文献検索のプロセス1	文献検索の方法を理解し、研究課題に関する先行研究を検索する	教材研究	60
16	文献検索のプロセス2	文献検索の方法を理解し、研究課題に関する先行研究を検索する	教材研究	60
17	研究計画書の作成1	研究計画書の作成	教材研究	60
18	研究計画書の作成2	研究計画書の作成	教材研究	60
19	研究の実際①	健康教育の教材作成をする	教材研究	60
20	研究の実際②	健康教育の教材作成をする	教材研究	60
21	研究の実際③	健康教育の教材作成をする	教材研究	60
22	研究の実際④	健康教育の教材作成をする	教材研究	60
23	研究の実際⑤	健康教育の教材作成をする	教材研究	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
24	研究の実際⑥	健康教育の教材作成をする	教材研究	60
25	研究の実際⑦	健康教育の教材作成をする	教材研究	60
26	研究の実際⑧	健康教育の教材作成をする	教材研究	60
27	研究の実際⑨	健康教育の教材作成をする	教材研究	60
28	研究の実際⑩	健康教育の教材作成をする	教材研究	60
29	研究の実際⑪	健康教育の教材作成をする	教材研究	60
30	研究の実際⑫	健康教育の教材作成をする	教材研究	60
31	中間発表の準備①	中間発表の「もみじ会」の準備をする	教材研究	60
32	中間発表の準備②	中間発表の「もみじ会」の準備をする	教材研究	60
33	中間発表①	研究の中間発表として「もみじ会」において発表する	教材研究	60
34	中間発表②	研究の中間発表として「もみじ会」において発表する	教材研究	60
35	研究成果の振り返り①	「もみじ会」の発表の反省をもとにして、研究内容を検討する	教材研究	60
36	研究成果の振り返り②	「もみじ会」の発表の反省をもとにして、研究内容を検討する	教材研究	60
37	研究成果の振り返り③	研究成果を振り返り、今後の成果を検討する	教材研究	60
38	研究成果の振り返り④	研究成果を振り返り、今後の成果を検討する	教材研究	60
39	フィールドワークの準備①	フィールドワークの準備をする	教材研究	60
40	フィールドワークの準備②	フィールドワークの準備をする	教材研究	60
41	フィールドワークの実際③	保育園・幼稚園等で実際に健康教育を実践する	実践の振り返りをする	60
42	フィールドワークの実際④	保育園・幼稚園等で実際に健康教育を実践する	実践の振り返りをする	60
43	研究論文の執筆準備①	研究テーマ、研究論文の構成を考える	論文作成	60
44	研究論文の執筆準備②	研究テーマ、研究論文の構成を考える	論文作成	60
45	研究論文の執筆活動①	研究論文の執筆	論文作成	60
46	研究論文の執筆活動②	研究論文の執筆	論文作成	60
47	研究論文の執筆活動③	研究論文の執筆と発表（プレゼンテーション）の準備	論文作成	60
48	研究論文の執筆活動④	研究論文の執筆と発表（プレゼンテーション）の準備	論文作成	60
49	研究論文の執筆活動⑤	研究論文の原稿を仕上げ、指導教員に提出し指導を受ける	論文作成	60
50	研究論文の執筆活動⑥	研究論文の原稿を仕上げ、指導教員に提出し指導を受ける	論文作成	60
51	研究発表の練習①	発表原稿を作成し、発表の練習をする	発表原稿及びパワーポイント作成	60
52	研究発表の練習②	発表原稿を作成し、発表の練習をする	発表原稿及びパワーポイント作成	60
53	研究発表①	研究の成果をわかりやすく発表する	発表の振り返り	60
54	研究発表②	研究の成果をわかりやすく発表する	発表の振り返り	60
55	研究のまとめ①	研究の論文規定に従い執筆する。	論文作成	60
56	研究のまとめ②	研究の論文規定に従い執筆する。	論文作成	60
57	研究のまとめ③	「卒業研究の論文規定」に従い執筆する。	論文作成	60
58	研究のまとめ④	「卒業研究の論文規定」に従い執筆する。	論文作成	60
59	論文提出と今後の課題①	「卒業研究論文」原稿と「保育研究」原稿を提出する	論文作成	60
60	論文提出と今後の課題②	「卒業研究論文」原稿と「保育研究」原稿を提出する	論文作成	60

<b>科目名</b>	卒業研究	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	ポール パーナミィ		
<b>開講期</b>	通年		
<b>授業概要</b>	<p>PREREQUISITES FOR THIS CLASS: <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>Students will have completed 総合英語コミュニケーション. Students should have a strong curiosity in becoming proficient in computers and software. Students should have high-level art skills which they would like to develop into computer production. Students should be able to understand and follow instructions for completing tasks on time and as a team. Students should be able to lead other students by example. <input checked="" type="checkbox"/></p> <p><input checked="" type="checkbox"/></p> <p>①保育に関する課題を自ら設定し、年間を通して課題と向き合う。 <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>②課題を解決するための方法を身に付ける。その際、研究倫理について学ぶ。 <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>③保育の世界を広げるとともに、保育への理解を深める。 <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>A. The number of this subject is GE2270. <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>B. The instructor has taught English for more than 20 years. <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>C. The instructor has used computers for more than 35 years. <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>FEEDBACK: I will frequently give constructive feedback to students on their participation, leadership, creativity, computer skills, and software growth. <input checked="" type="checkbox"/></p> <p><input checked="" type="checkbox"/></p>		
<b>達成目標</b>	<p>GOALS OF THIS CLASS: <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>1. The main focus will be to improve computer skills, enhance presentation ability and gain confidence. <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>2. Moreover, required material and homework will include communication tasks <input checked="" type="checkbox"/> to establish and develop an overall practical ability. <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>3. Students will research topics through oral, visual and final paper submission. <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>4. The teacher will use demonstrations of steps involved to achieve optimized results. We will use Active Learning, students will then complete tasks together and on their own to demonstrate understanding and follow through of concepts. <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>・ The minimum standard to receive 2 credits for this subject is to achieve 60% or higher on the overall average of these main criteria, attitude, quizzes, and the final projects. <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>・ The "Diploma Policy" (DP) for this subject stipulates "Problem Solving Skills" and "Gaining Abundant Knowledge." <input checked="" type="checkbox"/></p>		
<b>受講資格</b>	幼児教育学科 2年生	<b>成績評価 方法</b>	授業態度、意欲などを60点、発表の成果を40点として評価する。
<b>教科書</b>	なし		
<b>参考書</b>	適宜推薦 <input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>		
<b>学生への要望</b>	<p>Don't miss class. Be attentive. <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>Use your computer for assignments. <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>Use 120 minutes of homework drawing each class. <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>Review the supplements provided for this class. <input checked="" type="checkbox"/></p> <p><input checked="" type="checkbox"/></p> <p>○グループで学びあうルールやマナーを守る。 <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>○他の卒研グループとも互いに尊重し合い、体験を共有する。 <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>○時間割上の時間だけでなく、時間外活動を有効に使う。</p>		
<b>オフィスタイトム</b>	<p>Room 837: Wednesday, 14:30~16:30 <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>時間：水曜日, 14:30~16:30 時限 <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>場所：83年館 3F 837研究室 <input checked="" type="checkbox"/></p>		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション Orientation	<p>○メンバーの顔合わせと自己紹介 <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>○1年間の日程確認 <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>Introductions. Talk of schedule and goals of class. Inform students of tools, use of computers, available material and other features such as music, games and internships. <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>Talk about actions and expectations. Give files containing</p>	<p>Review the software ideas we will be using. Use booklet to do assignments.</p> <p>Review the booklet of samples. Review the booklet of how do gradations.</p>	120
2	オリエンテーション Orientation	<p>○メンバーの顔合わせと自己紹介 <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>○1年間の日程確認 <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>We will watch demonstration and begin use of software. Students will use Microsoft Word along with instruction to begin first assignment while in class. We will talk about the skill set needed and encourage thorough active</p>	<p>Review the software ideas we will be using. Use booklet to do assignments.</p>	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
3	研究課題について Research Discussion	研究の課題の見つけ方・研究課題の絞り込み方について理解する Demonstrate available tools and methods for optimal research. Give examples of research and discuss how we might use our research in a practical class situation. Consider time variables, age, total class, methods of presentation, time of year, and	Review the software ideas we will be using. Demonstrate to others and begin drawing on your own.	120
4	研究課題の明確化と概念枠組み Clarification of Research	研究課題の明確化と概念枠組みの設定について理解する ☒ Define and narrow search. Demonstrate software and how to use for presenting information. Utilize sound, video and pictures in a simple, but clear format for	Review the software ideas we will be using. Use booklet to do assignments. Start a sample from the booklet as a challenge.	120
5	研究課題の明確化と概念枠組み Clarification of Research	研究課題の明確化と概念枠組みの設定について理解する ☒ Demonstrate software and how to use for presenting information. Utilize sound, video and pictures in an animation. Assign activity which utilizes tools we just used. Class will demonstrate their use in class situation.☒	Review the software ideas we will be using. Use booklet to do assignments. Start a sample from the booklet as a challenge.	120
6	研究方法と研究デザインの選定 Research Topic Selection	研究方法の選定と研究デザインの選定を理解する ☒ Research selection comprehension, explain the point of the research. Class will demonstrate their use in class situation.☒	Review the software ideas we will be using. Choose elements for mobile design. Draw items for the mobile.	120
7	研究方法と研究デザインの選定 Research Topic Selection	研究方法の選定と研究デザインの選定を理解する Class will demonstrate their use in class situation. We will talk about selection of first video. We will prepare materials for video. We will edit material.☒ ☒	Review the software ideas we will be using. Choose elements for mobile design. Draw items for the mobile.	120
8	研究方法のデータ収集と分析 Methods of Collection and Analysis	研究方法のデータ収集と分析を理解する ☒ Analyze material. Analyze material through activity, demonstrate their understanding of collected material. Continue editing material. ☒	Choose elements for mobile design. Draw items for the mobile.	120
9	研究方法のデータ収集と分析 Methods of Collection and Analysis	研究方法のデータ収集と分析を理解する ☒ Analyze material. Analyze material through activity, demonstrate their understanding of collected material. Use feedback to consider the process.☒ ☒	Choose elements for mobile design. Draw items for the mobile.	120
10	研究結果の分析/研究課題の絞り込みの実際 Analysis Refinement	研究結果とその分析について理解する 研究課題の絞り込みをする ☒ Refine and edit material.☒ Discussion of ideas for poster.	Choose elements for mobile design. Draw items for the mobile.	120
11	研究結果の分析/研究課題の絞り込みの実際 Analysis Refinement	研究結果とその分析について理解する 研究課題の絞り込みをする ☒ Refine and edit material.☒ Discussion of ideas for Momijikai.	Choose elements for mobile design. Draw items for the mobile.	120
12	研究結果の分析/研究課題の絞り込みの実際 Analysis Refinement	研究結果とその分析について理解する 研究課題の絞り込みをする ☒ Refine and edit material.☒ Build 3-d art from research material. Mobile art construction.	Choose elements for animation design. Draw items for the animation.	120
13	研究結果の分析/研究課題の絞り込みの実際 Analysis Refinement	研究結果とその分析について理解する 研究課題の絞り込みをする ☒ Refine and edit material.☒ Continue building 3-d art from research material. Mobile art construction.	Choose elements for animation design. Draw items for the animation.	120
14	倫理的配慮について Considerations	研究における倫理的配慮について ☒ Considering ethics while researching.☒ Give examples of acceptable and unacceptable use of outside sources. Mobile art construction.	Choose elements for animation design. Draw items for the animation.	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
15	倫理的配慮について Considerations	研究における倫理的配慮について ☒ Considering ethics while researching.☒ Demonstrate understanding of acceptable and unacceptable outside sources.Mobile art construction.	Choose elements for animation design. Draw items for the animation.	120
16	文献検索のプロセス Search and Review Protocol	文献検索の方法を理解し、研究課題に関する先行研究を検索する ☒ Research protocol and review.☒ ☒	Choose elements for animation design. Draw items for the animation.	120
17	文献検索のプロセス Search and Review Protocol	文献検索の方法を理解し、研究課題に関する先行研究を検索する ☒ Research protocol and review.☒ ☒ster concepts discussed.	Review the software ideas we will be using. Choose elements for the poster. Draw items for the poster.	120
18	制作・練習 Production and Practice	研究計画書の作成 ☒ Beginning to assemble research. Poster concepts discussed.☒	Review the software ideas we will be using. Choose elements for the poster. Draw items for the poster.	120
19	制作・練習 Production and Practice	研究計画書の作成 ☒ Beginning to assemble research. Poster concepts discussed.☒	Review the software ideas we will be using. Choose elements for the poster. Draw items for the poster.	120
20	制作・練習 Production and Practice	研究計画書の作成 ☒ Beginning to assemble research. Poster concepts discussed.☒	Review the software ideas we will be using. Choose elements for the poster. Draw items for the poster.	120
21	研究の実際① Research	教材作成をする. ☒ Research continues.☒	Choose elements for Momijikai design. Draw items for the wall designs. Contstuct models for Momijikai.	120
22	研究の実際① Research	教材作成をする. ☒ Research continues.☒	Choose elements for Momijikai design. Draw items for the wall designs. Contstuct models for Momijikai.	120
23	研究の実際① Research	教材作成をする. ☒ Research continues.☒	Choose elements for Momijikai design. Draw items for the wall designs. Contstuct models for Momijikai.	120
24	研究の実際① Research	教材作成をする. ☒ Research continues.☒ Duties related to Momijikai are clarified.	Choose elements for Momijikai design. Draw items for the wall designs. Contstuct models for Momijikai.	120
25	研究の実際① Research	教材作成をする. ☒ Research continues.☒ Design elements ready for production.	Choose elements for Momijikai design. Draw items for the wall designs. Contstuct models for Momijikai.	120
26	研究の実際② Research	教材作成をする. ☒ Research continues. Design elements ready for production.	Choose elements for Momijikai design. Draw items for the wall designs. Contstuct models for Momijikai.	120



-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
27	研究の実際② Research	教材作成をする. ㊦間発表の「もみじ会」の準備をする Research continues. Animation edited.	Choose elements for Momijikai design. Draw items for the wall designs. Contstuct models for Momijikai.	120
28	研究の実際② Research	教材作成をする. ㊦間発表の「もみじ会」の準備をする Research continues. Animation edited.	Draw items for the wall designs. Contstuct models for Momijikai.	120
29	研究の実際② Research	教材作成をする. 中間発表の「もみじ会」の準備をする ㊦ Research continues. Animation edited.	Draw items for the wall designs. Contstuct models for Momijikai.	120
30	研究の実際② Research	教材作成をする. 中間発表の「もみじ会」の準備をする ㊦ Research continues. Animation edited.	Draw items for the wall designs. Contstuct models for Momijikai.	120
31	研究の実際② Research	教材作成をする. 中間発表の「もみじ会」の準備をする Research continues.	Draw items for the wall designs. Contstuct models for Momijikai.	120
32	研究の実際③ Research	教材作成をする. 中間発表の「もみじ会」の準備をする ㊦ Research continues.	Draw items for the wall designs. Contstuct models for Momijikai.	120
33	研究の実際③ Research	教材作成をする. ㊦ Research continues.	We are filming animation designs. We are editing movies and animations.	120
34	研究の実際③ Research	教材作成をする. ㊦ Research continues.	We are filming animation designs. We are editing movies and animations.	120
35	研究の実際③ Research	教材作成をする. ㊦ Research continues.	We are filming animation designs. We are editing movies and animations.	120
36	研究の実際③ Research	教材作成をする. ㊦ Research continues.	We are filming animation designs. We are editing movies and animations.	120
37	研究の実際④ Research	教材作成をする. ㊦ Research continues.	We are filming animation designs. We are editing movies and animations.	120
38	研究の実際④ Research	教材作成をする. ㊦ Research continues.	We are filming animation designs. We are editing movies and animations.	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
39	研究の実際④ Research	教材作成をする. ☒ Research continues.	We are working on poster designs. We are editing movies and animations.	120
40	研究の実際⑤ Research	教材作成をする. ☒ Research continues.	We are working on poster designs. We are editing movies and animations.	120
41	研究の実際⑥ Research	教材作成をする. ☒ Research continues.	We are working on poster designs. We are editing movies and animations.	120
42	研究の実際⑥ ResearchIntermediate Presentation Activity	教材作成をする. PowerPoint concepts and editing.	We are working on poster designs. We are editing movies and animations. We are working on PowerPoint designs.	120
43	研究の実際⑥ ResearchDemonstration	教材作成をする. Demonstrate activity for group. Talk about changes or additions to activity. PowerPoint concepts and editing.	We are working on poster designs. We are editing movies and animations. We are working on PowerPoint designs.	120
44	研究を進める Research Advancement	読み込んだ資料の内容をまとめていく。 Discuss thoughts on improvements to research. PowerPoint concepts and editing.	We are working on poster designs. We are editing movies and animations. We are working on PowerPoint designs.	120
45	研究を進める Research Advancement	読み込んだ資料の内容をまとめていく。 Discuss thoughts on improvements to research. Poster samples edited. PowerPoint concepts and editing.	We are working on poster designs. We are editing movies and animations. We are working on PowerPoint designs.	120
46	研究を進める Research Advancement	必要に応じて、足りない資料の収集をする。 Continue to add and demonstrate changes to research. Poster samples edited. PowerPoint concepts and editing.	We are working on poster designs. We are editing movies and animations. We are working on PowerPoint designs.	120
47	研究を進める Research Advancement	本文、『保育研究』のフォーマットを知り、論文作成の準備を始める。 Continue to add and format changes to research. PowerPoint concepts and editing.	We are working on poster designs. We are editing movies and animations. We are working on PowerPoint designs.	120
48	論文の執筆 Writing Paper	論文の執筆を進めていく。 Writing is demonstrated. PowerPoint concepts and editing.	We are working on poster designs. We are editing movies and animations. We are working on PowerPoint designs.	120
49	論文の執筆 Writing Paper	論文の執筆を進めていく。 Writing is demonstrated. PowerPoint concepts and editing.	We are working on writing reports. We are editing movies and animations. We are working on PowerPoint designs.	120
50	卒業研究のまとめ 1 Summarize Research	考察を検討する 全員で検討する。 Outline is summarized to convey research. PowerPoint presentaion editing.	We are working on writing reports. We are editing movies and animations. We are working on PowerPoint designs.	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
51	卒業研究のまとめ 1 Summarize Research	考察を検討する 全員で検討する。 Outline is summarized to convey research. PowerPoint presentaion editing. Animation edited.	We are working on writing reports. We are editing movies and animations. We are working on PowerPoint designs.	120
52	卒業研究のまとめ 1 Summarize Research	考察を検討する 全員で検討する。 Outline is summarized to convey research. PowerPoint presentaion editing. Animation edited.	We are working on writing reports. We are editing movies and animations. We are working on PowerPoint designs.	120
53	卒業研究のまとめ 2 Summarize Research	考察を検討する 全員で検討する Outline is summarized to convey research. PowerPoint presentaion editing. Animation edited.	We are working on writing reports. We are editing movies and animations. We are working on PowerPoint designs.	120
54	卒業研究発表準備 1 Research Editing	発表のリハーサル Editing is continuous. Demonstration is continuous. PowerPoint presentaion editing. Animation edited.	We are editing reports. We are timing animations. We are practicing PowerPoint presentation.	120
55	卒業研究発表準備 2 Research Editing 2	発表のリハーサル Editing is continuous. Demonstration is continuous. PowerPoint presentaion editing. Animation edited.	We are editing reports. We are timing animations. We are giving PowerPoint presentation.	120
56	卒業研究発表 Research Announcement	卒業研究の発表プレゼンテーション Editing is being completed, demonstration is being completed. Animation edited.	We are editing reports. We are timing animations. We are giving PowerPoint presentation.	120
57	論文作成 1 Editing Finalizing 1	論文の作成 Writing is being finalized. Animation edited.	We are editing reports. We are editing designs for final presentation. We have designs for wall art.	120
58	論文作成 2 Editing Finalizing 2	論文の作成 Writing is being finalized. Animation edited.	We are editing reports. We are editing designs for final presentation. We have designs for wall art.	120
59	論文提出のための準備 Final Submission	論文の最終確認、印刷、製本 Submission of final material, writing and computer data.	We are editing final reports.	120
60	論文提出のための準備 Final Submission	論文の最終確認、印刷、製本 Submission of final material, writing and computer data.	We are editing final reports.	120

<b>科目名</b>	卒業研究		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	柴田 卓			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	本授業は、幼稚園教育に関する基本事項（実習の意義・教員の役割・保育の実際・幼児の発達理解）の内容を踏まえた上で、教育実習Ⅱ（附属幼稚園の基礎実習）を通して、幼稚園教育の全体像を理解する。また、教育実習Ⅲ（学外 観察参加実習）に向けて、保育内容の理解と総合的な計画力の向上を目指し、保育表現力やコミュニケーション力を習得できるよう授業を実施する。 位置づけ・水準CE2144			
<b>達成目標</b>	①附属幼稚園実習を通して、幼稚園教育の基本事項について理解することができる。 ②附属幼稚園実習を通して、実習生としての姿勢や態度、ルールやマナー、保育者としてのコミュニケーション能力について理解することができる。 ③年齢に応じた保育内容を理解し、保育計画を立てることができる。 ④保育計画に基づき、保育の方法や技術を習得し、表現することができる。 ※単位認定の最低基準は、内容の7割を理解していること。 ※ディプロマポリシーとの関係：保育の内容理解と総合的計画力、保育の方法と技術力、表現力とコミュニケーション能力			
<b>受講資格</b>	幼児教育学科☒ 教職課程履修者	<b>成績評価 方法</b>	実習園からの評価50% 実習日誌20% レポート・ノート30%☒	
<b>教科書</b>	学びをいかすハンドブック（大学出版）			
<b>参考書</b>	☒文部科学省2018『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 ・厚生労働省2018『保育所保育指針』フレーベル館 ・内閣府2018『幼保連携型認定子ども園教育・保育解説』フレーベル館☒ ・授業中に適宜資料を配布する。☒			
<b>学生への要望</b>	・平日頃から基本的な生活習慣を身につけ、目的意識や課題意識を持って、意欲的に実習を行えるようにすること。☒ ・実習のフィードバックは各クラスで班単位で行う。			
<b>オフィスタイム</b>	・柴田 8 3 年館2階 824研究室（月曜日・木曜日10:00~12:00）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 「教育実習の概要を理解する」	・授業の概要と評価方法を確認する。 ・学外幼稚園実習希望園を確認する。 ・学外実習について説明する。	・本日の講義内容をノートにまとめる。 ・資料の整理をする。	45
2	事前指導① 「実践演習」	・グループワーク「夏休みの課題発表」 ・発表内容を再検討 ・発達段階を踏まえた保育活動の違い	・本日の実践に対する振り返りをノートにまとめ、自身の課題を明確化する。	45
3	事前指導② 「3歳児の保育活動を理解する」	・グループワーク 「3歳児の保育活動事例の収集」 ・音図体の遊び、絵本等を探求する	・収集した保育活動事例をノートに整理する。	45
4	事前指導③ 「3歳児の保育活動を計画する」	・グループワーク 「3歳児の保育活動計画作成」 「導入方法の検討」	・指導計画を作成する。	45
5	事前指導④ 「4歳児の保育活動を理解する」	・グループワーク 「4歳児の保育活動事例の収集」 ・音図体の遊び、絵本等を探求する	・収集した保育活動事例をノートに整理する。	45
6	事前指導⑤ 「4歳児の保育活動を計画する」	・グループワーク 「4歳児の保育活動計画の作成」 「導入方法の検討」	・指導計画を作成する。	45
7	事前指導⑥ 「5歳児の保育活動を理解する」	・グループワーク 「5歳児の保育活動事例の収集」 ・音図体の遊び、絵本等を探求する	・収集した保育活動事例をノートに整理する。	45
8	事前指導⑦ 「5歳児の保育活動を計画する」	・グループワーク 「5歳児の保育活動計画の作成」 「導入方法の検討」	・指導計画を作成する。	45
9	事前指導⑧ 「実習日誌の記入方法を理解する」	・実習日誌の記入方法を理解する。 書き言葉と話し言葉の違い 子どもの様子を表現する言葉の使い方	・本日の講義内容をノートにまとめる。 ・資料の整理をする。	45
10	事前指導⑨ 「実習日誌を記入する」	・グループワーク 実習日誌の記入と評価 園により記入が異なることを理解する ・実習日誌を記入してみる。	・本日の講義内容をノートにまとめる。 ・資料の整理をする。	45
11	学外実習の準備・指導① 「附属幼稚園実習の振り返り」	・実習関係書類を配布し、その内容を説明する。 (実習手引き・日誌・出勤表・自動車通動願い) ・グループワーク「附属実習の振り返り」 振り返りから自身の課題と解決策を計画する。	・附属幼稚園実習の振り返りから自身の課題を明確化する。	45

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	附属幼稚園実習フィードバック	各クラス班ごとに附属幼稚園実習のフィードバックを行う。  ※第1班～5班は7月に実施済み	・学外実習に向けての目標を設定する。	45
13	学外実習の準備・指導② 「実習生の姿勢とモラルを理解する」	・実習の手引きを理解する ・実習における学生の姿勢（礼儀・モラル） ・積極性とコミュニケーションを考える ・冬休みの課題「手遊び」を3つ習得する	・本日の講義内容をノートにまとめる。 ・資料の整理をする。	45
14	学外実習の準備・指導③ 「各種書類確認と緊急時対応の確認」	・実習を通して学ぶことを再確認する ・各書類の清書、お礼状の書き方 ・緊急時の対応確認（報連相の方法）	・本日の授業内の課題を学習・記入する	45
15	まとめ	・まとめと実習の振り返り「レポート記入」 ・Ⅲ期「教育実習Ⅲ」事後指導の確認 ・春休みの制作課題「エプロンシアターなど」	・春休みの課題を制作する。	120

<b>科目名</b>	卒業研究		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 2年2単位 必修
<b>担当教員</b>	磯部 哲夫,横溝 聡子,深谷 悠里絵			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	子どもの表現活動は遊びや生活経験をイメージした総合的な体験から発せられる。本科目では音楽、歌、踊り、芝居を融合させた総合舞台表現であるミュージカル制作を通し、保育者として企画・構成力、音楽的表現力、造形的表現力、豊かな人間性を磨いていくことをねらいとする。授業では、幼児のための題材を取り上げ、キャスト、スタッフの共同作業で台本を作成し、台詞のメロディー化、振り付け、小・大道具作製を行い、ディスカッションを重ねながらミュージカル作品を作り上げ発表する。中間発表でコメントによるフィードバック、最終授業で全体に対するフィードバックを行う。位置づけ・水準 CE2270			
<b>達成目標</b>	①キャスト・スタッフの共同作業で、計画的に舞台製作することができる。☑ ②キャスト・スタッフの共同作業において、問題解決能力を身につけていることが確認できる。☑ ③幼児を対象にした音楽的表現、造形的表現が身につけていることが確認できる。☑ 単位認定の最低基準は①～③の内容の7割を理解し、授業や研究発表において確認できること。ディプロマ・ポリシーとの関係は、「保育の内容理解と総合的計画力」「問題解決力」「豊かな人間性と規範意識」である。			
<b>受講資格</b>	幼児教育学科2年生	<b>成績評価 方法</b>	平常点（興味・関心・意欲・態度・創意工夫・協調性）60%、ミュージカルによる研究成果40%	
<b>教科書</b>	研究題材が決定後指定する。			
<b>参考書</b>	ミュージカル制作に関する書籍。			
<b>学生への要望</b>	研究倫理を十分に理解し、ルールを決めて協調性を持って共同作業を行うこと。☑ ☑			
<b>オフィスタイム</b>	磯部：月曜日Ⅲ限、水曜日Ⅳ限 No.2幼児教育学科（チャイルド・ミュージックコース）研究室☑ 横溝：水曜日Ⅳ限、金曜日Ⅰ限 No.1幼児教育学科（チャイルド・ミュージックコース）研究室☑ 深谷：月曜日Ⅱ限、金曜日Ⅲ限 No.1幼児教育学科（チャイルド・ミュージックコース）研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション1	シラバスを用いたオリエンテーション。「自己確認シート」を記入する。自己紹介をする。	シラバスを事前に読む。	30
2	オリエンテーション2	ミュージカル制作について説明を行う。ミュージカル制作についてディスカッション。	シラバスを事前に読む。	30
3	研究題材の選定1	題材について収集した資料を基に、題材選定に向けてディスカッションを行う。	題材についての資料を収集する。	30
4	研究題材の選定2	題材について収集した資料を基に、題材選定に向けてディスカッションを行う。	題材についての資料を収集する。	30
5	役割分担1	ミュージカル制作に向けてキャスト、スタッフの役割分担を決める。	題材についての情報を収集する。	30
6	台本・脚本作成1	キャストによる台本作成、スタッフによる脚本作成を行う。	台詞を考える。	30
7	台本・脚本作成2	作成した台本に基づき、台詞の読み合わせを行う。	台詞のメロディー化について情報を収集する。	30
8	音楽付け1	台詞のメロディー化を行う。	台詞のメロディー化について情報を収集する。	30
9	音楽付け2	台詞のメロディー化を行う。	台詞のメロディー化について情報を収集する。	30
10	音楽付け3	台詞のメロディー化を行う。	台詞のメロディー化について情報を収集する。	30
11	台本作成・音楽付け1	台詞のメロディー化の確認を行う。	台詞のメロディー化について情報を収集する。	30
12	台本作成・音楽付け2	台詞のメロディー化の確認を行う。第一回論文の書き指導を行い、研究倫理について説明する。	台詞のメロディー化について情報を収集する。	30
13	振り付け1	振り付けについてディスカッションし、台詞と音楽に合った動きを考察する。	振り付けの練習をする。	30
14	振り付け2	振り付けについてディスカッションし、台詞と音楽に合った動きを考察する。	振り付けの練習をする。	30
15	キャストイング1	自薦、他薦、オーディション等でキャストイングを行う。	歌唱・器楽の練習をする。	30
16	キャストイング2	自薦、他薦、オーディション等でキャストイングを行う。	歌唱・器楽の練習をする。	30
17	音楽稽古・舞台製作1	キャストは歌唱・器楽の音楽レッスン、スタッフは小・大道具の製作について考察する。	キャストは音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
18	音楽稽古・舞台製作2	キャストは歌唱・器楽の音楽レッスン、スタッフは小・大道具の製作について考察する。	キャストは音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
19	音楽稽古・舞台製作3	キャストは歌唱・器楽の音楽レッスン、スタッフは小・大道具の製作について考察する。	キャストは音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
20	音楽稽古・舞台製作4	キャストは歌唱・器楽の音楽レッスン、スタッフは小・大道具の製作について考察する。	キャストは音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
21	立ち稽古・舞台製作1	キャストは動作、表情をつけながらのレッスン、スタッフは小・大道具の製作を行う。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
22	立ち稽古・舞台製作2	キャストは動作、表情をつけながらのレッスン、スタッフは小・大道具の製作を行う。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
23	立ち稽古・舞台製作3	キャストは動作、表情をつけながらのレッスン、スタッフは小・大道具の製作を行う。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
24	立ち稽古・舞台製作4	キャストは動作、表情をつけながらのレッスン、スタッフは小・大道具の製作を行う。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
25	立ち稽古・舞台製作5	キャストは動作、表情をつけながらのレッスン、スタッフは小・大道具の製作を行う。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
26	立ち稽古・舞台製作6	キャストは動作、表情をつけながらのレッスン、スタッフは小・大道具の製作を行う。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
27	立ち稽古・舞台製作7	キャストは動作、表情をつけながらのレッスン、スタッフは小・大道具の製作を行う。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
28	立ち稽古・舞台製作8	キャストは動作、表情をつけながらのレッスン、スタッフは小・大道具の製作を行う。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
29	立ち稽古・舞台製作9	キャストは動作、表情をつけながらのレッスン、スタッフは小・大道具の製作を行う。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
30	立ち稽古・舞台製作10	キャストは動作、表情をつけながらのレッスン、スタッフは小・大道具の製作を行う。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
31	中間発表準備1	中間発表であるもみじ会に向けて、キャストは身体・音楽表現、スタッフは造形的表現の最終確認を行う。	中間発表に向けキャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
32	中間発表準備2	中間発表であるもみじ会に向けて、キャストは身体・音楽表現、スタッフは造形的表現の最終確認を行う。	中間発表に向けキャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
33	中間発表準備3	中間発表であるもみじ会に向けて、キャストは身体・音楽表現、スタッフは造形的表現の最終確認を行う。	中間発表に向けキャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
34	中間発表準備4	中間発表であるもみじ会に向けて、キャストは身体・音楽表現、スタッフは造形的表現の最終確認を行う。	中間発表に向けキャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
35	中間発表リハーサル1	中間発表であるもみじ会に向けて、キャストは身体・音楽表現、スタッフは造形的表現の最終確認を行う。	中間発表に向けキャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	60
36	中間発表リハーサル2	中間発表であるもみじ会に向けて、キャストは身体・音楽表現、スタッフは造形的表現の最終確認を行う。	中間発表に向けキャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	60
37	中間発表1	もみじ会において、これまでの研究成果の中間発表を行う。	中間発表に向けキャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
38	中間発表2	もみじ会において、これまでの研究成果の中間発表を行う。	中間発表に向けキャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
39	中間発表振り返り1	もみじ会の中間発表についてディスカッションを行う。	中間発表の振り返りをする。	30
40	中間発表振り返り2	もみじ会の中間発表についてディスカッションを行う。	中間発表の振り返りをする。	30
41	音楽稽古・舞台製作1	中間発表の振り返りを踏まえ、キャスト、スタッフそれぞれの修正を行う。	修正点について考察する。	30
42	音楽稽古・舞台製作2	中間発表の振り返りを踏まえ、キャスト、スタッフそれぞれの修正を行う。	修正点について考察する。	30
43	音響機器研究1	建学記念講堂の音響機器について操作方法等の説明を行う。	音響機器について情報を収集する。	30
44	音響機器研究2	建学記念講堂の音響機器について操作方法等の説明を行う。	音響機器について情報を収集する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
45	立ち稽古・舞台製作1	中間発表の修正点を踏まえ、身体的表現、音楽的表現、造形的表現を考察する。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
46	立ち稽古・舞台製作2	中間発表の修正点を踏まえ、身体的表現、音楽的表現、造形的表現を考察する。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
47	立ち稽古・舞台製作3	中間発表の修正点を踏まえ、身体的表現、音楽的表現、造形的表現を考察する。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
48	立ち稽古・舞台製作4	中間発表の修正点を踏まえ、身体的表現、音楽的表現、造形的表現を考察する。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
49	立ち稽古・舞台製作5	中間発表の修正点を踏まえ、身体的表現、音楽的表現、造形的表現を考察する。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
50	立ち稽古・舞台製作6	中間発表の修正点を踏まえ、身体的表現、音楽的表現、造形的表現を考察する。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
51	通し稽古・舞台製作1	身体的表現、音楽的表現、造形的表現の最終確認を行い、研究発表に向け総合舞台表現の完成度をチェックする。	総合舞台表現の完成度をチェックする。	30
52	通し稽古・舞台製作2	身体的表現、音楽的表現、造形的表現の最終確認を行い、研究発表に向け総合舞台表現の完成度をチェックする。	総合舞台表現の完成度をチェックする。	30
53	通し稽古・舞台製作3	身体的表現、音楽的表現、造形的表現の最終確認を行い、研究発表に向け総合舞台表現の完成度をチェックする。	総合舞台表現の完成度をチェックする。	30
54	通し稽古・舞台製作4	身体的表現、音楽的表現、造形的表現の最終確認を行い、研究発表に向け総合舞台表現の完成度をチェックする。	総合舞台表現の完成度をチェックする。	30
55	まとめ、舞台リハーサル1	建学記念講堂の舞台で、立ち位置、動き、小・小道具、舞台美術、音響、照明の確認を行う。	振り返りを基に研究発表の準備をする。	60
56	まとめ、舞台リハーサル2	建学記念講堂の舞台で、立ち位置、動き、小・小道具、舞台美術、音響、照明の確認を行う。	振り返りを基に研究発表の準備をする。	60
57	まとめ、舞台リハーサル3	建学記念講堂の舞台で、立ち位置、動き、小・小道具、舞台美術、音響、照明の最終確認を行う。	振り返りを基に研究発表の準備をする。	60
58	まとめ、舞台リハーサル4	建学記念講堂の舞台で、立ち位置、動き、小・小道具、舞台美術、音響、照明の最終確認を行う。	振り返りを基に研究発表の準備をする。	60
59	ゲネプロ1	研究発表当日同様に、舞台上で最終リハーサルを行い、キャスト、スタッフで最終点検を行う。	振り返りを基に研究発表の最終点検を行う。	60
60	ゲネプロ2	研究発表当日同様に、舞台上で最終リハーサルを行い、キャスト、スタッフで最終点検を行う。「自己確認シート」で自己評価を行う。	振り返りを基に研究発表の最終点検を行う。	60



<b>科目名</b>	卒業研究		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	安部 高太朗			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	<p>本科目では、子どもを育てることに関わる具体的な社会環境を、その場に行ってみて実感を体感しながら、望ましい子育て環境とはどのようなものであるか、探究する。今年、特に郡山市を主たるフィールドとして定め、参加学生の希望に即しながら、市内の子育てに関わる施設や場所を訪れる。フィールドノートをつけながら、最終的には子育てマップのような形で成果をまとめたい。併せて、研究の成果は『保育研究』に文章として残す。☑</p> <p>各自の研究テーマの設定、具体的な研究の手法の例示、研究倫理について指導、卒業研究の成果をまとめる『保育研究』に記載する文章の指導等を本科目の時間で行う。最終授業回で、一年間の学びに対して、参加学生それぞれに対して「担当教員からのコメント」というプリントでフィードバックする。☑</p> <p>○位置づけ・水準 CE2270</p>			
<b>達成目標</b>	<p>本科目は、ディプロマ・ポリシーのうち「保育の内容理解と総合的計画力」・「問題解決力」・「豊かな人間性と規範意識」に対応している。☑</p> <p>具体的な達成目標は次のとおりである。☑</p> <p>(1) 子育てに関わる自分なりの研究テーマを設定し、『保育研究』に最終的に文章で成果をまとめることを意識し、計画的に研究を進めることができる。☑</p> <p>(2) 自ら設定した研究テーマ、核となる問いを練りあげ、その問いに対してどのように向き合うことができるかを自分の頭を使って考え、研究ノートに記すことができる。☑</p> <p>(3) 子どもを育てることに関わる具体的な社会環境を見聞するにあたって、人権の尊重、研究倫理上の作法等を身につける。☑</p> <p>単位認定は、目標の7割以上の達成を基準とする。</p>			
<b>受講資格</b>	幼児教育学科2学年	<b>成績評価 方法</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平常点：60点。☑</li> <li>・研究成果（卒研発表会での口頭発表、本文、子育てマップ、『保育研究』の原稿）：40点。☑</li> </ul> <p>以上の合計100点満点で評価する。</p>	
<b>教科書</b>	特になし。			
<b>参考書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仙田満 (2018) 『こどもを育む環境、蝕む環境』朝日新聞出版。☑</li> <li>・戸田山和久 (2012) 『新版 論文の教室：レポートから卒論まで』NHKブックス。</li> </ul>			
<b>学生への要望</b>	<p>本科目を受講する学生には、以下の点を求めます。☑</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・疑問を持ったことに対して、調べようと努力すること。☑</li> <li>・他の参加学生と協力し合って、研究を深めようとする事。</li> </ul>			
<b>オフィスタイム</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・火曜日V限 (16:10~17:40) ☑</li> <li>・水曜日V限 (16:10~17:40) ☑</li> </ul> <p>いずれも、83年館2階の安部研究室 (821研究室) とします。そのほかの時間帯を希望する場合は、予め、安部 (k-abe@koriyama-kgc.ac.jp) までメールで連絡を入れてください。</p>			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション①	本科目の進め方に関する説明。	新聞やTVニュース等から保育に関わること、子どもの成育環境に関することについて情報を得る。	30
2	オリエンテーション②	それぞれの自己紹介及び研究関心の共有。	自分なりの問題関心を1分程度で紹介できるように、自己紹介及び研究関心についてというテーマで作文をしておく。	30
3	子育て環境をめぐる情報収集	郡山市の子ども・子育てに関わる計画や新聞等での報道、子育てにかかわる施設のHP等から情報を収集し、ゼミメンバー同士で共有し、ディスカッションをする。	郡山市のHPから子ども・子育て支援に関する計画をダウンロードし、内容を少しずつでよいので読んでおく。	30
4	子育て環境をめぐる情報収集	郡山市の子ども・子育てに関わる計画や新聞等での報道、子育てにかかわる施設のHP等から情報を収集し、ゼミメンバー同士で共有し、ディスカッションをする。	郡山市のHPから子ども・子育て支援に関する計画をダウンロードし、内容を少しずつでよいので読んでおく。	30
5	子育て環境をめぐる情報収集	郡山市の子ども・子育てに関わる計画や新聞等での報道、子育てにかかわる施設のHP等から情報を収集し、ゼミメンバー同士で共有し、ディスカッションをする。	郡山市のHPから子ども・子育て支援に関する計画をダウンロードし、内容を少しずつでよいので読んでおく。	30
6	子育て環境をめぐる情報収集	郡山市の子ども・子育てに関わる計画や新聞等での報道、子育てにかかわる施設のHP等から情報を収集し、ゼミメンバー同士で共有し、ディスカッションをする。	郡山市のHPから子ども・子育て支援に関する計画をダウンロードし、内容を少しずつでよいので読んでおく。	30
7	子育て環境をめぐる情報収集	郡山市の子ども・子育てに関わる計画や新聞等での報道、子育てにかかわる施設のHP等から情報を収集し、ゼミメンバー同士で共有し、ディスカッションをする。	郡山市のHPから子ども・子育て支援に関する計画をダウンロードし、内容を少しずつでよいので読んでおく。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	研究倫理に関するレクチャー	サイニー等の論文検索エンジンを使用しながら、文献を調べる方法を伝えと共に、引用や情報の真偽に関する判断の仕方など具体的な研究上倫理的に配慮すべきことを伝える。	本科目の参考書である、『新版 論文の教室』（戸田山, 2012）を参照し、特に第1章第3節の剽窃に関する部分を熟読する。	60
9	研究倫理を踏まえた研究計画の策定	各自の研究計画について、共同的に検討し、計画を練り上げる。	自分自身の研究テーマに即して、どのような題材で何を調べるのか、問いの形で言明できるように紙に記しておく。	30
10	研究倫理を踏まえた研究計画の策定	各自の研究計画について、共同的に検討し、計画を練り上げる。	他者の研究計画に対して、建設的な意見を出せるように、他のメンバーの研究関心に即した情報を得るようにする。	30
11	研究計画に即した実地調査	学生の研究計画に即して、近隣の公園や公共的な子育て施設、あるいは、商業施設内の子ども向けのコーナー、書店の子どもに関する本のコーナー等の具体的な子ども・子育て環境について、実際にその場に行ってみてわかったことや気付いたことをフィールドノートに記入していく。	施設の予約やインタビューなどを行う際には、事前のアポイントメントの取り方、研究倫理上の配慮などをレクチャーしたうえで、学生自ら電話等でやり取りを行い、研究活動を進められるように準備する。	30
12	研究計画に即した実地調査	学生の研究計画に即して、近隣の公園や公共的な子育て施設、あるいは、商業施設内の子ども向けのコーナー、書店の子どもに関する本のコーナー等の具体的な子ども・子育て環境について、実際にその場に行ってみてわかったことや気付いたことをフィールドノートに記入していく。	施設の予約やインタビューなどを行う際には、事前のアポイントメントの取り方、研究倫理上の配慮などをレクチャーしたうえで、学生自ら電話等でやり取りを行い、研究活動を進められるように準備する。	30
13	研究計画に即した実地調査	学生の研究計画に即して、近隣の公園や公共的な子育て施設、あるいは、商業施設内の子ども向けのコーナー、書店の子どもに関する本のコーナー等の具体的な子ども・子育て環境について、実際にその場に行ってみてわかったことや気付いたことをフィールドノートに記入していく。	施設の予約やインタビューなどを行う際には、事前のアポイントメントの取り方、研究倫理上の配慮などをレクチャーしたうえで、学生自ら電話等でやり取りを行い、研究活動を進められるように準備する。	30
14	研究計画に即した実地調査	学生の研究計画に即して、近隣の公園や公共的な子育て施設、あるいは、商業施設内の子ども向けのコーナー、書店の子どもに関する本のコーナー等の具体的な子ども・子育て環境について、実際にその場に行ってみてわかったことや気付いたことをフィールドノートに記入していく。	施設の予約やインタビューなどを行う際には、事前のアポイントメントの取り方、研究倫理上の配慮などをレクチャーしたうえで、学生自ら電話等でやり取りを行い、研究活動を進められるように準備する。	30
15	研究計画に即した実地調査	学生の研究計画に即して、近隣の公園や公共的な子育て施設、あるいは、商業施設内の子ども向けのコーナー、書店の子どもに関する本のコーナー等の具体的な子ども・子育て環境について、実際にその場に行ってみてわかったことや気付いたことをフィールドノートに記入していく。	施設の予約やインタビューなどを行う際には、事前のアポイントメントの取り方、研究倫理上の配慮などをレクチャーしたうえで、学生自ら電話等でやり取りを行い、研究活動を進められるように準備する。	30
16	研究計画に即した実地調査	学生の研究計画に即して、近隣の公園や公共的な子育て施設、あるいは、商業施設内の子ども向けのコーナー、書店の子どもに関する本のコーナー等の具体的な子ども・子育て環境について、実際にその場に行ってみてわかったことや気付いたことをフィールドノートに記入していく。	施設の予約やインタビューなどを行う際には、事前のアポイントメントの取り方、研究倫理上の配慮などをレクチャーしたうえで、学生自ら電話等でやり取りを行い、研究活動を進められるように準備する。	30
17	研究計画に即した実地調査	学生の研究計画に即して、近隣の公園や公共的な子育て施設、あるいは、商業施設内の子ども向けのコーナー、書店の子どもに関する本のコーナー等の具体的な子ども・子育て環境について、実際にその場に行ってみてわかったことや気付いたことをフィールドノートに記入していく。	施設の予約やインタビューなどを行う際には、事前のアポイントメントの取り方、研究倫理上の配慮などをレクチャーしたうえで、学生自ら電話等でやり取りを行い、研究活動を進められるように準備する。	30
18	研究計画に即した実地調査	学生の研究計画に即して、近隣の公園や公共的な子育て施設、あるいは、商業施設内の子ども向けのコーナー、書店の子どもに関する本のコーナー等の具体的な子ども・子育て環境について、実際にその場に行ってみてわかったことや気付いたことをフィールドノートに記入していく。	施設の予約やインタビューなどを行う際には、事前のアポイントメントの取り方、研究倫理上の配慮などをレクチャーしたうえで、学生自ら電話等でやり取りを行い、研究活動を進められるように準備する。	30



-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
29	研究計画に即した実地調査	学生の研究計画に即して、近隣の公園や公共的な子育て施設、あるいは、商業施設内の子ども向けのコーナー、書店の子どもに関する本のコーナー等の具体的な子ども・子育て環境について、実際にその場に行ってみてわかったことや気付いたことをフィールドノートに記入していく。	施設の予約やインタビューなどを行う際には、事前のアポイントメントの取り方、研究倫理上の配慮などをレクチャーしたうえで、学生自ら電話等でやり取りを行い、研究活動を進められるように準備する。	30
30	研究計画に即した実地調査	学生の研究計画に即して、近隣の公園や公共的な子育て施設、あるいは、商業施設内の子ども向けのコーナー、書店の子どもに関する本のコーナー等の具体的な子ども・子育て環境について、実際にその場に行ってみてわかったことや気付いたことをフィールドノートに記入していく。	施設の予約やインタビューなどを行う際には、事前のアポイントメントの取り方、研究倫理上の配慮などをレクチャーしたうえで、学生自ら電話等でやり取りを行い、研究活動を進められるように準備する。	30
31	子育てマップの作成	実地調査をもとに、郡山市の子ども・子育てに関する情報をロール紙に地図を記し、情報を記入していく。	フィールドノートを見返しておき、必要な情報を整理しておく。	30
32	子育てマップの作成	実地調査をもとに、郡山市の子ども・子育てに関する情報をロール紙に地図を記し、情報を記入していく。	フィールドノートを見返しておき、必要な情報を整理しておく。	30
33	子育てマップの作成	実地調査をもとに、郡山市の子ども・子育てに関する情報をロール紙に地図を記し、情報を記入していく。	フィールドノートを見返しておき、必要な情報を整理しておく。	30
34	子育てマップの作成	実地調査をもとに、郡山市の子ども・子育てに関する情報をロール紙に地図を記し、情報を記入していく。	フィールドノートを見返しておき、必要な情報を整理しておく。	30
35	子育てマップの作成	実地調査をもとに、郡山市の子ども・子育てに関する情報をロール紙に地図を記し、情報を記入していく。	フィールドノートを見返しておき、必要な情報を整理しておく。	30
36	子育てマップの作成	実地調査をもとに、郡山市の子ども・子育てに関する情報をロール紙に地図を記し、情報を記入していく。	フィールドノートを見返しておき、必要な情報を整理しておく。	30
37	子育てマップの作成	実地調査をもとに、郡山市の子ども・子育てに関する情報をロール紙に地図を記し、情報を記入していく。	フィールドノートを見返しておき、必要な情報を整理しておく。	30
38	子育てマップの作成	実地調査をもとに、郡山市の子ども・子育てに関する情報をロール紙に地図を記し、情報を記入していく。	フィールドノートを見返しておき、必要な情報を整理しておく。	30
39	子育てマップの発表準備	子育てマップの内容を発表できるようにプレゼンテーションの練習を重ねる。	教員自作の「発表の心得」というプリントを用意するので、そちらをちょっとずつでよいから読んで置き、何を発表するとよいのかを自分の頭の中を整理しておく。	30
40	子育てマップの発表準備	子育てマップの内容を発表できるようにプレゼンテーションの練習を重ねる。	教員自作の「発表の心得」というプリントを用意するので、そちらをちょっとずつでよいから読んで置き、何を発表するとよいのかを自分の頭の中を整理しておく。	30
41	子育てマップの発表	もみじ会等の機会を使いながら、子育てマップの発表をする。	聴衆に届くように落ち着いて発表できるように練習を重ねる。	30
42	子育てマップの発表	もみじ会等の機会を使いながら、子育てマップの発表をする。	聴衆に届くように落ち着いて発表できるように練習を重ねる。	30
43	『保育研究』の論文作成	『保育研究』の論文締切に間に合うように、計画的に執筆を進め、必要に応じて途中検討を加えながら、完成にこぎつける。	各自の研究テーマに即して、少しずつでもいいので文章を記してくる。	60
44	『保育研究』の論文作成	『保育研究』の論文締切に間に合うように、計画的に執筆を進め、必要に応じて途中検討を加えながら、完成にこぎつける。	各自の研究テーマに即して、少しずつでもいいので文章を記してくる。	60
45	『保育研究』の論文作成	『保育研究』の論文締切に間に合うように、計画的に執筆を進め、必要に応じて途中検討を加えながら、完成にこぎつける。	各自の研究テーマに即して、少しずつでもいいので文章を記してくる。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
46	『保育研究』の論文作成	『保育研究』の論文締切に間に合うように、計画的に執筆を進め、必要に応じて途中検討を加えながら、完成にこぎつける。	各自の研究テーマに即して、少しずつでもいいので文章を記してくる。	60
47	『保育研究』の論文作成	『保育研究』の論文締切に間に合うように、計画的に執筆を進め、必要に応じて途中検討を加えながら、完成にこぎつける。	各自の研究テーマに即して、少しずつでもいいので文章を記してくる。	60
48	『保育研究』の論文作成	『保育研究』の論文締切に間に合うように、計画的に執筆を進め、必要に応じて途中検討を加えながら、完成にこぎつける。	各自の研究テーマに即して、少しずつでもいいので文章を記してくる。	60
49	『保育研究』の論文作成	『保育研究』の論文締切に間に合うように、計画的に執筆を進め、必要に応じて途中検討を加えながら、完成にこぎつける。	各自の研究テーマに即して、少しずつでもいいので文章を記してくる。	60
50	『保育研究』の論文作成	『保育研究』の論文締切に間に合うように、計画的に執筆を進め、必要に応じて途中検討を加えながら、完成にこぎつける。	各自の研究テーマに即して、少しずつでもいいので文章を記してくる。	60
51	『保育研究』の論文作成	『保育研究』の論文締切に間に合うように、計画的に執筆を進め、必要に応じて途中検討を加えながら、完成にこぎつける。	各自の研究テーマに即して、少しずつでもいいので文章を記してくる。	60
52	『保育研究』の論文作成	『保育研究』の論文締切に間に合うように、計画的に執筆を進め、必要に応じて途中検討を加えながら、完成にこぎつける。	各自の研究テーマに即して、少しずつでもいいので文章を記してくる。	60
53	『保育研究』の論文作成	『保育研究』の論文締切に間に合うように、計画的に執筆を進め、必要に応じて途中検討を加えながら、完成にこぎつける。	各自の研究テーマに即して、少しずつでもいいので文章を記してくる。	60
54	『保育研究』の論文作成	『保育研究』の論文締切に間に合うように、計画的に執筆を進め、必要に応じて途中検討を加えながら、完成にこぎつける。	各自の研究テーマに即して、少しずつでもいいので文章を記してくる。	60
55	『保育研究』の論文作成	『保育研究』の論文締切に間に合うように、計画的に執筆を進め、必要に応じて途中検討を加えながら、完成にこぎつける。	各自の研究テーマに即して、少しずつでもいいので文章を記してくる。	60
56	『保育研究』の論文作成	『保育研究』の論文締切に間に合うように、計画的に執筆を進め、必要に応じて途中検討を加えながら、完成にこぎつける。	各自の研究テーマに即して、少しずつでもいいので文章を記してくる。	60
57	『保育研究』の論文作成	『保育研究』の論文締切に間に合うように、計画的に執筆を進め、必要に応じて途中検討を加えながら、完成にこぎつける。	各自の研究テーマに即して、少しずつでもいいので文章を記してくる。	60
58	『保育研究』の論文作成	『保育研究』の論文締切に間に合うように、計画的に執筆を進め、必要に応じて途中検討を加えながら、完成にこぎつける。	各自の研究テーマに即して、少しずつでもいいので文章を記してくる。	60
59	相互フィードバック	ディスカッション形式で各自でそれぞれの研究成果に対してフィードバックを行う。	できあがった論文集およびマップを見返しておく。	30
60	最終フィードバック	担当教員から学生個々に対して、フィードバックを行う。	できあがった論文集およびマップを見返しておく。	30